



インターシステムズのエラー・ リファレンス

Version 2023.1
2024-01-02

インターシステムズのエラー・リファレンス

InterSystems IRIS Data Platform Version 2023.1 2024-01-02

Copyright © 2024 InterSystems Corporation

All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼働および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)

Tel: +1-617-621-0700

Tel: +44 (0) 844 854 2917

Email: support@InterSystems.com

目次

1 一般的なエラー・メッセージ	1
1.1 エラー・コード 0 から 999	1
1.2 エラー・コード 1000 から 1999	22
1.3 エラー・コード 2000 から 4999	30
1.4 エラー・コード 5000 から 5999	36
1.5 エラー・コード 6000 から 6999	62
1.6 エラー・コード 7000 から 7999	77
1.7 エラー・コード 8000 から 8999	83
1.8 エラー・コード 9000 から 9999	90
1.9 エラー・コード 15000 以上	94
1.10 非数値エラー・コード	94
2 SQL エラー・メッセージ	97
2.1 SQLCODE 0 と 100	97
2.2 SQLCODE -400	98
2.3 SQL メッセージ・テキストの取得	98
2.4 SQL エラー・コードおよびメッセージのテーブル	98
3 TSQL エラー・メッセージ	109
4 システム・エラー・メッセージ	271
4.1 一般的なシステム・エラー・メッセージ	271
4.2 ISO 11756-1999 標準エラー	280
5 プロダクション関連のメッセージ	283
5.1 プロダクション・エラー	283
5.2 ワークフロー・エラー	288
5.3 XPATH 変換エラー	288
5.4 Electronic Data Interchange (EDI) エラー	289
5.5 HL7 バージョン 2 メッセージ・ルーティング・エラー	289
5.6 X12 Standard Exchange Format (SEF) ファイル・エラー	290
5.7 X12 メッセージ・ルーティング・エラー	290
5.8 DICOM メッセージ・ルーティング・エラー	293

テーブル一覧

テーブル 1-1: 一般的なエラー・コード - 0 から 199	1
テーブル 1-2: 一般的なエラー・コード - 200 から 399	7
テーブル 1-3: 一般的なエラー・コード - 400 から 599	11
テーブル 1-4: 一般的なエラー・コード - 600 から 799	14
テーブル 1-5: 一般的なエラー・コード - 800 から 999	17
テーブル 1-6: 一般的なエラー・コード - 1000 から 1199	22
テーブル 1-7: 一般的なエラー・コード - 1200 から 1399	25
テーブル 1-8: 一般的なエラー・コード - 1400 から 1599	27
テーブル 1-9: 一般的なエラー・コード - 1600 から 1699	28
テーブル 1-10: 一般的なエラー・コード - 2000 から 2299	30
テーブル 1-11: 一般的なエラー・コード - 5000 から 5199	36
テーブル 1-12: 一般的なエラー・コード - 5200 から 5399	42
テーブル 1-13: 一般的なエラー・コード - 5400 から 5599	45
テーブル 1-14: 一般的なエラー・コード - 5600 から 5799 (マクロ・コンパイラ・エラー)	52
テーブル 1-15: 一般的なエラー・コード - 5800 から 5999	56
テーブル 1-16: 一般的なエラー・コード - 6000 から 6199	62
テーブル 1-17: 一般的なエラー・コード - 6200 から 6399	66
テーブル 1-18: 一般的なエラー・コード - 6400 から 6599	71
テーブル 1-19: 一般的なエラー・コード - 6600 から 6799	74
テーブル 1-20: 一般的なエラー・コード - 6800 から 6999	77
テーブル 1-21: 一般的なエラー・コード - 7000 から 7199	77
テーブル 1-22: 一般的なエラー・コード - 7200 から 7399	78
テーブル 1-23: 一般的なエラー・コード - 7400 から 7599	80
テーブル 1-24: 一般的なエラー・コード - 7600 から 7799	81
テーブル 1-25: 一般的なエラー・コード - 7800 から 7999	82
テーブル 1-26: 一般的なエラー・コード - 8000 から 8199	83
テーブル 1-27: 一般的なエラー・コード - 8200 から 8299	86
テーブル 1-28: 一般的なエラー・コード - 8300 から 8599	88
テーブル 1-29: 一般的なエラー・コード - 8600 から 8899	89
テーブル 1-30: 一般的なエラー・コード - 9000 から 9299	90
テーブル 1-31: 一般的なエラー・コード - 9300 から 9400	91
テーブル 1-32: 一般的なエラー・コード - 15000 以上	94
テーブル 1-33: その他のエラー・コード	94
テーブル 2-1: SQL エラー・コード 0 および 100	97
テーブル 2-2: SQL エラー・コード -1 から -99	98
テーブル 2-3: SQL エラー・コード -101 から -399	102
テーブル 2-4: SQL エラー・コード -400 から -500	106
テーブル 2-5: WinSock エラー・コード -10050 から -11002	108
テーブル 3-1: TSQL エラー・コード - 0 から 99	109
テーブル 3-2: TSQL エラー・コード - 100 から 199	109
テーブル 3-3: TSQL エラー・コード - 200 から 299	112
テーブル 3-4: TSQL エラー・コード - 300 から 399	115
テーブル 3-5: TSQL エラー・コード - 400 から 499	115
テーブル 3-6: TSQL エラー・コード - 500 から 599	117
テーブル 3-7: TSQL エラー・コード - 600 から 699	119
テーブル 3-8: TSQL エラー・コード - 700 から 799	120
テーブル 3-9: TSQL エラー・コード - 800 から 899	120

テーブル 3-10: TSQL エラー・コード - 900 から 999	121
テーブル 3-11: TSQL エラー・コード - 1000 から 1099	122
テーブル 3-12: TSQL エラー・コード - 1100 から 1199	125
テーブル 3-13: TSQL エラー・コード - 1200 から 1299	126
テーブル 3-14: TSQL エラー・コード - 1500 から 1599	126
テーブル 3-15: TSQL エラー・コード - 1600 から 1699	127
テーブル 3-16: TSQL エラー・コード - 1700 から 1799	127
テーブル 3-17: TSQL エラー・コード - 1800 から 1899	129
テーブル 3-18: TSQL エラー・コード - 1900 から 1999	130
テーブル 3-19: TSQL エラー・コード - 2000 から 2099	133
テーブル 3-20: TSQL エラー・コード - 2100 から 2199	133
テーブル 3-21: TSQL エラー・コード - 2500 から 2599	133
テーブル 3-22: TSQL エラー・コード - 2600 から 2699	137
テーブル 3-23: TSQL エラー・コード - 2700 から 2799	137
テーブル 3-24: TSQL エラー・コード - 2800 から 2899	139
テーブル 3-25: TSQL エラー・コード - 3000 から 3099	139
テーブル 3-26: TSQL エラー・コード - 3100 から 3199	141
テーブル 3-27: TSQL エラー・コード - 3200 から 3299	143
テーブル 3-28: TSQL エラー・コード - 3300 から 3399	146
テーブル 3-29: TSQL エラー・コード - 3400 から 3499	146
テーブル 3-30: TSQL エラー・コード - 3500 から 3599	148
テーブル 3-31: TSQL エラー・コード - 3600 から 3699	148
テーブル 3-32: TSQL エラー・コード - 3700 から 3799	149
テーブル 3-33: TSQL エラー・コード - 3900 から 3999	150
テーブル 3-34: TSQL エラー・コード - 4000 から 4099	151
テーブル 3-35: TSQL エラー・コード - 4200 から 4299	152
テーブル 3-36: TSQL エラー・コード - 4300 から 4399	152
テーブル 3-37: TSQL エラー・コード - 4400 から 4499	153
テーブル 3-38: TSQL エラー・コード - 4500 から 4599	156
テーブル 3-39: TSQL エラー・コード - 4600 から 4699	157
テーブル 3-40: TSQL エラー・コード - 4700 から 4799	157
テーブル 3-41: TSQL エラー・コード - 4800 から 4899	157
テーブル 3-42: TSQL エラー・コード - 4900 から 4999	160
テーブル 3-43: TSQL エラー・コード - 5000 から 5099	161
テーブル 3-44: TSQL エラー・コード - 5100 から 5199	164
テーブル 3-45: TSQL エラー・コード - 5700 から 5799	165
テーブル 3-46: TSQL エラー・コード - 5800 から 5899	165
テーブル 3-47: TSQL エラー・コード - 5900 から 5999	166
テーブル 3-48: TSQL エラー・コード - 6000 から 6099	166
テーブル 3-49: TSQL エラー・コード - 6100 から 6199	166
テーブル 3-50: TSQL エラー・コード - 6400 から 6499	167
テーブル 3-51: TSQL エラー・コード - 6600 から 6799	168
テーブル 3-52: TSQL エラー・コード - 6800 から 6899	169
テーブル 3-53: TSQL エラー・コード - 7000 から 7099	171
テーブル 3-54: TSQL エラー・コード - 7100 から 7199	171
テーブル 3-55: TSQL エラー・コード - 7200 から 7299	172
テーブル 3-56: TSQL エラー・コード - 7300 から 7399	172
テーブル 3-57: TSQL エラー・コード - 7400 から 7499	175
テーブル 3-58: TSQL エラー・コード - 7600 から 7699	176
テーブル 3-59: TSQL エラー・コード - 7900 から 7999	178
テーブル 3-60: TSQL エラー・コード - 8100 から 8199	180

テーブル 3-61: TSQL エラー・コード - 8500 から 8599	184
テーブル 3-62: TSQL エラー・コード - 8600 から 8699	185
テーブル 3-63: TSQL エラー・コード - 8900 から 8999	187
テーブル 3-64: TSQL エラー・コード - 9000 から 9099	192
テーブル 3-65: TSQL エラー・コード - 10000 から 10999	192
テーブル 3-66: TSQL エラー・コード - 11000 から 11999	194
テーブル 3-67: TSQL エラー・コード - 13000 から 13999	196
テーブル 3-68: TSQL エラー・コード - 14000 から 14999	198
テーブル 3-69: TSQL エラー・コード - 14100 から 14199	201
テーブル 3-70: TSQL エラー・コード - 14200 から 14299	203
テーブル 3-71: TSQL エラー・コード - 14300 から 14399	206
テーブル 3-72: TSQL エラー・コード - 14400 から 14499	207
テーブル 3-73: TSQL エラー・コード - 14500 から 14599	208
テーブル 3-74: TSQL エラー・コード - 15000 から 15099	210
テーブル 3-75: TSQL エラー・コード - 15100 から 15199	213
テーブル 3-76: TSQL エラー・コード - 15200 から 15299	215
テーブル 3-77: TSQL エラー・コード - 15300 から 15399	218
テーブル 3-78: TSQL エラー・コード - 15400 から 15499	219
テーブル 3-79: TSQL エラー・コード - 15500 から 15599	222
テーブル 3-80: TSQL エラー・コード - 15600 から 15699	224
テーブル 3-81: TSQL エラー・コード - 16800 から 16899	226
テーブル 3-82: TSQL エラー・コード - 16900 から 16999	229
テーブル 3-83: TSQL エラー・コード - 17000 から 17099	232
テーブル 3-84: TSQL エラー・コード - 17100 から 17199	232
テーブル 3-85: TSQL エラー・コード - 17200 から 17299	234
テーブル 3-86: TSQL エラー・コード - 17300 から 17399	234
テーブル 3-87: TSQL エラー・コード - 17400 から 17499	235
テーブル 3-88: TSQL エラー・コード - 17500 から 17599	235
テーブル 3-89: TSQL エラー・コード - 17600 から 17699	236
テーブル 3-90: TSQL エラー・コード - 17700 から 17799	236
テーブル 3-91: TSQL エラー・コード - 17800 から 17899	236
テーブル 3-92: TSQL エラー・コード - 18000 から 18099	238
テーブル 3-93: TSQL エラー・コード - 18100 から 18199	238
テーブル 3-94: TSQL エラー・コード - 18200 から 18299	238
テーブル 3-95: TSQL エラー・コード - 18400 から 18499	240
テーブル 3-96: TSQL エラー・コード - 18500 から 18599	241
テーブル 3-97: TSQL エラー・コード - 18600 から 18699	241
テーブル 3-98: TSQL エラー・コード - 18700 から 18799	241
テーブル 3-99: TSQL エラー・コード - 18800 から 18899	242
テーブル 3-100: TSQL エラー・コード - 19000 から 19099	243
テーブル 3-101: TSQL エラー・コード - 20000 から 20099	244
テーブル 3-102: TSQL エラー・コード - 20500 から 20599	246
テーブル 3-103: TSQL エラー・コード - 20600 から 20699	250
テーブル 3-104: TSQL エラー・コード - 21000 から 21099	251
テーブル 3-105: TSQL エラー・コード - 21100 から 21199	255
テーブル 3-106: TSQL エラー・コード - 21200 から 21299	259
テーブル 3-107: TSQL エラー・コード - 21300 から 21399	264
テーブル 3-108: TSQL エラー・コード - 21400 から 21499	268
テーブル 3-109: TSQL エラー・コード - 21500 から 21599	269
テーブル 4-1: システム・エラー・メッセージ	271
テーブル 4-2: ISO 11756-1999 標準エラー・メッセージ	280

1

一般的なエラー・メッセージ

このドキュメントでは、InterSystems IRIS® Data Platform の数値エラー・コードとそれらに対応するエラー・メッセージをテーブル形式で示しています。一般に、これらのエラー・コードは `ERROR #nnn` という形式で報告されます。これらのエラー・コードは `%Status` エラー・コードとも呼ばれます。

これらのエラー・コードを処理するために使用される `$SYSTEM.Status` クラス・メソッドは、“インターシステムズ・クラス・リファレンス”に記載されています。

指定したエラー・コードに対応するエラー・メッセージを確認するには、次の例のように `DisplayError()` メソッドと `Error()` メソッドを使用します。以下の例では、101 というエラー・コードが示されており、埋め込みメッセージ変数は `%1="5"`、`%2="10"`、および `%3="2.7"` です。

ObjectScript

```
DO $SYSTEM.Status.DisplayError($SYSTEM.Status.Error(101,"5","10","2.7"))
```

- 2 つのエラー・コード 83 および 5001 は、独自のカスタム・エラー・メッセージを生成できるように提供されています。詳細は、“インターシステムズ・クラス・リファレンス”の `%SYSTEM.Status` クラスを参照してください。
- 2 つのエラー・コード 5521 および 5540 は、[SQLCODE エラー](#) 用に提供されています。詳細は、“インターシステムズ・クラス・リファレンス”の `%SYSTEM.Error` クラスを参照してください。

これらのエラー・コードの使用の詳細は、“ObjectScript の使用法”の“エラー処理”の章の“[%Status エラー処理](#)”を参照してください。

1.1 エラー・コード 0 から 999

テーブル 1-1: 一般的なエラー・コード - 0 から 199

エラー・コード	説明
1	ボリュームが既に存在します
2	マップ・ブロックの読み取りが失敗しました
3	プライマリ・ボリュームのマップ・ブロック・サイズの書き込みエラーです
4	グローバル・ディレクトリのマップ・ブロックを読み取ることができません
5	グローバル・ディレクトリのマップ・ブロックを書き込むことができません
6	グローバル・ディレクトリ・ブロックを書き込むことができません

エラー・コード	説明
13	次のボリュームをオープンできませんでした
14	次のボリュームのマップブロック読み込みに失敗しました
15	ディレクトリ名が長すぎます
16	無効なマップ番号です
17	サイズが範囲外です
18	新規ボリュームを生成できませんでした
19	ファイルが既にマウントされています
20	ファイルが既に存在します
21	ファイルの生成中です
22	現在のマップ番号が小さすぎます
23	ファイルを拡張できませんでした
24	ファイルがクラスタ・マウントされています
25	CFN を割り当てることができませんでした
26	非互換のマウント状態またはデータベースが存在しません
27	システムマネージャデータベースをクラスタマウントすることはできません
28	データベースが移行中です
30	システムがクラスタの一部ではありません
31	マウント済みデータベースのモードは変更できません
32	新規のボリュームに対し、デバイスの領域が不足します
33	新規のボリュームがシステム・ファイル・サイズの限界を越えています
34	新規ボリュームでの不明な書き込みエラーです
35	データベースが拡張されています
36	データベースがマウントできません
37	データベースが別の場所でマウントされています
38	セカンダリ・ボリュームの GVXTAB に空き領域がありません
39	ボリュームが読み取り専用です
40	クラスタ・マウント・データベースが削除できません
41	ディレクトリが見つかりませんでした
42	無効なデータベース名です
43	ライト・デーモンはラベルに読み取り/書き込みフラグを設定できませんでした
44	拡張が開始できませんでした
45	いくつかのまたはすべてのデータベース・ファイルが削除されませんでした
51	不明で予期しないエラーです
52	無効な引数です

エラー・コード	説明
53	ターゲットをオープンできませんでした
54	ターゲットを読み取りできませんでした
55	ターゲットに書き込みできませんでした
56	データベースはリストアされています
57	データベースが存在しません
58	処理に必要なビットマップ・ブロックが多すぎます
59	新規のビットマップ・ブロック・サイズを割り当てできませんでした
60	これを実行するために、データベースをディスマウントする必要があります
61	このために、データベースを個別にマウントする必要があります
62	グローバル・ディレクトリを空にする必要があります
63	一時データベースをクラスター・マウントできません
64	一時データベースをディスマウントできません
65	マウント・データベースを再初期化できません
66	データベース内のリソース名がシステムで認識されません
67	このデータベースの暗号化キー・ファイルが有効になっていません
68	マウントされたデータベースのカウントがライセンスの制限を超えています
69	ミラーリングされたデータベースの読み取り/書き込み状態はプライマリ上でのみ変更できます
70	*** ボリュームのフォーマット中のエラーです
71	所有権がありません
72	そのような raw ディスク・デバイスが存在しません
73	そのようなディレクトリが存在しません
74	入出力エラーです
75	そのようなデバイスやアドレスが存在しません
76	ファイルへのアクセス権が拒否されました
77	デバイスまたはリソースが使用中です
78	ファイルが既に存在します
79	そのようなデバイスが存在しません。または不正に使用しています。
80	ファイル・テーブルがオーバーフローしています
81	開いているファイルが多すぎます
82	読み取り専用のファイルシステムです
83	Error code = %1
84	監査データベースの最大サイズを 0 設定しなければなりません
85	シングルユーザモードでは操作は許可されていません
86	データベースの既定の照合は利用できません

エラー・コード	説明
87	データベースのブロック・サイズが小さすぎるため、直接 I/O をサポートできません
88	NFS ファイルシステムでは直接 I/O はサポートされていません
89	非同期 I/O が有効なため、直接 I/O 用にデータベースが開かれている必要があります
90	2K データベース・ブロック・サイズは現在サポートされていません
91	データベース・エクステントの作成は許可されていません
92	データベースが異なるエンディアンのシステムで作成されました
93	監査データベースに対してジャーナリングが必要です
101	Top Pointer Level: # of blocks=%1 %2kb (%3% full)
102	Bottom Pointer Level: # of blocks=%1 %2kb (%3% full)
103	Pointer Level: # of blocks=%1 %2kb (%3% full)
104	Top/Bottom Pnt Level: # of blocks=%1 %2kb (%3% full)
105	Data Level: # of blocks=%1 %2kb (%3% full)
106	Total: # of blocks=%1 %2kb (%3% full)
107	経過時間 = %1 秒、完了 %2
108	ポインタ・ブロック %2 を処理中のタイプ %1 のエラーです
109	ノード %1 の処理中にエラーが発生しました
110	下位レベル・ブロックが %1 の右のリンク・ブロックを指定しています
111	タイプ 1 エラー。ビューバッファが開かれていないか、このデータセットをマウントできません。
112	このレベルの最初のブロックです
113	%1 の左横のポインタ・ブロックです
114	このポインタブロックは破損しており、解析できません。
115	下位レベルブロックが破損しており、解析できません。
116	最初のノードとして予期するもののグローバル参照入力が長すぎます
117	ポインタブロックの第一ノード - %1 はブロック %2 を指しています。これは %3 を指すものと予想されます。%3 は直前のポインタブロックが指す最後の下位ブロックの右リンクポインタが指しているブロックです。
118	The pointer block's 1st node is: %1.It does not
119	最後のグローバル参照に従っていません
120	右のリンク・データに基づく必要なグローバル参照と同じになりません
121	%1 である前のポインタ・ブロックの最後の下位ブロック
122	下位レベル・ブロック %2 をポイントする %1
123	*****グローバル %1 は不正です*****
124	グローバル ^%1 は正しいです
125	下位レベル・ブロックに %1 のブロック・タイプがあります

エラー・コード	説明
126	ここでは %1 を期待していました
127	ポインタ・ブロックではデータ・ブロックに以下があることを期待していました
128	ポインタ・ブロックではデータ・ブロックに大きな文字列があることを期待していませんでした
129	しかしデータ・ブロックのタイプ情報には
130	しかしデータ・ブロックの大量の文字列カウントには
131	それがないことが示されています
132	それがあることが示されています
133	下位レベルブロックにある、次ブロックの先頭ノード情報が不正です。
134	blnextpntlen4 の長さは 0 ですが、リンクは正しいです
135	blnextpntlen4 の長さは 0 ではありませんが、正しいリンクがありません
136	blnextpntlen4 の長さはグローバル参照には長すぎます
137	blnextpntlen4/blnextpntvalue4 で記述される参照が
138	ブロックの最終ノードの次にくるものとなっていません。
139	blnextpntlen4 の長さが、次のブロックの最初のノードの長さとは一致しません
140	下位レベル・ブロックの値は blnextpntlen4 にあります
141	下位レベル・ブロックは blnextpntoff44 に値があります
142	これはデータブロックではありません。
143	blnextpntoff4 ですが、これは大きなデータベース・データ・ブロックではありません
144	(ブロック内の大量の文字列の検索中に発見されました)
145	ビッグストリングのデータブロック数は %1 です。
146	そのブロック・タイプは以下を指定しています
147	大量の文字列がある必要があります
148	大量の文字列があってはなりません
150	データ・ブロックに構文エラーがあります。
151	大量の文字列情報内にあります
152	マップ・ブロック %1 にラベル・エラーがあります
153	下位ブロック %1 はマップブロック %2 では割り当てられていません
154	データ・ブロックが、ブロック %1 に保存された長い文字列をポイントしています
155	これは、マップブロック %1 では割り当てられていません。
156	ポインタ・ブロックが空です
157	下位ブロックは右リンクグローバルリファレンスを持ちますが、これは
158	次のポインタノードのグローバル参照と一致しません。
159	下位ブロックの最終ノードは照合順で前のデータとなるべきです。
160	等しくなる必要があります

エラー・コード	説明
161	下位ブロックの右リンク参照は %1 です
162	ポインタブロックの次の参照は %1 です。
163	ポインタノードのグローバルリファレンスが
164	下位ブロックの最初のノードと一致しません
165	下位ブロックの第一ノードは %1 です。
166	それは大きなデータベース・データ・ブロックであるため、
167	最初のノード %1 の最初の blpntlen4 バイトと一致する必要があります
168	これは、ポインタブロック中の次ポインタノード %1 と一致しません。
169	ポインタ・ノードはブロック # %1 を指定しています
170	それはこのデータベースの範囲外です
171	ポインタ・ブロックに %1 の正しいリンクがあります
172	ディスクにはもう存在していません
173	ブロック %1 はポインタ・ブロック・タイプではありません: %2
174	上位ブロック %1 に上位ポインタ・ブロック・タイプがありません: %2
175	下位レベル・ポインタ・ブロック %1 に上位ポインタ・ブロック・タイプがあります: %2
176	Big Strings: # of blocks=%2 %3MB (%4% full) # = %1
177	Big Strings: # of blocks=%2 %3kb (%4% full) # = %1
178	データベースがマウントできません
179	予期しないエラーが発生しました: %1
180	Value (report to InterSystems) = %1
181	***このディレクトリのこれ以上のチェックは中止されました
182	***このグローバルのこれ以上のチェックは中止されました
183	***このレベルの次のポインタ・ブロックでチェックを続行します
184	データベースがマウントされていません
185	ブロックの最後に新しいノード %1 が挿入されました
186	このノードがこのブロック内に必要か考慮します
187	ブロックの最初に新しいノード 1 が挿入されました
188	他のブロックで変更が必要です
189	新規のノード %1 として挿入されました
190	古いノード %1 および後続のノードが混ざっています
191	ノードが既に存在します (ノード %1)
192	***ブロックに十分な空き領域がありません***
193	...削除されました(上位の番号のノードが下に混ざっています)
194	ブロックの最初のノードが削除されました

エラー・コード	説明
195	***タイプは %1 です - 無効なタイプです
196	*** オフセットが正しくありません: %1 は %2 より大きくなってはいけません。
197	Top Pointer Level: # of blocks=%1 %2MB (%3% full)
198	Bottom Pointer Level: # of blocks=%1 %2MB (%3% full)
199	Pointer Level: # of blocks=%1 %2MB (%3% full)

テーブル 1-2: 一般的なエラー・コード - 200 から 399

エラー・コード	説明
200	Top/Bottom Pnt Level: # of blocks=%1 %2MB (%3% full)
201	Data Level: # of blocks=%1 %2MB (%3% full)
202	Total: # of blocks=%1 %2MB (%3% full)
203	ただし下位ブロックに %1 の正しいリンクがあります
204	***マップ・エラー: マップ・ブロック %1 のカウント・フィールドは %2 ですが、合計のカウントは %3 です。
205	整合性ジョブを開始できませんでした
206	整合性チェックを中断しますか?
207	ディレクトリのチェックを中断しますか?
208	グローバルのチェックを中断しますか?
209	これは大きな文字列ブロック %1 をポイントしていますが、タイプは %2 です
211	ポインタ・ブロックのグローバルは正しくありません
212	長い文字列を挿入できません
213	2k のデータベースの作成は許可されていません
214	%1 の重複したポインタがあり、最初のポインタは %3 をポイントするグローバル %2 です
215	重複したポインタ、%2 をポイントするグローバル %1 があります
216	'%1' は妥当なグローバル名ではありません。
217	グローバル名 '%1' が長すぎます (%2 を超えています)
250	このデータ・ブロックの次のポインタ内の格納値は、実際の次のポインタまたは blnextptlen4 と一致せず、正しくありません。
251	ブロック #%2 のノード #%1 に、無効な添え字の長さがあります
252	ブロック内の照合 #%1 はグローバル・ディレクトリ内の照合 #%2 と一致しません
253	ビッグ・ストリング・ブロック #%1 のブロック・オフセットの値 #%2 が無効です。
254	ビッグ・ストリング・ブロック #%1 は、無効なブロック値 #%2 でポイントされています。
255	整合性チェック時にブロック #%1 が変更されたため、カウントが正しくない可能性があります
256	整合性チェック時にブロック #%1 が変更されましたが、おそらく問題ははありません。このグローバルについてチェックを再度実行する必要があります

エラー・コード	説明
257	グローバル・ディレクトリ・ブロック #%1 を読み取れません
258	グローバル・ディレクトリ・ブロック #%3、エントリ %2 に不正な名前 %1 があります。
259	%1 ブロック %2 が壊れています
260	%1 ブロック %2 に不正なタイプが含まれています
261	%1 ブロック %2 に不正なラベルが含まれています
262	%1 ブロック %2 に不正なマップ番号が含まれています
263	%1 ブロック %2 に不正なインクリメンタル・ファイル番号が含まれています
264	%1 ブロック %2 に不正なデータベース作成時刻が含まれています
265	%1 ブロック %2 は不正とマークされています
266	上位ポインタ・ブロック %1 は、割り当て済みとマークされていません
267	整合性チェック時に %1 エラーが見つかりました
268	しかし、ポインタ・ブロック・タイプ (2 または 6) であると思われます
269	グローバル・ディレクトリ・ブロック %1 は連鎖している前のブロック %2 を指しています
270	グローバル・ディレクトリ・ブロック %1 に不正なタイプ %2 が含まれています
271	*** 警告 : グローバル %1 のカウントが正しくない可能性があります。1 つ以上のブロックがチェック中に変更されました ***
272	*** 警告 : グローバル %1 が壊れている可能性があります。再チェックしてください ***
273	*** エラーが検出されましたが、チェック中に変更があったブロック内だけです ***
274	データ・ブロック %2 内の %1
275	下位レベル・ブロックをポイントする %1。ただし、ノードが削除されている可能性があります。確かめるには、この確認を再実行してください
276	上位ポインタ・ブロック %1 に %2 の正しいリンクがあります
277	レベル %1 には、無限ループがある可能性があります、%2 のブロックが確実にあり、%3 は既に表示されています
278	レベル %1 には、無限ループがある可能性があります、ポインタ・ブロック %2 の正しいリンク %3 は既に表示されています
279	これは、ポインタ・ブロック中の次のポインタ・ノードと一致しません。ただし、ノードが削除されている可能性があります。確かめるには、この確認を再実行してください
280	グローバル・ディレクトリ・ブロック %1 の解析中にエラーが発生しました。一部のグローバルが使用できない可能性があります。
281	ポインタ・ブロックのブロック・オフセットの値が無効です。
282	下位レベル・ブロックのブロック・オフセットの値が無効です。
283	ポインタ・ブロック %1 の解析中にエラーが発生しました。
284	%1 ブロック %2 がそのマップ・ブロック %3 から割り当てられていません。
300	データベースがマウントされていません
301	データベースが破壊されています

エラー・コード	説明
302	データベースが読み取り専用です
303	プライマリ・ボリュームが既に %1 に存在します
304	セカンダリ・ボリュームが既に %1 に存在します
305	セカンダリ・ボリュームに対し、別の位置を選択する必要があります
306	セカンダリ・ボリュームに対し、別の位置を選択する必要があります
307	%1 を作成しましたが、マウントできませんでした。マウント・エラーは %2 です。
308	グローバル %1 が見つかりません
309	グローバルは既に定義されています
310	一時データベースをマネージャデータベースにすることはできません。
311	%1 を一時データベースとして指定できませんでした
312	一時データベースを sfm で検索できませんでした
313	%1 の修正が失敗しました
314	これはデータベース・ファイル %1 ではありません
315	データベースは作成されましたが、フォーマットされていません
316	%1 を削除できません
317	データベースを削除できません
318	ミラー・データベース %1 の削除は許可されていません
319	%1 へのルーチン・ブロックの再宣言が完了しました
320	生成が失敗しました: %1
321	次の理由で %1 の Keep Type を設定できませんでした
322	%2 ネットワーキングが動作していないため、%1 がマウントされません
323	クラスタ・マウントが %1 で失敗しました
324	グローバル・ディレクトリが壊れています
325	次の理由で %1 のジャーナル・タイプを設定できませんでした
326	次の理由で %1 の保護を設定できませんでした
327	%1 KB バッファ (あるいはそれ以上) が設定されていません
328	次の理由で %1 の照合を設定できませんでした
329	^%1 のデータベース・エラーです (InterSystems に報告されます)
330	ブロック %1 はどのグローバルでも使用されていません
331	渡されたブロックの長さが正しくありません: %1
332	大きな文字列ブロックです。Block Dump オプションを使用します
333	グローバル %1 は既に存在します
334	グローバル %1 を作成できません
335	グローバル %1 はリモートで、許可されません

エラー・コード	説明
336	%1 は正当な名前ではありません
337	ファイル %1 に書き込むことができません
338	入力ファイル %1 を読み取れません。エラーは %2 です
339	構成ファイル %1 は不正です
340	ファイル %1 は使用できません
341	ブロック番号 %1 はこのデータベースには大きすぎます
342	ブロック %1 はマップ・ブロックではありません
343	ブロック %1 は %2 の正しいマップ・ブロックではありません
344	従来のデータベースでサポートされない関数です
345	マネージャデータベースはディスマウントできません
346	データベースが存在する場合、このパラメータを変更できません
347	現在の %1MB 以下のサイズを設定できません
348	この処理には無効なパラメータです
349	データベースは、ボリュームの追加前に存在する必要があります
350	次の理由で、%1 をマウントできませんでした
351	%1 へのルーチン・ブロックの再宣言のエラーです
352	マップ・ブロック %1 が壊れています
353	%1 のデータベースは、要求された %3 MB ではなく %2 MB で作成されました
354	通信デバイスは現在使用中です
355	ブロック・サイズ %1 でデータベースを作成することはできません
356	データベース %1 はマウントできません。リソース %2 はシステムにとって不明です
357	FileCompact が失敗しました。グローバル・バッファが不足しています
358	FileCompact が失敗しました。圧縮は処理中です
359	FileCompact: 空き容量が最大に達しました
360	FileCompact が失敗しました。要求された空き容量がファイル・サイズを超えています
361	デフラグに失敗しました。ファイル領域が不足しています
362	デフラグに失敗しました。領域が不足しています
363	ミラーリングされた DB へのシステム・データベース %1 の追加は許可されていません
364	ミラー情報ブロックのコンテンツを表示できません
365	ネームスペース %1 は使用できません。デフォルトのデータベースがマウントされていないか、このデータベースに対するアクセス権がありません
366	データベースは最小割り当てサイズよりも大きい必要があります
367	グローバル '%1' のインポートには照合 #%2 が必要です。使用できない場合は、この項目のインポートをスキップします

エラー・コード	説明
368	一時データベースにキャッシュされたすべての空きブロックを返すのに失敗しました
369	失敗しました。プロセス ID %1 の切り捨て操作、圧縮操作、またはデフラグ操作がこのデータベース内で実行中です
370	拡張サイズまたは最大サイズは整数である必要があります
371	データベース %1 がディスマウントされます
372	データベース %1 は読み取り専用です
373	データベース %1 はクラスタ・マウントされています
374	データベース %1 はジャーナルされません
375	ジャーナリングが有効ではありません
376	一部のシステム・グローバルの照合が正しくありません
377	ネームスペース %1 は ECP を介して利用できません。返される ECP ステータス : %2
378	失敗しました : 切り捨て操作が実行中です
379	失敗しました : 予期しないブロック・タイプが検出されました
380	完了していますが、一部のブロックをスキップしました。詳細はメッセージ・ログに記録されています
381	移動不能なブロックで停止しました。詳細はメッセージ・ログに記録されています
382	グローバル %1 のディレクトリ情報を取得できません。エラー : %2
383	開始ノード %1 と終了ノード %2 のグローバル名は同じである必要があります
384	グローバル範囲 %1 は %2 の後ろである必要があります
385	データベース ExpansionSize %1MB は、%3KB ブロック・サイズ・データベースの最小値である %2MB よりも少なくなっています。
386	%1 は一時データベースに対して有効な処理ではありません
388	不明なエラー、コード %1
389	バックアップ実行中のため失敗しました
390	拡張実行中のため失敗しました
391	ミラー・データベースのプライマリのブロック・サイズが %1 KB であり、これに対して構成されているバッファが存在しません
392	ミラー・データベースのプライマリのブロック・サイズが %1 KB であり、ローカル・システムで許可されていません
393	不明なシステム名です : %1

テーブル 1-3: 一般的なエラー・コード - 400 から 599

エラー・コード	説明
400	行 %1、行: '%2=%3'
401	行 %1
402	十分な数のフィールドがありません

エラー・コード	説明
403	無効な行です。行: '%1'
404	ファイル %1 にバージョン情報が含まれていません。ファイルが破損している可能性があります
405	不正なバージョン '%1' です
406	不正なパラメータ名 '%1' です
407	不正なプロパティ値 '%1'
408	以下のパラメータがセクション %1 に不足しています: '%2'
409	セクション %1 を削除できません
410	フィールドが多すぎます
411	ファイル %1 は編集されました。管理ポータルからは変更できません。
412	%1 は無効なマップ・キーワードです
415	%1 は無効なセクション名または重複しているセクション名です
416	重複する行が検出されました
417	重複するエントリ %1 が検出されました
418	セクション '[%1]' は既に存在します
419	%1 %2 は既に存在します
420	%1 %2 は存在しません
421	%1 のマップ %2 はネームスペース %3 に存在しません
422	%1 のマップ %2 はネームスペース %3 に既に存在します
423	サーバ %1 を削除できません。データベース %2 で使用中です
424	デバイス名をエイリアスと同じにすることはできません
425	データ・サーバ %1 が定義されていません
426	データ・サーバ %1 はシステム・データベースには使用できません
427	システム・データベース %1 を削除できません
428	ネームスペース %1 は既に存在します
429	データベース %1 を削除できません。ネームスペース %2 で使用中です
430	MountAtStartup、ClusterMountMode、および MountRequired は、リモート・サーバでは使用できません
431	システム・データベースはクラスタ・マウントできません
432	必要なデータベース %1 が定義されていません
433	ネームスペース %1 は存在しません
434	システム・ネームスペース %1 を削除できません
435	必要なネームスペース %1 が定義されていません
436	[Databases] セクションの前に [%1] セクションを定義する必要があります
437	[Namespaces] セクションの前に [Databases] セクションを定義する必要があります

エラー・コード	説明
438	[Devices] セクションの前に [DeviceSubTypes] セクションを定義する必要があります
439	[%1] セクションの前に [Namespaces] セクションを定義する必要があります
440	セクションがありません: %1
441	以降の処理が中断されました
442	システムはクラスタ化データベースをサポートしていません
444	コメントの長さは %1 文字未満にする必要があります
445	コメントはコメント文字 '%1' のいずれかで始まる必要があります
446	不正なネストコメント, 行:'%1'
447	終端のないコメント '%1' が見つかりました
448	%1 は無効なルーチン・タイプです
449	%2 が既に存在する場合、ルーチン %1 はマッピングできません
450	%1 データ・サーバ %1 は既に定義されています
451	マッピング %1 を削除してからマッピング %2 を削除する必要があります
452	マッピング %1 は既に存在します
453	ネームスペースの再アクティブ化のためにシステムを停止することはできません
454	添え字マッピング %2 の前にグローバル・マッピング %1 を定義する必要があります
455	必要なデータベース %1 をマウントできませんでした
456	[config] MaxServers パラメータは %1 以上に設定する必要があります
457	無効なネームスペース名です
458	無効なサーバ名です
459	データベース %1 は既に存在しています
460	照合 %1 が不正です
461	IPv6 はサポートされていません
462	不正なブロック・サイズ %1 です
463	データベース %1 は ECP ミラー接続には使用できません
464	ECP サーバ %1 は存在しません
465	リモート・サーバ %1 はミラーをサポートしません
466	2KB または 4KB データベースがマウントされている場合は、LongStrings は有効にできません
467	エイリアス %1 はデバイス %2 によってすでに使用されています
468	シャドウ名が不正です
469	[%1] セクションの前に [Shadows] セクションを定義する必要があります
470	サーバ名 '%1' がローカルのシステム名と一致しました
471	[%2] セクションの前に %1 セクションを定義する必要があります
472	新しい WIJ ディレクトリに既存の IRIS.WIJ ファイルを格納することはできません

エラー・コード	説明
473	構成の [Databases] セクション内にローカル・ディレクトリ %1 を指すエントリが見つかりません
474	CPF ファイル %1 でロックを取得できません
475	データベース %1 では読み取り/書き込みが必要ですが、読み取り専用でマウントされました
476	無効な MirrorConnection 値です : %1
477	データベース %1 はミラー以外の ECP 接続には使用できません
570	グローバル %1 に制御文字が含まれます。このグローバルのリストアは失敗する可能性があります。ブロック・フォーマットを使用してこのデータを保存してください。詳細はファイル %2 を参照してください。
571	%1 へのデータベースのコピーは既に実行されています
572	クラスターでマウントされたデータベース %1 をコピーおよび置換できません
573	ミラーリングされたデータベース %1 をコピーおよび置換できません

テーブル 1-4: 一般的なエラー・コード - 600 から 799

エラー・コード	説明
601	CSP アプリケーション
602	データ・サーバ
603	データベース
604	デバイス
605	グローバル・マッピング
606	グローバル・レプリケーション
607	ライセンス・サーバ
608	ネームスペース
609	SQL ゲートウェイ
610	ルーチン・マッピング
611	磁気テープ
612	デバイス・サブ・タイプ
613	イーサネット接続
614	UDP 接続
615	イーサネット・デバイス
616	ボリューム・セット - UCI マッピング
617	シャドウの宛先
618	シャドウのソース
619	LAT サービス
620	通信ポート
621	SQL システム・データ型

エラー・コード	説明
622	SQL ユーザ・データ型
623	SLM レプリケーション
624	SLM
625	ジャーナル履歴
626	リモート・ボリューム・セット
627	ネームスペース
628	データベース
629	デバイス
630	構成
631	プロジェクト・タイプ
632	Java アプリケーション
633	EJB アプリケーション
634	C++ アプリケーション
635	クラス・マッピング
641	%1 '%2' はこの構成では定義されていません。
642	%1 '%2' は %3 から参照されています。
643	%1 '%2' はすでに存在します。
644	パラメータ '%1' が不正です: '%2'
645	%1 '%2' は存在しません。
646	変更は再起動を必要とするため、構成は再度アクティブにできませんでした
647	構成 %1 のロード・エラー: %2
648	Activate() メソッドを呼び出す前に、構成 %1 を %Saved() する必要があります
649	構成 %1 は別のプロセスにより使用中です
650	%1 はネームスペース '%2' ですすでに定義されています。
651	開始時の構成を '%1' に設定できませんでした。
652	クラスタ化構成では、空ではない PIJDirectory が必要です
653	サブスクリプト参照には ` ` 文字を含むことはできません。
654	添え字参照は開始の括弧で始める必要があります
655	添え字参照は終了の括弧で終わる必要があります
656	開始の括弧は終了の括弧の前にきます
657	参照 %1 添え字 #1 の添え字が無効です
658	参照 %1 添え字 #2 の添え字が無効です
659	無効な範囲指定です
660	指定範囲に 3 つ以上の参照があります

エラー・コード	説明
661	Config API 内の設定に名前が必要です
662	キーが必要です
663	構成設定の情報を見つけることができません: %1
664	[プロパティが存在しません]
665	構成オブジェクトを開くことができません: %1
666	リモート・システムのステータスの変更が失敗しました
667	構成ファイルの解析エラー: %1
668	再アクティブ化エラー: %1
669	入力された照合 #%1 はグローバル・ディレクトリにある ^%3 の照合 #%2 と一致しません
701	LDAPエラー (%1): %2
702	LDAP または渡された引数が初期化されていません
703	LDAP 共有ライブラリ (%1) のロードに失敗しました
704	値が 32K の境界に到達しました
705	LDAP ヒープから必要な領域を取得できませんでした
706	無効な親です
707	予期しないオブジェクトが渡されました
708	LDAP の予期しないライブラリ・バージョンです - 予期していたのは %1 でロードされたのは %2 です
709	サーバは別のユーザ確認のための質問を渡しました。質問に対する応答を決定し、SASLConnect を再度呼び出してその応答を送信します
710	無効なパラメータが渡されました
711	要求はサポートされていません
712	指定された SASL メカニズムはサポートされていません
725	クライアント・タイプの相手証明書認証レベルが無効です
726	拡張 CihperSuite リストに値が含まれていません
727	SSL 通信は現在のライセンスでは使用できません
728	証明書 %1 の期限が切れました
729	証明書 %1 は、TLS Web クライアント認証に対して有効ではありません
730	証明書 %1 は、TLS Web サーバ認証に対して有効ではありません
731	証明書 %1 での公開鍵を使用した暗号化に失敗しました
732	秘密鍵ファイル %1 の解読に失敗しました (パスワードが誤っている可能性があります)
733	証明書 %1 の公開鍵と %2 の秘密鍵が一致しません
734	証明書 %1 の CA ファイル %2 での検証が失敗しました。エラー= %3
735	'%1' メンバにミラー SSL 構成が欠落しています

エラー・コード	説明
736	'%1' はミラー・メンバではありません
737	'%1' に到達できません。エラー=%2
738	ターミナルにより使用されているすべての認証メカニズムを無効にすることはできません
739	'%1' のミラー SSL 検証がエラーで失敗しました : %2
740	ミラー SSL 構成に証明書ファイル名がありません
741	ミラー SSL 構成に CA ファイル名がありません
742	証明書 %1 が無効です
743	CA 証明書ファイル %1 が無効です
744	X.509 証明書がありません
797	ユーザ・アカウントが失効しています
798	%1 認証が失敗しました
799	無効なアプリケーション名です : %1

テーブル 1-5: 一般的なエラー・コード - 800 から 999

エラー・コード	説明
800	サービス %1 のログインは無効です
801	ログインは無効です
802	サービス %1 のログインは無効です。システムが起動中です。
803	ログインは無効です。システムがシャットダウン中です。
804	Kerberos ログインはサービス %1 で許可されていません
805	Kerberos データ整合性ログインはサービス %1 で許可されていません
806	Kerberos データ暗号化ログインはサービス %1 で許可されていません
807	O/S ログインはサービス %1 で許可されていません
808	Kerberos ログインがサービス %1 が必要です
809	サービス %1 は存在しません
810	無効なユーザ名またはパスワードです
811	Kerberos K5CCache ログインはサービス %1 で許可されていません
812	Kerberos K5Prompt ログインはサービス %1 で許可されていません
813	Kerberos K5API ログインはサービス %1 で許可されていません
814	Kerberos K5KeyTab ログインはサービス %1 で許可されていません
815	ユーザはサービス %1 で認証されていません
816	無効な認証オプション %1 です
817	クライアント IP アドレス %1 はサービス %2 で認証されていません
818	サービス %1 を削除できません

エラー・コード	説明
819	サービス %1 は既に存在します
820	サービス %2 の無効な認証オプション %1 です
821	アクセスが拒否されました: %1 にアクセスできません
822	アクセスが拒否されました
824	ユーザ名またはパスワードが無効です
825	SQL を初期化できません、%1
826	ZSTART を実行できません、%1
827	ユーザ %1 は認証されていません
828	ユーザ %1 のアカウントは無効です
829	ユーザ %1 はロール %2 を追加できません
830	ユーザ %1 の最後のログインを更新できません
831	ユーザ %1 の名前またはパスワードは無効です
832	ユーザ %1 パスワード更新エラー
833	ログインのタイムアウトです
834	ログインは中止されました
835	ユーザ %1 はシステム・セキュリティをバイパスしています
836	プログラマのアクセスに特権は不十分です
837	ユーザ %1 は既に存在します
838	ユーザ %1 は存在しません
839	スーパーユーザ %1 は削除できません。
840	%1 を削除できません。%All ロールを持つユーザのみ削除できます。
841	既定のユーザ %1 を削除できません
842	ユーザ名 %1 が無効です
843	ユーザ名 %1 はサービス %2 により使用中です
844	ネームスペース %1、データベース %2、リソース %3 に対する特権が不足しています
845	パスワードが長さまたはパターンの要件と一致しません
846	ユーザ名にドメイン指定を含めることはできません
848	システム・セキュリティ構成 %1 は既に存在します
849	システム・セキュリティ構成 %1 は存在しません
850	監査データベース %1 は使用できません
851	無効な監査イベント名 %1 です
852	監査イベント %1 は既に存在します
853	監査イベント %1 は存在しません
854	システム監査イベント %1 を削除できません

エラー・コード	説明
855	システム監査イベント %1 を変更できません
856	%1 に対する監査の停止エラー
857	%1 に対する監査を開始できません
858	監査ファイルを消去するためにシステムを停止できません
859	監査レコード %1 は存在しません
860	%1 のセキュリティ・ラベルを初期化できません。リソースは %2 です
861	権限付アプリケーション %1 は無効です。
862	ユーザは権限付アプリケーション %2 の実行を制限されています -- 実行できません
863	権限付アプリケーション %1 はロックされています
864	認証されたユーザ名が必要です
865	データベース %2 内のルーチン %1 は、アプリケーション %3 にロールを追加する認証がされていません
866	クライアント・アプリケーション %1 はロールを追加するために認証されていません - シグニチャ %2
867	権限付アプリケーション %1 を作成できません -- その名前のアプリケーションが既に存在します
868	権限付アプリケーション %1 が見つかりません
869	アプリケーション %1 が存在しません
870	システム・アプリケーション %1 を削除できません
874	マッチ・ロール %1 が重複しています
875	マッチ・ロール %1 が存在しません
878	ターゲット・ロール %1 が重複しています
879	ターゲット・ロール %1 が存在しません
880	ロール %1 を削除できません
881	ロール %1 を削除できません
883	ロール %1 は存在しません
884	ロール %1 は既に存在します
885	ロールの最大数に到達しました
886	ロール %1 を変更できません。
887	無効なロール名 %1 です
890	システム・リソース %1 を削除できません
891	リソース %1 は既に存在します
892	リソース %1 は存在しません
893	システム・リソース %1 を変更できません
894	リソースの最大数に到達しました

エラー・コード	説明
895	リソース %1 が重複しています
896	無効なリソース名 %1 です
897	リソース名 %2 に対して無効な権限 %1 です
898	SSL 構成 %1 は既に存在します
900	ドメイン %1 を削除できません。ドメインは使用中です。
901	ドメイン %1 が既に存在します
902	無効なドメイン名 %1 です
903	ドメイン %1 は存在しません
904	ユーザは全てドメイン %1 内になければなりませんが、ユーザ %2 は異なります
913	電話会社 %1 は存在しません
914	X509証明書情報 %1 は存在しません
915	OpenAMIdentityServices %1 は存在しません
920	フィールド '%1' は変更できません
921	処理で %1 の特権が必要です
922	処理でリソース %2 に %1 の特権が必要です
923	処理でリソース %2 または %3 に %1 の特権が必要です
924	処理でリソース %2 および %3 に %1 の特権が必要です
930	システム・セキュリティ・パラメータを削除できません
935	パスワードの変更が必要です。
939	オブジェクトアクセス '%1' に必要な権限がありません
940	処理には不十分な特権です
941	監査ヘッダに書き込まれていないレコードがあります
942	ユーザ名およびロールに同じ名前を使用できません
943	ユーザ %1 にロールがありません
944	無効な有効期限です
945	ネームスペース '%1' に監査イベントをインポートすることは禁止されています
946	ユーザ %1 にアクセス可能なネームスペースがありません
947	パスワード・ログインはサービス %1 で許可されていません
948	認識されない接続メッセージです
949	タイムアウト時間内にメッセージの完全なヘッダを取得できませんでした
950	無効なサービス名 %1 です
951	サービス %1 に対する非認証のアクセスは無効になっています
952	無効なパスワードです
953	無効な従来のパスワードです

エラー・コード	説明
954	無効なパスワードです。従来のパスワードを変換できません
955	ユーザ %1 に対する無効な Kerberos ユーザ名またはパスワードです
956	Kerberos エラー: %1
957	パスワード・ログインはアプリケーション %1 で許可されていません
958	パスワードパターンが不正です '%1'
959	ユーザ %1 のアカウントは失効しました
960	ユーザ %1 のアカウントはアクティブではありません
961	Kerberos 認証は現在のライセンスでは使用できません
962	Cache Direct クライアントをアップグレードする必要があります
963	このサービスでは認証が無効です
964	LDAP サーバが停止しています - %1 %2 %3
965	LDAP 検索の結合に失敗しました、エラー %1、%2
966	LDAP 検索に失敗しました、エラー %1、%2
967	LDAP のカウントのエントリに失敗しました、エラー %1、%2
968	ユーザ %1 は LDAP データベース内に存在しません
969	ユーザ %1 は LDAP データベース内で一意ではありません
970	LDAP の最初のエントリに失敗しました、エラー %1、%2
971	無効な LDAP パスワードです、エラー %1、%2
972	ユーザ %1 は LDAP ユーザではありません
973	ユーザ %1 は代行ユーザではありません
974	ユーザ %1 は IRIS ユーザではありません。LDAP ユーザ、代行ユーザ、Kerberos ユーザ、または O/S ユーザです
975	LDAP Get DN に失敗しました。エラー %1、%2
976	LDAP Get Values Len に失敗しました。エラー %1、%2
977	属性値 %1 は \$list 形式にする必要があります
978	接続するには、ユーザが %1 ロールを持っている必要があります
979	SSL 構成 %1 は存在しません
980	SSL 構成 %1 をアクティブにできません
981	無効な SSL 構成名 %1 です
982	指定した暗号スイートすべてからサーバ認証が要求され、証明書ファイルと秘密鍵を含むファイルが必要です
983	証明書ファイルが指定された場合は、秘密鍵を含むファイルが必要です
984	秘密鍵を含むファイルが指定された場合は、証明書ファイルが必要です
985	秘密鍵パスワードが指定された場合は、秘密鍵を含むファイルが必要です

エラー・コード	説明
986	相手認証または CRL ファイルが指定された場合は、CA ファイルが必要です
987	SSL 構成 %1 は無効です
988	SSL ハンドシェイクに失敗しました
989	SSL 接続に失敗しました。サーバ・アドレスとポート (URL ではありません) が指定されていることを確認してください。
990	SSL クライアントのテストのみ可能です
991	ホストおよびポートを指定する必要があります
992	パスワードが無効になっています
993	LDAP 認証ユーザを変更できません
994	代行認証ユーザを変更できません
995	着信接続には SSL/TLS が必要です
996	SSL/TLS が着信接続用に構成されていません
997	ユーザ %1 が O/S 代行認証に失敗しました
998	ログイン・トークンは失効しました
999	ユーザ %1 のログイン・トークンは失効しました

1.2 エラー・コード 1000 から 1999

テーブル 1-6: 一般的なエラー・コード - 1000 から 1199

エラー・コード	説明
1000	シャドウ構成 '%1' が不完全です: ソースIPアドレスまたはDNS名が指定されていません
1001	シャドウ構成 '%1' にエラー: ソースポート番号が不正です: %2
1002	シャドウ構成 '%1' が不完全です: コピーしたジャーナルファイルを格納するディレクトリが指定されていません
1003	シャドウ構成 '%1' が不完全です: 開始点が指定されていません
1004	シャドウ構成 '%1' にエラー: マネージャディレクトリ %2 はシャドウデータベースとして使用できません
1005	シャドウ構成 '%1' が不完全です: データベースマッピングが存在しません
1006	シャドウID '%1' が不正です: 文字 '~' を使用することはできません
1007	シャドウ構成 '%1' にエラー: コピーしたジャーナルファイルの格納場所として %2 (現または代替ジャーナルディレクトリ)は使用できません
1008	シャドウ構成 '%1' : ソース・データベースまたはジャーナルは異なるミラー ('%2' および '%3') に属しています
1010	停止中のシャドウ '%1' を再開できません
1012	シャドウ構成 '%1' の各設定に対する排他アクセスを取得できません

エラー・コード	説明
1013	シャドウ構成 ID を指定する必要があります
1014	シャドウ構成 '%1' は存在しません
1015	シャドウ '%1' のテストに失敗しました: %2
1016	シャドウ '%1' のテストがタイムアウトしました
1017	シャドウ '%1' を実行しないでください
1018	シャドウ・データベース '%1' もこれに対応するソース・データベースです
1020	データベースサーバとシャドウサーバのシャドウプロトコルに互換がありません: データベースサーバのバージョン '%1' に対してシャドウサーバのバージョンは '%2' です
1021	データベース・サーバおよびシャドウ・サーバのジャーナル・バージョンは互換性がありません。データベース・サーバではバージョン %1 であるのに対してシャドウ・サーバはバージョン %2 です
1022	接続はデータベース・サーバ %1 により拒否されました
1023	サーバから識別できないバージョン '%1' が返されました
1024	一般メモリ・ヒープからのメモリ割り当てエラーです: %1
1025	シャドウイングに使用可能な一般メモリ・ヒープが不足しています
1026	サーバから識別できないメッセージ '%1' が返されました
1027	クラスタ・シャドウイング要求が拒否されました。データベース・サーバ %1 がクラスタに参加していません
1028	クラスタ・シャドウイング要求が拒否されました。%2 で指定されているシャドウイングのソース・クラスタにデータベース・サーバ %1 が参加していません
1029	シャドウイングがエラーにより中止されました
1030	シャドウ・サーバ・プロセスを終了できません
1031	シャドウ '%1' は別プロセスによって停止されています
1032	シャドウ '%1' を %2 秒以内に一時停止できません
1033	要求されたジャーナルファイル '%1' はソース上に存在しません
1034	要求されたファイル '%1' はソース上で妥当なジャーナルファイルではありません
1035	ジャーナルファイル '%1' は破損しています
1036	ファイル %1 を開くときのエラー: %2
1037	シャドウ・コピー %1 がソース・ジャーナル・ファイル %2 の前にあります
1038	ジャーナル・ファイル %2 内に無効なアドレス %1 があります
1039	シャドウイングを開始または再開するジャーナル・ファイルが指定されていません - 初めに指定したジャーナル・ファイル名が無効な可能性があります
1040	1 つのアップデータが強制終了されたため、データベース同期の更新に失敗しました
1041	クラスタ・シャドウイングの開始ポイントが見つかりません
1042	クラスタ・シャドウイングの開始ポイントが不完全です: %1
1043	シャドウイングは現在のライセンスでは使用できません

エラー・コード	説明
1044	シャドウは既に実行中です
1045	クラスタ・シャドウイングのチェックポイントが不正です: %1
1046	データベースの更新は、現在、シャドウイングのソース上でジャーナルされていません - シャドウ・データベースが非同期であることを示します
1047	シャドウは一時停止していないので、再開操作は無効です
1048	シャドウは停止していないので、開始操作も再開操作も無効です
1070	ポート %2 での %1 への接続の試行はタイム・アウトになりました - データベース・サーバが実行されていないか、ネットワークがダウンしています
1071	TCP の読み取りタイム・アウトです - リモート・サーバが応答していません
1072	データベース・サーバが切断されています - サーバへの %1 が中断されました
1073	シャドウ・サーバ (%2) が切断されています - サーバへの %1 が中断されました
1074	ルーチン %1 をJOB起動できません
1075	別のジョブ (PID %1) がシャドウ・ジャーナル・ファイルを削除中であるため、削除を開始できませんでした
1076	削除はこのシャドウでは使用できません
1077	応答の取得エラー: %1
1078	ジョブ (PID %1) の強制終了エラー: %2
1079	ジャーナルの同期に失敗したため、削除は中止されました
1080	ジャーナル・ファイル %3 の処理時、シャドウ・データベース %1 のマウントのエラー -- ソース・データベース %2 のこれ以降の更新は、シャドウ・データベースに適用されません
1090	ソースの %1 にデータベースがないか、読み取り可能ではありません
1091	ソースの %1 内のデータベースは現在マウントされていません
1092	無効なソース・ディレクトリ %1 です - 名前が長すぎるか、構文が無効です
1093	ファイル '%2' のオフセット %1 に無効なジャーナル EOF があります - 前方向に検索して、最終位置を取得します
1094	取得されたレコード数が予想を下回っています。最後のレコードは %1 で取得されました。%2 またはそのソース・コピーが壊れている可能性があります
1100	レコード読み取りのためジャーナルファイル '%1' を開くのに失敗しました
1101	ファイル %1 が存在しません
1102	ファイル '%1' は妥当なジャーナルファイルではありません
1103	'%1' の前のファイル取得中にエラー: %2
1104	ジャーナルファイル '%1' のインスタンス作成に失敗しました
1105	ジャーナルファイル '%1' の先頭レコードが不正です
1106	ジャーナルファイル '%1' 削除時にエラー: %2
1107	検索文字列が指定されていません
1108	ジャーナル・ファイルが指定されていません

エラー・コード	説明
1109	ジャーナルファイル '%1' には直前のファイルがあるはずですが、そのファイルが存在しません
1110	ジャーナルファイル '%1' には妥当なレコードがありません
1111	次のジャーナルファイル '%1' 取得中にエラー: %2
1112	ジャーナル・ファイル '%1' のオフセット %2 と %3 との間が破損しています
1113	ファイル '%1' がジャーナル・ログ '%2' 内に存在しません
1120	不明な列です: %1
1121	ジャーナル・レコードに不正なディレクトリがあります
1122	ジャーナル・レコードに不正なグローバル・ノードがあります
1140	ジャーナリングの開始エラー: %1
1141	ジャーナリングの停止エラー: %1
1142	ジャーナル・ファイルの切り替えエラー: %1
1143	ディレクトリ '%1' は存在しません
1144	ディレクトリ名 '%1' が不正です
1145	ディレクトリ '%1' 作成時にエラー: %2
1146	ジャーナルファイル接頭子 '%1' が不正です
1147	ファイル名が '%2YYYYMMDD.nnn' のジャーナルファイルに対してディレクトリ名 '%1' が長すぎます。
1148	ジャーナルファイルパス ('%1%2YYYYMMDD.nnn') にコンマを含めることはできません。
1149	ディレクトリ %1 のディレクトリ属性を取得できません
1150	ジャーナル・ディレクトリ %1 は読み取り専用にできません
1160	無効なトランザクション IDです: %1
1161	ファイル %2 のオフセット %1 で開始したトランザクションは TSTART レコードではありません
1180	クラスタ・ジャーナル・マーカ・ファイルが見つかりません
1181	クラスタ・ジャーナル・マーカ・ファイルを開けませんでした: %1
1197	起動時にデータベース暗号化キーを有効化しないと、ジャーナルの暗号化を有効にできません
1198	ジャーナル・ファイルを切り替えて、ジャーナルの暗号化を直ちに有効にすることができませんでした -- ジャーナル・ファイルは現在のファイルの後に暗号化されます
1199	ジャーナル・ファイルを切り替えて、ジャーナルの暗号化を直ちに無効にすることができませんでした -- ジャーナル・ファイルは現在のファイルの後の暗号化を停止します

テーブル 1-7: 一般的なエラー・コード - 1200 から 1399

エラー・コード	説明
1200	暗号化キー '%1' は既にアクティブ化されています
1201	暗号化キーがアクティブ化されていません
1202	'%1' は有効な暗号化キー・ファイルではありません

エラー・コード	説明
1203	ファイル '%1' 内の暗号化キーがアクティブ化されたキーと一致しません
1204	暗号化キー・ファイル '%2' 内でユーザ '%1' が見つかりません
1205	暗号化キー・ファイル '%2' にはユーザ '%1' が既に存在します
1206	暗号化キーの作成に失敗しました
1207	暗号化キーのアクティブ化に失敗しました
1208	暗号化キーを非アクティブにできません。暗号化データベースはマウントされています: %1
1209	無効なパスワードです。少なくとも文字を %1 含む必要があります
1210	キー・ファイルから最後の管理者を削除できません
1211	管理者のユーザ名またはパスワードでワイド Unicode 文字はサポートされていません
1212	起動時の暗号化キーのアクティブ化を無効にすることは、%1 の場合、許可されません
1213	暗号化ジャーナル・ファイル '%1' がクラッシュ・リカバリに必要な場合は、起動時の暗号化キーのアクティブ化を無効にすることは許可されません
1214	暗号化キーの非アクティブ化は、%1 の場合、許可されません
1215	暗号化ジャーナルファイル '%1' にオープン・トランザクションが含まれる場合、暗号化キーの非アクティブ化は許可されません
1216	起動時の暗号化キーのアクティブ化は有効なままです
1217	起動時の暗号化キーのアクティブ化を無効にできません。暗号化データベースは起動時に必要です: %1
1218	起動時の暗号化キーのアクティブ化を有効にしないと、監査の暗号化を有効にできません
1219	暗号化キーのアンラップに失敗しました。不正なパスワードの可能性があります
1220	暗号化キーに使用可能なスペースはありません
1221	暗号化キー・ファイル '%2' 内でキー '%1' が見つかりません
1222	無人アクティベーション・アドミニストレータをキー・ファイルから削除できません
1300	データチェックシステムのロックに失敗しました
1301	データチェックデーモンジョブから実行することができません
1302	データチェックシステムはすでに開始しています
1303	照合 %3 では、グローバル参照 %1 は %2 よりも前の照合順になりません
1304	データチェックプロトコルエラー
1305	データチェックメッセージキューの初期化に失敗しました
1306	DataCheckジョブ開始がタイムアウトしました
1307	DataCheckジョブの初期化が失敗しました
1308	相手によってアクセスが拒否されました メッセージ: %1
1309	相手待ちでタイムアウト
1310	%1 に対する重複したデータベースマッピング
1311	接続の確立を試行中にタイムアウトになりました

エラー・コード	説明
1312	%1 は相手システムでサポートされていません
1313	ミラー名 '%1' を使用してミラー・ベースの DataCheck 構成を検出できません
1314	宛先 GUID について見つかった DataCheck ソース・システムが接続元の宛先システムと一致しません
1315	関連オブジェクト '%1' の DataCheck システム名 (%2) が正しくありません
1316	データベース指定 %1 が正しくありません
1317	グローバル選択マスクが、重複したデータベース指定 %1 および %2 に対して定義されています
1360	直前のエラーのためRangeListの状態が不正です。再読込が必要です。
1361	RangeList照合は既に設定されています
1362	RangeListに新しいバージョンが格納されているため、再読込が必要です
1370	初期グローバル参照がヌルです
1371	初期グローバル参照と対象グローバル参照が同一です
1372	初期グローバル参照と対象グローバル参照が異なるグローバル名を使用しています
1380	ワークフローには少なくとも一つのフェーズが必要です
1381	ワークフロー NextPhase が範囲外です
1390	グローバル参照が不正です

テーブル 1-8: 一般的なエラー・コード - 1400 から 1599

エラー・コード	説明
1400	ユーザ %1 は Kerberos ユーザではありません
1401	ZAUTHORIZE ルーチンが見つかりません。SAMPLES ネームスペースで ZAUTHORIZE ルーチンを確認してください
1402	ZAUTHENTICATE ルーチンが見つかりません。SAMPLES ネームスペースで ZAUTHENTICATE ルーチンを確認してください。
1403	ZAUTHENTICATE ルーチンには ServiceName、Namespace、Username、Password、および Properties の各パラメータが必要です。SAMPLES ネームスペースで ZAUTHENTICATE ルーチンを確認してください。
1404	Kerberos 認証ユーザを変更できません
1405	ユーザ %1 は O/S ユーザではありません
1406	ZAUTHORIZE ルーチンには ServiceName、Namespace、Username、Password、.Credentials、および .Properties の各パラメータが必要です。SAMPLES ネームスペースで ZAUTHORIZE ルーチンを確認してください
1407	O/S 認証ユーザを変更できません
1408	アプリケーション %2 に対する認証オプション %1 が不正です
1409	ユーザ '%1' には2要素認証が構成されていません
1410	2要素認証に対して不正なファンクションコード '%1' です
1411	2要素認証タイムアウト

エラー・コード	説明
1412	2要素認証に対して不正なトークンを受け取りました
1413	携帯電話サービスプロバイダー '%1' は既に存在します
1414	携帯電話サービスプロバイダー '%1' は存在しません
1415	ユーザ '%1' の携帯電話番号 '%2' が不正です
1416	ユーザ '%1' の携帯電話プロバイダ '%2' が不正です
1417	2要素認証の構成が不正です
1418	ユーザ %1 のアカウントが不正なログイン制限に達しました
1419	GetCredentials^ZAUTHENTICATE が失敗しました
1420	GetCredentials^ZAUTHENTICATE がユーザ名またはパスワードを返すのに失敗しました
1421	ユーザ '%1' に携帯電話番号がありますがサービス・プロバイダがありません
1422	ミラー・サービスとシャドウ・サービスのどちらも有効にできません。
1423	LoginRules セキュリティ構成 %1 は存在しません。
1424	ZINSERT がアクティブなときにはロールを追加できません
1425	Security.System クラスから設定を変更する必要があります
1426	アプリケーション %1 では認証なしアクセスが無効に設定されています
1427	監査イベント %1 を追加も設定もできません。イベント・テーブルがいっぱいである可能性があります
1428	スタジオは 2 要素認証をサポートしていません
1429	サービス %1 に必要な特権がありません
1430	-U スイッチでは暗黙的なネームスペース %1 を使用できません
1431	%Manager ロールには、R/W 権限とともに %1 リソースが必要です
1432	ユーザ %1 のドメイン名が NULL です。Kerberos 設定のネットワーク構成を確認してください
1433	ワンタイム・パスワード認証に対して誤った確認コードを受け取りました
1434	2 要素認証では、以下のいずれか 1 つが有効になっている必要があります : %1
1435	2 要素 SMS テキスト認証では、電話番号とサービス・プロバイダが必要です
1436	有効にできるのは、1 タイプの 2 要素認証のみです
1501	SSL 設定 '%1' には有効な SSL 証明書が含まれていません
1504	管理ポータルを使用できません。システム管理メニューを通じて設定を変更する必要があります

テーブル 1-9: 一般的なエラー・コード - 1600 から 1699

エラー・コード	説明
1600	%1 は既に存在します。
1601	%1 は存在しません
1602	%1 はまだ実行中です。PID: %1
1603	%1 を変更できません。処理は実行中であるか完了しているかのいずれかです

エラー・コード	説明
1604	ユーザが処理を終了しました
1605	ジャーナル・ファイル %1 を開けません
1606	%1 の後のジャーナル・ファイルが見つかりません
1607	ソース・データベースと宛先データベースが同じです - %1
1608	ECP データベースからコピーできません
1609	システム・データベース %1 からコピーできません
1610	システム上でジャーナリングが有効になっている必要があります
1611	ジャーナリングで障害が発生しています - %1
1612	データベース %1 - %2 をミラーリング用に構成する必要があります
1613	ミラー・フェイルオーバー状態を設定できません。ステータス - %1
1614	グローバル %1 からのノードは宛先データベース %2 に既に存在しています
1615	グローバル %1 はソース・データベース内に存在しません
1616	%1 は既に実行済みです
1617	ネームスペース %1 を操作できません
1618	ルーチンはネームスペース %1 から既に分割されています
1619	グローバル %1 のディレクトリ情報を取得できません。エラー : %2
1620	グローバル %1 の照合が、ディレクトリ %2 と %3 内で一致しません
1621	グローバル移動ジョブを開始できませんでした。
1622	グローバル %1 の移動は既に実行済みです。
1623	処理がエラーで終了しました
1624	開始のグローバルと終了のグローバルは同じでなければなりません
1625	%1 の呼び出しに対する状態が誤っています。状態 = %2
1626	データ移動ネームスペース・ロックを取得できません
1627	ジャーナル %1 でソース・ディレクトリ %2 に対する SFN が見つかりません
1628	グローバル %1 の照合が変更されており、ジャーナル・オフセット %2 で回復不能エラーが発生しました
1629	ノード %1 の KILL を処理しませんでした - 範囲 = %2
1630	未処理のジャーナル・レコード・タイプ %1、ジャーナル・オフセット %2
1631	ジャーナルの監視を開始できません
1632	%1 の空き容量を計算できません。データベースがディスマウントされています
1633	データベース %1 の最大サイズは、少なくとも %2 は増やす必要があります
1634	以下のデータベースへのデータの移動は、パーティション上のスペースを %1 だけ超過しています : %2
1635	データベース %1 の新規宛先データベース・ディレクトリは構成されていません

エラー・コード	説明
1636	新規宛先データベース・ディレクトリ %1 がデータベース %2 に対して既にデータベース %3 として構成済みです
1637	範囲 %1 内の以下のグローバルが既に宛先データベース %2 に存在しています : %3
1638	データ移動処理 %1 が実行中です
1639	範囲 %1 は検出および削除することができません
1640	無効なメソッド %1
1641	無効なジョブ・メソッド %1
1642	ジョブ・メソッド %1 を実行できません
1643	データ移動処理 %1 %2 は既に実行中です
1644	移動処理 %1 は既に完了しています
1645	移動処理 %1 で回復不能エラーが発生しました。ロールバックする必要があります
1646	グローバル %1 の照合が変更されており、回復不能エラーが発生しました
1647	システムは %1 秒以内に停止できません
1648	中断できません。処理は既に完了しています
1649	中断できません。処理は開始されていません
1650	中断できません。処理はジャーナルのフェーズを過ぎています
1651	中断できません。処理は既に停止しています
1652	停止できません。処理は既に完了しています
1653	停止できません。処理は開始されていません
1654	停止できません。処理はジャーナルのフェーズを過ぎています
1655	無効なデータ移動名 %1 です

1.3 エラー・コード 2000 から 4999

テーブル 1-10: 一般的なエラー・コード - 2000 から 2299

エラー・コード	説明
2000	ミラー・ジャーナル・ログ (%3) にデータベース '%2' のジャーナル・ファイル #%1 が見つかりません
2001	ジャーナル・ファイル '%1' のヘッダを読み取れませんでした
2002	ミラー名が指定されていません
2003	ミラー・ジャーナル・ログ・ファイル '%1' が見つかりません
2004	ミラー '%1' のジャーナル・ログを開けませんでした
2005	ミラー '%1' のジャーナル・ログを読み取れませんでした
2006	ミラー・セットの名前を変更できません

エラー・コード	説明
2007	ミラー・セットに関連付けられている GUID を変更できません
2008	更新されたりカバリ・パラメータをミラー・メンバに送信できませんでした
2009	ミラー・セット GUID が定義されていません。%1 セクションはロードできませんでした
2010	ミラー構成をロードできませんでした
2011	ミラー名に ':' 文字を含めることはできません
2012	ミラー名が最大文字長 %1 を超えています
2013	ミラー・パラメータは既にロードされています。MirrorMember.Load() で再ロードできません
2014	JoinMirror と AsyncMemberGUID の両方を設定しないでください - %1 を中止しています
2015	JoinMirror と AsyncMemberGUID の両方を設定しないでください
2016	[MirrorMember] セクションにシステム名がありません。ミラーを結合できません
2017	[MirrorMember] セクションにミラー名がありません。ミラーを結合できません
2018	[MirrorMember] セクションにミラー GUID がありません。ミラーを結合できません
2019	MirrorMember.CheckSecurity でミラー・サービス '%1' を開けませんでした
2020	ミラー名が定義されていません
2021	ミラー名 '%1' が不正です
2022	プライマリ・ミラー・メンバのミラーをシャットダウンできません
2023	システム名に ':' 文字を含めることはできません
2024	システム名が最大文字長 %1 を超えています
2025	ミラー名が構成されていません。AsyncMemberAuthorizedID をロードできません
2026	SSL DN (識別名) フィールドは既に使用中です
2027	SSL DN (識別名) フィールドは NULL にすることはできません
2028	%1 に必要なパラメータがありません。中止しています
2029	非同期メンバ構成が定義されていません
2030	ミラー・セット名は更新されません
2031	クエリ・リストにミラー・セット %1 が見つかりませんでした
2032	ミラー・セット名 %1 は存在しません
2033	%1 のミラー構成が不正です。システム名 '%2' は一意ではありません
2034	ミラー・セット %1 の構成の割り当てに失敗しました
2035	%1 のローカルでミラー名または GUID に重複があります
2036	'%1' のミラー構成をロードできませんでした
2037	%2 (%3) から %1 のミラー構成を取得できませんでした
2038	ミラー・メンバ名に ':' 文字を含めることはできません
2039	ミラー・メンバ名が最大文字長 %1 を超えています
2040	ミラー・セット名が定義されていません

エラー・コード	説明
2041	[すべてのミラー・セット・メンバのロード] は既に実行されています。再実行することはできません
2042	%2 のミラー構成にミラー名 (%1) が見つかりません
2043	非同期メンバの接続時に新しいメンバを追加できませんでした
2044	%1 への引数はオブジェクトではありません
2045	ミラー・セット・メンバ %1 を追加できませんでした
2046	%1 のミラー構成が不正です。システム %3 の GUID (%2) は一意ではありません
2047	ベース・ディレクトリ '%1' が不正です。'%2' が必要です
2048	ミラー・セット・メンバ %1 (#%2) をミラー %3 に追加できませんでした
2049	ミラーリングの開始には不十分な特権です
2050	ミラー構成がロードされていません
2051	ミラー・セット名 '%1' が構成されていません
2052	ミラー・マネージャ・デーモン %1 を起動できませんでした
2053	ミラー・ジャーナル・ログ・ファイル '%1' を作成できませんでした
2054	ミラー・ジャーナル・ログ・ファイル '%1' を削除できませんでした
2055	ジャーナルファイルの削除開始点を含むミラー・ジャーナル・ファイル (%1) を開くのに失敗しました
2056	ミラー %1 の仮想 IP は有効なアドレス '%2' ではありません
2057	ミラー仮想 IP のインターフェースは存在しません '%1'
2058	ミラー・データベース名が必要ですが入力されていません
2059	ミラー・データベース名が最大文字長 %1 を超えています
2060	ミラー・データベース名に ':' 文字を含めることはできません
2061	ミラー・データベース名 '%1' が一意ではありません。ミラー・メンバ %2 に見つかりました
2062	他のシステムのミラー・データベース名の重複をチェックできませんでした
2063	データベース '%1' は既にミラーリングされています
2064	データベース '%1' は現在ミラーリングされていないので削除できません
2065	新しいミラー: %1 を作成できませんでした
2066	ミラーリング・サービスが必要ですが有効ではありません
2067	SSL 構成 %1 が必要ですが見つかりません
2068	SSL 構成 %1 は有効ではありません
2069	SSL サーバ構成 '%1' とクライアント構成 '%2' にある名前が異なります
2070	ミラー仮想 IP '%1' は、他のシステムで所有されています
2071	'%1' のミラー・セット情報の取得中にエラーが発生しました。エラー情報: %2
2072	他のシステムの文字サイズがローカル・システムと異なります
2073	ミラー・データベース '%1' がこのシステムで見つかりません
2074	このシステムはミラー・メンバとして構成されていません

エラー・コード	説明
2075	このシステムで定義されている他のフェイルオーバー・メンバはありません
2076	'%1' のミラー・メンバ情報の取得中にエラーが発生しました。エラー情報: %2
2077	このメンバを強制的にプライマリにするのに失敗しました。理由: %1
2078	ミラーリングされた DB は既にアクティブ化されています
2079	ミラーリングされた DB をアクティブ化できませんでした。理由: %1
2080	ミラーリングされた DB を削除できませんでした。理由: %1
2081	これはフェイルオーバー・ミラー・メンバではありません
2082	ミラー・プライマリ・ノードに接続できませんでした
2083	インスタンス名を検索できませんでした。理由: %1
2084	既存のミラーを結合できませんでした: %1
2085	仮想 IP に CIDR サブネット・マスクが含まれないか不正な CIDR サブネット・マスクがあります: %1
2086	エージェントは %1 では到達できません。理由: %2
2087	ミラー・メンバ %1 は %2 では到達できません
2088	ミラー・メンバ %1 への ECP 接続は、%2 では実現できません
2089	ネットワーク・インタフェース %1 は仮想インタフェースではありません
2090	ネットワーク・インタフェースが仮想アドレスに対して指定されていません
2091	%1 での SSL DN フィールドの取得に失敗しました。理由: %2
2092	暗号化データベースのミラー化には SSL が必要です
2093	ミラーリングのシャットダウンには不十分な特権です
2094	%1 のミラー接続を正常に切断できませんでした
2095	ミラー SSL/TLS 構成で問題が検出されました
2096	ミラー仮想 IP '%1' に到達できません
2097	ミラー仮想 IP '%1' は、インタフェース '%2' で一致したサブネットを見つけれませんでした
2098	ファイル名 '%1' からの開始位置が見つかりません
2099	ミラーリングは現在のライセンスでは使用できません
2100	%1 (%2) の MirrorSetMember エントリを開けませんでした
2101	ミラー名 '%1' はすでに使用されています
2102	ミラー DB %1 がフェイルオーバー・メンバで見つかりませんでした
2103	ミラー DB %1 がプライマリ・メンバで見つかりませんでした
2104	新しいミラー DB (%1) の作成に失敗しました
2105	メンバ %2 でのミラーリングされた DB %1 のマッチングはミラーリングされた DB として作成されませんでした
2106	ミラー・セット %1 はすでに開始されています
2107	ミラー・セット %1 は開始されていません

エラー・コード	説明
2108	%1 (%2) の [Mirrors] エントリを開けませんでした
2109	フェイルオーバー・メンバは単一のミラーのみのメンバになります。[Mirrors] には %1 個のミラー定義が含まれています
2110	ミラー名 '%1' は正しくありません。英数字のみで構成される必要があります
2111	ローカル・ミラー・メンバ情報 (%1) を読み取れませんでした
2112	%1 上での削除操作は許可されていません
2113	操作はプライマリ・ミラー・メンバ上でのみ実行できます
2114	%2 の [MapMirrors.%1] エントリを開けませんでした
2115	このシステム上では 'FailoverDB フラグのクリア' は許可されていません
2116	操作はプライマリ・ミラー・メンバ上では許可されていません
2117	ミラーの昇格は非 DR メンバに対しては許可されていません
2118	ISCAgent はローカル・システム上で稼働していません
2119	ミラーの昇格が許可されるのは 1 つのミラー・セットのみが構成されている場合だけです
2120	ミラーの昇格が許可されるのは 1 つのミラー・セットのみが構成されている場合だけです
2121	ISCAgent を通じてフェイルオーバー・メンバの 1 つにアクセスできません
2122	Config.MapMirrors オブジェクトを作成できませんでした
2123	ミラー・メンバ (%1) と (%2) のジャーナル・ファイル内の GUID が一致しません
2124	選択されたミラー・パートナー %1 はフェイルオーバー・メンバ・リストに含まれていません
2125	選択されたミラー・パートナー %1 はプライマリ候補ではありません
2126	%1 上で ValidatedMember をクリアできませんでした。エラー : %2
2127	プライマリ %1 に %2 を昇格するように指示できませんでした。エラー : %3
2128	ISCAgent にアクセスできません
2129	ミラーリングされたデータベースに対してジャーナリングが必要です
2130	データベース '%1' は現在マウントされていないため削除できません
2131	ミラーの昇格はリレー・サーバ・メンバに対しては許可されていません
2132	VIP は構成されていますが、ネットワーク・インタフェースが構成されていません
2133	これが唯一のフェイルオーバー・メンバである場合は降格は許可されません
2134	このメンバは複数のミラーに属することはできません
2135	ISCAgent のバージョン情報を取得できませんでした
2136	インスタンスのバージョンは ISCAgent のバージョンより新しいものです
2137	複数のフェイルオーバー・メンバが既に構成されています
2140	リモート・メンバの UNICODE プロパティがローカル・メンバと異なります
2141	渡されたシステム名 %1 が構成済みのシステム名 %2 と異なります
2142	AsyncMemberType パラメータが範囲外であるか、現在の設定と一致していません

エラー・コード	説明
2146	アクティブ化されていないミラーリングされた DB 上では FailoverDB フラグのクリアは許可されていません
2147	FailoverDB フラグのクリアは次の原因のために失敗しました : %1
2148	既定のシステム名が最大長の %1 文字を超えています。呼び出し元はシステム名を指定する必要があります
2149	DR 非同期メンバは複数のミラーに属することはできません
2150	DR 非同期メンバは非フェイルオーバー・メンバに接続することは許可されません
2151	ミラーの UseSSL が有効化されていない場合はジャーナルの暗号化は許可されません
2152	ジャーナルの暗号化は有効化されていますが、ミラーの UseSSL は有効化されていません
2153	このメンバはレポート・メンバではありません
2154	デジャーナリングは既に実行されています (プロセス ID : %1)
2155	パートナーなしの降格はプライマリ・メンバ '%1' の実行を許可しません
2156	昇格時に %1 を降格できませんでした。エラー : %2
2157	プライマリ (%1) は障害状態 (%2) です。ミラーのプロモーションは許可されません。
2158	この処理は、レポート非同期メンバにおいてのみ許可されます
2159	このインスタンスはミラーを追跡していません
2160	このインスタンスはミラー '%1' を追跡していません
2161	非同期メンバが複数のミラーを追跡しているため、ミラー名を指定する必要があります
2162	ISCAgent アプリケーション・サーバ・ポートの識別に失敗しました。
2163	ISCAgent アプリケーション・サーバ・インタフェースの識別に失敗しました。
2164	ISCAgent が無効なステータス応答を返しました。
2165	このメンバは非同期メンバではありません
2166	この処理は、非同期メンバにおいてのみ許可されます
2167	ミラー・データベース名が無効です
2168	バックアップ・デーモンがミラーのシャットダウン後に終了しませんでした
2169	ミラー・セット %1 のミラー・マスタ・デーモンは、5 秒のタイムアウトの後に終了しませんでした
2170	ミラー・デジャーナル・フィルタは有効ですが、SYS.MirrorDejournal.%1 クラスに RunFilter メソッドが存在しません
2171	ミラー名 '%1' に不正な文字シーケンス '%2' が含まれています
2172	FailoverDB のミラーリングされるデータベース以外は、DR メンバ内では構成することが許可されていません
2173	%1 に対するミラー構成変更は、ローカル検証障害が解決されるまでブロックされます
2174	同じミラー名のミラー・ジャーナル・ファイル (10) が存在するため、ミラー・セット 5 の作成または参加に失敗しました
2175	ミラー SSL の DN が長すぎます (1024 文字を超えています)

エラー・コード	説明
2176	ミラーが [フェイルオーバーなしでパートナーなし] の状態である場合、昇格は許可されません。
2177	ミラーが [フェイルオーバーなしでパートナーなし] の状態である場合、[フェイルオーバーとして参加] は許可されません。
2178	他のユーザがこのメンバの昇格または降格を行っています。
2179	ミラーのシャットダウンに失敗しました。
2200	ノード %2 上のインスタンス %1 で構成されている認証機関サーバはありません
2201	証明書署名要求 %1 が見つかりません
2202	証明書番号 %1 が見つかりません
2203	秘密鍵ファイル %1 が見つかりません
2204	証明書署名要求 %1 を作成できませんでした。OpenSSL コマンドの出力 : %2
2205	証明書 %1 を作成できませんでした。OpenSSL コマンドの出力 : %2
2206	所有者識別名が必要です
2207	秘密鍵ファイルのパスワードが必要です

1.4 エラー・コード 5000 から 5999

テーブル 1-11: 一般的なエラー・コード - 5000 から 5199

エラー・コード	説明
5001	%1
5002	ObjectScript エラー: %1
5003	実装されていません
5004	UUID を生成できません
5005	ファイル '%1' を開けません
5006	ファイル名 '%1' が正しくありません
5007	ディレクトリ名 '%1' が不正です
5008	ファイル名が必要です
5009	ディレクトリ名が必要です
5010	ファイル '%1' は既に開かれています
5011	ファイル '%1' は開いていません
5012	ファイル %1 が存在しません
5013	タイプ・ライブラリを生成できません
5014	%1 は、このバージョンではサポートされていません
5015	ネームスペース '%1' が存在しません

エラー・コード	説明
5017	エラーが多すぎます
5018	ルーチン '%1' は存在しません
5019	ファイル '%1' を削除できません。
5020	ファイル '%1' の名前を変更できません。
5021	ディレクトリ '%1' は存在しません
5022	予期されたデータがありません
5023	Java ゲートウェイ・エラー: %1
5024	ファイル '%1' を '%2' にコピーできません
5025	接続名が不正です: '%1'
5026	無効な ECP クライアント・アクション・タイプです: %1
5027	ファイル '%1' は既に存在します
5028	無効なルーチン名です
5029	プロセス %1 を削除できません
5030	クラス %1 のコンパイル中にエラーが発生しました
5031	ルーチン %1 を JOB コマンドで実行できません
5032	ディレクトリ '%1' を作成できません
5033	中断
5034	ステータス・コード構造 (%1) が正しくありません
5035	一般例外名 '%1' コード '%2' データ '%3'
5036	SMP クエリ履歴メタデータに対するロックを取得できませんでした
5037	ディレクトリ '%1' 内のファイルを表示する権限がありません。
5038	ジェネレータ・ルーチン %1 のコンパイル中にエラーが発生しました。
5039	関数 '%1' の呼び出し中にエラーが発生しました。
5040	ファイル %1 を %2 にコピーできません
5041	'%1' を使用して Java を実行できません。システム上に Java が正常にインストールされていない可能性があります。
5042	\$zf(%1,%2) を実行できません。
5043	Jar ファイル %1 が存在しません。
5044	Java 例外 : %1。
5045	Java の不明なエラー: %1。
5046	Java コマンド '%1' を実行中にエラーが発生しました。システム上に Java が正常にインストールされていない可能性があります。
5047	パラメータ '%1' が base64 エンコードとしてマークされていますが、有効な base64 '%2' ではありません。
5050	制約名 '%1' が正しくありません

エラー・コード	説明
5051	クラス '%1' が既に存在します
5052	名前が重複しています: %1
5053	クラス名 '%1' は正しくありません
5054	メソッド名 '%1' は正しくありません
5055	パラメータ名 '%1' は正しくありません
5056	プロパティ名 '%1' は正しくありません
5057	ストレージ名 '%1' は正しくありません
5058	トリガ名 '%1' は正しくありません
5059	メソッド名が重複しています: %1
5060	パラメータ名が重複しています: %1
5061	プロパティ名が重複しています: %1
5062	ストレージ名が重複しています: %1
5063	トリガ名が重複しています: %1
5064	キー名 '%1' が正しくありません
5065	キー名が重複しています: %1
5066	インデックス名 '%1' が正しくありません
5067	インデックス名が重複しています: %1
5068	クエリ名 '%1' が正しくありません
5069	クエリ名が重複しています: %1
5070	クラス名が重複しています: %1
5071	制約名が重複しています: '%1'
5072	制約SQL名が重複しています: '%1'
5073	XML マップ名が重複しています: %1
5074	XML マップ名 '%1' が正しくありません
5075	クラス・ディクショナリの有効期限が切れています。アップグレード・ユーティリティ \$system.OBJ.Upgrade() を実行してください。
5076	キー名 '%1' が '%2' 文字よりも長くなっています。
5077	インデックス名 '%1' が '%2' 文字よりも長くなっています。
5078	メソッド名 '%1' が '%2' 文字よりも長くなっています
5079	プロパティ名 '%1' が '%2' 文字よりも長くなっています
5080	パラメータ名 '%1' が '%2' 文字よりも長くなっています
5081	クエリ名 '%1' が '%2' 文字よりも長くなっています
5082	ストレージ名 '%1' が '%2' 文字よりも長くなっています
5083	ストアド・プロシージャ名 %1 は一意ではありません。%2 から投影されています。

エラー・コード	説明
5084	パッケージ名 '%1' が正しくありません
5085	パッケージ名 '%1' は '%2' 文字より長い。
5086	メソッド実装 > 32k
5087	プロジェクション・クラス・タイプが %1:%2 に必要です
5088	%1:%2 のプロジェクション・クラス定義が存在しません
5089	%1:%2 用に定義されているプロジェクション・クラスは %Projection.AbstractProjection のサブクラスではありません
5090	プロジェクション %1:%2 の作成中にエラーが発生しました
5091	プロジェクション %1:%2 の削除中にエラーが発生しました
5092	クラス '%1' の名前が他と重複しています。クラス '%2' は同じ名前で大文字/小文字のみ異なります。
5093	クラス '%1' の名前が他と重複します。パッケージ '%2' は同じ名前で大文字/小文字のみ異なります。
5094	クラス '%1' のメンバ名 '%2' と '%3' が重複しています。
5095	クラス '%1' の名前が重複しています。クラス '%2' はクラスデスクリプタ中で重複します。
5096	クラス名 '%1' が %2 文字より長くなっています。
5097	プロパティ '%1' の照合が正しくありません: '%2'
5098	制約名 '%1' が '%2' 文字より長くなっています
5099	プロジェクト '%1' と名前が競合しています。プロジェクトを名前 '%2' で保存しようとしています但それは同名で大文字小文字のみ異なります。
5100	クラス '%1' で、クエリ '%3' の sqlname 名 '%2' がクエリ '%4' の sqlname '%5' と競合しています。
5101	クラス名が必要です
5102	環境キーワードが必要です
5103	メソッド名が必要です
5104	パラメータ名が必要です
5105	プロパティ名が必要です
5106	ストレージ・キーワードが必要です
5107	ストレージ名が必要です
5108	トリガ名が必要です
5109	ライブラリ名が必要です
5110	クエリ名が必要です
5111	キー名が必要です
5112	インデックス名が必要です
5113	XML マップ名が必要です
5114	パッケージ名が必要です

エラー・コード	説明
5115	データベース '%1' のクラスディクショナリバージョン番号が高すぎます。
5116	'%1' のクラスディクショナリが旧バージョンです。アップグレードユーティリティ \$system.OBJ.Upgrade() を実行してください
5117	クラス '%1' で、要素タイプ '%2' の要素 '%3' と '%4' は大文字/小文字のみが異なる同名です。
5118	クラス '%1' でスキーマ名が衝突しています。パッケージ '%2' が同じスキーマを持っていますが、異なる名前です。
5119	クラス名 '%1' がデフォルト resultset パッケージ名 '%2' と競合します。
5120	クラスディスクリプタが大きすぎます、インスタンスメソッド %1、クラスメソッド %2、インスタンスコンポジット %3、クラスコンポジット %4、プロパティ %5、パラメータ %6。
5121	パラメータ '%1' のパラメータ値が '%2' 文字を超えています
5122	クラス '%1' インデックス '%2': SQLNAME '%3' は一意ではありません
5123	ルーチン '%2' でメソッド '%1' のエントリ・ポイントが見つかりません
5124	クラス '%1' 内で、プロパティ '%3' のエイリアス・プロパティ '%2' がプロパティ '%4' と競合しています
5125	XML エクスポート・バージョン '%1' は無効です。メジャー・マイナー・バージョンである必要があります (例 : 2010.1)
5126	XML エクスポート・バージョン '%1' はサポートされていません。2010.1 以降がサポートされています
5127	XML エクスポート内では、クラス '%2' 内のキーワード '%1' はターゲット・バージョン '%3' で使用できません。エクスポートされたファイル内のキーワードを削除します
5128	XML エクスポート内では、クラス '%2' 内のキーワード SqlCategory の値 '%1' はバージョン '%3' でサポートされていません。エクスポートされたファイル内のキーワードを削除します
5129	XML エクスポートのクラス定義に不正な制御文字が含まれています。XML エクスポート内の値を削除しています。値は '%1' です
5130	クラス '%2' 内のメンバ '%1' には不正な文字が含まれています。以下は有効な '%3' ではありません
5131	クエリ・クラスがリコンパイルされた '%1' に依存しています。
5132	クラス '%2' のパラメータ '%1' は CONFIGVALUE タイプではないため、変更できません。
5133	クラス '%2' のパラメータ '%1' はこのサブクラスで定義されていないため、ここでは変更できません。定義されているスーパークラスで変更してください。
5134	クラス '%2' 内のインデックス '%1' の XML エクスポートでは、バージョン '%3' でインデックス type=collatedkey はサポートされません。エクスポート・ファイルのタイプ・キーワードを削除します。
5135	MVENABLED 永続クラスでは多様な形式でのディスパッチがサポートされないため、サブクラス '%1' をエクステン・ルート・クラス '%2' に作成することはできません。
5136	クラス名を含むオブジェクトのプロパティ '%1' リスト/配列コレクションを持つ MV 対応クラスを保持することはできません。
5137	クラス '%1' で、プロパティ '%3' のエイリアス・プロパティ '%2' がプロパティ '%5' のエイリアス・プロパティ '%4' と競合しています。
5149	'%3' の %1 キーワード '%2' タイプが不正です

エラー・コード	説明
5150	'%3' の %1 キーワード '%2' 値が不正です
5151	クラス属性キーワード '%1' が正しくありません
5152	環境キーワード '%1' が正しくありません
5153	メソッド属性キーワード '%1' が正しくありません
5154	パラメータ属性キーワード '%1' が正しくありません
5155	プロパティ属性キーワード '%1' が正しくありません
5156	トリガ属性キーワード '%1' が正しくありません
5157	クラスキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5158	メソッドキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5159	パラメータキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5160	プロパティキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5161	トリガキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5162	メソッドキーワード値 '%1' が正しくありません
5163	プロパティキーワード値 '%1' が正しくありません
5164	キー属性キーワード '%1' が正しくありません
5165	Keyキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5166	Keyキーワード値 '%1' が正しくありません
5167	インデックス属性キーワード '%1' が正しくありません
5168	インデックスキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5169	インデックスキーワード値 '%1' が正しくありません
5170	クエリ属性キーワード '%1' が正しくありません
5171	クエリキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5172	クエリキーワード値 '%1' が正しくありません
5173	プロパティ '%1' の SQL 列は 1 より大きく、4096 以下である必要があります
5174	XML マップ属性キーワード '%1' が正しくありません
5175	XML マップキーワードタイプ '%1' が正しくありません
5176	クラスキーワード値 '%1' は正しくありません
5177	'%2' のインデックスプロパティ照合が不正です: '%1'
5178	インデックスデータプロパティ '%2' が不正であるか transient です: '%1'
5179	プロパティ '%1' SQLカラムはユニークでなければなりません: '%2' は '%3' に割り当てられています
5190	ストリームでは InitialExpression はサポートされません: プロパティ '%1'
5191	システム・メソッドをクラス %1 に実装できません

テーブル 1-12: 一般的なエラー・コード - 5200 から 5399

エラー・コード	説明
5201	無効な解析ツリーです
5202	コンパイルするものがありません
5203	CDL 解析エラー: %1
5250	インデックス '%1': '%2' 型クラス、'%3' は INDEX クラスではありません
5251	finalメソッド '%1' は変更できません
5252	finalパラメータ '%1' は変更できません
5253	finalプロパティ '%1' は変更できません
5254	finalクラス '%1' からは派生できません
5255	finalプロパティメソッド '%1' をオーバーライドすることはできません
5256	final behavior '%1' を置き換えることはできません
5257	キー定義 '%1' をオーバーライドできません
5258	インデックス定義 '%1' をオーバーライドできません
5259	クエリタイプは、'%1' に変更できません
5260	finalクエリ '%1' を変更することはできません
5261	finalクエリメソッド '%1' をオーバーライドできません
5262	パラメータ '%1' を使用したクエリはビューとして投影できません
5263	non-SQLクエリ '%1' はビューとして投影できません
5264	プロパティ %1: SQLComputeOnChange 属性 %2 は定義されていません
5265	ファイナルキーワード '%1' は変更できません。
5266	複数依存リレーションシップが定義済み: '%1'
5267	Final XML マップ '%1' を変更できません
5268	final XML メソッド '%1' はオーバーライドできません
5269	final メソッド '%1' をオーバーライドできません
5270	'%1' と '%2' の間で重複する複合メソッド名があります
5271	'%1' 定義を上書きできません: '%2'
5272	final '%1' を変更できません: '%2'
5273	エイリアスのメソッド・ループが %1:%2 で検出されました
5274	エイリアスのメソッド '%3' が %1:%2 (%4) で見つかりませんでした
5275	エイリアスメソッド '%3' のシグニチャが %1:%2 と一致しません
5276	エイリアスメソッド '%1:%2' が参照しているクラス %3 はスーパークラスではありません
5277	'%3' のサブエクステント '%2' には依存(親子)関係 '%1' を導入することができません。
5278	'%1' で VERSIONPROPERTY プロパティ '%2' が定義されていません
5279	VERSIONPROPERTYはサブエクステント '%1' では変更できません

エラー・コード	説明
5280	計算プロパティのコレクションはサポートされていません '%1' (Computed)にはできますがCalculatedにはできません。
5281	クラスに複数のidentityプロパティが定義されています: '%1::%2'
5282	Identityプロパティはコレクションにできません: '%1::%2'
5283	Identityプロパティは整数型でなければなりません: '%1::%2'
5284	IDKEYインデックスがidentityプロパティに基づいていません: '%1::%2'
5285	プロパティ '%1' は SQLComputed となっていますが SQLComputeCode が定義されていません
5286	クラス '%2' からの classtype '%1' はクラス '%4' の '%3' でオーバーライドすることはできません。
5287	クラスに含まれるプロパティが多すぎるため、インスタンス変数が多すぎてコンパイルできません
5288	2 回以上クラスをキューイングできないため、キューイングされたクラスのコンパイルをスキップしました。スキップしたクラス: '%1'
5289	コンパイルツリーを構築できません。依存しているクラス '%1' の継承関係が解決されていません。
5290	クラスに含まれている '%1' メンバの数が多すぎます。'%2' でサポートされている最大数は '%3' です。
5291	クラス継承の階層が大きすぎます、サポートされている最大階層は '%1' です。
5292	クラス '%1' はこのコンパイル中にすでに 2 回コンパイルされているため、再度コンパイル待ちのキューには入れません。
5301	メソッド '%1' に呼び出しタグがありません
5302	メソッド '%1' にコードがありません
5303	メソッド '%1' に表現式がありません
5304	メソッド '%1' にジェネレータがありません
5305	メソッド '%1' に名前がありません
5306	パラメータ '%1' に名前がありません
5307	プロパティ '%1' に名前がありません
5308	クエリ '%1' に名前がありません
5309	クエリ '%1' にタイプがありません
5310	SQLプロシジャメソッド '%1' はクラスメソッドでなければなりません
5311	SQLプロシジャメソッド '%1' のコンテキストパラメータが間違っています
5312	制約 '%1' に名前がありません。
5313	プロジェクション '%1' にタイプがありません
5314	スーパークラスが配置されているため、クラス '%2' から継承され、このサブクラスで再生成される必要があるメソッド '%1' にはコードがありません。
5315	スーパークラスが配置されているため、クラス '%3' から継承され、このサブクラスで再生成される必要があるメンバ '%1' メソッド '%2' にはコードがありません。
5316	クラス '%1' のクラス依存性ループが発生しています

エラー・コード	説明
5317	クラス '%1' にクラス依存性ループが発生しています。親/子クラス '%2' のシステム・レベルが異なります
5318	クラス '%1' において、他のクラスの前に完全にコンパイルしておく必要があるクラスでクラス依存性ループが発生しています。
5319	シリアル・クラス内のプロパティのタイプを再帰的にすることはできません : %1
5320	クラス '%1' にタイプ %Library.RowVersion のプロパティが複数あります。許されるのは 1 つだけです。プロパティ : %2
5330	'%1': '%2' 内のリレーションシップ OnDelete 値 '%3' が正しくありません
5331	OnDelete キーワード値 '%3' はリレーションシップ '%1': '%2' に対してのみ有効です
5349	タイプ='%3' のコレクションはサポートされていません : '%1': '%2'
5350	プロセス '%3' 内のユーザ '%2' がエスカレートされたロックを保有しているため、クラス '%1' を排他的に使用するためにロックすることはできません
5351	クラス '%1' は存在しません
5352	クラス '%1' は最新ではありません
5353	クラス '%1' のクラス依存性が解決できませんでした。
5354	循環の継承が検出されました: %1
5355	メソッド・ジェネレータの依存関係が未解決です: %1
5356	コンパイルストレージクラス '%1' が存在しません
5357	クラス '%1' の依存性が未解決です。このクラスの親/子クラス '%2' が未解決です。
5358	language = '%1' のメソッドはSQLプロシージャとしてプロジェクトできません: '%2'
5359	メソッドジェネレータ = '%2' では言語タイプ = '%1' はサポートされません
5360	クラス '%1' はスタブ名なので、開くことができません
5361	メソッド '%1' を設定しようとしたますが、メンバ・メソッド '%2' がすでに定義されています
5362	メンバ・メソッド %1.%2.%3 を設定しようとしたますが、これはこのクラスでは定義されません
5363	メンバ・メソッド %1.%2.%3 を設定しようとしたますが、これはメソッド %4 でオーバーライドされます
5364	'%2' で使用されているクラス '%1' が定義されていません。
5365	コレクション '%1': '%2' からプロジェクトされるテーブルの名前がユニークではありません: %3
5367	ルーチン配置の依存関係が未解決です: %1
5368	システムがシャットダウン中のためコンパイルできません
5369	クラス '%1' はプロセス '%2' でコンパイル中です
5370	メソッドジェネレータ '%1' は存在しません
5371	クラス '%1' は、共有使用ロックができません
5372	クラス '%1' は、占有使用ロックができません
5373	クラス '%2' が使用するクラス '%1' は、存在しません

エラー・コード	説明
5374	クラスデスク립タ生成中にメソッド '%1' で内部エラーが発生しました。サポートセンターに連絡してください
5375	インスタンスプロパティ '%1' はクラスメソッド中で使用できません
5376	'%1' メソッドまたはプロパティはこのクラスに存在しません。
5377	インスタンスメソッド '%1' をクラスメソッドから呼び出そうとしています
5378	クラス '%1' は配置モードです。
5379	配置モードのクラスはコンパイルできません: '%1'
5380	クラス '%1' は配置モードにある '%2' を使用しています。
5381	配置モードにあるクラスはエクスポートできません: '%1'
5382	配置モードにあるクラスは編集できません: '%1'
5383	SQLデータマップのみをオーバーライドできます: '%1'
5384	SQL Mapキーワードはファイナルです。新規DATAアイテムのみ有効です: '%1'
5385	ノード %2 にあるSQLマップデータのPiece位置 %3 は既に使われています: '%1'
5386	クラス '%2' のどのスーパークラスにもメソッド '%1' は存在しません。
5387	メソッド '%1' はクラス '%2' のスーパークラス内にあるアブストラクトです。呼び出すことはできません。
5388	クラス '%1' が存在するデータベース上での書き込み許可がありません。そのためクラス・ロックを取得できません
5389	メソッド '%1' はインスタンスメソッドで、##super を使用してクラス '%2' を呼び出しています。しかしこのクラスは '%3' の主スーパークラスではないため、呼ばれることはできません。
5390	クラス '%1' の依存性が解決できませんでした。祖先である上位クラス '%2' が解決されていません。
5391	クラス '%1' のクラス依存性が次のエラーのために解決できませんでした: %2
5392	このクラスにメソッド '%1' は定義されていません。
5393	クラスメソッドからプロパティ '%1' を参照することはできません。
5394	クラス '%1' が依存しているクラス '%2' は異なるシステムレベルにあるため、このクラスを最初にコンパイルすることと一緒にコンパイルすることもできません
5395	クラス '%1' からラベル '%3' を介してメソッド '%2' を呼ぶ不正なルーチンです。
5396	クラス '%1' のクラスデスク립タがシステムコードでサポートしているサイズよりも大きすぎます。
5397	アイテム '%1' が格納されているデータベースに対する書き込み権限がないため、このアイテムをコンパイルすることはできません。
5398	ロックテーブルが満杯です: 排他使用のためのクラス '%1' のロック取得に失敗しました
5399	クラス '%1' をコンパイルできません。クラス '%2' が最新ではありません

テーブル 1-13: 一般的なエラー・コード - 5400 から 5599

エラー・コード	説明
5400	プロパティを複数データ位置に格納することはできません: '%1.%2'

エラー・コード	説明
5401	無効な動作タイプです: %1
5402	無効な CacheDirect マップです
5403	無効な CLIENTDATATYPE です: %1
5404	ジェネレータから無効なコード・モードが返されました: %1
5405	無効なコレクション・タイプです: %1
5406	無効な既定ストレージ環境です
5407	無効な ID カーディナリティです: %1
5408	無効な ID カウンタです: %1
5409	無効な ID 依存関係です: %1
5410	無効な ID キーです: %1
5411	無効な ID キー列です: %1
5412	無効な ID キー・プロパティです: %1
5413	無効な識別タイプです: %1
5414	無効なインデックス属性です: %1
5415	無効なキーです
5416	無効なキー・プロパティです: %1
5417	無効なメソッド・コード・モードです: %1
5418	無効なプロパティ・タイプです: %1
5419	無効な参照タイプです: %1
5420	無効なストレージ・エイリアスです
5421	無効なストレージ定義です
5422	コンテキストなしの使用方法に誤りがあります: %1
5423	データマップが定義されていません
5424	ストレージ名が指定されていません
5425	プロパティ・パラメータが宣言されていません: %1
5426	プロパティ・タイプを変更できません: %1
5427	ルーチンのコンパイル・エラーです: %1
5428	ストレージクラスが指定されていません
5429	ストレージ '%1' が定義されていません
5430	トリガ '%1' が定義されていません
5431	クエリ・パラメータが宣言されていません: %1
5432	ROWSPEC に指定したタイプが正しくありません: %1
5433	無効な ODBCTYPE です: %1
5434	無効な SQLCATEGORY です: %1

エラー・コード	説明
5435	無効なストレージ構造です
5436	無効なストレージ依存です
5437	無効なストレージ・リテラル式です: %1
5438	無効なストレージ記号式です: %1
5439	記号を定義していないストレージです: %1
5440	無効なシリアル依存です
5441	未定義のストレージ記号です: %1
5442	データの添え字は既に使用中です: %1
5443	複数の ID キーが定義されています: %1
5444	複数の主キーが定義されています: %1
5445	複数のエクステント・インデックスが定義されています: %1
5446	ID キーに条件を付けることはできません: %1
5447	主キーに条件を付けることはできません: %1
5448	エクステント・インデックスに条件を付けることはできません: %1
5449	ID キーでデータをクラスタ化できません: %1
5450	エクステント・インデックスでデータをクラスタ化できません: %1
5451	エクステント・インデックスにプロパティを定義できません: %1
5452	エクステント・インデックスをキーとしても使用することはできません: %1
5453	データ型クラスはプロパティを持てません: %1
5454	EXTENTQUERYSPEC に指定された属性が正しくありません: %1
5455	トリガ '%1' イベントが正しくありません
5456	トリガ '%1' イベントが必要です
5457	トリガ '%1' 時間が不正です
5458	トリガ '%1' 時間が必要です
5459	トリガ '%1' 順番が必要です
5460	トリガ '%1' コードが必要です
5461	属性 '%1' に対するストリームタイプが正しくありません
5462	'%1' に対するストリームストレージ値が正しくありません
5463	不正な外部属性: '%1'
5464	クラス '%2' を示す外部キー '%1' が正しくありません
5465	キー '%2' を示す外部キー '%1' が正しくありません
5466	エラーコード '%1' は、範囲外です
5467	エラー名 '%1' が正しくありません
5468	インデックス '%1' は正しくありません

エラー・コード	説明
5469	ビュー クラスはプロパティを持つことができません: %1
5470	Idと主キーとユニークキーは 照合を上書きできません: %1
5471	ビットマップ・インデックスは一意にできません: %1
5472	ビットマップ・インデックスでデータをクラスタ化できません: %1
5473	制約パラメータが宣言されていません: %1
5474	ID カウンタは外部テーブルで無効です: %1
5475	ルーチンのコンパイル・エラーです: %1。エラー: %2
5476	ルーチン '%1' のコンパイルシグネチャが正しくありません
5477	%1 でキーワードシグネチャエラーです。キーワード '%2' は '%3' でなければなりません。
5478	%1 でキーワードシグネチャエラーです。キーワード '%2' は '%3' またはそのサブクラスでなければなりません。
5479	IDKEY インデックスが永続クラスに必要です: %1
5480	%1 パラメータが宣言されていません: %2
5481	クラス %1 ストレージ定義が正しくありません
5482	クラス %1 ストレージが正しくありません
5483	サブノードの無効なコレクション・タイプです: %1
5484	ビットマップ・インデックスは依存クラスでサポートされていません
5485	ビットマップ・インデックスは、IDKEY が単一の正整数属性に基づいている場合にのみサポートされます。
5486	無効なメソッド言語です: %1
5487	無効な ROWSPEC 形式 %2 です: %1
5488	無効な %1 formalspec 形式 %2 です。%3 が必要です。
5489	プロパティメソッド '%2:%3' のメソッド生成コード実行中にエラー \$ZE='%1' が発生しました。
5490	メソッド '%2' のメソッド生成コード実行中にエラー \$ZE='%1' が発生しました。
5491	シリアルクラスまたはリテラルクラスである、'%1' とリレーションシップを形成できません
5492	リレーションシップカーディナリティが正しくありません、'%1'
5493	リレーションシップカーディナリティが必要です、'%1'
5494	逆カーディナリティ、'%2' は正しくありません、'%1'
5495	逆リレーションシップが必要、'%1'
5496	逆プロパティ、'%2' は定義されていません、'%1'
5497	逆プロパティの逆、'%2' はリレーションシップを参照しません '%1'
5498	関連クラス、'%2'、はコンパイルされていません '%1'
5499	内部リレーションシップ・エラーです
5500	%2 の %1 仮引数タイプが正しくありません: %3

エラー・コード	説明
5502	SQLテーブル '%1' コンパイル中にエラー
5503	フィールド名が正しくありません: %1
5504	親カラム '%1' が正しくありません
5505	SQLテーブル、'%1'、親が正しくありません
5506	SQLカウンタ '%1' が正しくありません
5507	SQL識別テーブル '%1' が正しくありません
5508	マップ '%2' のSQLマップデータフィールド '%1' が不正です
5509	SQLマップ行IDField '%1' が正しくありません
5510	マップ '%2' のSQLマップサブスクリプト '%1' が不正です
5511	SQLマップタイプ '%1' が正しくありません
5512	SQL参照ターゲット '%1' が正しくありません
5513	マップデータフィールド '%1' は妥当なフィールドではありません
5514	マップ式 - 不明なあるいは無効なフィールドです: %1
5515	テーブル '%1' は、既に存在しています
5516	テーブル '%1' が存在しません
5517	テーブルが見つかりません
5518	テーブルID '%1' が存在しません
5519	無効な SQL 親テーブルです
5520	無効なテーブル参照です
5521	SQL エラーです: SQLCODE=%1 %msg=%2
5522	SQLテーブル '%1' をエクスポートできません、親をエクスポートできません
5523	テーブル名が正しくありません: %1
5524	%2 の[フィールド]参照に誤り: '%1'
5525	'%1' という名前のビューを持つクラスが見つかりません。
5526	テーブル '%1' は、'%2' から参照される様、指定されていますが、存在しません。
5527	SQL 特権違反
5528	SQL識別子が不正です: '%1' 区切り識別子オプションがOffになっています。
5529	正規SQL識別子に誤り: '%1' は、SQL 予約語です。この%2用に違ったSQL名を指定してください
5530	無効なユーザ名/パスワードです
5531	SQLMGR クラス名が見つかりません。
5532	接続エラーです
5533	割り当てエラーです
5534	列エラーです
5535	テーブル・エラーです

エラー・コード	説明
5536	PrimaryKeys エラーです
5537	ストリームでオフセット %1 に移動できません
5538	マップ '%2' のマップデータ変数 '%1' の表現がありません
5539	マップ '%1'、サブスクリプトレベル '%2' のマップデータ変数名がありません
5540	SQLCODE: %1 メッセージ: %2
5541	マップ: %2 - マップ式 - 不明なあるいは無効なフィールドです: %1
5542	マップ: %2 - データ・アクセス式 - 無効な式 '%1' です。前の添え字レベルからの {Li}、{Di}、{iDi} 参照である必要があります
5543	マップ: %2 - 無効な条件、次のサブルーチン、行参照、または添え字停止式 - '%1' は無効な式です。この添え字レベルまたは前の添え字レベルからの {Li} または {Di} 参照であるか、前の添え字レベルからの {iDi} 参照である必要があります
5544	マップ: %2 - データ・アクセス変数式 - '%1' は無効な式です。この添え字レベルまたは前の添え字レベルからの {Li}、{Di}、{iDi} 参照である必要があります。
5545	マップ: %2 - マップ・データ検索コード - '%1' は無効な式です。{Li}、{Di}、{iDi}、{%row}、{%rowraw}、または [*] (このフィールド) 参照である必要があります。
5546	マップ: %2 - RowID 仕様 - '%1' は無効な式です。{Li} またはマップ・データからの任意のフィールドである必要があります。
5547	マップ: %2 - 添え字式 - '%1' は無効な式です。有効なフィールド参照である必要があります。これがマスタ・マップである場合、IDKEY フィールドである必要があります。
5548	マップ: %2 - マップ・データ・フィールド名 - '%1' は無効な式です。有効なフィールド参照である必要があります。
5549	マップ: %2 - マップ・データ・ノード - '%1' は無効な式です。{Di} または {iDi} 参照である必要があります。
5550	SQL は、クラス %1 メソッド %2 ではCOS 以外の言語ではデータ型メソッドをサポートしません。
5551	DEFAULTDATA はリストノードである必要があります: %1
5552	ストレージで PARENT トークンが使用されていますが、親子レレーションシップはありません: %1
5553	ID プロパティの照合は EXACT である必要があります: %1
5554	%2 パラメータ値は正の整数である必要があります: %1.%2=%3
5555	クラス %1 プロパティ %2 メソッド %3 の数値形式が正しくありません
5556	外部キー '%1' のカーディナリティが参照キーと一致しません
5557	BITSLICE インデックスに使用できるのは 1 つのプロパティのみです: %1
5558	SUBVALUE インデックスが定義されていますが、BuildValueArray メソッドが実装されていません: %1
5559	スタジオはクラス '%1' のクラス定義を正しく解析できなかったため、このクラスをコンパイルできません。原因としては、{} または () の文字が一致しないことが考えられます。このクラスをスタジオで編集して、問題を修正してください
5560	読み取り専用メソッドは保存できません。これは実装が大きすぎてプロパティに入らないためです
5561	インデックスには、最低でも 1 つのプロパティが必要です: %1

エラー・コード	説明
5562	SUBVALUE インデックスは一意にできません: %1
5563	%2 パラメータ値は 0 ~ 15 の整数である必要があります: %1.%2=%3
5564	ストレージ参照: '%2' で使用している '%1' は、'%3' で使用するよう既に登録されています
5565	'%2' で使用される参照 '%1' の登録エラー: %3
5566	システム・ライブラリ・データベースが読み取り専用になっている場合、%SYS のすべてのクラスをリコンパイルできません
5567	クラス '%1' は書き込み許可のないデータベースにあるため、コンパイルできません
5568	%Currency の SCALE パラメータ値は final なためオーバーライドできません: %1.%2
5569	SCALEパラメータを負の数にすることはできません: %1.%2
5570	クラス '%1' は書き込み権限のないデータベースにあるため、%2 をサブエクステントとして定義できません。
5571	クラス '%2' のプロパティ '%1' は、'not inheritable' と定義されていますがこれはサポートされていません。
5572	クラス '%2' のリレーションシップ・プロパティ '%1' をセカンダリ・スーパークラスとして継承できません。
5573	クラス '%2' の N カーディナリティ・リレーションシップ・プロパティ '%1' では、必要な制約がサポートされていません。
5574	パラメータ '%1' のジェネレータ実行中にエラーが報告されました
5575	インデックスはシリアル・クラス %1 のプライベート・プロパティを参照できません
5576	'%1' によって作成されたメタデータはありません
5577	メタデータ・ジェネレータ '%1' の呼び出しエラーです
5578	メタデータ・ジェネレータ '%1' のメソッドが見つかりません
5579	メタデータ・ジェネレータ '%2' の codemode '%1' が正しくありません
5580	SQL権限違反: '%1'
5581	インデックスの構築または削除中にエラー: \$ZError = '%1'
5582	SAMPLESネームスペースでテーブル、ビュー、プロシージャに対するすべての権限を _PUBLIC に付与することはできません: \$ZError = '%1'
5583	SQLマップ '%1'、データフィールド '%2'、ノード値 '%3' が不正です。ノード値はインデックス・マップで許可されていません。データ・マップでのみ許可されます
5584	DOCBOOKネームスペースでテーブル Docbook.block の SELECT 権限を _PUBLIC に付与することができません: \$ZError = '%1'
5585	クラス %1、マップ %2、フィールド %3 に対するデフォルトの RowID 仕様を定義できません。このマップ定義では RowID 仕様を手動で定義する必要があります。
5586	不正な引数が %1 に渡されました。%2 パラメータは 1 つ以上の %3 である必要があります。
5587	不正な引数が %1 に渡されました。%2 パラメータは %3 のいずれかで開始される必要があります。
5588	不正な引数が %1 に渡されました。%2 パラメータは %3 である必要があります。
5589	不正な引数が %1 に渡されました。%2 パラメータは '9,ProcedureName' である必要があります。

エラー・コード	説明
5590	エクステント %1 のマップ・ブロック・カウントを特定するために、このエクステントに対するロックを取得できませんでした
5591	%1 に対して無効な引数が渡されました。%2 パラメータは %3 でなければなりません。
5592	'%2' が原因でグローバル '%1' を並列処理用にセグメントに分割できません。
5593	グローバル '%1' を並列処理用にセグメントに分割できません。
5594	%SQLBuildPurgeIndexForRow の実行中にエラー: \$ZError = '%1'
5595	シャード・テーブルではサポートされていない機能です: '%1'。
5596	テーブル '%2' に SQL マップ '%1' のグローバル名がありません。
5597	idkey (または identity フィールド) が定義されている場合、シャード・テーブルのシャード・キー (%1) は idkey (%2) と同じである必要があります。
5598	
5599	シャード・クラス '%1' は、ClassType '%2' ではなく ClassType 'persistent' である必要があります。
5597	idkey が定義されている場合、シャード・テーブルのシャード・キー (%1) は idkey (%2) と同じである必要があります。
5598	
5599	シャード・クラス '%1' は、ClassType '%2' ではなく ClassType 'persistent' である必要があります。

テーブル 1-14: 一般的なエラー・コード - 5600 から 5799 (マクロ・コンパイラ・エラー)

エラー・コード	説明
5600	シャード・クラス %1 でサポートされていない機能です: %2 %3。
5601	クラス・コンテキストがありません: %1
5602	スーパークラス '%1' を解決できません
5603	インスタンス変数 '%1' がありません
5604	インスタンス変数 '%1' は、配列をサポートしません
5605	インスタンス変数 '%1' 用のクラスコンテキストが間違っています
5606	無効なスーパー %1 を使用しています
5607	参照変数 '%1' は、ありません
5608	参照変数 '%1' は、配列をサポートしません
5610	参照マクロが定義されていません: '%1'
5611	関数マクロ引数が見つかりません: '%1'
5612	参照マクロ、右括弧がない '%1'
5613	マクロに対する引数が多すぎます '%1'
5614	マクロ用に十分な引数がありません: '%1'
5615	'%2' の中に終端 %1 文字がありません
5616	##keyword の後ろに開始の括弧がありません

エラー・コード	説明
5617	無効なプリプロセッサ ##keyword です: ##%1
5618	##%1 の後ろに終了の括弧がありません
5619	引数に誤り '%1'
5620	##%1 に必要な Table.Field です
5621	##%1 用にテーブル '%1' がありません
5622	##%1 用テーブル '%1' にフィールド '%1' がありません
5623	##%1 に対して不正な引数 '%1'
5624	##%1(%1%1) に以前の ##%1 (NEW%1) がありません
5625	#define にマクロ名がありません
5626	arglist に閉じ括弧がありません
5627	#def1arg に 1 つ以上のマクロ・パラメータがあります
5628	マクロ引数が % で開始されていません
5629	引数に不正な文字があります
5630	最終行に ## が続いています
5631	'%1' が無視されました; #if または #ifdef では処理されません
5632	'%1' に対して引数がありません
5633	#if または #elseif 引数 (%1) の評価エラーです : %2
5634	##%1 にマクロ名がありません
5635	インクルードファイル '%1' がありません
5636	ライブラリファイル '%1' がありません
5637	ライブラリ・ファイル %1 のバージョン ##%1 がありません
5638	#sqlcompile のモードが不正です
5639	'%1' に対する ##function がエラーで失敗しました : %2
5640	#routine は、このマクロ・ソース・ファイルで既に指定されています
5641	#routine は、sql 文の後に指定できません
5642	#routine に無効なルーチン名が指定されています
5643	##rtnref 呼び出しを入れ子にできません
5644	##rtnref に無効な参照が指定されています
5645	同じ名前の別の要素が既に存在します
5646	'%1' に対する ##expression がエラーで失敗しました : %2
5647	#define または #def1arg のマクロ名が無効です: %1
5648	##function の使用は、埋め込み SQL で制限されています
5649	この行で参照している (%1) マクロが多すぎます。マクロ定義で再帰呼び出しが設定されている可能性があります。

エラー・コード	説明
5650	&SQL<marker>(...)<reverse-marker> 構文を使用する際、SPACE、TAB、“+”、“-”、“*”、“/”、“¥”、“ ” の文字の使用は許可されていません
5651	プロパティを実行できません
5652	メソッドを設定できません
5653	コンパイルされたクラス '%1' はありません
5654	メソッド '%1' はありません
5655	パラメータ '%1' はありません
5656	プロパティ '%1' は、ありません
5657	メソッド '%1' は、返り値がありません
5658	オブジェクト・インスタンスが必要です
5659	プロパティ '%1' が必要です
5660	クエリ '%1' がありません
5661	コレクションプロパティ '%1' は必須のため、少なくとも一つのメンバを持たなければなりません
5662	リレーションシップの子/多側のプロパティ '%1' は必須プロパティなので、少なくとも一つのメンバを持つ必要があります。
5663	文のタイプ (%1) は、#sqlcompile mode=deferred ではサポートされていません。
5664	クラス・メソッド・コンテキストでインスタンス変数 '%1' を参照しようとしています。
5665	マクロ・プリプロセッサ (MPP) 関数 '%1' がエラーで失敗しました:%2。
5701	必要な名前が見つかりません (マクロ・コンパイラ・エラー)
5702	左の括弧が見つかりません (マクロ・コンパイラ・エラー)
5703	右の括弧が見つかりません (マクロ・コンパイラ・エラー)
5704	式の左側に続く等号がありません (マクロ・コンパイラ・エラー)
5705	不平衡引用です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5706	不平衡括弧です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5707	不均衡 #beginlit .. #endlit です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5710	予期しない #else です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5711	予期しない #elseif です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5712	予期しない #endif です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5720	予期しない行の最後です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5721	予期しないファイルの最後です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5730	不正な区切り文字です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5731	%1 という外部パッケージはサポートされていません (マクロ・コンパイラ・エラー)
5732	マクロを入れ子にする制限を超えています。循環マクロ参照を確認してください (マクロ・コンパイラ・エラー)
5733	変数 %1 に対する以前の new がありません (マクロ・コンパイラ・エラー)

エラー・コード	説明
5734	埋め込みファイル '%1' が見つかりません (マクロ・コンパイラ・エラー)
5740	コンパイル中です (マクロ・コンパイラ・エラー)
5741	コンパイルが完了しました (マクロ・コンパイラ・エラー)
5742	INT コードの作成失敗 (マクロ・コンパイラ・エラー)
5743	MAC コードの作成失敗 (マクロ・コンパイラ・エラー)
5744	モジュールの最大 PCODE サイズを超えています (マクロ・コンパイラ・エラー)
5745	コンパイルが失敗しました！ (マクロ・コンパイラ・エラー)
5746	コード・ブロックを分割できません。ルーチン '%1' の P コードが %2 よりも大きくなっています (マクロ・コンパイラ・エラー)
5747	ルーチン '%1' のコードを分割できません。INT コードではありません (マクロ・コンパイラ・エラー)
5748	#classcontext 文に対して、現在、クラス・コンテキストはありません (マクロ・コンパイラ・エラー)
5750	オブジェクト '%1' のオープンでセキュリティ違反
5751	メソッド '%1' にアクセスできません
5752	クラス '%1' は、抽象クラスです
5753	抽象クラス '%1' をインスタンス化できません
5754	データタイプクラス '%1' をインスタンス化できません
5755	オブジェクト '%1' は登録されていません
5756	プロシジャ名: '%1' は正しくありません
5757	プロシジャ: '%1' が見つかりません
5758	メソッドが実装されていません: %1
5759	プロパティは読み取り専用です
5760	オブジェクト・インスタンスの生成に失敗しました: %1
5761	新規オブジェクト・インスタンスの生成に失敗しました: %1
5762	クラス '%1' は読込専用です
5763	'%1' の埋め込みオブジェクト生成に失敗しました
5764	%DeleteExtent は '%1' のインスタンス全てを削除できませんでした
5765	異なるロケールのシステムでエクスポートが行われています: '%1'
5766	テーブル名が不正です: '%1'
5767	テーブルはすでに存在します: '%1'
5768	クラスはすでに存在します: '%1'
5769	リンクエラー: '%1'
5770	'%2' の '%1' キー値が見つからなかったため、オブジェクトのオープンに失敗しました
5771	'%2' の '%1' キー値が見つからなかったため、オブジェクトの削除に失敗しました
5772	コレクションは読み取り専用です

エラー・コード	説明
5773	IDENTITY_INSERT オプションがオンの状態ではない限り、ID プロパティを設定できません: %1
5774	以前に割り当てられたカウンタ・プロパティ値を更新できません: %1:%2
5775	タイムアウト時間内にクラス継承構造 '%1' のロックを取得できませんでした。
5795	'%2' に対する外部キー '%1' の参照オブジェクトに対するロックを取得できません
5796	参照キー '%1' の参照オブジェクトに対するロックを取得できません
5797	'%1' のインスタンスで '%2' key value = '%3' が見つかりません
5798	排他アクセスのためのエクステントロックに失敗しました: '%1'
5799	共有アクセスのためのエクステントロックに失敗しました: '%1'

テーブル 1-15: 一般的なエラー・コード - 5800 から 5999

エラー・コード	説明
5800	更新時に同時性検証に失敗しました: オブジェクトバージョンが '%1' と同一ではありません。
5801	シリアルを設定できません
5802	プロパティ '%1' のデータタイプ妥当性チェックが失敗しました。値は "%2" です。
5803	'%1' のインスタンスに対する排他ロックを取得できませんでした
5804	'%1' のインスタンスに対する読み込みロックを取得できませんでした
5805	エクステント '%1' : '%2' に対して一意ではない ID キーが存在します。ID カウンタの位置 = '%3'
5806	ロックタイプ '%1' が正しくありません
5807	Oref '%1' が正しくありません
5808	キーが一意ではありません: %1
5809	ロードするオブジェクトが見つかりません。クラス '%1'、ID '%2'
5810	削除するオブジェクトが見つかりません。クラス '%1'、ID '%2'
5811	ロードするものがありません。クラス '%1'、ID '%2'
5812	Null id、クラス '%1'
5813	Null oid、クラス '%1'
5814	Oidが以前に割り当てられています。クラス '%1'、ID '%2'
5815	呼び出しが多すぎてクローズできません
5816	トランザクションのロールバックに失敗しました
5817	クエリでプロパティが選択されていません: %1
5818	クエリがクローズされていません
5819	引数が多すぎます
5820	コレクションキー '%1' が正しくありません
5821	クエリをインスタンス化できません: '%1'
5822	仮引数誤り: '%1'

エラー・コード	説明
5823	'%1' により参照されているためオブジェクトが削除できません。
5824	'%1' により参照されているオブジェクトが存在しません
5825	%1 のインスタンスではありません
5826	クラス '%1' は、'%2' インタフェースをサポートしません
5827	保存時に不正な循環依存関係があります。クラス '%1'
5828	Concurrency は 0 から 4 までの整数値です
5829	外部キー制約 (%1) がエクステントの参照中に %2 で参照整合性チェックに失敗しました
5830	外部キー制約 (%1) がオブジェクトの %2 内の %3 で失敗しました (%4 の参照操作)
5831	外部キー制約 (%1) がオブジェクトの %2 内の %3 で失敗しました: キー %4 を参照するオブジェクトが最低 1 つあります
5832	クラス %1 でID値の要素のうち少なくとも一つがヌルです: '%2'
5833	値がプロパティのクラスタイプのインスタンスではありません: '%1::%2'
5834	IDカウンタ値が不正です。メッセージログを確認してください: %1
5835	既に切断されているコレクションは切断できません
5836	クラス '%3' のプロパティタイプが抽象です: '%1::%2'
5837	Null GUID: '%1'
5838	このアプリケーションを実行するには %Development:use 特権が必要です
5839	CSPアイテム '%1' をプロジェクトに追加できません。同名で大文字小文字のみ異なるアイテムが既に含まれています。
5840	ファイル '%1' をインポートできません。サポートされていないタイプです。
5841	ファイル '%3' 行番号 '%2' のオフセット %1 に移動できません。行が短すぎます。
5842	ファイル '%2' の行番号 %1 に移動できません。ファイルが短すぎます。
5843	ユーザ定義ドキュメント '%1' をインスタンス化できません。
5844	ユーザ定義ドキュメント '%1' はサポートされていません。このネームスペースにユーザ定義ドキュメント・クラスがありません。
5845	アイテム '%1' は編集可能な%2ではありません
5846	スタジオを使用するには %Developer:Use 特権が必要です。
5847	デフォルトプロジェクト '%1' はインポートできません。
5848	デフォルトプロジェクト '%1' はエクスポートできません。名前を変更してからエクスポートしてください。
5849	ルーチン '%1' は言語タイプ '%2' です。指定された言語と異なります。
5850	この '%1' をプロジェクトに追加/プロジェクトから削除することはできません。プロジェクトにはすでにパッケージ '%2' が存在します。
5851	ライブラリ・クラスを変更できません
5852	ライブラリ・クラスを保存できません

エラー・コード	説明
5853	無効な要素タイプです
5854	グローバル参照 %1 が間違っています
5855	無効な接頭 oid です
5856	SQLBinding が存在しません
5857	ストレージ sql マップ・データ名が必要です
5858	ストレージ sql マップ名が必要です
5859	ストレージ sql マップ行 IDSpec 名が必要です
5860	ストレージ sql マップ添え字名が必要です
5861	パッケージ・ルーチンの接頭語が長すぎます
5862	パッケージ・グローバルの接頭語が長すぎます
5863	'%1' は他のユーザが編集集中です
5864	'%1' はプロセス '%3' のユーザ '%2' が編集集中です
5865	項目 '%1' はソース・コントロール %2 でチェック・アウトされていません
5876	プロジェクトに名前がありません
5877	プロジェクトアイテム '%1' のタイプが不正です
5878	プロジェクト項目名が空白です
5879	インポートするストリーム・データがありません
5880	ソース・コントロール・クラスを生成できません: %1
5881	プロジェクト '%1' は存在しません
5882	新規ルーチンを名前 '%1' で作成できません
5883	項目 '%1' は書き込み許可がないデータベースからマップされています
5885	CSP/CSR ページ '%1' のソース・ファイルは読み取り専用としてマークされているため、読み取り専用で開かれます
5886	コンパイル済みディクショナリ・クラスを保存できません
5887	コンパイル済みディクショナリ・クラスを削除できません
5888	新規にコンパイル済みディクショナリ・クラスを生成できません
5889	ソース・コントロール・システムにログインしていないので、この操作を行うことはできません
5890	ルーチン名 '%1' が長すぎます
5891	このプロジェクトに新しい名前ではコピーできません
5892	現在のルーチンと異なる種類のルーチン '%1' が存在します。ルーチン名を変更するか、既存のルーチンを削除してください。
5893	ファイル '%1' が不正です。%ROファイルが途中で終了しています。ルーチン '%2' が破損している可能性があります。
5894	ファイル内の項目が多すぎるため、正確に項目リストを返すことができません。項目リストは切り捨てられます。

エラー・コード	説明
5895	アイテム '%1' は別のネームスペースからマップされているため、ここで保存できません。
5896	不正なテンプレートモード '%1' はTEMPLATE,ADDIN,NEWのいずれかです。
5897	スタジオでソースコントロールクラスを変更できません。'%1' としてロックされています。
5898	このグローバルの形式は長すぎるためデコードできません。
5899	グローバルフォーマットが不正な '%1' のためデコードできません。
5900	パッケージ名として '%1' が指定されましたが、実際のパッケージ名は '%2' でした。大小文字に不整合があります。
5901	ルールファミリー '%1' が存在しません
5902	ルール %1 は存在しません。
5903	ルール名が必要です。
5904	行番号 %3 のタグ '<%1>' には属性 '%2' が必要です。
5905	行番号 %3 にある属性 %1 の値 %2 は無効です。
5906	セッション ID が見つかりません。
5907	セッション ID %1 は存在しません。
5908	クラス %1: %2 の作成に失敗しました。
5909	行番号 %2 のタグ '<%1>' に終了のタグがありません。
5910	2 要素プロトコルを使用して再度ログインする必要があります。
5911	文字セット %1 がインストールされていないため、文字セットの変換を実行できません。
5912	ページ '%1' が存在しません。
5913	HTTPレスポンスに不正なContent-Type '%1' があります
5914	CSP アプリケーション %1 は存在しません。
5915	ライセンスを割り当てることができません。
5916	不正な CSP 要求です。
5917	CSP は HTTP メソッド %1 をサポートしていません。
5918	ログアウトされているため、動作を実行できません。
5919	要求した動作は無効です。
5920	現在のネームスペース '%3' ではなくネームスペース '%2' の CSP ページ '%1' を使用する必要があります
5921	CSP アプリケーション %1 は実行先ネームスペースを指定する必要があります。
5922	返答待ち時間のタイムアウトです。
5923	%1 回りダイレクトされました。リダイレクションループと考えられます。
5924	エラーが発生しましたが指定されたエラーページが表示できませんでした - Web マスタに通知してください。
5925	行番号 %1 で <SCRIPT LANGUAGE=CACHE> タグに RUNAT か METHOD 属性が指定されていません

エラー・コード	説明
5926	HTTP ヘッダが記述されフラッシュされたため、転送できません。
5927	ページ %1 のクラス名と既にロードされているクラス %2 とが競合するため、このページをロードできません。
5928	行番号 %2 でタグ <%1> のパース中にエラーが発生しました
5929	行番号 %1 で CSP 指示文の構文解析中、構文エラーに遭遇しました
5930	パスタイプ INCLUDE が行番号 %1 のファイル名指定に一致しません
5931	ページが表示される前にのみ、OnPreHTTP() にこのメソッドを呼び出すか、値を設定できます。
5932	Web サーバ上のこの Web ゲートウェイ・バージョンで、動作は無効です。
5933	CSP サーバに内部エラーがあります: %1
5934	行 %3 上の CSP:OBJECT タグ '%2' から参照するクラス '%1' が定義されていません。
5935	行 %2 上のHTMLフォーム '%1' の名前が25文字より長くありません。
5936	行 %2 上のHTMLフォーム '%1' は正しいcspオブジェクト名に結びつきません。
5937	行 %3 上のフォーム %2 に結び付けられるオブジェクト変数 '%1' が定義されていません。
5938	行 %3 上のフォーム '%2' 内でタグ名 '%1' がユニークではありません。
5939	QUERY の SELECT に対する CSPBIND 属性は、行 %1 の永続オブジェクト参照である必要があります。
5940	行 %2 上の CSP:OBJECT NAME 属性はタグ '%1' に対して正しい識別子でなければなりません。
5941	複数の CHECKBOX タグは、行 %1 で単一値フィールドに関連付けできません。
5942	行 %2 のタグ %1 は CSPBIND 属性を持ちますが、結合されたフォーム内ではありません。
5943	行 %1 上の SCRIPT LANGUAGE=SQL タグは NAME と CURSOR 属性の両方を持つことはできません。
5944	%1 属性は、行 %3 の %2 に対する有効な識別子である必要があります。
5945	行 %1 上の MODE 属性は DISPLAY、LOGICAL、ODBC、SYSTEM のいずれかである必要があります。
5946	行 %2 上にSQL CURSOR '%1' が重複定義があります。
5947	行番号 %2 上で未定義の SQL カーソル '%1' が使用されています。
5948	行 %2 上でオブジェクト '%1' の重複定義があります。
5949	ルール '%1' が重複定義されています。
5950	ルール '%2' の %3 行目のクラス '%1' は存在しません。
5951	行 %2 にあるcsp:searchタグ '%1' のONSELECTにはOPTION=POPUPが必要です。
5952	CSP ルール・バージョンが変更されました。ユーザはルールを再ロードする必要があります。
5953	クエリ・メソッドが値を返しませんでした: %1
5954	CSP ページのロックに失敗しました。
5955	CSPAppList クエリ: Fetch() に無効なデータがあります。
5956	CSP アプリケーション %2 のディレクトリ %1 は存在しません。

エラー・コード	説明
5957	CSPPageLookup: 検索エラーです。
5958	CSPPageLookup: CLASSNAME が見つかりません
5959	CSPPageLookup: WHERE が見つかりません
5960	CSPPageLookup: 結果セットを生成できません
5961	文字セット %1 を変換できません。
5962	新規セッションを割り当てることができません。
5963	無効な SysLog レベルです: %1
5964	行番号 %1 で言語がページ指示文により変更されました
5965	行番号 %2 で指定されている言語 '%1' が不正です
5966	行番号 %2 で未知の文字セット '%1' が指定されています
5967	CSP ハイパーイベント・リクエストは、必須のパラメータを含まないため処理されません。
5968	ルール %2 の CSR:RULE LANGUAGE 属性の値 %1 が不正です。
5969	行番号 %2 でスクリプトタグの言語 '%1' がページの言語と一致していません
5970	行番号 %1 にある静的 SQL タグは Basic ページではサポートされていません
5971	1つのCSPライセンスを1つの指名ユーザライセンス '%1' に交換する際にエラーが発生しました。
5972	フォーム %1 に対する SaveCallback の無効な形式です
5973	CSPページ '%1' は大きすぎてロードすることができません。サポートされるサイズは1.5Mbまでです。
5974	サーバ・プロセスが存在しないため、永続プロセスは現在使用できません
5975	別のプロセスがこのロックを持っているため、セッション・オブジェクトをロックできません
5976	行番号 %1 でDirection属性が 'forward' または 'backward' ではありません。
5977	csp:search の WHERE、SELECT、または ORDER 属性の方向部分は ASC または DESC になります。
5978	cspSaveMsgEscape 属性の値は行番号 %1 で None、HTML、または JS である必要があります。
5979	セッション ID が無効です。
5980	Preserve=1 モードは実際の Web サーバでのみサポートされています。
5981	csp:include タグには、組み込むページを指定するための PAGE 属性が必要です。
5982	行 %1 の SCRIPT LANGUAGE=SQL タグでは SELECT SQL コマンドのみ使用できます。
5983	ページが見つかりません。
5984	このアプリケーションでページを実行するには、認証されたユーザである必要があります。
5985	Webセッションをサービス '%2' で使用しようとしたますが、セッションはサービス '%1' で開始されています。
5986	現在のユーザはサービス '%1' を実行する権限がありません。
5987	CSP ページで定義されるメソッドは、行 %1 でのクラスメソッドである必要があります。

エラー・コード	説明
5988	このセッションではセッション管理に cookie のみ使用しますが、ブラウザが CSPCHD 引数を渡しました。
5989	システム・ルール (% で始まる名前) およびネームスペースのローカル・ルールの両方を、同じファイル内で定義できません。
5990	セッションID '%1' が見つかりません。
5991	SOAP メソッド %1 を作成できません
5992	SecurityContext プロパティの変更は許可されていません
5993	CSP エラー・トラップが利用できるエラー情報なしで呼び出されます
5994	CSPアプリケーション '%1' が指定しているネームスペース '%2' が存在しません。
5995	行 %2 の予期しない属性 %1 です
5996	CSP.ini CSPゲートウェイファイルを見つけられません
5997	CSP.iniでCSPゲートウェイユーザ名が見つけれられません
5998	CSP.ini CSPゲートウェイファイルを更新できません
5999	ログイン・プロセスを終了するために 2 要素認証の第 2 部分を期待しています

1.5 エラー・コード 6000 から 6999

テーブル 1-16: 一般的なエラー・コード - 6000 から 6199

エラー・コード	説明
6000	入力されたセキュリティ・トークン '%1' が送信されたトークンと一致しませんでした。
6001	ファイル '%1' をリストアできません。OBJルーチンが含まれます。
6002	ファイル '%1' は %RO 出力ファイルではありません
6003	クラス形式を変換できません
6004	XML としてクラスをエクスポートできません
6005	XML からクラスをインポートできません。詳細は、'%1' に続きます
6006	XML ファイルは認識可能なインポート形式を含んでいません
6007	'Content-Length' ヘッダは読み込み専用です。設定できません。
6008	'Connection' ヘッダを設定できません。
6009	メソッドがサポートされていません。
6010	既に接続済みです。
6011	接続の必要があります。
6012	POP サーバからの応答がありません: %1
6013	メールサーバに TCP/IP 接続できません。初期接続が切断されている可能性があります。
6014	TCP/IP セッションは既に終了しています。

エラー・コード	説明
6015	POP3 サーバがエラーを報告しました: %1
6016	%1 コマンドへの無効な応答です: %2
6017	メールボックスからの読み取り行は空白ではいけません
6018	TCP/IP セッションに予期しないエラーが発生しています: %1
6019	記憶場所を見つけることができません
6020	POP ハンドラが失敗しました
6021	PUSH ハンドラが失敗しました
6022	ゲートウェイが失敗しました: %1
6023	クエリがありません。
6024	無効な %qacn です。
6025	ゲートウェイ: 無効な接続ハンドルです
6026	ゲートウェイ: 文を割り当てることができません
6027	NamespaceList クエリ: Fetch() に無効なデータがあります。
6028	マクロ・プロセッサのエラーです: %1
6029	返答待ち時間のタイムアウトです。
6030	SMTPでは '%1' プロパティを指定する必要があります。
6031	TCP/IP 接続をオープンできません。
6032	予期しない初期メッセージです。SMTP 以外のサーバの可能性がありますが: %1
6033	SMTP %1 への応答エラーです: %2
6034	%1 コマンドの実行中に SMTP サーバの接続が失敗しました: %2
6035	Unicode のシステムでは出力文字セットを必ず指定する必要があります。
6036	255以上の文字は引用符で囲まれたメッセージでは不適切です
6037	インポートするものがありません
6038	インスタンス化に失敗しました
6039	RetType は VOID あるいは HRESULT ではありません
6040	RetType は NULL 以外になります
6041	コンパイルするクラスがありません: %1
6042	ルーチン %1 オブジェクトコードが見つかりません
6043	データベースにクラス定義が含まれています: %1
6044	データベースをマウントできません: %1
6045	不正なエクスポート・ディレクトリ名です
6046	データベースが存在しません: %1
6047	無効な識別子形式です
6048	無効な文タイプです: %1

エラー・コード	説明
6049	無効なダイナミック・クエリの仮パラメータ %1 です
6050	パラメータ値の無効な番号です
6051	INTO 節の生成エラーです:
6052	無効な変換方向値です
6053	シリアライズされたデータが壊れています
6054	正しい%MessageDictionaryが '%1' によって指定されていません
6055	言語が指定されていません
6056	出力された charset の変換テーブルが見つかりません: %1
6057	POP3 エラーです: %1
6058	MessageNumber を必ず指定する必要があります。
6059	サーバ %1 に TCP/IP ソケットをオープンできません
6060	ユーザがモニタを使用しています。
6061	モニタが起動していません
6062	モニタが既に起動しています
6063	モニタへのメモリ割り当てが失敗しました
6064	モニタで統計情報の収集を有効にできません
6065	コレクション '%1' を開くことができません
6066	'%1' コンパイルの拡張タイプが不正です
6067	クラス・インデックスの再構築に問題があります
6068	デフォルトのXMLカタログファイル '%1' が見つかりません
6069	グローバルファイル '%1': %2 ロード中にエラー
6070	特定の E メール・アドレスへの SMTP 送信が失敗しました
6071	必要な引数が見つかりません
6072	無効なライセンス・キー・データです
6073	ライセンスキーファイル '%1' を書き込みモードでオープンできません。
6074	ContentTransferEncoding の値が正しくありません: %1
6075	%1 はブロック番号ではありません。
6076	ブロック %1 はビットマップ・ブロックではありません。
6077	ルーチン '%1' と '%2' を比較できません。種類が異なります。
6078	ドキュメント %2 にソース・コントロール・クラスのアクション %1 の実装がありません
6079	クラス '%1' は妥当なスタジオ拡張クラスではありません。
6080	アイテム '%2' は %RO 形式の '%1' タイプではエクスポートできません。
6081	XML でエクスポートした抽象データ・ドキュメントが CDATA としてフォーマットされていません。
6082	ライセンスアップグレードエラー: '%1'

エラー・コード	説明
6083	この操作のライセンスは付与されていません。
6084	不明なエラーが検出されましたが、エラー・コードが報告されていません
6085	SSL/TLS 構成 '%1' を使用したソケットの書き込みができません。エラーが報告されました '%2'
6086	Content-Type が message/rfc822 である場合は、唯一のパートは %Net.MailMessage である必要があります
6087	添付Eメールの Content-Transfer-Encoding は '7bit' または '8bit' でなければなりません。
6088	プロキシ '%1' から CONNECT コマンド '%2' で不正な応答です。
6089	プロキシへのCONNECTコマンドが応答 '%2' で失敗しました。
6090	マルチパートの Content-Type に境界属性が指定されていません。
6091	予期しない境界線が MIME 本文の先頭に見つかりました。
6092	MIME ヘッダの形式が正しくありません。
6093	予期しないメッセージ末尾が見つかりました。MIME 形式が正しくありません。
6094	OpenFile または OpenStream を使用して、MIME メッセージのソースを定義する必要があります。
6095	HTTPヘッダ名が長すぎて格納できません '%1'。
6096	グローバル名 '%1' が不正です。
6097	TCP/IPデバイス使用中にエラー '%1' \$zu(189,1)=%2'
6098	HTTP要求のための一時ファイルを作成できません
6099	UseSTARTTLS が True の場合、SSLConfiguration を指定する必要があります。
6100	STARTTLS は SMTP ではサポートされていません: %1。
6101	Com 例外: '%1'
6102	Com CoClass に既定のインタフェース定義がありません
6103	Com CoClass 既定のインタフェースが自動化をサポートしません
6150	^%SYS グローバルの更新に必要な書き込み権限を持っていないため、新しいソース・コントロール・クラスを設定できません
6151	ソース・コントロール・フックにより、項目 '%1' は読み取り専用とマークされています
6152	項目 '%1' はプロジェクト内に存在しないため、プロジェクトから削除できません
6153	GetAttachedEmail の呼び出し前にフェッチによって電子メールを取得する必要があります
6154	ソケットはサーバ '%1' に対して閉じられたため、Web サーバへの接続では既存のソケットを再利用できません
6155	このソケット用の SSL 証明書が存在しないため、正しいシステムに接続された SSL/TLS を確認できません
6156	サーバ名 '%1' と SSL 証明書値 '%2' が一致しません
6157	一時ファイル '%2' が作成されなかったため、CSP ファイル '%1' を保存できません。ディレクトリのアクセス権限を確認してください
6158	%SwizzleObject または %XML.Adaptor のサブクラスであるため、クラス '%1' では fulldeploy を使用できません。

テーブル 1-17: 一般的なエラー・コード - 6200 から 6399

エラー・コード	説明
6201	オブジェクトを生成できません: %1
6202	メッセージ・ハンドラを生成できません: %1
6203	予期しない要素です
6204	SOAP メッセージに禁止された処理指示が含まれます
6205	要素は適切なネームスペースである必要があります
6206	バージョン・エラーです。ネームスペースは %1 である必要があります。
6207	予期しない SOAPACTION 値です: %1
6208	予期しない属性です
6209	属性の番号が間違っています
6210	無効な属性値です
6211	属性が見つかりません
6212	不正な属性ネームスペースです
6213	範囲外の属性ネームスペースです
6214	属性が識別できません
6215	属性値が識別できません
6216	サポートされていない転送です
6217	加算処理が失敗しました
6218	重複要素です
6219	不明なエラーです
6220	内部サーバエラーです
6221	必須のヘッダがサポートされていません: %1
6222	ウェブメソッド '%2' の SoapBindingStyle キーワード '%1' が不正です。
6223	ウェブメソッド '%2' の SoapBodyUse キーワード '%1' が不正です。
6224	Web サービスの引数はタイプ %1 にならない場合があります
6225	クラス %1 に対して DTD を生成できません
6226	WebMethod '%2' の引数 '%1' は、単純なタイプもしくは SOAP の使用が可能である必要があります。
6227	サーバ・アプリケーション・エラーです
6228	不正な SOAP メッセージです
6229	XMLPROJECTION 値がプロパティのタイプと異なります: %1
6230	XMLPROJECTION のプロパティの値が無効です: %1
6231	%XML.Adaptor の形式が無効です: %1
6232	データ型の妥当性検証が、タグ %1 の値 %2 で失敗しました

エラー・コード	説明
6233	タグ %1 のXML 入力の形式が適切ではありません。
6234	必要なタグが存在しません: %1
6235	タグへの予期しないネームスペースです: %1
6236	タグで %1 参照 ID が見つかりません: %2
6237	XML 入力に予期しないタグがあります: %1
6238	配列タグに対しキー属性が指定されていません: %1
6239	XMLPROJECTION = content を持つプロパティは 1 つのみです
6240	SERVICENAME は、SERVICENAME パラメータを上書きして指定する必要があります。
6241	SOAP WebClient LOCATION パラメータでは、http または https 転送を指定する必要があります。
6242	SOAP WebService への HTTP 要求で、予期しない状態が返されました: %1
6243	SOAP WebService への HTTP 要求の応答で、予期しない CONTENT-TYPE が返されました: %1
6244	Web サービスの場所を指定する必要があります。
6245	クライアント WEB メソッドが、% で始まる引数を持っていない可能性があります: %1
6246	SOAP 要求に返答がありません。
6247	SOAP 返答の予期しないエンコーディングです。
6248	SOAP 返答は SOAP フォルトです: %1
6249	XMLENABLED クラスにより参照されるクラスは、%XML.Adaptor のサブクラスである必要があります: %1
6250	コレクション・プロパティは、参照されたクラスの ELEMENTTYPE パラメータを要求します: %1
6251	メッセージ要素 '%1' が XML ネームスペース '%2' に見つかりません
6252	データ型の妥当性検証は、タグ %1 の値がないため失敗しました。
6253	タグ %1 のデータタイプ妥当性検証が失敗しました。予期しないタグ <%2> が見つかりました。
6254	XML 入力 %1 で必要なタグの形式が、%2 の子として不適切です。
6255	DataSet レコードのフィールド '%1'、%2 の XML の形式が不適切です
6256	プロパティ '%1' の SubstitutionGroup が前回の substitutionGroup と一致しません。
6257	プロパティ '%1' の XMLCHOICELIST にはリテラルタイプ '%2' を含めることはできません。
6258	プロパティ '%2' の ENCODING パラメータ '%1' が不正です
6259	このプロパティが永続オブジェクトでない場合、プロパティ '%1' のXMLPROJECTIONはIDにはできません。
6260	データ型の妥当性検証が、要素 %3 の属性 %1 の値 %2 で失敗しました。
6261	予期しない XMLIGNORENULL クラス・パラメータの値です: %1
6262	XMLIO のプロパティに無効な値があります: %1
6263	XMLREFERENCE のプロパティに無効な値があります: %1
6264	XMLTYPECONSTRAINT のプロパティに無効な値があります: %1

エラー・コード	説明
6265	XMLREFERENCE と XMLTYPECONSTRAINT は、プロパティのクラス・リファレンスにのみ指定できます: %1
6266	XMLTYPECONSTRAINT は、プロパティに XMLREFERENCE = ID で指定できません: %1
6267	XMLSUMMARY は、クラスプロパティのコンマ区切りのリストである必要があります。
6268	XMLDEFAULTREFERENCE の無効な値です。
6269	タイプ付きデータセットに CLASS および QUERY を指定する必要があります。
6270	重複する WebMethod 名は許可されません: %1
6272	QUERYNAME パラメータとクラス名（または、XMLNAME オーバーライド）は異なる可能性があります。
6273	%XML.DataSet は QueryName および DataSetName プロパティを持つことはできません。
6275	現在のドキュメントが完成するまで、新しい XML ドキュメントの出力や、%XML.Writer プロパティの変更はできません。
6276	ルート要素は、子要素が含まれるように記述する必要があります。
6277	タイプ属性 %1 は XML 入カタグの有効なタイプではありません: %2
6278	XML 出力文字列は使用できません。
6279	XML 出力文字列の長さが、文字列の最大長を超えています。
6280	%XML.DataSet を直接実行して、クエリの結果を得ることはできません。
6281	クラス %2 の %1 は %3 の子クラスと区別する必要があります。
6282	応答の SOAP 本文が壊れています。
6283	予期しないセッション・ヘッダのセッション Cookie です。
6284	セキュリティ・ヘッダ・エラー : %1
6285	StartDocument が呼び出されない限り、EndDocument を呼び出すことはできません。
6286	ルート要素、処理命令、DOCTYPE がルート要素にない場合があります。
6287	属性は、要素またはルート要素のすぐ後にのみ呼び出すことができます。
6288	エレメント '%1' で %XML.Dataset のスキーマが不正です %2
6289	データセット・スキーマが指定されたタイプ付きの %XML.Dataset と一致しません: %1, %2 : %3 '= %4
6290	%XML.Dataset がタイプ付きでない場合、データセット・スキーマは XML で入力する必要があります。
6291	データセット名、行名および XML ネームスペースは %XML.Dataset の XML スキーマと一致する必要があります。
6292	%XML.Dataset の列名の重複は許可されていません: %1
6293	文字セット '%2' 用の変換テーブル '%1' をロードできません。
6294	スキーマのメッセージ部分が見つかりません: %1
6295	XML スキーマ・ウィザードの内部エラーです: %1
6296	クラス %1 で XML エクスポート・サイクルが見つかりました

エラー・コード	説明
6297	XMLSTREAMMODE のプロパティに無効な値があります: %1
6298	XMLSTREAMMODE は文字ストリームではないため、プロパティ %1 が許可されません。
6299	XMLNAME は、プロパティ %1 の有効な XML 名を指定しません
6300	XMLFORMAT の無効な値です
6301	SAX XML 解析エラーです: %1
6302	行 %1 オフセット %2 の XML メッセージ・ファイル形式が無効です。
6303	Content Handler が %XML.SAX.ContentHandler のサブクラスではありません
6304	アイテム %1 をエクスポートすることができません。XML エクスポートではこの種類のアイテムをサポートしていません。スキップします。
6305	ユーザ定義のドキュメントタイプ '%2' をインスタンス化できないため、アイテム '%1' をエクスポートできません。スキップします。
6306	CSP ページ '%1' に関連付けられたアプリケーションが存在しません。スキップします。
6307	ページ '%2' に関連付けられた CSP ファイル '%1' が存在しません。スキップします。
6308	アイテム '%1' が不正か、エクスポートするデータを持っていません。スキップします。
6309	クラス '%1' は配置モードなのでエクスポートできません。このアイテムをスキップします。
6310	URL '%1' の形式が不正なため継続できません
6311	ネームスペース '%1' に対するスキーマ定義が存在しません。
6312	クラス '%1' のデフォルトネームスペースが見つかりません。
6313	スキーマモニカタイプ '%2' (スキーマ '%1' より) が不正です。
6314	SAX XML パーサ警告 : %1
6315	ファイル '%1' の行 '%2'、オフセット '%3' の XML サブ要素のインポートをレポート中にエラーが発生しました。この項目をスキップします。
6316	インポートするサブドキュメントがありません。この項目をスキップします。
6317	XMLINHERITANCE の値が正しくありません: %1。
6318	XML ドキュメントにはプロパティが必要です: %1
6320	固定属性 %1 が予期しない値です (要素 %3 の値 %2)。
6321	WS-ReliableMessaging CreateSequence 要求に対しては CreateSequenceResponse 応答のみがサポートされています : %1
6322	CreateSequenceResponse メッセージ内の IncompleteSequenceBehavior の値がサポートされていません : %1
6323	予期しない WS-ReliableMessaging ヘッダ : %1
6324	WS-ReliableMessaging Sequence ヘッダが期待されていますが存在しません
6325	WS-ReliableMessaging 応答の Sequence ヘッダ LastMessageNumber が要求の Sequence ヘッダと一致しません
6326	WS-ReliableMessaging CreateSequence 要求に対しては CreateSequenceResponse 応答のみがサポートされています : %1

エラー・コード	説明
6327	WS-ReliableMessaging TerminateSequence 要求に対しては TerminateSequenceResponse 応答のみがサポートされています : %1
6328	%SOAP.RM.CreateSequence オブジェクトは、RM セッション開始のために %StartRMSession を呼び出すため、一度だけ使用できます
6350	SoapMessageName キーワードは Web サービス・メソッド %1 に対してのみ指定されます
6351	SoapAction キーワードは Web サービス・メソッド %1 に対してのみ指定されます
6352	HttpRequester の値が正しくありません: %1
6353	要素 %1 への予期しない属性です: %2
6354	プロパティが文字列型ではなく、XMLPROJECTION = content を持つ場合、他のプロパティはすべて XMLPROJECTION = attribute を持つ必要があります。
6355	SOAP メッセージに本文がありません。
6356	無効なノード・タイプです: %1
6357	親ノードが直接設定されないということもあります。
6358	ツリー走査のエラーです。予想された要素です。
6359	%SOAP.WebRequest ではバイナリ SOAP プロトコルを使用できません
6360	バイナリ SOAP プロトコルに対して予期しないクラス %1 を受け取りました。%2 が必要です。
6361	クラスが XML 有効でなければなりません : %1
6362	クラス %3 の XML スキーマ %1 %2 の定義が重複しています。
6363	XML ネームスペース %1 のエンコード形式の使用に一貫性がありません。
6364	ネームスペース %1 内のクラスで ELEMENTQUALIFIED または ATTRIBUTEQUALIFIED の定義が不一致です。
6365	SOAP バイナリ %1 の形式が無効です。
6366	予期しない上位論理ブロックです: %1。
6367	予期しない SOAP バイナリのバージョン番号です: %1。
6368	SOAP バイナリ・メッセージのクラス %1 の定義が重複しています。
6369	SOAPバイナリメッセージ中、クラスインスタンスがインデックス %1 で未知のクラスを参照しています
6370	クラス %1 の SOAPCLASSNAME の指定が重複しています。
6371	クラス %1 の SOAPCLASSNAME に ServiceName を指定する必要があります。
6372	予期しない Content-Type ヘッダ・フィールドを持つマルチパートの MIME SOAP メッセージを受け取りました: %1。SOAP with Attachments および MTOM のみがサポートされています。
6373	SOAPVERSION パラメータで指定している SOAP バージョンはサポートされていません: %1。
6374	この Web クライアントでは SOAP バージョン %1 はサポートされていません。
6375	SOAP エンコード・スタイル %1 はサポートされていません。
6376	必須のヘッダがサポートされていません。
6378	SECURITYIN パラメータの値が無効です: %1

エラー・コード	説明
6379	WS-Security ヘッダが必要です。
6380	証明書ファイルの形式が無効です: %1。
6381	WS-Security の暗号化アルゴリズムはサポートされていません: %1。
6382	キー暗号化に失敗しました: %1。
6383	暗号化に失敗しました: %1。
6384	XMLMAPPING の値が不正です。
6385	XMLMAPPING="sequence" に対して XMLPROJECTION を attribute または content には設定できません。
6386	クラスを XMLMAPPING="sequence" で参照している場合、XMLPROJECTION は "group" でなければなりません: %1
6387	ARGUMENTSTYLE は "wrapped" または "message" でなければなりません: %1
6388	SOAPメッセージに予期しない要素が見つかりました: %1
6389	セキュリティ要素を作成できません : %1
6390	シグニチャの検証が失敗しました : %1
6391	WS-SecureConversation DerivedKeyToken が不正です : %1
6392	WS-SecureConversation RequestSecurityToken 要求への応答には RequestSecurityTokenResponseCollection のみがサポートされています : %1
6393	要素なしの WS-SecureConversation RequestSecurityToken 要求への応答に RequestSecurityTokenResponseCollection はサポートされていません。
6394	SecurityTokenRequestResponse に予期しない %1 が見つかりました : %2。
6395	%1 要素は SecurityTokenRequestResponse ではサポートされていません。
6396	SecurityTokenRequestResponse で SecurityContextToken が返されませんでした。
6397	SecurityTokenRequestResponse で SecurityContextToken が不正です : %1。
6398	SecurityContextToken に関連付けられているキーはありません
6399	予期しない SecurityTokenRequestResponse が発生したため、要求がキャンセルされました。

テーブル 1-18: 一般的なエラー・コード - 6400 から 6599

エラー・コード	説明
6401	要素 '%1' の属性 '%2' が不正です
6402	要素 '%1'、属性 '%2' が不正な値 %3 です。
6403	要素 '%1' に不正な属性が含まれます
6404	要素 '%1' が不正です
6405	要素 '%1' の値 '%2' が不正です
6406	指定されたネームスペース '%1' が不正です。'%2' でなければなりません。
6407	スキーマ・タイプを推測できません。有効な対応が見つかりません
6408	メッセージ・タイプを推測できません。有効な対応が見つかりません

エラー・コード	説明
6409	エンコーディング '%1' はサポートされません
6410	要素 '%1' で必須属性 '%2' がありません
6411	要素 '%1' が見つかりません
6412	要素 '%1' - 操作 %3 のための %2 を決定できません
6413	要素 '%1' - 一致します %2 %3
6414	要素 '%1' - 名前が重複 '%2'
6415	要素 '%1' - サポートされないトランスポート '%2'
6416	要素 '%1' - 認識されない %2 要素 '%3'
6417	要素 '%1' - メッセージ '%2' のタイプまたは要素の属性が一部として指定される必要があります
6418	エレメント '%1' - リテラルエンコーディングに対するメッセージ '%2' パラメータが見つかりません
6419	要素 '%1' - 操作 %3 に対して %2 が一致しません
6420	要素 '%1' - パーツ・リストには未定義のパーツ名または多重定義されたパーツ名が含まれています
6421	要素 '%1' - ParameterOrderパラメータカウントが誤っています
6422	targetNamespace = %1 に対する WSDL ネームスペースが定義されていません。
6423	targetNamespace = %1 に対する SOAP ネームスペースが定義されていません。
6424	エレメント '%1' - メッセージ '%2' でタイプとエレメント属性は同時に一部として指定できません。
6425	要素 '%1' - メッセージ '%2' Message Style はドキュメントスタイルメッセージで2つ以上のパートで使用される必要があります
6426	クライアント・クラスとサービス・クラスの両方を同じパッケージに入れることはできません: %1。
6427	クライアント・クラスが定義されていません : %1
6428	複数のクラスを構成する %2 によってすでに構成されているため、クライアント・クラス %1 の構成を定義できません。
6429	指定の WSDL には、%1 にポリシーを指定するポートが 1 つ必要です。
6440	%SOAP.Configuration XData ブロック %2 内で予期しないルート要素 %1 が見つかりました
6441	%3 XData block %2 内で予期しない要素 %1 が見つかりました。
6442	%SOAP.Configuration XData ブロックの名前が重複しています: %1
6443	SOAPクラス %2 に対して重複した構成名です %1
6444	構成でサービスに対するSOAPクラス名が指定されていません: %1
6445	構成中でメソッド要素に対するメソッド名が指定されていません: %1
6446	構成 %2 中で重複したメソッド名です %1
6447	%SOAP.Configuration XData ブロック %2 内で WS-Policy ネームスペースから予期しない要素 %1 が見つかりました
6448	構成の Name 属性 %1 が %SOAP.Configuration XData ブロック %2 と一致しません。
6449	SOAP構成クラス名 %1 が不正です。

エラー・コード	説明
6450	構成が見つかりません %1 in %SOAP.Configuration クラス, %2。
6451	ポリシーアサーション、%1 は %SOAP.Configuration クラス %2 内でテキストの子要素を持っていないかもしれません
6452	構成 %1 でポリシー解析中に内部エラーが発生しました: %2
6453	サポートしていないアサーションネームスペース “%1” です、アサーション=%2、構成=%3
6454	構成 %1 でサポートされている代替ポリシーがありません。
6455	構成 %2 のポリシーアサーション %1 はサポートされていません。
6456	構成 %2 のポリシーアサーション %1 が認識できません。
6457	構成 %2 のポリシーアサーション %1 が wsp:Policy 子要素を持つことはできません。
6458	構成 %3 のポリシーアサーション %1 にサポートされないパラメータ %2 があります。
6459	構成 %2 のポリシーアサーション %1 ヘッダパラメータには Namespace 属性が必要です。
6460	構成 %2 のポリシーアサーション %1 ヘッダパラメータには Name 属性が必要です。
6461	構成 %3 のポリシーアサーション %1 はネストしたポリシーアサーション %2 をサポートしません。
6462	構成 %2 のポリシーアサーション %1 にはネストしたポリシーが必要です。
6463	構成 %2 のポリシーアサーション %1 は期待されたネームスペース内にありません。
6464	構成 %2 で %1 はひとつのみ指定できます。
6465	構成 %2 でトークン %1 に対するアサーションパラメータはサポートされていません
6466	構成 %3 のアサーション %2 のトークン %1 はサポートされていません
6467	構成 %2 で %1 には AlgorithmSuite アサーションが必要です。
6468	構成 %2 トークン %1 のフォーマットが不正です。
6469	構成 %2 の sp:IncludeToken %1 に対して予期しない値です。
6470	構成 %3 で %1 にはひとつの %2 トークンが必要です。
6471	構成 %2 で %1 には少なくともひとつのトークンが必要です。
6472	%1 要素が、%3 XData block, %2 の期待されたネームスペースにありません
6473	構成 %3 の要素 %2 中に予期しない属性 %1 があります。
6474	構成 %1 で sp:X509Token のために cfg:FindField と cfg:FindValue のどちらかが指定されている場合は、それらの両方を設定する必要があります。
6475	構成 %2 の sp:X509Token への cfg:FindField が予期しない値です。
6476	構成 %1 で wsp:PolicyReference 要素に対するローカル URI 属性がありません。
6477	構成 %2 の wsp:PolicyReference 要素に対する URI 属性、%1、がポリシーを参照していません。
6478	sp:Username トークンは、sp:SignedParts または sp:EncryptedParts アサーションでサポートしているトークンに対して不正です。
6479	構成 %2 の cfg:wSDL_Element=%1” で wSDL_Element に対する適切な値が指定されていません
6480	%1 クラス内のパラメータ XData でメソッド要素に対するメソッド名が指定されていません。
6481	クラス %2 内のパラメータのメソッド要素に、%1 という名前のメソッドは存在しません。

エラー・コード	説明
6482	クラス %2 では、ヘッダ要素に %1 属性が必要です。
6483	構成 %2 の %1 に対する DerivedKey アサーションが競合しています。
6484	クラス %1 では、アクション要素に空でない値が必要です。
6485	構成 %2 の任意の代替で、%1 に対して SecurityContextToken は 1 つのみ指定できます。
6486	構成 %2 の sp:SecureConversationToken の cfg:Lifetime の値 %1 は、浮動小数点数形式の時間数である必要があります
6487	構成 %4 の %1 パラメータの値 %2 は、想定されたタイプ %3 ではありません
6501	認識されないXSDタイプ '%1'
6502	指定された XSD タイプ '%1' に対応するクラスタイプを決定できません
6503	ロック・タイムアウト。タイムアウト '%3' が設定された '%2' のロックを試行しているクラス '%1' の XML プロジェクションに失敗しました
6504	ストリームの配列の XML プロジェクションはプロパティ %1 ではサポートされていません
6505	SOAP セッション・エラー：セッション・ヘッダで指定されたセッションが見つからなかったため、新規セッションが作成されました
6506	指定されたファイル内にスキーマ定義が見つかりませんでした
6507	XMLNILNOBJECT の値 %1 が正しくありません。
6550	QR コード %1 ファイル %2 を開けません
6551	QR コード例外ファイル %1 を開けません
6552	QR コード・ファイル %1 は作成されていません。
6553	修正レベル %1 が無効です。'L'、'M'、'Q'、または 'H' のいずれかでなければなりません。
6554	QR コードはこのプラットフォーム上ではサポートされていません
6555	QR コードのディメンション・パラメータ %1 が無効です。
6556	QR コードの修正レベル %1 は文字列長 %2 をサポートし、文字列のサイズは %3 です。
6557	QRコード文字列 %1 は正しくエスケープされていない可能性があります部分的な QRコードがファイル %2 内にあります。

テーブル 1-19: 一般的なエラー・コード - 6600 から 6799

エラー・コード	説明
6601	BeanName が必要です。
6602	RootDir が必要です。
6603	ClassPath が必要です。
6604	App Server Home が必要です (APPSERVERHOME が "")。
6605	Java Home が必要です。
6606	Path が必要です。
6607	ServerType が必要です。
6608	QuickStatement インタフェースのみサポートします。

エラー・コード	説明
6609	%1 は Persistent (永続) でも Session Bean でもありません。ClassList は %2 です。ClassList には Persistent (永続) または Session Bean クラスのみを含める必要があります。
6610	ClassList が、プロジェクションあるいはこのルーチンの呼び出しで指定する必要があります。ClassList が空ではいけません。
6611	サーバ名 %1 は EJB ウィザードで定義されていません。WEBLOGIC、WEBLOGIC7、WEBLOGIC8、JBOSS、JBOSS3、PRAMATI. の中から 1 つ選択してください。JBOSS は JBOSS 2.4.3 および 2.4.4 用のコードを生成します。JBOSS3 は JBoss 3.X 用のコードを生成します。WebLogic 6.1 では WEBLOGIC、WebLogic 7.0 では WEBLOGIC7、WEBLOGIC 8.1 では WEBLOGIC8 を使用します。リリースノートを参照して、サポートされているサーバ・リストを確認してください。
6612	Class=%1 の CMP ジェネレータが失敗しました。CMP 生成は、主キーを持つクラス上でのみサポートされています。
6613	共通の CPP 出力が設定されていません
6614	getClassMethodsError: %1 className=%2
6615	getClassPropertiesError: %1 className=%2
6616	getClassQueriesError: %1 className=%2
6617	getEJBClassNameError: %1 className=%2
6618	getEJBClassNameError: %1
6619	共通の出力が設定されていません
6620	共通の言語ジェネレータ・オブジェクトが設定されていません
6621	EJB Easy プロジェクトは、Windows でのみサポートされています。UNIX® では EJB を使用します。
6622	PersistenceType は、BMP か CMP のいずれかである必要があります。
6623	Class=%1 の CMP 生成が失敗しました。CMP 生成は、必要なプロパティすべてが CMP と互換性がある場合にのみ実行できます。Property=%2 は CMP との互換性はありません。
6624	ClassList=%1 の EJB 生成が失敗しました。ClassList は、セッション bean ではない少なくとも 1 つの永続クラスを含む必要があります。
6625	WebLogic は、接続プールに存在する接続を検証するために、テスト・テーブルを定義する必要があります
6626	クラス %1 は投影できません。投影を中止しています。あるクラスのスーパークラスが %RegisteredObject ではなく、スーパークラスのメソッドがすべてサーバのみで、このクラスにクラス・メソッド以外のメソッドが含まれる場合、このクラスは投影できません。あるクラスのスーパークラスが NULL の場合、このクラスに含まれているのはクラス・メソッドのみである必要があります。
6627	%1 は TRANSACTIONISOLATION に対する有効な値ではありません。有効な値は TRANSACTION_READ_UNCOMMITTED と TRANSACTION_READ_COMMITTED です。
6628	クラス %1 は投影できません。投影を中止しています。投影されるクラスのメソッドはすべて、左端のスーパークラスと同じグネチャを持っている必要があります。メソッド %2 で競合が発生しています。
6629	クラス %1 は投影できません。投影を中止しています。投影されるクラスのプロパティはすべて、左端のスーパークラスと同じ宣言を持っている必要があります。プロパティ %2 で競合が発生しています。

エラー・コード	説明
6630	クラス %1 は投影できません。投影を中止しています。プロジェクションするには左端のスーパークラス %2 が %Library.RegisteredObject であるか、クラス %1 が「静的」(クラスメソッドのみを持ち、プロパティやインスタンスメソッドを持たない)でなければなりません。
6631	永続クラス %1 は投影できません。投影を中止しています。投影される永続クラスの左端にあるスーパークラス %2 は %Library.Persistent である必要があります。
6632	クラス %1 は最新クラスではありません。クラスをリコンパイルし、再度実行してください。
6633	クラス %1 を EJB に投影できません。投影を中止しています。投影されるクラスの子テーブルはすべて有効である必要があります。子テーブル %2 は無効です。
6634	getClientClassDefError: %1 className=%2
6635	QueryGetInfoError: %1, className=%2, query=%3
6636	クラス %1 はデータ型で、投影できません。
6637	/ (バックスラッシュ) を含むためのフォーマット・フラグが正しくありません。無効なフォーマット・フラグは %1 です。
6638	クラス %2 で %1 が返そうとするリストは大きすぎます。
6639	getCountMethodsError: %1 className=%2
6640	getCountPropertiesError: %1 className=%2
6641	getCountQueriesError: %1 className=%2
6642	プロパティ %2 が必要ですが、EJB ウィザードでまだサポートされていないため、%1 の EJB プロジェクションは中止されます。
6643	クラス %1 はエクスポートできません。エクスポート可能にするには、%Complier.LG.Exportable を拡張する必要があります。
6645	%1: %2 className=%3
6646	JAVAPACKAGE パラメータが clientname パラメータと競合します。JAVAPACKAGE は %1 で、clientname パラメータは %2 です
6647	サーバ側でコードを生成できません。cpp_generator を使用してクライアント側でコードを生成してください
6648	生成に問題があるクラス %2 に依存するため、クラス %1 のコードは生成できません
6649	%3 の理由で生成ができないクラス %2 に依存するため、クラス %1 のコードは生成できません
6650	serveronly クラスであるクラス %2 に依存するため、クラス %1 のコードは生成できません
6651	クラス %1 は投影可能でなく、serveronly でないものに依存するため、クラス %1 の生成をスキップします。以下は詳細情報です。%2
6653	クラス %1 に空の JavaBlock があります
6654	クラス %1 に複数の JavaBlock があります
6655	スーパー %2 がコレクションであるため、%1 を投影できません
6656	メソッド %2 が ByRef 引数を持つため、%1 を POJO として投影できません
6657	%2 が返りタイプまたは引数タイプの抽象ストリームを持つため、%1 を投影できません
6658	最左端のスーパー %2 がストリームであるため、%1 を投影できません

エラー・コード	説明
6659	クラス %1 のキャッシュに対するロックの待機がタイムアウトしました
6660	QueryGetParamInfoError: %1, className=%2, query=%3
6701	既に接続されています
6702	PID 値が見つかりません
6703	無効な PID 値です
6704	ターゲットはデバグを既に終了しています
6705	ターゲットにブレークを発行できません
6706	CSP サーバへの接続エラーです: %1
6707	接続されていません
6708	ターゲットからの切断エラーです
6709	ターゲットが停止していません
6710	ターゲットにアタッチできません
6711	無効なデバグ対象です: %1
6712	ブレークポイント '%1' に対するマッピングが見つかりません
6713	ターゲットの起動に失敗しました
6714	デバグ・エラー: %1
6715	不正なPID値 '%1'
6716	ターゲットは既にデバグ・モードです
6717	ターゲットはサインオン・モードです

テーブル 1-20: 一般的なエラー・コード - 6800 から 6999

エラー・コード	説明
6901	XSLT XML 変換エラーです: %1
6902	Error Handler が %XML.XSLT.ErrorHandler のサブクラスではありません
6903	Output Stream が %BinaryStream のサブクラスではありません
6904	Result Handler が %XML.XPATH.ResultHandler のサブクラスではありません
6905	Input Stream が %BinaryStream のサブクラスではありません
6906	%New() を直接呼び出すべきではありません。ファクトリメソッド 'Create...' を使用してください

1.6 エラー・コード 7000 から 7999

テーブル 1-21: 一般的なエラー・コード - 7000 から 7199

エラー・コード	説明
7001	TSQL コンパイラ・エラー: %1

エラー・コード	説明
7002	TSQL: %1
7003	ISQL コンパイラ・エラー: %1
7004	ISQL: %1
7005	TSQL クエリビルダでは "%1" を予期していました (得たのは "%2" です)
7006	クエリの結果を変数に格納することはできません
7011	TSQL 言語モードはプロシージャブロックでなければなりません: '%1::%2'
7050	クラス定義のオープンでエラーになりました "%1" : "%2"
7051	認識できない入力です: "%1"
7052	Read: "]" がありません
7053	読み取り: 文字列の最後に引用符がありません
7054	Read: "%1" 近傍に構文エラーがあります
7055	クエリ実行: プロシージャ "%1" はクエリではありません
7056	クエリ実行: 引数 "%1" はすでに("%2" として)使用されています
7101	指定された検索位置 (%1) はファイルの終わり (%2) よりも後ろです。
7102	FileStream Mode %1 には、読み取りモードの設定が含まれません
7103	FileStream Mode %1 には、書き込みモードの設定が含まれません
7104	この MetaStream に結合されている代行入力ストリームはありません
7105	CharEncoding '%1' にマップする変換テーブルがありません
7106	IO ストリーム・クラス %1 は閉じられません
7107	代行 IO ストリーム・クラス %1 は検索できません
7108	タイプ %1 のオブジェクトは、ストリーム・オブジェクトはありません
7109	ストリーム '%1' オープンで %2 秒でタイムアウトしました
7110	ソケット '%1' での受信待ちが %2 秒のタイムアウトになりました
7150	Telnet オプション %1 は設定されていません
7151	telnet ハンドシェイクにエラーがあります (状態=%1、現在のバイト数=%2)
7152	telnet 初期化ハンドシェイクの試行はタイムアウトしました

テーブル 1-22: 一般的なエラー・コード - 7200 から 7399

エラー・コード	説明
7200	データタイプ値 '%1' はIsValidDT検証に失敗しました
7201	データタイプ値 '%1' の長さが %2 で許可されている MAXLEN よりも長くなっています
7202	データタイプ値 '%1' の長さが %2 で許可されている MINLEN よりも短くなっています
7203	データタイプ値 '%1' は %2 で許可されている MAXVAL を超えています
7204	データタイプ値 '%1' が %2 で許可されている MINVAL よりも小さくなっています

エラー・コード	説明
7205	データタイプ値 '%1' は VALUELIST '%2' で指定された値ではありません
7206	データタイプ値 '%1' は妥当な真偽値ではありません
7207	データタイプ値 '%1' は妥当な数値ではありません
7208	データタイプ値 '%1' は妥当なタイムスタンプ形式ではありません
7209	データタイプ値 '%1' はパターン '%2' と一致しません
7210	データタイプ値 '%1' に不正な文字 '%2' が含まれています
7211	データタイプ値 '%1' は妥当な期間ではありません
7212	データタイプ値 '%1' は妥当な uniqueidentifier/GUID 形式ではありません
7300	出力のためにログファイル %1 を開くことができませんでした
7301	Backup.General.ExternalFreeze は、既に設定されているスイッチ 10 または 13 では実行できません
7302	すべてのクラスタ・メンバの TCP 情報の位置を確認できませんでした
7303	他のクラスタ・メンバでジャーナル・ファイルを切り替えることができませんでした
7304	ジャーナル・ファイルを切り替えることができませんでした。Status = %1
7305	ローカル・ジャーナル・ファイルを切り替えることができませんでした。Status = %1
7306	システムを停止できませんでした
7307	ジャーナル・マーカを配置できませんでした
7308	タスク %1 は存在しません
7309	バックアップは現在実行中です
7310	タスク %1 をオープンできませんでした
7311	タスク %1 のバックアップは記録されていません
7312	\$zversion(1) の不明なプラットフォームです
7313	ログ・ファイルのリストの構築エラー: %1
7314	タスクのリストの構築エラー: %1
7315	%1 からベース・ディレクトリを判別できません
7316	ログ・ファイルを保存するディレクトリを作成できません: %1
7317	%1 のベース・ディレクトリを判別できません
7318	バックアップ出力ディレクトリを生成できません: %1
7319	バックアップのためのデータベースのリストを設定できませんでした
7320	不明なバックアップ・タイプです: %1
7321	データベース %1 は存在しません
7322	IRISTEMP はバックアップに含めることができません
7323	データベースのリストの構築エラー: %1
7324	%1 は現在のバックアップ・リストにはありません

エラー・コード	説明
7325	バックアップ・ジョブを開始できませんでした
7326	IJC デバイスの初期化に失敗しました: %1
7327	BACKUP^DBACK が失敗を返しました
7328	組み込みシステム・タスクは変更できません
7329	無効なバックアップ・タイプです: %1
7330	タスク名が %New への引数として指定されていません
7331	タスク名には英数字しか使用できません
7332	タスクは既に存在します
7333	バックアップ・ボリュームが指定されていません
7334	ファイルを読み取れません。バックアップまたはリストアが実行中です
7335	バックアップ・ボリューム '%1' を開けません
7336	これは %1 バックアップ・ファイルではありません
7337	ライト・デーモンの中断要求はクリアされました

テーブル 1-23: 一般的なエラー・コード - 7400 から 7599

エラー・コード	説明
7400	TASKMGR は既に実行中です
7401	タスク (%1) をオープンできません
7402	選択されたユーザ (%1) は有効化されていません
7403	タスク (%1) の実行は予定されていません
7404	1 日に複数回ではありませんが、DailyIncrement は 0 です
7405	タスク・ユーザ名を変更するには、操作に %1 が必要です
7406	ユーザは存在しません (RunAsUser %1)
7408	DailyEndTime は DailyStartTime の後である必要があります
7409	EndDate は StartDate の後である必要があります
7410	TimePeriodDay は NULL であるか、有効ではない 1 ~ 7 (%1) の値を含んでいます
7411	出力ディレクトリは存在しません
7412	ファイル名は有効ではありません
7413	タスク・クラスが必要ですが、NULL です
7414	タスク・クラス (%1) は %2 に存在しません
7415	削除するタスクを見つけることができません
7416	スケジュール上の不明な問題です。New Time = Last Time
7418	タスクを一時停止としてマークできませんでした (SQLCODE=%1)
7419	タスクを再開済みとしてマークできませんでした (SQLCODE=%1)

エラー・コード	説明
7420	無効な一時停止フラグです (FLAG=%1)
7421	メールを送信できません。メール・サーバが定義されていません。
7422	メールを送信できません。電子メール・アドレスが定義されていません。
7423	エラー %2 のため、(%1) の構成を更新できませんでした
7424	電子メール (%1) を送信できませんでした
7425	タスクを削除できません。最初に参照した後、すべての実行を消去します
7426	月曜日～日曜日から実行日を少なくとも 1 日選択する必要があります
7427	オフセットを繰り返すタスクは正数である必要があります
7428	その月 (%1) の無効な日付
7429	無効な週次オフセット 1 ～ 5を使用しています
7430	回数 (DailyFrequencyTime)が不正です。0または1を使用してください。
7431	Run After Task 値が必要です
7432	開始日時は現在の日時よりも後にする必要があります
7450	タスク・ジョブの実行中です
7451	タスク・ジョブのトラップ解除エラー (%1)
7452	タスク・ジョブの設定エラー (%1)
7453	タスク・ジョブのタイムアウト・エラー
7454	タスク・ジョブのポスト・プロセス・エラー (%1)
7460	テープ・デバイスを入力する必要があります。
7461	有効な日数を入力してください
7500	SSH %3 エラー '%1': %2

テーブル 1-24: 一般的なエラー・コード - 7600 から 7799

エラー・コード	説明
7600	インポート元のグローバル形式が不正です
7601	未知のパッケージフォーマットタイプです: %1
7602	エクスポートされたバージョン '%1' に対してこのマシンのバージョン '%2' となっているためインポートできません
7603	区切り識別子の設定が、エクスポートされたバージョン %1、現在のシステム %2 となっているためインポートできません
7604	グローバル・ノードがクラス '%1' と衝突しています
7605	ソース (removesource パラメータで指定されます) のないルーチン '%1' のOBJコードがないため配置できません
7606	グローバルノードは既に使用中です '%1'
7607	%1 での元のデータ = %2 の新しい値 %3

エラー・コード	説明
7608	新しいデータには %1=%2 がありますが、元のグローバルにはこれは存在しません
7609	エクスポートされた配置がファイル '%1' に含まれていません
7610	コード '%1' のシグニチャが正しくないため、このアイテムは元のリリース・バージョンではありません
7700	不正なマニフェスト指定 '%1'
7701	不正な表現 '%1': %2
7702	不正な特殊変数 '%1'
7703	オフセット %2 の '%1' を解析中にパーサ・エラーが発生しました : '%3'

テーブル 1-25: 一般的なエラー・コード - 7800 から 7999

エラー・コード	説明
7800	ワーカ・ジョブを開始できません
7801	他のジョブがワーカー数を変更中です
7802	ワーカ・ジョブが予期せずにシャットダウンしました
7803	ジョブ完了キューが予期せず閉じられました
7804	ロックテーブルに空きがありません, 中断しています
7805	すでに処理が実行されている場合は、ワーカーを作成できません
7806	すべてのワーカに信号を送信することができません
7807	一部のワーカー・ジョブが開始しませんでした
7808	ロックを取得できないため、ワーカ・ジョブをカウントできません
7809	ワーカ・プロセスでワーカーを作成できません
7810	\$job='%2' に対するワーク・キュー API 呼び出しが不正なキューの名前 '%1' で行われています
7811	'%1' 呼び出しのクラス名が見つかりません
7812	作業キューが予期せずに削除されました。シャットダウンします。
7813	ワーク・キューがワーカーから不正な応答を受け取りました。シャットダウンします。
7814	ワーカー・ジョブが動作していないため、プロセスは内部で停止していると考えられます。シャットダウンします。
7815	ワーク・キューが初期化されていません。前回のエラーでシャットダウンされたか、ワークをキューに入れる前に Initialize が呼ばれていません。
7850	クラス '%1' は classtype=system ですが、'%2' メンバをサポートしていません
7851	classtype=system のクラスは、他の classtype=system クラスからのみ継承できます。スーパー・クラス・パス '%1' です。
7852	classtype='%1' は有効な classtype ではありません。有効な値は '%2' です
7853	classtype=system のクラスはジェネレータ・メソッド '%1' をサポートしていません
7854	クラス '%2' の C++ メソッド '%1' は、プロパティ '%3' と関連付けられたエイリアス・メソッドをサポートできません

エラー・コード	説明
7855	クラス '%2' の C++ メソッド '%1' の返りタイプは '%3' をサポートしていませんでした
7856	クラス '%2' の C++ メソッド '%1' の引数タイプは '%3' をサポートしていませんでした
7900	サービス '%1' はアプリケーション '%2' で有効ではありません
7901	アプリケーション '%1' で第 2 要素のログインが失敗しました
7902	OnApplication コールバックがアプリケーションの変更とログイン・プロセスを中断しました
7903	第 2 要素がユーザによってキャンセルされました
7904	%ZEN.Mobile.basePage のサブクラスではなく、モバイル対応 '%1' ではないクラスは呼び出すことができません
7905	モバイル・ページ %1 を呼び出すメソッドが無効です
7906	セッション・イベント・コールバックにより、セッションが作成されませんでした
7950	WebSocket 読み取り操作はタイムアウトになりました
7951	クライアントが WebSocket を閉じました

1.7 エラー・コード 8000 から 8999

テーブル 1-26: 一般的なエラー・コード - 8000 から 8199

エラー・コード	説明
8000	ドメイン %1 は既に存在します。
8001	SortField %1 が不正です
8002	グローバル名 '%1' は予約されています
8003	ソースの処理に失敗しました
8004	ドメイン %1 でのロックの取得に失敗しました
8005	内部 ID %1 に対する外部 ID が見つかりません
8006	構成 %1 は存在しません
8007	DirectInput の初期化に失敗しました
8008	インデクサの初期化に失敗しました
8009	KB %1 のロードに失敗しました
8010	LB %1 のロードに失敗しました
8011	KB %1 が見つかりません
8012	%1 : エラー %2 を検出しました
8013	リスタ・エイリアス '%1' は、このネームスペースでクラス %2 によってすでに使用されています
8014	%2 の位置からの %1 のリセットに失敗しました
8015	処理するものはありません

エラー・コード	説明
8016	ID %1 の構成は存在しません
8017	ドメイン名と ID が一致していません
8018	ドメイン %1 は存在しません
8019	ドメイン %1 は壊れています
8020	ドメイン %1 はネームスペース %2 で開く必要があります
8021	ID %1 のドメインは存在しません
8022	内部データソース・エラー
8023	ソース %1 の削除に失敗しました
8024	無効なタイプです : %1
8025	ソース ID が見つかりません
8026	ソース %2 でソース・フィールド %1 が見つかりません
8027	ソース %1 で継続キーが見つかりません
8028	ソース %2 で CRC フィールド %1 が見つかりません
8029	ソース %2 で文フィールド %1 が見つかりません
8030	ソース %2 で関係頻度が見つかりません
8031	ソース %2 で %1 属性が見つかりません
8032	検索文字列には少なくとも %1 文字必要です
8033	ソースが指定されていません
8034	ソースが存在しません (srcId : %1)
8035	ソースが存在しません (extId : %1)
8036	メタデータ・フィールドが指定されていません
8037	メタデータ・フィールドが存在しません (フィールド ID : %1)
8038	メタデータ・フィールドが存在しません (フィールド名 : %1)
8039	指定されたメタデータ値 '%1' は MD ドメイン %2 では許可されていません
8040	メタデータ・フィールド '%1' はこのドメインにすでに存在します
8041	ディクショナリ %1 は存在しません
8042	ディクショナリ項目 %1 は存在しません
8043	ディクショナリ用語 %1 は存在しません
8044	ディクショナリ要素 %1 は存在しません
8045	URI '%1' のディクショナリ項目はすでに存在します
8046	ディクショナリ・フォーマット・クラス %1 は存在しません
8047	ディクショナリ用語のインデックス作成中に内部エラーが発生しました
8048	メタデータ演算子 '%1' はフィールド %2 でサポートされていません
8049	メタデータ LOV %1 は存在しません

エラー・コード	説明
8050	バッファ・テキストの小文字への変換に失敗しました
8051	%1 に対応するエンコーディング・オブジェクトの作成に失敗しました
8052	文字列のトランスコードに失敗しました
8053	不正なインデクサ ID が指定されています
8054	未知の言語 ID が指定されています
8055	不正なオブジェクト ID が指定されています
8056	ファイル %1 を開くのに失敗しました
8057	KB をロードせずにインデックスを作成できません
8058	インデクサがサポートされている最大サイズよりも大きなデータ項目を返しました
8059	出力データを返そうとしたときにインデクサが失敗しました
8060	不正なデータ処理オブジェクトがインデクサに渡されました
8061	構成 %1 は存在します
8062	言語は \$list 形式である必要があります
8063	言語 %1 は存在しません
8064	ライブラリのロードに失敗しました : %1
8065	iKnow エンジンを実インスタンス化できません
8066	iKnow インデクサのロックに失敗しました
8067	リスナ ID を開くことができません : %1
8068	このドメインでは Ngram 検索は有効ではありません
8069	バッチ・モードでは、既存の MD 値を上書きできません
8070	指定されたメタデータ値のカウント (%1) はキー・カウント (%2) に対応していません
8071	コンバータ ID を開くことができません : %1
8072	プロセッサ ID を開くことができません : %1
8073	バッチ・ロード用にスケジュールされたリストがまだ存在します。これらを最初に処理するか、Loader.Reset() を呼び出してください
8074	インデクサ・プロセスが失敗しました
8075	ローダ・インスタンスの作成に失敗しました
8076	外部 ID の分割に失敗しました : %1
8077	不明のリスタ・クラスまたはエイリアスです : %1
8078	抽象クラスではなく、リスタ・クラスを実装するには BuildExtIdFromName() を呼び出す必要があります
8079	一致する ID が存在しません : %1
8080	構成 ID (%1) と名前 (%2) が一致しません
8081	ビット文字列が存在しません

エラー・コード	説明
8082	%1 の \$List が不正です
8083	ビルドに失敗しました : %1
8084	ワーカ・プロセスの開始に失敗しました
8085	このクエリでは、仮想ソース ID が 1 つのみサポートされています
8086	仮想ソース %1 がこのドメインに見つかりません
8087	ディクショナリ要素値が長すぎます : %1
8088	ID %1 のグループは存在しません
8089	外部 ID を持つソースはすでに存在します : %1
8090	文字列が長すぎます : %1
8091	名前 '%1' のブラックリストは既に存在します
8092	'%1' という名前のディクショナリは既に存在しています
8093	ID %1 のブラックリストが存在しません
8094	要求された iKnow 言語データをロードできませんでした。その原因としては、gmheap 設定の値が十分な大きさではないことが考えられます
8095	ドメイン・パラメータ '%1' を設定できません (未知、またはユーザ構成ができません)
8096	パラメータ '%1' を変更する前に、ドメインが空である (ソースもエンティティもない) 必要があります
8097	iKnow はこのライセンスでは使用できません
8098	結果パラメータの値 %1 が不正です (出力 var の場合は空、グローバル出力の場合は ^ で始まる必要があります)
8099	クエリ結果のコンパイル中に STORE エラーが発生しました。ページ・サイズを小さくするか、グローバル出力を使用してください
8100	ゲートウェイ要求に失敗しました : %1
8101	ゲートウェイ要求の例外です : %1
8102	ゲートウェイ要求にデータがありません : %1
8103	ゲートウェイ要求がタイムアウトしました : %1

テーブル 1-27: 一般的なエラー・コード - 8200 から 8299

エラー・コード	説明
8200	最大概念長は正数である必要があります
8201	ユーザには、データベースへの書き込み権限はありません
8202	インデックス %1 (%2) にリスタ・パラメータがありません
8203	インデックス %1 (%2): "%3" のリスタ・パラメータが無効です
8204	このローダ・インスタンスにはリスタが登録されていません。最初に Loader.SetLister() を使用してください
8205	"%1 という名前のユーザ・ディクショナリは存在しません
8206	id %1 のユーザ・ディクショナリは存在しません

エラー・コード	説明
8207	“%1” という名前のユーザ・ディクショナリは既に存在します
8208	無効なフィルタ・スペックです: “%1”
8209	ソース %1 で関係優位性が見つかりません
8210	ソース %2 で近似フィールド %1 が見つかりません
8211	%1 は妥当なコンバータ・クラスではありません
8212	%1 は妥当なプロセッサ・クラスではありません
8213	ソース %1 で概念優位性が見つかりません
8214	ソース %3 で %1 フィールド %2 が見つかりません
8215	指定されたマッチング・プロファイルは最後に変更されてから保存されていません
8216	“%1” という名前のマッチング・プロファイルはドメイン %2 に存在しません
8217	DeepSee が管理するドメインに DeepSee 以外からソースを追加することはできません
8218	“%1” という名前のマッチング・プロファイルは既に存在します
8219	“%1” は妥当なマッチング・プロファイル名ではありません (コロンは使用できません)
8220	この機能はバージョン %1 以降のドメインでのみサポートされています
8221	このパラメータにはシステム・レベルで既に '%1' が設定されています。先に UnsetSystemParameter() を使用してその値をクリアしてください
8222	ロックの取得ができません
8223	%1 オブジェクトは変更されています。最初に保存してください
8224	このネームスペースに空でないドメインが存在していない場合は、ドメイン・パラメータ '%1' はネームスペース・レベルでのみ変更できます
8225	ドメイン・パラメータ '%1' を '%2' に変更できません。不正な値です
8226	ID %1 のメトリックは存在しません
8227	メトリック '%1' は存在しません
8228	ID %2 のメトリック・ターゲット '%1' は存在しません
8229	メトリック '%1' はターゲット '%2' をサポートしていません
8230	ドメイン %1 は %2 によって管理されているため、直接更新することはできません
8231	%1 %2 は %3 によって管理されているため、直接更新することはできません
8232	iKnow エンジンの内部エラーです : %1
8233	このクエリを解決するために必要なデータ構造体のうち少なくとも 1 つが作成されていないか最新ではありません。ドメインのビルド・フラグ (%1) を確認してください
8234	iKnow 言語モデルをロードできませんでした。ファイル: %1、行: %2、'%3'
8235	“system” ドメインは仮想ソースのみをサポートします
8236	この処理は “system” ドメインではサポートされていません
8237	iKnow エンジンでは現在のドキュメントを処理するための十分なメモリを割り当てることができませんでした

エラー・コード	説明
8238	このドメインでは語幹解析は有効ではありません
8239	検索文字列の構文エラー: 括弧の不一致

テーブル 1-28: 一般的なエラー・コード - 8300 から 8599

エラー・コード	説明
8300	パターン引数がありません
8301	ICU 正規表現エラー番号 %1 (0x%2)
8310	ICU 正規表現ライブラリの内部エラーです
8311	regexp パターンの構文エラーです
8312	要求された操作に対して RegexMatcher が無効な状態です
8313	認識されないバックスラッシュ・エスケープ・シーケンスがパターンに含まれています
8314	不正な Unicode プロパティです
8315	まだ実装されていない regexp 機能を使用しました
8316	regexp パターンの括弧が正しく入れ子にされていません
8317	ICU ライブラリに対して 10 進数の値が大きすぎます
8318	間隔 {min,max} でのエラーです
8319	{min,max} で min よりも小さい max が指定されています
8320	存在しない収集グループへの後方参照です
8321	一致モードフラグの無効な値です
8322	Look-Behind パターン・マッチでは最大長を制限する必要があります
8323	regexp では文字列を含む UnicodeSets を指定できません
8324	8 進数の文字定数は 0377 よりも大きくすることはできません
8325	括弧式の閉じ括弧がありません
8326	文字範囲 [x-y] で y よりも大きい x が指定されています
8327	正規表現のバックトラック・スタックがオーバーフローしています
8328	許容される最大一致回数を超過しました
8329	ユーザ・コールバック fn によってマッチング処理が中止されました
8351	インデックス (グループ番号など) が範囲外です
8352	不正な引数です (パターンに空文字列を指定した場合など)
8400	GUID が '%1' のファイルがありません
8401	名前が '%1' のファイルがありません
8402	名前が '%1' のファイルが '%2' にありません
8403	名前が '%1' のファイルが複数あります
8404	名前が '%1' のファイルが '%2' に複数あります

エラー・コード	説明
8405	'%1' より前のファイルがありません
8406	'%2' という接頭語が付加された '%1' より前のファイルがありません
8500	エラー：オフセット %3 (%4) の %2 行目の '%1'
8501	エラー：オフセット %3 (%4) の %2 行目の '%1'

テーブル 1-29: 一般的なエラー・コード - 8600 から 8899

エラー・コード	説明
8600	アプリケーション・ライセンスを返すことができません。範囲外のセッションです
8601	無効なライセンスが付与されたアプリケーション名です
8602	ライセンス・キー・ファイル '%1' を開けません
8603	有効なライセンス・キー・ファイルではありません
8604	ライセンス・キーは失効しました
8605	ライセンス・キーが無効です
8606	製品バージョンに対して無効なライセンス・キーです
8607	このシステム (%1 コア) は IRIS に対して許可された CPU コア制限 (%2) を超えています
8608	このシステム (%1 コア) は IRIS に対して許可された CPU コア制限 (%2) を超えています
8609	このプラットフォーム (%2) に対して無効なライセンス・キー・プラットフォーム (%1) です
8610	シングル・ユーザ (SU) プラットフォーム上ではライセンス・キーは受け入れられません。
8611	ライセンスが付与されたアプリケーション (%1)、キーワード (%2)、値 (%3) が数字ではありません。
8612	アプリケーション (%1) のライセンスがありません。
8613	ユーザのアプリケーション接続数がオーバーフローしました。
8700	XData が見つかりません - クラス : %1 名前 : %2
8701	ディスパッチ・マップ・スキーマ検証に失敗しました
8800	通知が無効です
8801	通知プロトコル '%1' はサポートされていません
8802	デバイス・トークンが無効です
8803	%1 への APNS 接続が %2 秒後にタイムアウトしました
8804	プッシュ通知の試行が失敗しました
8805	プッシュ通知の試行が失敗しました: %1
8806	APNS からの応答が無効です: %1
8807	%1:%2 への接続が失敗しました
8808	APNS が接続を終了しました
8809	%1 への接続が失敗しました
8810	予期しない HTTP ステータス %1: '%2'

エラー・コード	説明
8812	プッシュ通知の試行が失敗しました
8813	プッシュ通知の試行が失敗しました: %1

1.8 エラー・コード 9000 から 9999

テーブル 1-30: 一般的なエラー・コード - 9000 から 9299

エラー・コード	説明
9000	クラス (%1) は最新ではありません
9001	名前 : (%1) は既に存在します
9002	クラス (%1) が生成されました
9003	クラス (%1) を開けません
9004	クラス (%1)、メソッド (%2) を解析できません
9005	クラス (%1) が配置されました
9100	エクステント・サイズは正の数 '%1' である必要があります。
9200	%1
9201	"%1" は有効なオプションではありません
9202	"%1" は ImportTableExists オプションの有効な値ではありません。
9203	データ型 "%1" はインポート列ではサポートされません。
9204	テーブル %1 は、既に存在しています。
9205	テーブル名 "%1" (ネームスペース %2 内) に対するロックを獲得できません。
9206	インポート・テーブル列の指定に構文エラーがあります。
9207	構文エラー : キーワード "AS" は SQL データ型名 "%1" と一緒に使用しないでください。
9208	データ型パラメータ "%1" はサポートされていません。
9209	データ型パラメータ "%1" はデータ型 %2 に対してはサポートされていません。
9210	カーディナリティ "%1" はサポートされていません。
9211	時刻形式 %1 はサポートされていません。
9212	指定された逆リレーションシップ名 "%1" はクラス %2 の既存のプロパティと競合しています。
9213	逆リレーションシップ名をリレーションシップ・プロパティ %1 に対して指定する必要があります。
9214	オプション "%1" は接続レベルでは設定できません。
9215	MapReduceResult を作成する前に接続する必要があります。
9216	コマンドを実行する前に接続する必要があります。
9217	コマンドを実行する前に接続する必要があります。
9218	クラス %1 を同期するために必要なロックを獲得できません。

エラー・コード	説明
9219	クラス %1 のチェックポイントをロールバックするために必要なロックを獲得できません。
9220	ID %1 との同期ジョブに関する情報を入手できません。

テーブル 1-31: 一般的なエラー・コード - 9300 から 9400

エラー・コード	説明
9300	シャード %1:%2:%3 がエラーを返しました
9301	%1 個のシャードがエラーを返しました
9302	ID が "%1" のトランザクションは既に開始しています
9303	無効なトランザクション状態の移行: %1 から %2
9304	無効なトランザクション状態の移行: %1 から %2
9305	ホスト %1 ポート %2 への ECP 接続を開くことができません
9306	ホスト %1 ポート %2 への ECP 接続を閉じようとして失敗しました
9307	セマフォ %1 の作成に失敗しました
9308	ホスト %1 ポート %2 への TCP/IP 接続を開くことができません
9309	セマフォ %1 の削除に失敗しました
9310	要求された操作はストレージ・モデル %1 ではサポートされていません
9311	%1 の並列ロードは既に進行中です
9312	%1 はシャード・テーブルではありません
9313	%1 のコンパイルされたシャード・ローカル・クラスが見つかりません
9314	クラス %1 に %2 個のストレージ定義があります
9315	ホスト %2 上のシャード・ネームスペース %1 がリモート・ホスト %3 にマップされています
9316	ユーザ %1 をホスト %2、ポート %3 のシャード・サーバにログインできません
9317	マッピングの更新に対するロックの待機がタイムアウトしました
9318	ホスト %1 ポート %2 のシャード・ネームスペース %3 への接続がリセットされました。操作を再試行してください
9319	現在のネームスペース %1 にシャードが構成されていません
9320	現在のネームスペース %1 はシャードではありません
9321	インスタンスは現在のプライマリ・フェイルオーバー・メンバではありません
9322	ネームスペース %1 にシャード %2 が設定されていません
9323	ホスト名 %2 ポート %3 ネームスペース %4 のシャード %1 にアプリケーション・サーバが割り当てられていません
9324	無効な SQL 文です
9325	ID 範囲の割り当てエラー、SQLCODE %d、SQL メッセージ: %2
9326	テーブルにユーザ定義のシャード・キーが存在している間はシャードを追加できません

エラー・コード	説明
9327	新しいシャード %1 をアクティブにできませんでした。ActivateNewShards を呼び出す必要があります
9328	要求された操作は、マスタ・ネームスペース %1 のグローバル・データベースが存在するホストで実行する必要があります
9329	シャード・ルーチン・データベース・パス %1 を作成できません。内部エラー %2
9330	シャード・ルーチン・データベースを作成できません。DAT データベース・ファイルは %1 に既に存在します
9331	シャード・ルーチン・ネームスペース %1 を作成できません。その名前のネームスペースは既に存在します
9332	シャード・ルーチン・データベース %1 を作成できません。その名前のデータベースは既に存在します
9333	シャード・ルーチン・データベース %1 にパスが定義されていません
9334	マスタ・ネームスペース %1 にシャード・ルーチン・ネームスペースが定義されていません
9335	マスタ・ネームスペース %1 にシャード・ルーチン・ネームスペースが定義されていません
9336	テーブルの削除: %1.DeleteExtent() に失敗し、%2 行削除されませんでした
9337	認証エラー: %1
9338	シャード %2:%3:%4 で %1 が有効になっていません
9339	シャード %1:%2:%3 は IP アドレス %4 からの着信接続を許可しません
9340	ホスト名 %1 を IP アドレスに変換することはできません
9341	シーケンス外のメッセージです。メッセージ・コード %1 が必要ですが、メッセージ・コード %2 を受信しました
9342	接続要求に指定されている IP アドレス %1 が、開始 IP アドレス %2 と一致していません
9343	このシステムのホスト名または IP アドレスが見つかりません
9344	プライマリ・ミラー・フェイルオーバー・メンバのマスタ・ネームスペース %1 がミラーリングされていません
9345	クエリ・シャードをミラーリングできません
9346	シャード・テーブルが存在する間はデータ・シャードを割り当て解除できません
9347	ネームスペース %1 に、ホスト名 %2、ポート %3、ネームスペース %4 のシャードがありません
9348	エンティティ %2 のシャード数 %1 が合計シャード数 %3 より多くなっています
9349	割り当て解除されたシャード %1:%2:%3 をクリーンアップできませんでした
9350	シャード %1:%2:%3 は既に割り当てられています
9351	シャード %1:%2:%3 は別のマスタ (%4:%5:%6) に既に割り当てられています
9352	ネームスペース %2 内のシャード %1 にクエリ・シャード %3 が設定されていません
9353	ネームスペース %1 にシャードが構成されていません
9354	シャード %1 が検証に失敗しました
9355	%1 個のシャードが検証に失敗しました

エラー・コード	説明
9356	シャード %2 のクエリ・シャード %1 が検証に失敗しました
9357	%1 個のクエリ・シャードが検証に失敗しました
9358	内部エラー: 認識不能なメッセージ・コード %1
9359	MaxServers の設定 %1 が少なすぎます。%2 が必要です
9360	MaxServersConn の設定 %1 が少なすぎます。%2 が必要です
9361	MaxServers の設定 %1 と MaxServerConn の設定 %2 が両方とも少なすぎます。%3 が必要です
9362	クエリ・シャードが間違ったディレクトリ %1 にマップされています。%2 にマップする必要があります
9363	クエリ・シャードが間違ったインスタンス %1:%2 にマップされています。%3:%4 にマップする必要があります
9364	バックアップ・メンバ・アドレス %1:%2 で割り当てられているシャードが実際にはミラーリングされていません
9365	バックアップ・メンバ・アドレス %1:%2 で割り当てられているシャードが実際にはバックアップ・メンバ・アドレス %3:%4 で構成されています
9366	%1 は有効なオプションではありません
9367	%1 はオプション %2 の有効な値ではありません
9368	マスタ・ネームスペース %1:%2:%3 をシャードとして割り当てることはできません
9369	ミラーリングされたシャード %1:%2:%3 のグローバル・データベースは、ミラーリングする必要があります
9370	ReassignShard を実行する前に、シャード %1:%2:%3 の前のデータベースをディスマウントする必要があります
9371	シャードニングは、このバージョンでは有効になっていません
9374	シャード %2 %3:%4:%5 でのジョブ %1 からの応答の待機がタイムアウトしました
9375	シャード %1 からの有効な応答を読み取ることができません。ポート番号 %2 が正しくない可能性があります
9376	シャードニング・サービスがシャード・サーバで有効になっていません
9377	ECP サービスが有効になっていません
9378	CPF ファイルが変更され、まだ有効になっていないため、インスタンスの再起動が必要です
9379	バージョン %1 の現在のインスタンスは、バージョン %2 のシャード・クラスタにはアクセスできません
9380	シャード %1:%2:%3 バージョン %4 をバージョン %5 のシャード・クラスタに割り当てることはできません
9381	インスタンスがアップグレードされているため、\$SYSTEM.Sharding.Upgrade() をマスタ・ネームスペースで実行する必要があります

1.9 エラー・コード 15000 以上

テーブル 1-32: 一般的なエラー・コード - 15000 以上

エラー・コード	説明
15414	インデックス・キー・プロパティ、クラス '%1' の '%3'、インデックス '%2' のタイプがシリアル・タイプではありません。
15511	SQL マップ '%1' は条件付きですが、条件が NULL です。
15555	クラス %1 の文字列形式が正しくありません : '%2' = %3
16000	行 : '%1' オフセット : '%2'。
16001	ドキュメント '%1' を開くことができませんでした。
16002	無効な JSON コンテンツです。
16003	HTTP POST にコンテンツが含まれていません。
16004	不明な要求タイプです : '%1'。
16005	ドキュメント '%1' は存在しません。
16006	ドキュメント '%1' の名前が無効です。
16007	デバッガ・コマンド '%1' を解析できませんでした。

1.10 非数値エラー・コード

テーブル 1-33: その他のエラー・コード

エラー・コード	説明
DisplayStringLoaderError	DisplayStringLoader エラー '%1'
DisplayStringLoaderException	DisplayStringLoader 例外 '%1'
DomainOrFilesEmpty	ドメイン・パラメータ、またはファイル・パラメータは空ではいけません
ERROR	ERROR
ErrDisplayStringNotFound	Id='%1', domain='%2', language='%3' の DisplayString が未定義です。
ErrNoSaveMasterStrings	MasterLanguage '%1' からファイル %2 への XData MasterStrings の保存に失敗しました。
MasterStringsNewer	%1 XData MasterStrings は %2 の文字列よりも新しい文字列です - 最初の差異 = %3
MasterStringsOlder	%2 の %1 文字列は XData MasterStrings よりも新しい文字列です - 最初の差異 = %3
MessageDomainNotFound	ドメイン・パラメータで指定されたドメインは、どのメッセージ・ファイルにも見つかりませんでした
NoStatusCode	(エラーの説明はありません)

エラー・コード	説明
OK	OK
STATUS	STATUS
UnknownStatusCode	未知のステータス・コード:
警告	警告
XMLImportLocation	(行 %1 の文字 %2 で終了)

2

SQL エラー・メッセージ

以下のテーブルは、InterSystems IRIS® Data Platform の SQL の数値エラー・コードとそのエラー・メッセージの一覧です。これらのコードは、[SQLCODE 変数](#)の値として返されます。

注釈 このドキュメントでは、負の値のエラー・コードを一覧表示していますが、JDBC クライアントと ODBC クライアントでは、常に正の値を受け取ります。例えば、ODBC や JDBC のアプリケーションがエラー・コード 30 を返した場合、以下のテーブルではエラー・コード -30 を確認してください。

2.1 SQLCODE 0 と 100

この 2 つの SQLCODE は、SQL エラーを表すものではありません。

テーブル 2-1: SQL エラー・コード 0 および 100

エラー・コード	説明
0	正常に処理が完了しました
100	(これ以上) データがありません

- SQLCODE=0 は、SQL 処理が正常に終了したことを示します。SELECT 文の場合、通常、これはテーブルからのデータの取得に成功したことを意味します。ただし、SELECT で[集約演算](#)(SELECT SUM(myfield) など)を実行する場合、myfield にデータがなくても集約演算は成功し、SQLCODE=0 が発行されます。この場合、SUM は NULL を返し、%ROWCOUNT=1 となります。
- SQLCODE=100 は、SQL 操作は成功したが処理するデータが見つからないことを意味します。これは、さまざまな理由で発生します。SELECT の場合、指定したテーブルにデータがない、テーブルにクエリの条件を満たすデータがない、行の検索がテーブルの最終行に達した、などの理由があります。UPDATE または DELETE の場合、指定したテーブルにデータがない、テーブルに WHERE 節の条件を満たすデータの行がない、などの理由があります。このような場合、%ROWCOUNT=0 となります。

埋め込み SQL では、SQLCODE=100 の場合、INTO 節で指定された[出力ホスト変数](#)は NULL になります。

2.2 SQLCODE -400

SQLCODE -400 エラー “深刻なエラーが発生しました” は、一般エラーです。より具体的な SQLCODE エラー・コードが利用可能でない場合に生成されます。

2.3 SQL メッセージ・テキストの取得

SQLCODE 数値コードの意味を確認するには、以下の ObjectScript 文を使用します。

ObjectScript

```
WRITE "SQLCODE=", $SYSTEM.SQL.Functions.SQLCODE(-nnn)
```

この SQLCODE() メソッドは、ストアド・プロシージャ %SYSTEM_SQL.Functions_SQLCODE(-nnn) として呼び出すこともできます。

この場合（通常は SQL コンパイル時）、エラー・メッセージはエラーの原因となったフィールド、テーブル、ビュー、他の要素の名前を含みます。これらの名前のプレースホルダは <name> 構文規約を使用して示されます。

%msg 変数には、特定のエラーに対する追加のメッセージ・エラー・テキストが含まれる場合があります。詳細は、“InterSystems SQL の使用法” の “埋め込み SQL の使用法” の章の “システム変数” を参照してください。

返されるメッセージ・テキストの英語版を以下に示します。実際のメッセージ・テキストはロケールの設定によって異なります。

SQLCODE エラーからの ObjectScript の一般的なエラーの生成の詳細は、“インターシステムズ・クラス・リファレンス” の %SYSTEM.Error クラスを参照してください。

2.4 SQL エラー・コードおよびメッセージのテーブル

使いやすさを考慮して、SQL エラー・コードのテーブルは以下のサブテーブルに分けられています。

- ・ エラー・コード 0 および 100
- ・ エラー・コード -1 から -99
- ・ エラー・コード -101 から -399
- ・ エラー・コード -400 から -500
- ・ WinSock エラー・コード -10050 から -11002

テーブル 2-2: SQL エラー・コード -1 から -99

エラー・コード	説明
-1	無効な SQL 文です
-2	'E' の後に指数を表す数字が見つかりません
-3	引用文を閉じる (") が見つかりません

エラー・コード	説明
-4	識別子、定数、集約、%ALPHAUP、%EXACT、%MVR、%SQLSTRING、%SQLUPPER、%STRING、%UPPER、\$\$、:、+、-、(、NOT、EXISTS、または FOR のいずれかが先頭にある単語が必要です。
-5	ORDER に指定された列番号が SELECT リストに一致しません
-6	UNION の後に SELECT 列として ORDER BY 列が見つかりません
-7	指数が範囲外です
-8	DATEPART()、DATENAME()、DATEADD()、DATEDIFF() の無効な DATEPART コードです
-9	互換性のない SELECT リストが UNION で使用されています
-10	サブクエリの SELECT リストは必ず 1 つの項目を持つ必要があります
-11	条件式ではなく、スカラ式が必要です
-12	識別子、定数、集約、\$\$、:、(、+、-、%ALPHAUP、%EXACT、%MVR、%SQLSTRING、%SQLUPPER、%STRING、または %UPPER のいずれかが先頭にある単語が必要です。
-13	ここではサブクエリ以外の式が必要です
-14	ここでは比較演算子が必要です
-15	NOT の後には条件が必要です
-16	for 文では、FOR の後に修飾子 SOME が必要です
-17	for 文では、(の後に for の条件が必要です
-18	IS (あるいは IS NOT) NULL 述語はフィールドにのみ適用できます
-19	集約関数は WHERE 句および GROUP BY 句の中では使用できません
-20	FROM リストのラベルで名前が重複しています
-21	ポインタ→フィールド参照は INSERT または UPDATE 文で変更できません
-22	'SELECT *' の後に続ける場合、ORDER には番号ではなく列名を指定する必要があります
-23	ラベルが該当するテーブルでリストされていません
-24	ソート列が不明確です
-25	クエリの終了後に入力が検出されました
-26	FROM 句が見つかりません
-27	フィールドが該当するテーブルで不明確です
-28	ホストの変数名は % か文字のいずれかで始まる必要があります
-29	該当するテーブルでフィールドが見つかりません
-30	テーブルまたはビューが見つかりません
-31	テーブル内にフィールドが (見つかりません/一意ではありません)
-32	外部結合記号 (=* または *=) が 2 つのフィールド間に必要です
-33	テーブルにフィールドが見つかりません
-34	オプティマイザが使用可能な結合順序を見つけることができませんでした

エラー・コード	説明
-35	INSERT/UPDATE/DELETE は更新できないビューを許可していません
-36	WITH CHECK OPTION (CHECKOPTION クラスパラメータ) は更新できないビューを許可していません
-37	SQL スカラ/集約/単項関数はストリーム・フィールドでサポートされていません
-38	テーブルにマスタ・マップがありません
-39	テーブルに RowID フィールドがありません
-40	ODBC のエスケープ拡張はサポートされていません
-41	外部関数の呼び出しは、'\$tag^routine(...)' の形式になる必要があります
-42	パターン・マッチの後ろに続く引用を閉じる (""') が見つかりません
-43	テーブルは #IMPORT スキーマ名リスト内で不明確です
-44	重複メソッドまたはクエリの指数部です
-45	ObjectScript クエリに重複メソッドがあります
-46	ObjectScript クエリ・ボディに必須メソッドがありません
-47	無効なメソッドまたはクエリの指数部です
-48	トリガイベントの無効なトリガ REFERENCING 節です
-49	トリガを起動する言語が SQL 以外の場合、トリガ REFERENCING 句を指定できません
-50	トリガを起動する言語が SQL 以外の場合、トリガは UPDATE OF <fieldlist> 節を指定します
-51	SQL 文が必要です
-52	カーソルは既に宣言されています/宣言されていません
-53	新しい値として定数または変数が必要です
-54	VALUES の後に (最後の添え字が省略された) 配列識別子が必要です
-55	無効な GRANT <role> TO または REVOKE <role> FROM です
-56	GRANT/REVOKE 動作は、このタイプのオブジェクトに対応していません
-57	トリガを起動する言語が SQL 以外の場合、トリガは WHEN 句を指定します
-58	トリガ UPDATE OF フィールド_リスト句で重複フィールドが見つかりました
-59	複数のフィールドを持つことはできません
-60	%ALTER、SELECT、UPDATE などの動作が必要です
-61	カーソルを更新できません
-62	INSERT/UPDATE に新しい値を追加する必要があります
-63	データの例外 - 無効なエスケープ文字です
-64	互換性のない SELECT リストが INSERT で使用されています
-65	正の整数の定数または変数が必要です
-66	SELECT リストに冗長なフィールドがあります
-67	暗黙結合 (矢印構文) は ON 節ではサポートされません

エラー・コード	説明
-68	ON 節で、従来の外部結合 (=*, *=) がサポートされなくなりました
-69	SET <field> = <value expression> を WHERE CURRENT OF <cursor> で使用できません
-70	Multi-Line フィールドは LIKE、包含 (D)、または NULL 比較でのみ有効です
-71	Multi-Line フィールドは比較の左側オペランドである必要があります
-72	Multi-Line フィールドが ORDER BY 節で無効です
-73	集約関数が ORDER BY 節でサポートされていません
-74	<select-list> の別名に重複が見つかりました
-75	TRIM 関数では FROM よりも前に <trim_spec> および/または <trim_char> が必要です
-76	SELECT リストと INTO リストの要素数が一致していません
-77	この JOIN コンテキストでは条件付きの列参照ができません
-78	無効なトランザクション状態です
-79	参照するキーと参照されるキーは、同じサイズである必要があります
-80	整数が必要です
-81	列の制約が必要です
-82	複数のテーブルの %DESCRIPTION 定義が見つかりました
-83	複数のテーブルの %FILE 定義が見つかりました
-84	複数のテーブルの %NUMROWS 定義が見つかりました
-85	複数のテーブルの %ROUTINE 定義が見つかりました
-86	無効なフィールド定義です。データ型が定義されていません。
-87	無効なテーブル名です
-88	無効なフィールド名です
-89	無効なインデックス名です
-90	無効なビュー名です
-91	トランザクション・モードは複数回指定することはできません
-92	READ WRITE が指定されている場合は level of isolation を READ UNCOMMITTED や READ VERIFIED にすることはできません
-93	DIAGNOSTICS SIZE の number of conditions は数値でなければなりません
-94	OUTER JOIN の使用はサポートされていません
-95	オペレーション・テーブルによって操作は不許可にされています
-96	指定された level of isolation はサポートされていません
-97	重複している select-list の名前が見つかりました
-98	ライセンスの違反です
-99	特権の違反です

テーブル 2-3: SQL エラー・コード -101 から -399

エラー・コード	説明
-101	既に開いているカーソルを開こうとしています
-102	開いていないカーソルで (FETCH/CLOSE/UPDATE/DELETE/...) という操作を実行しようとしました
-103	UPDATE または DELETE を実行しようとしたが、カーソルはどの行にもありません
-104	INSERT でフィールドの確認に失敗しました。または、値を DisplayToLogical あるいは OdbcToLogical で変換できませんでした
-105	UPDATE でフィールドの確認に失敗しました
-106	DELETE する行が見つかりません
-107	RowID またはフィールドに基づく RowID を UPDATE できません
-108	必要なフィールドが見つかりません。INSERT または UPDATE を実行できません
-109	UPDATE に指定された行が見つかりません
-110	ファイルのロックが重複しています
-111	“既定値のみ” の RowID またはフィールドに基づく RowID に INSERT できません
-112	アクセス違反です
-113	%THRESHOLD 違反です
-114	一致する行が既に別のユーザにロックされています
-115	読み取り専用のテーブルでは、INSERT、UPDATE、DELETE できません
-116	値リストとテーブル列数の INSERT/UPDATE が一致していません
-117	集約関数はビューでサポートされていません
-118	不明なあるいは一意でないユーザもしくはロールです
-119	UNIQUE あるいは PRIMARY KEY 制約が INSERT の一意性チェックに失敗しました
-120	UNIQUE あるいは PRIMARY KEY 制約が UPDATE の一意性チェックに失敗しました
-121	FOREIGN KEY 制約は、参照テーブルで行の INSERT の参照先チェックに失敗しました
-122	FOREIGN KEY 制約は、参照テーブルで行の UPDATE の参照先チェックに失敗しました
-123	FOREIGN KEY 制約は、参照元テーブルで行の UPDATE の参照チェックに失敗しました
-124	FOREIGN KEY 制約は、参照元テーブルで行の DELETE の参照チェックに失敗しました
-125	UNIQUE あるいは PRIMARY KEY 制約が、制約条件の生成で一意性チェックに失敗しました
-126	RESTRICT の REVOKE に失敗しました
-127	FOREIGN KEY 制約が、制約条件の生成で参照一貫性チェックに失敗しました
-128	スカラ関数 %OBJECT() への引数はストリーム・フィールドである必要があります
-129	SET OPTION のロケール・プロパティの値が不正です
-130	Before Insert トリガに失敗しました
-131	After Insert トリガに失敗しました

エラー・コード	説明
-132	Before Update トリガに失敗しました
-133	After Update トリガに失敗しました
-134	Before Delete トリガに失敗しました
-135	After Delete トリガに失敗しました
-136	ビューの WITH CHECK OPTION 検証が INSERT に失敗しました
-137	ビューの WITH CHECK OPTION 検証が UPDATE に失敗しました
-138	読み取り専用フィールドに値を INSERT および UPDATE できません
-139	更新時に並行処理が失敗しました。行バージョンが異なります
-140	無効な長さのパラメータが SUBSTRING 関数に渡されました
-141	無効な入力値が CONVERT 関数に渡されました
-142	View-Columun リストとビュー・クエリの SELECT 節の要素数が一致していません
-143	ORDER BY はビューのクエリに使用できません
-144	INSERT 文の SET/VALUES 節にはサブクエリを使用できません
-145	このテーブルでは、SQLPREVENTFULLSCAN クラス・パラメータは 1 です。データ・マップのフル・スキャンを実行するクエリは許可されません
-146	入力された日付を妥当な日付論理値に変換できません
-147	入力された時刻を妥当な時刻論理値に変換できません
-148	CREATE VIEW、ALTER VIEW、またはビューのクエリにはホスト変数参照が含まれていない可能性があります
-149	SQL 関数でエラーが発生しました
-150	クラス定義の楽観的同時実行ロックに失敗しました
-151	この文で使用されているテーブル内にインデックスが見つかりません
-152	この文で使用されているテーブル内でインデックスがあいまいです
-153	SQL コンパイル・オプションのコメントに無効な JSON 文字列が含まれています
-154	シャード・キーの一部であるフィールドは更新できません
-155	外部 (リンク) への INSERT/UPDATE では、新しい値を入力するために配列変数を使用することはできません
-161	SQL 接続の参照は、サブクエリ全体を構成する必要があります
-162	SQL 接続が定義されていません
-163	Heterogeneous queries via the JDBC gateway are not supported
-180	Model name not unique
-181	Model or Trained Model not found
-182	No query is defined for the model
-183	Predicting Column cannot appear in the specified WITH column list
-184	Provider class not found

エラー・コード	説明
-185	Predicting Column only has one unique value in the dataset
-186	Model's Provider is unavailable on this instance
-187	ML Configuration not found
-188	ML Configuration property is not supported for this provider
-189	Cannot DROP the System Default ML Configuration
-190	IntegratedML not permitted with current license
-191	Model has no default trained model. It may not have been trained.
-192	ML Configuration name not unique
-193	Model Column / With Column type mismatch
-194	Cannot specify NOT DEFAULT when the Trained Model name is the same as the Model's DefaultTrainedModel
-201	テーブルまたはビューの名前が一意ではありません
-220	ゲートウェイ・クエリ・エラー
-221	ゲートウェイ・クエリの GetConnection() が失敗しました
-222	ゲートウェイ・クエリの AllocStatement() が失敗しました
-223	ゲートウェイ・クエリの Prepare() が失敗しました
-225	ゲートウェイ・クエリの BindParameters() が失敗しました
-226	ゲートウェイ・クエリの Execute() が失敗しました
-227	ゲートウェイ・クエリの Fetch() が失敗しました
-228	ゲートウェイ・クエリの GetData() が失敗しました
-229	Foreign table query error
-230	外部テーブル・クエリ Execute() が失敗しました
-231	外部テーブル・クエリ Fetch() が失敗しました。
-232	外部テーブル・クエリ Close() が失敗しました。
-233	Cardinality mismatch between COLUMNS/VALUES clause and number of table columns
-234	Invalid foreign server type
-235	Invalid foreign data wrapper
-241	並列クエリのキュー・エラー
-242	並列クエリの実行時エラー
-251	シャード・クエリのキュー・エラー
-252	シャード・クエリの実行時エラー
-253	シャード化された INSERT/UPDATE/DELETE の実行時エラー
-300	このテーブルの定義では DDL を使用できません
-301	セーブポイント名がありません

エラー・コード	説明
-302	“SYS” から始まるセーブポイント名は予約されます
-303	UPDATE 割り当てでストリーム・フィールドから非ストリーム・フィールドへの暗黙の変換はありません
-304	既定値のない NOT NULL フィールドを、データを持つテーブルに追加しようとした
-305	テーブルの行が NULL の列値を持つ場合に必要となるフィールドを作成しようとした
-306	この名前の列が既に存在します
-307	このテーブルに既に主キーが定義されています
-308	このテーブルに既に ID 列が定義されています
-309	%CONTAINS の左のオペランドは %Text インタフェースをサポートするプロパティではありません
-310	外部キーが参照しているテーブルが存在しません
-311	このテーブルに既に同じ名前の外部キーが定義されています
-312	無効なスキーマ名です。このスキーマ名を参照するには、区切り識別子を使用する必要があります
-313	条件式はストリーム・フィールドでサポートされていません
-314	外部キーが参照しているキー/列の集合が一意ではありません
-315	制約またはキーが見つかりません
-316	外部キーが参照しているキー/列の集合は存在しません
-317	制約を DROP できません - 1 つまたは複数の外部キー制約がこの一意の制約を参照しています
-319	参照されたテーブルは主キーが定義されていません
-320	テーブルを DROP できません - 1 つまたは複数の外部キー制約がこのテーブルを参照しています
-321	ビューを DROP できません - 1 つ以上のビューがこのビューを参照しています
-322	列を削除できません - 列はひとつかそれ以上のインデックスまたは制約で定義されています
-324	このテーブルに既にこの名前のインデックスが定義されています
-325	IDKEY インデックスでありテーブルにデータが存在するため、インデックスを切断できません
-326	オプションの TUNE TABLE 節が重複して見つかりました
-327	Duplicate table option found
-328	Duplicate foreign server option found
-329	Required foreign server option missing
-333	インデックスが定義されていません
-334	インデックス名が曖昧です。複数のテーブルでインデックスが検出されました。
-340	そのようなデータベース（ネームスペース）は定義されていません
-341	データベース・ファイルが既に存在します

エラー・コード	説明
-342	システム・ネームスペースを削除できません
-343	無効なデータベース名です
-344	現在使用中および接続中のデータベースをドロップできません
-350	SqlComputeCode の実行中に予期しないエラーが発生しました
-356	SQL 関数 (ストアード・プロシージャ関数) が値を返すように定義されていません
-357	SQL 関数 (ストアード・プロシージャ関数) が関数プロシージャとして定義されていません
-358	SQL 関数名 (ストアード・プロシージャ関数) が一意ではありません
-359	SQL 関数名 (ストアード・プロシージャ関数) が見つかりません
-360	クラスが見つかりません
-361	メソッドまたはクエリ名が一意ではありません
-362	メソッドまたはクエリが見つかりません
-363	トリガが見つかりません
-364	同じ EVENT、TIME、ORDER を持つトリガが既に定義されています
-365	トリガ名が一意ではありません
-366	トリガ名とテーブル名のスキーマ名が異なります
-370	ストアード・プロシージャに定義されている数より多い引数が SQL CAL で指定されています
-371	:HVar = CALL ...値を返さないプロシージャを指定しています
-372	外部関数呼び出しがサポートされていません
-373	外部関数呼び出しが % ルーチンを呼び出していません
-374	テーブルにデータが存在する場合、ストリーム・タイプから/ストリーム・タイプへのフィールド・データ型を変換できません
-375	確立されていないセーブ・ポイントを ROLLBACK できません
-376	サポートされていない CAST ターゲットが指定されました
-377	insert または update文の引数リストにフィールドが複数個あります
-378	データ型が一致しません。明示的な CAST が必要です
-380	スカラー関数に対する引数が無効か、または存在しません
-381	スカラー関数に対する引数が多すぎます

テーブル 2-4: SQL エラー・コード -400 から -500

エラー・コード	説明
-400	致命的なエラーが発生しました
-401	致命的な接続エラーです
-402	無効なユーザ名/パスワードです
-405	通信デバイスから読み取りできません
-406	サーバに書き込みできません

エラー・コード	説明
-407	サーバ・マスタに書き込みできません
-408	サーバを起動できません
-409	無効なサーバの機能です
-410	無効なディレクトリです
-411	フィールドにストリーム・オブジェクトが定義されていません
-412	一般的なストリーム・エラーです
-413	互換性のないクライアント/サーバ・プロトコルです
-415	SQL ファイラ内で致命的なエラーが発生しました
-416	情報エラー
-417	セキュリティ・エラー
-422	ODBC、JDBC、またはダイナミック SQL 経由で処理された SELECT 要求は INTO 節を含むことはできません
-425	ストアド・プロシージャの要求処理のエラーです
-426	ストアド・プロシージャの作成エラーです
-427	無効なストアド・プロシージャ名です
-428	ストアド・プロシージャが見つかりません
-429	ストアド・プロシージャの入出力パラメータ数が正しくありません
-430	プロシージャ・コンテキストを初期化できません
-431	ストアド・プロシージャのパラメータのタイプが一致しません
-432	1 つの値のみが予想される場合に関数から複数の行が返されました
-450	ユーザのタイムアウトのため要求がタイムアウトしました
-451	サーバ・メッセージを受信できません
-452	メッセージ・シーケンス・エラーです
-453	ユーザ初期設定コードのエラーです
-454	外部中断要求の送信エラーです
-456	SQL query execution interrupted by user
-459	Kerberos 認証が失敗しました
-460	一般的なエラーです
-461	通信リンクに失敗しました
-462	メモリの割り当てに失敗しました
-463	無効な列番号です
-464	関数シーケンスのエラーです
-465	無効な文字列またはバッファの長さです
-466	無効なパラメータ番号です

エラー・コード	説明
-467	列タイプが適用範囲外です
-468	フェッチ・タイプが適用範囲外です
-469	ドライバが使用できません
-470	オプションの値が変更されています
-471	カーソル名が重複しています
-472	コレクション値プロパティが必要です
-473	Schema not found
-475	スキーマが空ではありません
-476	スキーマは既に存在します
-478	クエリがリコンパイルされました。結果セットが一致しません。
-500	フェッチの行カウントの制限に達しました

テーブル 2-5: WinSock エラー・コード -10050 から -11002

エラー・コード	説明
-10050	WinSock: ネットワークがダウンしました
-10051	WinSock: ネットワークに接続できません
-10052	WinSock: ネットが接続を切断またはリセットしました
-10054	WinSock: (タイムアウトまたは再起動により) ピアによって接続がリセットされました
-10055	WinSock: 利用できるバッファ・スペースがありません
-10056	WinSock: ソケットは既に接続されています
-10057	WinSock: ソケットは接続されていません
-10058	WinSock: ソケットの停止後は送信できません
-10060	WinSock: 接続のタイムアウトです
-10061	WinSock: 接続が拒否されました
-10064	WinSock: ホストがダウンしています
-10065	WinSock: ホストへのルートがありません
-10070	WinSock: 古い NFS ファイル・ハンドルです
-10091	WinSock: ネットワーク・サブシステムが利用できません
-10092	WinSock: WINSOCK DLL のバージョンが適用範囲外です
-10093	WinSock: WSASTARTUP がまだ正常に実行されていません
-11001	WinSock: ホストが見つかりません
-11002	WinSock: 特権のないホストが見つかりません

3

TSQL エラー・メッセージ

このセクションでは、InterSystems IRIS® Data Platform の TSQL エラー・メッセージを示しています。これらのメッセージを使用するには、アプリケーションの TSQL プロシージャで `master..sysmessages` システム・テーブルを参照する必要があります。これらのメッセージに記載されている TSQL のすべての機能が InterSystems IRIS でサポートされているわけではありません。

テーブル 3-1: TSQL エラー・コード - 0 から 99

エラー・コード	説明
1	最新バージョンのアップグレードの日付 : 10/11/90
21	警告: 致命的なエラー %d が %S_DATE で発生しました。エラーと時刻を書き留めて、システム管理者に連絡してください。

テーブル 3-2: TSQL エラー・コード - 100 から 199

エラー・コード	説明
102	'%.*ls' 付近に構文エラーがあります。
103	'%.*ls' で始まる %S_MSG が長すぎます。最大長は %d です。
104	文に UNION 演算子が含まれている場合は、ORDER BY 項目が SELECT リストに表示されなければなりません。
105	文字列 '%.*ls' の前の引用符が閉じていません。
106	クエリにテーブル名が多すぎます。許容最大値は %d です。
107	列接頭語 '%.*ls' がクエリ内で使用するテーブル名またはエイリアス名と一致しません。
108	ORDER BY の位置を示す番号 %ld が SELECT リスト内の項目番号の範囲外です。
109	INSERT 文内に、VALUES 節内で指定した値よりも多い列があります。VALUES 節内の値の数は、INSERT 文内で指定した列数と一致しなければなりません。
110	INSERT 文内に、VALUES 節内で指定した値よりも少ない列があります。VALUES 節内の値の数は、INSERT 文内で指定した列数と一致しなければなりません。
111	'%ls' はクエリ・バッチで最初の文でなければなりません。
112	%ls 文では、変数は使用できません。
113	コメント終了記号 '*/' が見つかりません。

エラー・コード	説明
114	参照モードは、変数に値を割り当てる文に対して無効です。
116	サブクエリが EXISTS に導入されていない場合、SELECT リスト内で指定できるのは 1 つの式だけです。
117	%S_MSG 名 '%.*s' には、接頭語の最大数より多くの接頭語が含まれています。最大数は %d です。
118	システム管理者のロールのメンバのみが %ls 文に %ls オプションを指定できます。
119	パラメータ番号 %d とそれに続くパラメータを '@name = value' として渡さなければなりません。 '@name = value' 形式が使用されると、それに続くパラメータはすべて、 '@name = value' 形式で渡さなければなりません。
120	INSERT 文の SELECT リストは、挿入リストよりも項目が少なくなっています。SELECT 値の数は、INSERT 列数と一致しなければなりません。
121	INSERT 文の SELECT リストは、挿入リストよりも項目が多くなっています。SELECT 値の数は、INSERT 列数と一致しなければなりません。
122	%ls オプションは、%ls 構文でのみ使用できます。
123	バッチ/プロシージャが最大長 %d 文字を超えています。
124	CREATE PROCEDURE には文が含まれていません。
125	Case 式はレベル %d に対してのみ入れ子になります。
128	名前 '%.*s' は、このコンテキストでは許可されていません。ここでは、定数、式、または変数のみが許可されます。列名は許可されていません。
129	Fillfactor %d が有効なパーセンテージではありません。1 ～ 100 である必要があります。
130	集約またはサブクエリを含む式では集約関数を実行できません。
131	%S_MSG '%.*s' に渡されたサイズ (%d) がデータ型 (%d) で許可される最大を超えています。
132	ラベル '%.*s' は既に宣言されています。ラベル名は、クエリ・バッチまたはストアード・プロシージャ内で一意でなければなりません。
133	GOTO 文がラベル '%.*s' を参照しますが、ラベルは宣言されていません。
134	変数名 '%.*s' は既に宣言されています。変数名は、クエリ・バッチまたはストアード・プロシージャ内で一意でなければなりません。
135	WHILE 文の範囲外にある BREAK 文を使用できません。
136	WHILE 文の範囲外にある CONTINUE 文を使用できません。
137	変数 '%.*s' を宣言しなければなりません。
138	サブクエリでの相関関係節は許可されていません。
139	ローカル変数に既定値を代入できません。
140	CREATE TRIGGER 文内では IF UPDATE のみ使用できます。
141	変数に値を割り当てる SELECT 文はデータ検索演算と組み合わせできません。
142	'%ls' 定数の定義に構文エラーがあります。

エラー・コード	説明
143	COMPUTE BY 項目が ORDER BY リストで見つかりませんでした。COMPUTE BY リスト内のすべての式も ORDER BY リストに記述されなければなりません。
144	GROUP BY 節の GROUP BY リストに使用する式内では、集約またはサブクエリを使用できません。
145	SELECT DISTINCT が指定されている場合は、ORDER BY 項目が SELECT リストに表示されなければなりません。
146	サブクエリに補助テーブルを割り当てられませんでした。クエリ内のテーブル最大数 (%d) を超えています。
147	集約が HAVING 節または SELECT リストに含まれるサブクエリの場合または集約される列が外部参照である場合にのみ、WHERE 節で集約を使用できます。
148	WAITFOR と共に使用する時間文字列 '%. *s' 内に時間構文エラーがあります。
149	WAITFOR と共に使用する時刻値 '%. *s' は有効な値ではありません。日付/時刻の構文をチェックしてください。
150	外部結合の両方の語には列が含まれていなければなりません。
151	'%. *s' は無効な money 値です。
153	%s 文内のオプション %. *s の使用方法に誤りがあります。
154	%S_MSG は、%S_MSG では使用できません。
155	'%. *s' は、認識できる %s オプションではありません。
156	キーワード '%. *s' 付近に構文エラーがあります。
157	集約は、UPDATE 文のセット・リストに指定できません。
159	DROP INDEX では、テーブルとインデックス名の両方を tablename.indexname 形式で示す必要があります。
160	ルールでは変数が指定されません。
161	ルールでは複数の変数が指定されます。
163	COMPUTE BY リストが ORDER BY リストと一致しません。
164	GROUP BY 式は、SELECT リストに表示される列名を参照する必要があります。
165	特権 %s は、付与または削除されないこともあります。
166	'%s' では、オブジェクト名に対して接頭語としてデータベース名を指定できません。
167	一時オブジェクト上でトリガを作成できません。
168	%S_MSG '%. *s' は、コンピュータで扱える数値 (%d バイト) の範囲外です。
169	列が ORDER BY リスト内で複数回指定されています。ORDER BY リスト内の列は一意でなければなりません。
170	行 %d: '%. *s' 付近に構文エラーがあります。
171	参照モードでは SELECT INTO を使用できません。
172	参照モードでは HOLDLOCK を使用できません。
173	列 '%. *s' の定義にはデータ型が含まれていなければなりません。

エラー・コード	説明
174	%ls 関数には、%d 引数が必要です。
177	IDENTITY 関数は、SELECT 文が INTO 節を持つ場合にのみ使用できます。
178	返り値を使用する RETURN 文は、このコンテキストでは使用できません。
179	ストアード・プロシージャに定数を渡す場合は、OUTPUT オプションを使用できません。
180	この %ls 文にパラメータが多すぎます。最大数は %d です。
181	DECLARE 文では OUTPUT オプションを使用できません。
182	テーブル名と列名を READTEXT ユーティリティまたは WRITETEXT ユーティリティに指定する必要があります。
183	列 '%.*ls' のスケールは、%d ～ %d の範囲内にする必要があります。
185	データ・ストリームは、一括形式の WRITETEXT 文では無効です。
186	WRITETEXT 文にデータ・ストリームがありません。
188	CREATE DATABASE 文で、ログ・デバイス以外のデバイスを 1 つも指定せずに、ログ・デバイスを指定することはできません。
189	%ls 関数には、%d から %d までの引数が必要です。
191	SQL 文の一部に深すぎる入れ子があります。クエリを書き直すか、より小さなクエリに分割してください。
192	小数桁数は有効桁数の値以下でなければなりません。
193	'%.*ls' で始まるオブジェクト名またはコラム名が長すぎます。最大長は %d 文字です。
194	SELECT INTO 文に、変数に値を割り当てる SELECT 文を含めることはできません。
195	'%.*ls' は、認識できる %S_MSG ではありません。
196	SELECT INTO は、UNION 演算子を含む SQL 文内で最初のクエリである必要があります。
197	EXECUTE は、テーブル変数に挿入する際にソースとして使用できません。
198	参照モードは、UNION 演算子を含む文では無効です。
199	INSERT 文は、変数に値を割り当てる SELECT 文を含むことはできません。

テーブル 3-3: TSQL エラー・コード - 200 から 299

エラー・コード	説明
201	プロシージャ '%.*ls' にはパラメータ '%.*ls' が必要ですが、指定されていませんでした。
202	無効な WAITFOR のタイプ '%s' です。サポートされているデータ型は、CHAR/VARCHAR、NCHAR/NVARCHAR、および DATETIME です。WAITFOR DELAY は、INT データ型と SMALLINT データ型をサポートします。
203	名前 '%.*ls' は、有効な識別子ではありません。
204	ノード %ls での正規化エラーです。
205	UNION 演算子を含む SQL 文内のすべてのクエリは、そのターゲット・リスト内に同数の式を持つ必要があります。
206	オペランド型の不一致: %ls は %ls と互換性がありません。

エラー・コード	説明
207	無効な列名 '%.*s' です。
208	無効なオブジェクト名 '%.*s' です。
209	不明確な列名 '%.*s' です。
210	binary/varbinary 文字列から datetime への変換の構文エラーです。
212	式の結果の長さが最大を超えています。最大 %d で、%d が見つかりました。
213	挿入エラー: 列名または指定値の番号がテーブル定義と一致しません。
214	プロシージャには '%s' 型のパラメータ '%s' が必要です。
217	ストアド・プロシージャ、関数、トリガ、またはビュー入れ子レベルが最大を越えました (上限 %d)。
220	データ型 %s、値= %ld での算術オーバーフロー・エラーです。
221	FIPS 警告: %s から %s への暗黙の変換です。
223	オブジェクト ID %ld がテーブル ID %ld に対する既定値として指定されていますが、列 ID %d が見つからないか、既定の型ではありません。
224	オブジェクト ID %ld がテーブル ID %ld に対するルールとして指定されていますが、列 ID %d が見つからないか、既定の型ではありません。
226	%s 文は複数文のトランザクションで使用できません。
229	%s 許可が、オブジェクト '%.*s'、データベース '%.*s'、所有者 '%.*s' で拒否されました。
230	%s 許可が、オブジェクト '%.*s'、データベース '%.*s'、所有者 '%.*s' の列 '%.*s' で拒否されました。
231	そのような既定値が存在しません。ID = %ld、データベース ID = %d。
232	型 %s、値= %f での算術オーバーフロー・エラーです。
233	テーブル '%.*s' 内の列 '%.*s' は NULL にすることはできません。
234	money 値から %s に変換した結果を格納する領域がありません。
235	char 値を money に変換できません。char 値が誤った構文です。
236	char データ型から money への変換で money のオーバーフロー・エラーが発生しました。
237	money 値から %s に変換した結果を格納する領域がありません。
238	%s 値 (= %d) から money データ型に変換した結果を格納する領域がありません。
241	文字列から日付/時刻への変換の構文エラーです。
242	char データ型から datetime データ型への変換で範囲外の datetime 値が発生しました。
243	%.s 型は、定義されたシステム・タイプではありません。
244	%s 値 '%.*s' の変換で %hs 列のオーバーフローが発生しました。より大きな整数列を使用してください。
245	%s 値 '%.*s' からデータ型 %s の列への変換の構文エラーです。

エラー・コード	説明
248	%ls 値 '%.*ls' の変換で int 列のオーバーフローが発生しました。最大整数値を超えました。
251	クエリの最適化に補助テーブルを割り当てられませんでした。クエリ内のテーブル最大数 (%d) を超えています。
256	データ型 %ls は %ls 関数では無効です。許可されているデータ型は、char/varchar、nchar/nvarchar、および binary/varbinary です。
257	データ型 %ls から %ls への暗黙の変換は許可されていません。CONVERT 関数を使用してこのクエリを実行します。
259	システム・カタログへの任意の更新は有効になっていません。システム管理者は SQL Server を再構成して、これを許可する必要があります。
260	データ型 %ls からデータ型 %ls、テーブル '%.*ls'、列 '%.*ls' への暗黙の変換は許可されていません。CONVERT 関数を使用してこのクエリを実行します。
261	'%.*ls' は、認識できる関数ではありません。
262	%ls 許可が、データベース '%.*ls' で拒否されました。
263	選択できるようにするにはテーブルを指定する必要があります。
264	列名 '%.*ls' が、結果の列リストに複数回表示されています。
266	EXECUTE 後のトランザクション数は、COMMIT 文または ROLLBACK TRANSACTION 文が見つからないことを示しています。前の数 = %ld、現在の数 = %ld。
267	オブジェクト '%.*ls' が見つかりません。
268	このデータベースでは SELECT INTO を実行できません。データベースの所有者は、sp_dboption を実行して、このオプションを有効にする必要があります。
270	オブジェクト '%.*ls' は変更できません。
271	列 '%.*ls' は、計算された列であるため、変更できません。
272	タイムスタンプ列を更新できません。
273	NULL 以外の値をタイムスタンプ列に挿入できません。タイムスタンプ列に対して、列のリストまたは NULL の既定を持つ INSERT を使用してください。
278	text、ntext、および image データ型は、GROUP BY 節で使用できません。
279	text、ntext、および image データ型は、このサブクエリまたは集約式では無効です。
280	TEXTPTTR 関数で有効であるのは、text、ntext、および image データ型のみです。
281	%ls から文字列に変換する場合、%d は有効なスタイル番号ではありません。
282	'%.*ls' プロシージャで NULL の状態を返そうとしましたが、これは許可されていません。代わりに、状態 0 が返されます。
283	READTEXT は、INSTEAD OF トリガ内の挿入テーブルまたは削除テーブルで使用できません。
284	ルールは、text データ型、ntext データ型、または image データ型に結合できません。
285	READTEXT 文、WRITETEXT 文、および UPDATETEXT 文は、ビューまたは関数と共に使用できません。
286	論理テーブル INSERTED および DELETED は更新できません。

エラー・コード	説明
287	%s 文はトリガ内で使用できません。
288	PATINDEX 関数は、char、nchar、varchar、nvarchar、text、および ntext データ型のみを操作します。
291	CAST または CONVERT : '%.*s' 型に指定した無効な属性です。
292	smallmoney 値から %s に変換した結果を格納する領域がありません。
293	char 値を smallmoney に変換できません。char 値が誤った構文です。
294	char データ型から smallmoney データ型への変換で smallmoney のオーバーフロー・エラーが発生しました。
295	character 文字列から smalldatetime データ型への変換での構文エラーです。
296	char データ型から smalldatetime データ型への変換で範囲外の smalldatetime 値が発生しました。
298	datetime データ型から smalldatetime データ型への変換で smalldatetime のオーバーフロー・エラーが発生しました。
299	DATEADD 関数が、不正な型 %s で呼び出されました。

テーブル 3-4: TSQL エラー・コード - 300 から 399

エラー・コード	説明
301	クエリには、許可されていない外部結合要求が含まれています。
303	テーブル '%.*s' は外部結合節の内部メンバです。テーブルが通常の JOIN 節にも存在する場合には、これは使用できません。
306	text、ntext、および image データ型は、IS NULL または LIKE 演算子を使用する場合を除き、比較または並べ替えできません。
307	テーブル '%.*s' 上のインデックス ID %d (FROM 節内で指定) が存在しません。
308	テーブル '%.*s' 上のインデックス '%.*s' (FROM 節内で指定) が存在しません。
311	'挿入された' テーブルおよび '削除された' テーブルで text、ntext、または image 列を使用できません。
312	フィルタ・ストアド・プロシージャで text、ntext、または image 列を参照できません。
313	プロシージャまたは関数 %.*s に対して指定された引数が不足しています。
314	GROUP BY ALL は、特別なテーブル INSERTED または DELETED と共に使用できません。

テーブル 3-5: TSQL エラー・コード - 400 から 499

エラー・コード	説明
401	未実装文または式 %s です。
403	データ型に対して無効な演算子です。演算子は %s で、データ型は %s です。
409	%s 処理は、引数として %s データ型を取ることができません。
410	COMPUTE 節 #%d 'BY' 式 #%d は、ORDER BY リスト内にありません。

エラー・コード	説明
411	COMPUTE 節 #%d、集約式 #%d は、SELECT リスト内にありません。
420	text、ntext、および image データ型は、ORDER BY 節で使用できません。
425	受け取り変数のデータ型 %ls は、列 '%.*ls' のデータ型 %ls と等しくありません。
426	受け取り変数の長さ %ls は、列 '%.*ls' の長さ %ls よりも小さくなります。
427	データベース ID %d 内で制約 ID %d に対して sysprocedures エントリをロードできませんでした。
428	データベース ID %d 内の制約 ID %d に対して sysconstraints 内の行が見つかりませんでした。
429	コンパイル時に、sysconstraints 内の新しい制約 ID %d、データベース ID %d が見つかりませんでした。
430	外部キーのコンパイル時に、オブジェクト ID %d、データベース ID %d に対してテーブル名を解決できませんでした。
431	外部キー制約を結合できませんでした。クエリに含まれるテーブルが多すぎます。
433	制約があるというフラグをテーブルに立てましたが、'%.*ls' に対する CHECK 制約が見つかりませんでした。
436	データベース ID %d 内で参照されるテーブル ID %d を開けませんでした。
437	テーブル ID %d 内で参照される列名を解決できませんでした。
438	テーブル ID %d 内で参照する列名を解決できませんでした。
439	制約があるというフラグをテーブルに立てましたが、データベース ID %d 内でテーブル '%.*ls' に対する FOREIGN KEY 制約が見つかりませんでした。
441	リモート・データ・ソースに '%ls' 関数を使用できません。
443	関数内での '%s' の誤った使用方法です。
444	関数内に含まれる SELECT 文は、データをクライアントに返すことができません。
445	COLLATE 節は COLLATE 節を含む式で使用できません。
446	%ls 処理での照合の競合を解決できません。
447	式タイプ %ls は COLLATE 節では無効です。
448	無効な照合 '%.*ls' です。
449	異なる照合 '%.*ls' および '%.*ls' を持つ COLLATE 節によって引き起こされる照合の競合です。
450	コード・ページ変換は、text データ型でサポートされません。変換元: %d、変換先: %d。
451	%ls 文の列 %d での照合の競合を解決できません。
452	COLLATE 節はユーザ定義のデータ型で使用できません。
453	照合 '%.*ls' は、Unicode データ型でのみサポートされ、データベースまたはサーバ・レベルで設定できません。
455	関数内に含まれる最後の文は Return 文である必要があります。
456	結果の照合が照合の競合によって未解決であるため、%ls 値の %ls への暗黙の変換は実行できません。

エラー・コード	説明
457	値の照合が照合の競合によって未解決であるため、%ls 値の %ls への暗黙の変換は実行できません。

テーブル 3-6: TSQL エラー・コード - 500 から 599

エラー・コード	説明
502	SQL Debugging Interface (SDI) では、SQL Server が、サービスとして開始した場合、システム・アカウントとしてログオンできない必要があります。コントロール・パネルを使用して、ユーザ・アカウントとしてログオンするためにリセットしてください。
503	%ls 上のデバッグに接続 % の記号情報を送信できません。デバッグは無効です。
504	%ls 上のデバッグに接続できません (エラー = 0x%08x)。クライアント側のコンポーネント (SQLDBREG.EXE など) が、%.*ls 上でインストールされており、登録されていることを確認してください。接続 %d に対して、デバッグは無効です。
505	現在のユーザ・アカウントが SETUSER で呼び出されました。データベースの変更は許可されていません。
506	無効なエスケープ文字 '%.*ls' が LIKE 述語で指定されました。
507	SET ROWCOUNT の無効な引数です。NULL 以外の負でない整数にする必要があります。
508	%ls 上のデバッグに接続できません (エラー = 0x%08x)。クライアント側のコンポーネント (SQLLE.DLL, など) が、%.*ls 上でインストールされており、登録されていることを確認してください。接続 %d に対して、デバッグは無効です。
509	ユーザ名 '%.*ls' が見つかりません。
510	許容最大値よりも大きい WORKTABLE 行を作成できません。ROBUST PLAN ヒントを指定して、クエリを再送信してください。
511	許容最大値 %d を超えるサイズ %d の行を作成できません。
512	サブクエリが値 1 より大きな値を返しました。これは、サブクエリが =、!=、<、<=、>、>= に続く場合、またはサブクエリが式として使用される場合は、許可されません。
513	列の挿入または更新は、前の CREATE RULE 文によって決められたルールと競合しています。文が停止しました。データベース '%.*ls'、テーブル '%.*ls'、列 '%.*ls' で競合が発生しました。
514	%ls 上のデバッグと通信できません (エラー = 0x%08x)。接続 %d に対して、デバッグは無効です。
515	列 '%.*ls'、テーブル '%.*ls' に NULL を挿入できません。列には、NULL を使用できません。%ls が失敗しました。
516	OLE ライブラリを初期化することができません。このマシンで正しいバージョンの OLE DLL をチェックします。
517	'%ls' 列に値を追加すると、オーバーフローが発生しました。
518	データ型 %ls を %ls に変換できません。
520	SQL Server では、SQL Debugging Interface (SDI) のバージョン %d がサポートされなくなりました。

エラー・コード	説明
528	'upsleep' システム関数を使用しようとしている間に、システム・エラーが検出されました。
529	データ型 %ls から %ls への明示的な変換は許可されていません。
532	タイムスタンプ (%S_TS に変更済み) は、別のユーザが行を更新したことを示しています。
535	2 つの datetime 列の違いにより、実行時にオーバーフローが発生しました。
536	無効な長さのパラメータが SUBSTRING 関数に渡されました。
538	'%.*ls' が見つかりません。この言語は削除された可能性があります。システム管理者にお問い合わせください。
542	無効な datetime 値が発生しました。値が 9999 年を超えています。
544	IDENTITY_INSERT がオフに設定されている場合、テーブル '%.*ls' の ID 列に明示的な値を挿入できません。
545	IDENTITY_INSERT がオンに設定されている場合、テーブル '%.*ls' の ID 列に明示的な値を挿入する必要があります。
547	%ls 文が %ls %ls 制約 '%.*ls' と競合しました。データベース '%.*ls'、テーブル '%.*ls'%ls%.*ls%ls で競合が発生しました。
548	レプリケーションによって管理される ID 範囲が容量不足になっています。レプリケーション・エージェントで更新する必要があります。データベース '%.*ls'、テーブル '%.*ls'%ls%.*ls%ls で %ls 競合が発生しました。Sp_adjustpublisheridentityrange を呼び出して、新しい ID 範囲を取得することができます。
550	対象のビューが WITH CHECK OPTION を指定するか、または WITH CHECK OPTION を指定するビューを含んでおり、この処理の結果の複数行が CHECK OPTION 制約で制限されなかったため、挿入または更新に失敗しました。
551	チェックサムが %d に変更されました。これは、別のユーザが行を更新したことを示しています。
552	CryptoAPI 関数 '%ls' が失敗しました。エラー 0x%x: %ls
555	ユーザ定義関数は、まだ有効になっていません。
556	ストアド・プロシージャが対象テーブルのスキーマを変更したため、INSERT EXEC に失敗しました。
557	関数内では、関数と拡張ストアド・プロシージャ以外からは実行できません。
558	リモート関数の呼び出しは、関数内では使用できません。
561	ファイル '%.*ls' へのアクセスに失敗しました。
562	ファイル '%.*ls' へのアクセスに失敗しました。ファイルには、共有を介してのみアクセスできます。
563	INSERT EXEC 文のトランザクションがロール・バックされました。INSERT EXEC 操作が停止されます。
564	固定長 '%d' でレコードを作成しようとした。固定長の許容最大値は '%d' です。
565	コンパイル時にサーバでスタックのオーバーフローが発生しました。
566	監査トレース書き込みエラー。SQL Server をシャットダウンしています。

エラー・コード	説明
567	ファイル '%.s' が存在しないか、認識可能なトレース・ファイルではありません。または、ファイルを開く際にエラーが発生しました。
568	サーバでエラー '%.s' が発生しました。

テーブル 3-7: TSQL エラー・コード - 600 から 699

エラー・コード	説明
601	データの移動により NOLOCK でのスキャンを継続できませんでした。
602	データベース ID %d、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d に対して sysindexes 内の行が見つかりませんでした。sysindexes で DBCC CHECKTABLE を実行します。
604	データベース '%.s' 内のオブジェクト ID %d に対して sysobjects 内の行が見つかりませんでした。sysobjects で DBCC CHECKTABLE を実行します。
605	オブジェクト '%.s' ではなく、オブジェクト '%.s' に属するデータベース '%.s' 内で論理ページ %S_PGID をフェッチします。
607	オブジェクト '%.s' のセッション記述子で、検索指数に十分なスペースが割り当てられていませんでした。%d 検索指数のみが予想されました。
615	データベース・テーブル ID %d、名前 '%.s' が見つかりませんでした。
617	データベース ID %d 内のオブジェクト ID %d の記述子が、記述子の非ハッシュ時にハッシュ・テーブル内で見つかりません。
618	%d の varno が opentable システム関数に渡されました。有効な最大値は %d です。
622	ファイルグループ '%.s' には、割り当てられたファイルがありません。テーブル、インデックス、および text、ntext、image 列は、ファイルが追加されるまで、このファイルグループに入力できません。
623	論理ページ %S_PGID がデータ・ページではないため、RID を使ってページから行を取得できませんでした。%S_RID、%S_PAGE。
624	要求された RID がページ上の最後の RID より上位の番号を持つため、RID によってページから行を取得できませんでした。%S_RID、%S_PAGE、DBID %d。
625	slotid (%d) が有効ではないため、RID によってページ %S_PGID から行を取得できません。
626	分散型トランザクション内のセーブポイントで ROLLBACK を使用できません。
627	分散型トランザクション内部で SAVE TRANSACTION を使用できません。
628	アクティブなトランザクションがない場合、SAVE TRANSACTION を発行できません。
635	プロセス %d は、保持していない DES リソース・ロック %S_DES を解除しようとしてしました。
637	インデックスの縮小プログラムが無効な状態 0 を返しました。
639	論理ページ %S_PGID、データベース ID %d をフェッチできませんでした。ページが現在割り当てられていません。
644	インデックス・ページ %S_PGID、インデックス ID %d、データベース '%.s' で、RID '%.hs' に対するインデックス・エントリが見つかりませんでした。

エラー・コード	説明
649	ページ %S_PGID、オブジェクト ID %ld、ステータス 0x%x に対してクラスタ化インデックス・エントリが見つかりませんでした。このエントリに対して、データベース '%.s' 内のインデックス・ページ %S_PGID が検索されました。
650	READ COMMITTED または REPEATABLE READ 分離レベルでは、READPAST ロックだけを指定できます。
651	指定した粒度でのロックが禁止されているので、テーブル '%.s' では %hs 粒度ヒントは使用できません。
652	テーブル '%.s' のインデックス ID %d は変更できない読み取り専用ファイルグループに存在します。
653	2 つのバッファは、テーブル '%.s' 内の同じ保持スロットで競合しています。
654	テーブル '%.s' のバッファを保持するために解放できるスロットはありません。
655	テーブル '%.s' の保持スロットのバッファが見つかることを期待しています。
666	重複するグループに対してシステムが生成する一意の値が、テーブル ID %d、インデックス ID %d で最大値を超えました。この問題はインデックスを削除し、再作成することで解決できます。それ以外は別のクラスタ化キーを使用してください。
667	テーブル '%.s' のインデックス %d がアクセスできないオフラインのファイルグループに存在しています。

テーブル 3-8: TSQL エラー・コード - 700 から 799

エラー・コード	説明
701	このクエリを実行するには、システム・メモリが不足しています。
708	警告: 仮想メモリが不足しているので、起動してから特別に確保したメモリを %d 回使用しました。サーバ上の仮想メモリを増やしてください。

テーブル 3-9: TSQL エラー・コード - 800 から 899

エラー・コード	説明
802	使用できるバッファがありません。
804	オブジェクト '%.s' のバッファ・プールを管理している SDES 0x%lx に、論理ページ %S_PGID を保持しているバッファ 0x%lx が見つかりませんでした。
809	データベース '%.s' のアロケーション・ページ %S_PGID のバッファ 0x%lx が、PSS (Process Status Structure) の 割り当てバッファ・プールに存在しません。サポート窓口までお問い合わせください。
813	データベース ID %d の論理ページ %S_PGID は既にハッシュされています。
816	プロセス ID %d が、SDES %S_SDES に保持していないバッファのリソース・ロック %S_BUF を解除しようとして失敗しました。サポート窓口までお問い合わせください。
818	SDES %S_SDES にバッファのリソース・ロック %S_BUF を保持する領域がありません。サポート窓口までお問い合わせください。
821	バッファ・ページ番号 %S_PGID の 0x%lx でのバッファと、HASHED ステータス・セットのデータベース ID %d の非ハッシュに失敗しました。バッファが見つかりませんでした。 %S_PAGE。

エラー・コード	説明
822	要求 %S_BLKIOPTR に対して I/O を開始できませんでした。
823	ファイル '%ls' のオフセット %#016l64x に %S_MSG 中に I/O エラー %ls が発生しました。
834	ダーティ・バッファで bufclean システム関数が呼び出されました (ページ %S_PGID、状態 %#x/%#x、objid %#x、sstat%#x)。
840	デバイス '%.*ls' (物理名 '%.*ls'、仮想デバイス番号 %d) が使用できません。システム管理者にご相談ください。
844	バッファ・ラッチ待機中にタイムアウトが発生しました。型 %d、bp %#x、ページ %S_PGID、状態 %#x、オブジェクト ID %d:%d:%d、待機時間 %d。待機を続行中です。
845	バッファ・ラッチ待機中にタイムアウトが発生しました。型 %d、ページ %S_PGID、データベース ID %d。

テーブル 3-10: TSQL エラー・コード - 900 から 999

エラー・コード	説明
901	データベース ID %d、オブジェクト ID %ld の記述子が、ハッシュ後ハッシュ・テーブル内で見つかりませんでした。
902	%ls を変更するには、データベースがチェックポイントを実行できる状態であればなりません。
903	データベース ID %d のシステム・カタログ %ld のクラスタ化インデックスに対応する sysindexes の行が見つかりませんでした。このインデックスはすべてのデータベースに必ず存在するようにしてください。データベースの sysindexes で DBCC CHECKTABLE を実行してください。
906	データベース '%.*ls' のシステム・カタログ '%.*ls' の sysobjects に行を位置付けられません。このシステム・カタログは、すべてのデータベースに存在するようにしてください。DBCC CHECKTABLE をこのデータベースの sysobjects で実行してください。
911	データベース '%.*ls' の sysdatabases のエントリに位置付けられませんでした。その名前のエントリがありません。名前が適切に入力されているか確認してください。
913	データベース ID %d が見つかりませんでした。データベースがまだアクティブになっていないか、アクティブになろうとしている可能性があります。
916	サーバ・ユーザ '%.*ls' は、データベース '%.*ls' では有効なユーザではありません。
921	データベース '%.*ls' はまだリカバリされていません。しばらく待ってから再試行してください。
922	データベース '%.*ls' はリカバリ中です。リカバリが終了するまでお待ちください。
923	データベース '%.*ls' は制限付きのモードです。データベース所有者、または dbcreator および sysadmin ロールのメンバだけがアクセスできます。
924	データベース '%.*ls' は既に開かれています。一度に 1 ユーザだけが開けます。
925	各クエリに使用するデータベースの最大数を超えました。許容最大値は %d です。
926	データベース '%.*ls' を開けません。既にリカバリにより、SUSPECT とマークされています。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
927	データベース '%.*ls' を開けません。リストア中です。

エラー・コード	説明
929	開かれていないデータベースを閉じようとしています。サポート窓口までお問い合わせください。
941	データベース '%.s' を開けません。最新の形式にアップグレードされていません。
942	データベース '%.s' はオフラインなので開けません。
943	データベース '%.s' のバージョン (%d) は現在のサーバのバージョン (%d) よりも新しいので開けません。
944	データベース '%.s' をバージョン %d から現在のバージョン %d に変換しています。
945	ファイルにアクセスできなかったか、メモリまたはディスク領域が不足しているので、データベース '%.s' を開けません。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
946	データベース '%.s' バージョン %d を開けません。データベースを最新のバージョンにアップグレードしてください。
947	データベース '%.s' を閉じているときにエラーが発生しました。
948	データベース '%.s' はアップグレードできません。データベースのバージョンは %d で、このサーバがサポートしているバージョンは %d です。
949	tempdb はスキップされます。tempdb を必要とするクエリは実行できません。
950	データベース '%.s' をアップグレードできません - データベースのバージョン (%d) が SQL Server 7.0 (%d) 以前のもので。
951	データベース '%.s' はバージョン %d から %d へのアップグレード・ステップを実行しています。
952	データベース '%.s' は移行中です。文を後で実行してください。
953	警告: このリリースでは式の評価が変更されているので、インデックス '%s' ('%s' に対するインデックス (データベース '%s' 中)) が壊れている可能性があります。インデックスを削除して、再作成してください。

テーブル 3-11: TSQL エラー・コード - 1000 から 1099

エラー・コード	説明
1001	行 %d: 長さまたは有効桁数の指定 %d が無効です。
1002	行 %d: 指定された scale (小数桁数) %d が無効です。
1003	行 %d: %s 節 は %s でのみ使用できます。
1004	列の接頭語 '%.s' が無効です。テーブル名が指定されていません。
1005	行 %d: プロシージャ番号 (%d) が無効です。1 ～ 32767 までの値を指定してください。
1006	CREATE TRIGGER には文が含まれていません。
1007	%S_MSG '%.s' は数値表現の範囲外です (最大精度は 38 です)。
1008	ORDER BY 番号 %d で識別される SELECT 項目が、列位置を識別する式の一部として変数を持っています。変数は、列名を参照する式で順序付けられているときのみ許可されます。
1010	無効なエスケープ文字 '%.s' です。

エラー・コード	説明
1011	相関名 '%.*s' が FROM 節内で複数回指定されました。
1012	相関名 '%.*s' がテーブル '%.*s' と同じ公開名を持っています。
1013	テーブルまたは関数 '%.*s' と '%.*s' が同じ公開名を持っています。これらを区別するために相関名を使用してください。
1014	TOP 節に無効な値があります。
1015	集約が HAVING 節または SELECT リストに含まれるサブクエリの場合または集約される列が外部参照である場合にのみ、ON 節で集約を使用できます。
1016	外部結合演算子は、結合テーブルを含むクエリでは指定できません。
1019	GRANT/REVOKE 文のオブジェクト名後の列リストが無効です。
1020	オブジェクト・レベルの権限では列リストを指定できません。
1021	FIPS 警告: 行 %d には ANSI 以外の文 '%.*s' があります。
1022	FIPS 警告: 行 %d には ANSI 以外の節 '%.*s' があります。
1023	パラメータ %d は %s では指定できません。
1024	FIPS 警告: 行 %d には ANSI 以外の関数 '%.*s' があります。
1025	FIPS 警告: 識別子 '%.*s' の長さが 18 を超えています。
1027	GROUP BY 節で指定された式が多すぎます。CUBE または ROLLUP のいずれかが指定されている場合、式の最大数は %d です。
1028	GROUP BY ALL 節では、CUBE オプションおよび ROLLUP オプションは許可されていません。
1029	サブクエリおよび派生テーブルでは、参照モードは無効です。
1031	パーセント値は 0 から 100 までの値を指定してください。
1032	列接頭語 '%.*s' は使用できません。UPDATE 節 '%.*s' のオブジェクトと一致する必要があります。
1033	TOP が同時に指定されていない場合、ビュー、インライン関数、派生テーブル、およびサブクエリでは ORDER BY 節は無効です。
1035	'%.*s' 付近に構文エラーがあります。正しくは '%.*s' です。
1036	この CREATE/ALTER DATABASE 文ではファイル・オプション %hs が必要です。
1037	CASCADE、WITH GRANT、または AS オプションは文権限では指定できません。
1038	空のオブジェクトまたは列名は使用できません。必要に応じてスペースを 1 つ使用します。
1039	オプション '%.*s' が複数回指定されました。
1040	CREATE/ALTER DATABASE 文に新旧の構文を混在させることはできません。
1041	オプション %.*s はログ・ファイルでは使用できません。
1042	指定した %s オプティマイザ・ヒントは競合しています。
1043	'%hs' はまだ実装されていません。
1044	既存の関数名を使用してストアード・プロシージャ名を指定できません。

エラー・コード	説明
1045	このコンテキストでは集約ができません。スカラ式だけが有効です。
1046	このコンテキストではサブクエリは使用できません。スカラ式だけが有効です。
1047	指定したロック・ヒントが競合しています。
1048	カーソル・オプション %ls と %ls が競合しています。
1049	カーソル・オプションの指定に新旧の構文を混在することはできません。
1050	この構文はストアド・プロシージャ sp_executesql 内だけで使用できます。
1051	ストアド・プロシージャのカーソル・パラメータは OUTPUT および VARYING オプションを使用して宣言する必要があります。指定する順番は CURSOR VARYING OUTPUT です。
1052	%ls オプションの %ls と %ls は競合しています。
1053	DROP STATISTICS ではテーブル名と列名を 'tablename.column' の形式で両方指定する必要があります。
1054	構文 '%ls' はスキーマバインド・オブジェクトでは許可されていません。
1055	'%.*ls' は NULL 文字を含んでいるので無効な名前です。
1056	SELECT リスト内の最大要素数は %d です。%d を指定しました。
1057	IDENTITY 関数は UNION 演算子を持つ SELECT INTO 文と共に使用できません。
1058	カーソル宣言では READ_ONLY と FOR READ ONLY を同時に指定できません。
1059	プロシージャ内では %ls オプションの設定またはリセットはできません。
1060	TOP 節の行数は整数値を指定してください。
1061	text/ntext/image 定数はまだ実装されていません。
1062	TOP N WITH TIES 節は対応する ORDER BY 節が必要です。
1063	ALTER DATABASE ADD FILE を使用してファイルグループを追加できません。ALTER DATABASE ADD FILEGROUP を使用してください。
1064	ログ・ファイルではファイルグループを使用できません。
1065	NOLOCK、READUNCOMMITTED、および READPAST ロック・ヒントは SELECT 文でのみ有効です。
1066	警告: 行 %d: オプション '%ls' は古い形式であり、機能しません。
1067	SET SHOWPLAN 文はバッチ内の文としてのみ使用できます。
1068	インデックス・ヒントのリストは、テーブルごとに 1 つだけ有効です。
1069	インデックス・ヒントは FROM 節内でのみ使用できます。
1070	CREATE INDEX オプション '%.ls' はサポートされなくなりました。
1071	リモート JOIN では JOIN アルゴリズムは指定できません。
1072	REMOTE ヒントは INNER JOIN 節と共にのみ指定できます。
1073	'%.ls' はカーソル %ls で認識できるカーソル・オプションではありません。
1074	一時関数の作成は許可されていません。

エラー・コード	説明
1075	スカラー値関数の RETURN 文は引数を含む必要があります。
1076	関数 '%s' には少なくとも %d 個の引数が必要です。
1077	テーブル変数では、ID 列への INSERT は許可されていません。
1078	'%.*s %.*s' は認識できないオプションです。
1079	カーソルを使用してアクセスしているときは、変数をフルテキスト述語の検索式の指定には使用できません。

テーブル 3-12: TSQL エラー・コード - 1100 から 1199

エラー・コード	説明
1101	データベース '%.s' の新しいページを割り当てられませんでした。ファイルグループ '%.s' で使用できるページはありません。オブジェクトの削除、別のファイルの追加、またはファイル拡張の許可のいずれかを実行して領域を作成してください。
1102	オブジェクト ID %ld の IAM ページ %S_PGID が無効です。ページの %S_MSG ID は %ld ですが正しくは %ld です。sysindexes のエントリが正しくないか、IAM ページにエラーが含まれている可能性があります。
1103	データベース '%.s' 内のアロケーション・ページ %S_PGID に、割り当てようとしているオブジェクトのものと異なるセグメント ID があります。DBCC CHECKALLOC を実行してください。
1105	'%.s' ファイルグループがいっぱいなので、データベース '%.s' にオブジェクト '%.s' の領域を割り当てられませんでした。
1109	オブジェクト ID (%ld) が無効またはページ ID (%S_PGID) が無効なため、アロケーション・ページ %S_PGID を読み取れませんでした。

テーブル 3-13: TSQL エラー・コード - 1200 から 1299

エラー・コード	説明
1201	page_lock システム関数が許可されていないモード %d で呼び出されました。
1203	プロセス ID %d が所有していないリソース %.*ls のロックを解除しようとしています。
1204	この時点では、SQL Server が LOCK リソースを取得できません。アクティブなユーザが少ないときに文を再実行してください。または、SQL Server のロックとメモリの構成を確認するようにシステム管理者に依頼してください。
1205	トランザクション (プロセス ID %d) が、[%Z] リソースでほかのプロセスとデッドロックしました。トランザクションがデッドロックの対象として選択されています。トランザクションを再実行してください。
1206	トランザクション・マネージャが分散トランザクションをキャンセルしました。
1211	P_BACKOUT ビット・セットで、プロセス ID %d がデッドロックの対象として選択されました。
1220	トランザクションから使用できるロック・クラスがなくなりました。
1221	ロック・クラスの解放が無効に呼び出されました。
1222	ロック要求がタイムアウト時間を超えました。
1223	現在保持しているアプリケーション・ロック %.*ls' を解放しようとしています。

テーブル 3-14: TSQL エラー・コード - 1500 から 1599

エラー・コード	説明
1501	並べ替えに失敗しました。
1505	インデックス ID %d で重複したキーが見つかったので、CREATE UNIQUE INDEX を終了しました。最も重要な主キーは '%S_KEY' です。
1507	警告: 重複行を削除しました。主キーは '%S_KEY' です。
1508	重複した行が見つかったので CREATE INDEX を終了しました。主キーは '%S_KEY' です。
1509	行の比較に失敗しました。
1510	並べ替えに失敗しました。データベース '%.*ls' に領域がないか、ロックできませんでした。
1511	並べ替えをトランザクション・ログと一致させることができません。
1522	並べ替えに失敗しました。並べ替えの終了により、データベース '%.*ls' のアロケーション・ページを上書きしないようにしてください。
1523	並べ替えに失敗しました。並べ替えの中断により、無効なエクステントを割り当て解除しないようにしてください。
1528	文字データの比較に失敗しました。SMEL エントリ [%d] で、サーバ全体の既定の並べ替えテーブルに、認識できない Sort-Map-Element 型 (%d) が見つかりました。
1529	文字データの比較に失敗しました。サーバ全体の既定の並べ替えテーブルからの Sort-Map-Element のリストが正しく終了していません。このリストは、SMEL エントリ [%d] で始まっています。

エラー・コード	説明
1530	行の順序が無効だったので、DROP_EXISTING を指定した CREATE INDEX が中断されました。エラーが生じた最も重要な主キーは '%S_KEY' です。代わりに明示的にインデックスを削除し、作成してください。
1531	テーブル内でキーが一意ではない場合、非クラスタ化インデックスでは SORTED_DATA_REORG オプションは使用できません。キーが重複しているので、CREATE INDEX を中止します。主キーは '%S_KEY' です。
1532	ページ %S_PGID で実行開始された新しい並べ替えが、共有の記述のないエクステントを見つけました。
1533	エクステント %S_PGID は、並べ替えの実行数が 8 を超えたので共有できません。
1534	共有エクステント・ディレクトリにエクステント %S_PGID が見つかりませんでした。
1535	エクステント %S_PGID を共有しようとしたましたが、共有エクステント・ディレクトリがいっぱいでした。
1536	メモリのみの作業テーブルで非クラスタ化インデックスを構築できません。
1537	行入力フェーズ以外では並べ替えを中止できません。
1538	行入力フェーズ以外では並べ替えに挿入できません。
1540	許容最大値 %d を超えるサイズ %d の行を並べ替えできません。

テーブル 3-15: TSQL エラー・コード - 1600 から 1699

エラー・コード	説明
1619	tempdb を開けませんでした。続行できません。
1620	C2 監査トレースを開始できません。SQL Server をシャットダウンしています。
1621	サーバは 'f' で始まります。監査は開始されません。

テーブル 3-16: TSQL エラー・コード - 1700 から 1799

エラー・コード	説明
1701	行サイズが %d なので (内部オーバーヘッドを含む)、テーブル '%.s' の作成に失敗しました。テーブルの行に許されている最大サイズ %d を超えています。
1702	テーブル '%.s' の列 '%.s' が列の最大数 %d を超えているので、CREATE TABLE に失敗しました。
1703	データベース '%.s' に作業テーブル用のディスク領域を割り当てられませんでした。BACKUP LOG 使って領域を解放するか、ALTER DATABASE を使ってデータベースのサイズを拡張してください。
1704	システム管理者のロールのメンバだけが、システム・テーブル '%.s' を作成できます。
1705	マスタ・データベースにシステム・テーブル '%.s' を作成する必要があります。
1706	システム・カタログのアドホック更新が有効にされていないので、システム・テーブル '%.s' は作成できませんでした。
1708	警告: テーブル '%.s' が作成されましたが、最大行サイズ (%d) が行あたりの最大バイト数 (%d) を超えています。このテーブルの行の INSERT または UPDATE は、結果の行の長さが %d バイトを超える場合は失敗します。

エラー・コード	説明
1709	テーブルが text、ntext、または image 列を持っていないときは、TEXTIMAGE_ON は使用できません。
1750	制約を作成できませんでした。以前のエラーを参照してください。
1752	列 '%.s' には DEFAULT を作成できませんでした。テーブル '%.s' の列が無効です。
1753	列 '%.s.s' は、外部キー '%.s' で参照する列 '%.s.s' と同じ長さではありません。
1754	IDENTITY 属性を持つ列には、既定を作成できません。テーブル '%.s'、列 '%.s'。
1755	timestamp データ型の列には既定を作成できません。テーブル '%.s'、列 '%.s'。
1756	一時テーブルでは、FOREIGN KEY 制約 '%.s' 定義をスキップします。
1757	列 '%.s.s' は、外部キー '%.s' で参照する列 '%.s.s' と同じ照合ではありません。
1759	制約定義または計算列の定義で指定された列 '%.s' が無効です。
1760	%s 型の制約は、%s 型の列には作成できません。
1763	データベースをまたがる外部キー参照はサポートされていません。外部キー '%.s'。
1766	一時テーブルを参照する外部キーはサポートされていません。外部キー '%.s'。
1767	外部キー '%.s' は無効なテーブル '%.s' を参照しています。
1768	外部キー '%.s' はオブジェクト '%.s' を参照していますが、オブジェクトはユーザ・テーブルではありません。
1769	外部キー '%.s' は参照するテーブル '%.s' の無効な列 '%.s' を参照しています。
1770	外部キー '%.s' は参照されるテーブル '%.s' の無効な列 '%.s' を参照しています。
1772	外部キー '%.s' は、ユーザ・テーブルとシステム・テーブル間の無効な関係を定義しています。
1773	外部キー '%.s' は、オブジェクトで定義された主キーを持っていないオブジェクト '%.s' を暗黙的に参照しています。
1774	外部キー '%.s' の参照する列リストの列数が、参照されるテーブル '%.s' の主キーの列数と一致していません。
1776	参照されるテーブル '%.s' に主キーと候補キーがありません。テーブルは、外部キー '%.s' の参照列リストと一致しています。
1777	ユーザは、参照されたテーブル '%.s' に外部キー '%.s' を作成する正しい許可を持っていません。
1778	列 '%.s.s' は外部キー '%.s' で参照している列 '%.s.s' と同じデータ型ではありません。
1779	テーブル '%.s' は既にそのテーブルで定義された主キーを持っています。
1780	データベース ID %d 内のオブジェクト ID %d に対して、syscolumns で列 ID %d が見つかりませんでした。
1781	列は既に DEFAULT にバインドされています。
1784	外部キー '%.s' を作成できません。参照される列 '%.s.s' が計算列です。

エラー・コード	説明
1785	テーブル '%.s' に設定しようとしている FOREIGN KEY 制約 '%.s' はパスが循環するか、複数に連鎖する可能性があります。ON DELETE NO ACTION または ON UPDATE NO ACTION を指定するか、他の FOREIGN KEY 制約を変更してください。
1786	列 '%.s.%.s' または外部キー '%.s' で参照する列 '%.s.%.s' がタイムスタンプ列です。このデータ型はカスケード参照整合性制約では使用できません。
1787	テーブルに INSTEAD OF DELETE または UPDATE TRIGGER が定義されているので、テーブル '%.s' でカスケードされた DELETE または UPDATE を持つ外部キー制約 '%.s' は定義できません。
1788	カスケードする外部キー '%.s' は、参照する列 '%.s.%.s' が ID 列のところには作成できません。
1789	計算列定義に CHECKSUM(*) を使用できません。

テーブル 3-17: TSQL エラー・コード - 1800 から 1899

エラー・コード	説明
1801	データベース '%.s' は、既に存在します。
1802	CREATE DATABASE に失敗しました。リストされたファイルの一部が作成されませんでした。以前のエラーを調べてください。
1803	CREATE DATABASE に失敗しました。指定したディスクに新しいデータベースの十分なディスク領域を割り当てられませんでした。モデル・データベースのコピーを格納するために割り当てる領域の合計が少なくとも %d MB 必要です。
1804	ディスク名 '%.s' が存在しません。他のディスク名を調べています。
1805	CREATE DATABASE プロセスでディスク '%.s' に %.2f MB を割り当てています。
1806	CREATE DATABASE に失敗しました。データベース '%.s' の既定の照合を '%.s' に設定できません。
1807	データベース '%.s' を排他的にロックできませんでした。操作を後で再試行してください。
1808	既定のデバイスがサポートされていません。
1809	最適なパフォーマンスを得るために、%.s' データベースで sp_updatestats を実行してすべての統計を更新してください。
1811	'%.s' は、CREATE DATABASE または ALTER DATABASE のデバイス型としては正しくありません。sysdevices を確認してください。文は中断されました。
1812	CREATE DATABASE に失敗しました。COLLATE 節は FOR ATTACH オプションと共に使用できません。
1813	新しいデータベース '%.s' を開けません。CREATE DATABASE は中断されます。
1814	tempdb を作成できませんでした。空き領域がないときは、領域を拡張し、再起動してください。
1818	プライマリ・ログ・ファイル '%.s' が見つかりません。データベースがすべて終了しなかったので再構築できません。
1819	名前が長すぎたため既定のログ・ファイルを作成できませんでした。

エラー・コード	説明
1820	ディスク '%.*s' は既に他のデータベースで完全に使用されています。DISK RESIZE で拡張できます。
1826	ユーザ定義ファイルグループは、'%hs' で有効になっていません。
1827	結果の累積データベース・サイズがライセンス付与された %S_MSG ごとに %d MB の制限を超えたため、CREATE/ALTER DATABASE に失敗しました。
1828	ファイル名 '%.*s' は既に使用されています。別の名前を選択してください。
1829	FOR ATTACH オプションでは、少なくともプライマリ・ファイルを指定する必要があります。
1830	ファイル '%.*s' と '%.*s' はどちらもプライマリ・ファイルです。1 つのデータベースが持つプライマリ・ファイルは 1 つのみです。
1832	データベース '%.*s' をファイル '%.*s' に添付できませんでした。
1833	ファイル '%ls' は、次の BACKUP LOG 処理の後まで再利用できません。
1834	ファイル '%.*s' を上書きできません。データベース '%.*s' が使用中です。
1835	既存のデータベース数が最大許容数に達したため、新しいデータベースを作成または添付できません: %d。

テーブル 3-18: TSQL エラー・コード - 1900 から 1999

エラー・コード	説明
1901	列 '%.*s'. bit データ型の列にはインデックスを作成できません。
1902	テーブル '%.*s' に、クラスタ化されたインデックスを複数作成できません。他のクラスタ化インデックスを作成する前に、既存のクラスタ化インデックス '%.*s' を削除してください。
1903	インデックス・キーが大きすぎます。インデックス %d のキーを表現するのに %d バイト必要ですが、サイズの制限 %d バイトを超えています。
1904	統計またはインデックス・キー・リストに %d より多くの列名を指定できません。%d が指定されました。
1905	sysindexes に、インデックス '%.*s' テーブルの 'zero' 行が見つかりませんでした。
1906	テーブルがデータベース '%.*s' に存在しないので、'%.*s' にインデックスを作成できません。
1907	インデックス '%.*s' を再作成できません。新規インデックスの定義と、既存のインデックスに設定されている制約が一致しません。
1909	インデックス・キー・リストには、重複した列名は使用できません。列名 '%.*s' が複数回リストされました。
1910	1 つのテーブルには、%d より多くの非クラスタ化インデックスまたは列統計を作成できません。
1911	列名 '%.*s' は、対象テーブルに存在しません。
1913	テーブル '%.*s' に名前 '%.*s' が付けられたインデックスが既に存在します。
1914	オブジェクト '%.*s' は、ユーザ・テーブルまたはビューではないので、インデックスを作成できません。

エラー・コード	説明
1916	CREATE INDEX オプションの %ls と %ls は相互に排他的です。
1918	インデックス (ID = %d) が再構築されています。
1919	列 '%.*ls'。text、ntext、または image データ型の列にはインデックスを作成できません。
1920	インデックス ID %d は読み取り専用ファイルグループにあるので再構築をスキップしています。
1921	無効なファイルグループ '%.*ls' が指定されました。
1922	ファイルグループ '%.*ls' には、割り当てられたファイルがありません。テーブル、インデックス、および text、ntext、と image 列をこのファイルグループに作成できません。
1923	クラスタ化インデックスは削除されました。
1924	ファイルグループ '%.*ls' は読み取り専用です。
1925	DROP_EXISTING オプションを使用してクラスタ化インデックスを非クラスタ化インデックスに変換できません。
1926	非クラスタ化インデックス ID %d は読み取り専用ファイルグループにあるのでクラスタ化インデックスを作成できません。
1927	テーブル '%.*ls' に名前 '%.*ls' が付けられた統計が既に存在します。
1928	テーブル '%.*ls' がデータベース '%.*ls' に存在しないので、このテーブルに統計を作成できません。
1929	オブジェクト '%.*ls' は、ユーザ・テーブルまたはビューではないので、統計を作成できません。
1931	ファイルグループ '%.*ls' がオフラインです。
1932	非クラスタ化インデックス ID %d はオフラインのファイルグループにあるのでクラスタ化インデックスを作成できません。
1933	キー列 '%.*ls' が確定されていないか不正確であるので、インデックスを作成できません。
1934	次の SET オプションの設定が誤っているので、%ls に失敗しました: '%.*ls'。
1935	インデックスを作成できません。オブジェクト '%.*ls' は、次の SET オプションがオフの状態で作成されました: '%.*ls'。
1936	%S_MSG '%.*ls' を %ls できません。1 つ以上の不許可の構成を含んでいます。
1937	ビュー '%.*ls' をインデックス化できません。別のビューまたは関数 '%.*ls' を参照しています。
1938	元になるオブジェクト '%.*ls' の所有者が異なるので、%S_MSG '%.*ls' にインデックスを作成できません。
1939	ビューがスキーマ・バインドされていないので、%S_MSG をビュー '%.*ls' に作成できません。
1940	ビュー '%.*ls' に %S_MSG を作成できません。一意のクラスタ化インデックスを持っていません。
1941	一意のクラスタ化インデックスだけが許可されるので、一意ではないクラスタ化インデックスをビュー '%.*ls' に作成できません。

エラー・コード	説明
1942	ビュー '%.s' には、text、ntext、または image 列が含まれるので、インデックスを作成できません。
1943	ビュー '%.s' には、1 つ以上の一義的に決まらない式が含まれるので、インデックスを作成できません。
1944	インデックス '%.s' が作成されませんでした。このインデックスは少なくとも %d バイトのキー長を持っています。キー長の最大許容サイズは %d バイトです。
1945	警告：最大キー長は %d バイトです。インデックス '%.s' の最大長は %d バイトです。大きな値の組み合わせの一部では挿入/更新操作が失敗します。
1946	処理に失敗しました。長さ %d バイトのインデックス '%.s' のインデックス・エントリが、最大長 %d バイトを超えています。
1947	ビュー '%.s' は '%.s' に自己結合を含むので、インデックスを作成できません。
1948	重複したインデックス名 '%.s' と '%.s' がテーブル '%.s' で検出されました。
1949	関数 '%s' が不明確な結果を作成したので、ビュー '%.s' にインデックスを作成できません。
1950	ビュー '%.s' の GROUP BY 節に不明確な式が含まれているので、インデックスを作成できません。
1951	ビュー '%.s' の WHERE 節に不明確な式が含まれているので、インデックスを作成できません。
1952	ビュー '%.s' の結合に不明確な式が含まれているので、インデックスを作成できません。
1953	組み込み関数の一部の引数が不足しているので、ビュー '%.s' にインデックスを作成できません。
1954	ビュー '%.s' がルールにバインドされた列を使用しているので、インデックスを作成できません。
1955	ビュー '%.s' に不明確な計算列が含まれるので、インデックスを作成できません。
1956	ビュー '%.s' が不明確なユーザ定義関数を使用しているので、インデックスを作成できません。
1957	ビュー '%.s' には日付または変数を含む変換が必要なので、インデックスを作成できません。
1958	SQL Server のこのエディションはインデックス付きビューをサポートしません。
1959	このデータベースは SQL Server 互換ではないので、ビューまたは計算列にインデックスを作成できません。

テーブル 3-19: TSQL エラー・コード - 2000 から 2099

エラー・コード	説明
2001	重複したパラメータ名は使用できません。パラメータ名 '%.*s' は複数回リストされました。
2004	プロシージャ '%.*s' は、グループ番号 %d で既に作成されています。未使用のグループ番号を使ってプロシージャを作成してください。
2007	存在しないオブジェクト '%.*s' に依存しているので、現在のストア・プロシージャで sysdepends に行を追加できません。ストア・プロシージャが作成されます。
2008	オブジェクト '%.*s' はプロシージャではないので、そのグループ名で別のプロシージャは作成できません。
2009	プロシージャ '%.*s' は、名前の解決の警告が遅延しましたが（存在する場合）、作成されました。
2010	オブジェクト・タイプに互換性がないので %.*s で変更を実行できません。
2011	インデックス・ヒントは、スキーマバインド・オブジェクト内では指定できません。
2012	ユーザ定義変数は、スキーマバインド・オブジェクト内では宣言できません。

テーブル 3-20: TSQL エラー・コード - 2100 から 2199

エラー・コード	説明
2106	テーブル '%.*s' がデータベース '%.*s' に存在しないので、そのテーブルにはトリガを作成できません。
2108	現在のデータベースのテーブルにしかトリガを作成できないので、テーブル '%.*s' にはトリガを作成できません。
2110	トリガ '%.*s' は、テーブル '%.*s' には存在しないので、変更できません。
2111	INSTEAD OF %s トリガが既に存在するので、%S_MSG '%.*s' のトリガ '%.*s' を %s できません。
2112	CHECK OPTION を使用して定義されているので、ビュー '%.*s' のトリガ '%.*s' を %s できません。
2113	テーブルはカスケード DELETE または UPDATE を持つ FOREIGN KEY を持っているため、テーブル '%.*s' では INSTEAD OF DELETE または UPDATE TRIGGER '%.*s' を %s できません。
2114	列 '%.*s' は計算列なので、IF UPDATE 節では使用できません。

テーブル 3-21: TSQL エラー・コード - 2500 から 2599

エラー・コード	説明
2501	'%.*s' という名前のテーブルまたはオブジェクトが見つかりませんでした。sysobjects を確認してください。
2502	トランザクションを開始できませんでした。
2503	物理ファイル '%.*s' が正常に削除されました。

エラー・コード	説明
2504	物理ファイル '%ls' を削除できませんでした。DeleteFile システム関数がエラー %ls を返しました。
2505	デバイス '%.*ls' は存在しません。sp_helpdevice を使用して、使用できるデバイスを表示してください。
2506	テーブル名またはオブジェクト名 '%.*ls' がデータベース '%.*ls' に見つかりませんでした。
2511	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。キーがページ %S_PGID、スロット %d と %d で使用できません。
2512	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。ページ %S_PGID スロット %d とページ %S_PGID スロット %d でキーが重複しています。
2513	テーブル・エラー: オブジェクト ID %ld (オブジェクト '%.*ls') が '%.*ls' と '%.*ls' で一致しません。
2514	テーブル・エラー: データ型 %ld (型 '%.*ls') が '%.*ls' と '%.*ls' で一致しません。
2515	ページ %S_PGID、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d が変更されましたが、差分バックアップ・ビットマップに変更が記録されていません。
2516	差分ビットマップがデータベース %.*ls では無効になっていました。差分バックアップを実行する前に、データベースを完全バックアップする必要があります。
2517	データベース %.*ls で最小ログ処理の状態がオンにされました。すべてのデータを確実に保護するために、ログのバックアップ処理を再実行します。
2519	ファイルグループ %.*ls が無効なので、テーブル %.*ls を処理できません。
2520	データベース '%.*ls' が見つかりませんでした。sysdatabases を確認してください。
2521	データベース ID %d が見つかりませんでした。sysdatabases を確認してください。
2522	ファイルグループ %.*ls が無効なので、テーブル %.*ls のインデックス %.*ls を処理できません。
2523	ファイルグループ %.*ls が無効です。
2524	ファイルグループ %.*ls がオフラインなので、テーブル %.*ls を処理できません。
2525	データベース・ファイル %.*ls はオフラインです。
2526	DBCC 文が無効です。DBCC の正しい構文とオプションをドキュメントで確認してください。
2527	テーブル %.*ls のインデックス %.*ls を処理できません。ファイルグループ %.*ls がオフラインです。
2528	DBCC の実行が完了しました。DBCC がエラー・メッセージを出力した場合は、システム管理者にお問い合わせください。
2529	ファイルグループ %.*ls がオフラインです。
2530	セカンダリ・インデックス・エントリが存在しないか、テーブル内のデータと一致していません。失敗したレコードを表示するために、WITH TABLOCK オプションを使用して、コマンドを再実行してください。
2531	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d B-tree レベルが一致しません。ページ %S_PGID。レベル %d が以前の %S_PGID からのレベル %d と一致しません。

エラー・コード	説明
2532	DBCC SHRINKFILE はファイル %ls を圧縮できませんでした。ログ・ファイルがサポートされていません。
2533	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d に割り当てられているページ %S_PGID が見つかりません。ページが無効か、ページのヘッダのオブジェクト ID 情報が間違っています。
2534	テーブル・エラー: ヘッダにオブジェクト ID %d、インデックス ID %d を持つページ %S_PGID は別のオブジェクトによって割り当てられています。
2535	テーブル・エラー: ページ %S_PGID は、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d に割り当てられています。ページ・ヘッダのオブジェクト ID %d、インデックス ID %d には割り当てられていません。
2536	'%.*ls' に対する DBCC の結果です。
2537	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ %S_PGID、行 %d。レコードの確認 (%hs) に失敗しました。値は %ld と %ld です。
2538	ファイル %d。エクステント数 = %ld、使用ページ数 = %ld、予約ページ数 = %ld。
2539	このデータベースでの総エクステント数 = %ld、使用ページ数 = %ld、予約ページ数 = %ld。
2540	システムはこのエラーを自己修復できません。
2541	DBCC UPDATEUSAGE : テーブル '%.*ls' の sysindexes 行 (インデックス ID %ld) が更新されました。
2542	DATA ページ: (%ld) ページから (%ld) ページに変更されました。
2543	USED ページ: (%ld) ページから (%ld) ページに変更されました。
2544	RSVD ページ: (%ld) ページから (%ld) ページに変更されました。
2545	ROWS カウント: (%I64d) 行から (%I64d) 行に変更されました。
2546	テーブル '%.*ls' のインデックス '%.*ls' がオフラインになっています。インデックスを再構築し、オンラインにしてください。
2547	インデックス・チェックの 2 番目の受け渡しを実行しています。
2548	DBCC: インデックス '%.*ls' の圧縮フェーズが %d%% 完了しました。
2549	DBCC: インデックス '%.*ls' のデフラグ・フェーズが %d%% 完了しました。
2557	ユーザ '%.*ls' は DBCC %ls をオブジェクト '%.*ls' で実行する許可を持っていません。
2559	'%ls' と '%ls' オプションは同じ文では許可されません。
2560	パラメータ %d はこの DBCC 文では無効です。
2562	'%ls' は、テーブルではないので、オブジェクト '%.*ls' にアクセスできません。
2566	DBCC DBREINDEX はシステム・テーブルでは使用できません。
2567	DBCC INDEXDEFRAG はシステム・テーブル・インデックスでは使用できません。
2568	ページ %S_PGID は、このデータベースまたはログ・ファイルの範囲外です。
2570	警告: ページ %S_PGID、スロット %d (オブジェクト %d、インデックス %d、列 %. *ls、値 %. *ls) はデータ型 "%. *ls" の範囲外です。列を有効な値に更新してください。

エラー・コード	説明
2571	ユーザ '%*ls' は DBCC %ls '%*ls' を実行する権限を持っていません。
2572	DBCC は DLL '%*ls' を解放できません。DLL は使用中です。
2573	データベース '%*ls' は SUSPECT とマークされていません。DBCC を使用して削除することはできません。
2574	オブジェクト ID %d、インデックス ID %d: ページ %S_PGID は空です。これは B-Tree の %d レベルでは許可されません。
2575	IAM ページ %S_PGID が、IAM ページ %S_PGID オブジェクト ID %d インデックス ID %d の次のポイントによりポイントされていますが、スキャンでは検出されませんでした。
2576	IAM ページ %S_PGID が、IAM ページ %S_PGID オブジェクト ID %d インデックス ID %d の前のポイントによりポイントされていますが、スキャンでは見つかりませんでした。
2577	オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の IAM チェーンで、チェーンのシーケンス番号の順序が間違っています。ページ %S_PGID のシーケンス番号 %d がページ %S_PGID のシーケンス番号 %d を指しています。
2578	最小ログ・エクステントが GAM 間隔開始ページ %S_PGID で見つかりましたが、最小ログ・フラグがデータベース・テーブルで設定されていません。
2579	テーブル・エラー: エクステント %S_PGID オブジェクト ID %d、インデックス ID %d がこのデータベースの範囲を超えています。
2580	テーブル '%*ls' はシステム・テーブルまたは一時テーブルです。DBCC CLEANTABLE はシステム・テーブルまたは一時テーブルには適用できません。
2583	DBCC 文に指定されたパラメータ数が無効です。
2588	ページ %S_PGID が text、ntext、または image 値の先頭ページになるはずですが。
2590	ユーザ '%*ls' がデータベース '%*ls' のページ %S_PGID を %d バイトから %d バイトに変更しています。
2591	テーブル '%*ls' のインデックス ID %d を持つ行が sysindexes に見つかりませんでした。
2592	%ls インデックスは、データベース '%*ls' のオブジェクト '%*ls' で正しくリストアされました。
2593	オブジェクト '%*ls' の %ld ページの中に %l64d 行あります。
2594	無効なインデックス ID (%d) が指定されました。
2595	この文を実行する前に、データベース '%*ls' をシングル・ユーザ・モードにしてください。
2597	データベースが開かれていません。'USE %*ls' 文を実行し、DBCC 文を再実行してください。
2598	sysobjects と sysindexes のクラスタ化インデックスを再作成できません。

テーブル 3-22: TSQL エラー・コード - 2600 から 2699

エラー・コード	説明
2601	一意のインデックス '%.*s' を持つオブジェクト '%.*s' には重複するキー行を挿入できません。
2603	インデックス・ページに行を挿入中に、オブジェクト '%.*s' のインデックス ID %d の論理ページ %S_PGID に空き領域が残っていませんでした。この状況は、インデックスを処理するときに処理されます。
2617	論理ページ %S_PGID を保持するバッファが、オブジェクト '%.*s' の SDES の保持プールに見つかりませんでした。サポート窓口までお問い合わせください。
2624	行の長さ %d が、行の長さの最小値 %d よりも短いので、テーブル %S_DES に挿入できませんでした。
2627	%ls 制約 '%.*s' の違反。オブジェクト '%.*s' には重複したキーは挿入できません。

テーブル 3-23: TSQL エラー・コード - 2700 から 2799

エラー・コード	説明
2701	tempdb のオブジェクトを参照中に、データベース名 '%.*s' が無視されました。
2702	データベース '%.*s' が存在しません。
2705	各テーブルの列名は一意でなければなりません。テーブル '%.*s' の列名 '%.*s' が複数回指定されています。
2706	テーブル '%.*s' が存在しません。
2710	この文 (CREATE、ALTER、TRUNCATE、UPDATE STATISTICS、または BULK INSERT) で指定されたオブジェクト '%.*s' の所有者ではありません。
2714	データベースにオブジェクト名 '%.*s' が既に存在します。
2715	列またはパラメータ #%d: データ型 '%.*s' が見つかりません。
2716	列またはパラメータ #%d: データ型 '%.*s' では列幅を指定できません。
2717	%S_MSG '%.*s' に指定されたサイズ (%d) は最大許容値 (%d) を超えています。
2718	列またはパラメータ #%d: データ型 bit の列に Null 値は指定できません。
2721	テーブルを作成する既定のセグメントが見つかりませんでした。syssegments に既定のセグメントを指定するように、システム管理者に依頼してください。
2724	パラメータ '%.*s' は、無効なデータ型を持っています。
2727	インデックス '%.*s' を見つけられません。
2730	現在、同じ名前を持つグループ番号 1 のプロシージャがデータベースに存在しないので、グループ番号 %d を持つプロシージャ '%.*s' を作成できません。まず、CREATE PROCEDURE '%.*s';1 を実行してください。
2731	列 '%.*s' の幅 %d が無効です。
2732	エラー番号 %ld が正しくありません。%ld から %ld までの番号が有効です。
2734	ユーザ名 '%.*s' が sysusers に存在しません。

エラー・コード	説明
2736	指定された所有者名はグループ名です。オブジェクトをグループで所有することはできません。
2737	%hs に渡されるメッセージは char、varchar、nchar、または nvarchar 型でなければなりません。
2738	1 つのテーブルが持つ timestamp 列は 1 つのみです。テーブル '%.*ls' は既に 1 つ timestamp 列を持っているので、列 '%.*ls' は追加できません。
2739	text、ntext、および image データ型は、ローカル変数には無効です。
2740	この SQL Server では、'%.*ls' は公式の言語名または言語エイリアスではないので、SET LANGUAGE は失敗しました。
2741	SET DATEFORMAT の日付順序 '%.*ls' が無効です。
2742	SET DATEFIRST %d は範囲外です。
2743	%ls 文は %S_MSG パラメータが必要です。
2744	'%.*ls' に複数の ID 列が指定されています。ID 列は、テーブルごとに 1 つだけ有効です。
2745	プロセス ID %d で、エラー %d、深刻度 %d が発生しました。SQL Server がこのプロセスを終了中です。
2746	%d バイトを超える長さのユーザ・エラー形式文字列は指定できません。
2747	RAISERROR の置換パラメータが多すぎます。%d をを超える置換パラメータを指定できません。
2748	RAISERROR の置換パラメータとして %ls データ型 (RAISERROR パラメータ %d) は指定できません。
2749	ID 列 '%.*ls' は、スケールが 0 の int、bigint、smallint、tinyint、decimal、numeric データ型でなければなりません。また、NULL を許容しません。
2750	列またはパラメータ #%d: 指定された列の精度 %d が、最大精度 %d よりも大きくなっています。
2751	列またはパラメータ #%d: 指定された列の小数点桁数 %d が、指定された精度 %d よりも大きくなっています。
2752	ID 列 '%.*ls' が無効な SEED を持っています。
2753	ID 列 '%.*ls' が無効な INCREMENT を持っています。
2754	%d をを超えるエラー深刻度レベルは、sysadmin ロールのメンバだけが WITH LOG オプションを使って指定できます。
2755	SET DEADLOCK_PRIORITY オプション '%.*ls' が無効です。
2756	%d は状態としては無効な値です。有効な範囲は %d から %d までです。
2757	パラメータ置換が無効なため、エラー %d、深刻度 %d、状態 %d の RAISERROR に失敗しました。
2758	%hs は、sysmessages のエラー %d のエントリに位置付けられませんでした。
2759	以前のエラーにより CREATE SCHEMA に失敗しました。
2760	指定した所有者名 '%.*ls' が存在しないか、使用する権限がありません。

エラー・コード	説明
2761	ROWGUIDCOL プロパティは、UNIQUEIDENTIFIER データ型でのみ指定できます。
2762	sp_setapprole が正しく起動されませんでした。詳細は、ドキュメントを参照してください。
2763	アプリケーション・ロール '%.*s' が見つかりませんでした。
2764	アプリケーション・ロール '%.*s' に無効なパスワードが指定されました。
2765	システム・カタログで、列 '%.*s' の統計に位置付けられませんでした。
2766	ユーザ定義データ型 '%.*s' の定義が変更されました。
2767	システム・カタログで、統計 '%.*s' に位置付けられませんでした。
2768	%ls '%.*s' の統計です。
2769	列 '%.*s'。データ型 %ls の列には統計を作成できません。
2770	SELECT INTO 文のソース・テーブルと宛先テーブルを同じにはできません。
2771	テーブル '%.*s' の統計を作成できません。このテーブルは仮想システム・テーブルです。
2772	関数内からは一時テーブルにアクセスできません。
2773	並べ替え順 ID %d が無効です。
2774	照合順序 ID %d が無効です。
2775	コード・ページ %d はこのオペレーティング・システムではサポートされません。
2777	データベース '%.*s' は、オペレーティング・システムがサポートしない次のコード・ページを使用している列またはパラメータを含んでいます: %ls。

テーブル 3-24: TSQL エラー・コード - 2800 から 2899

エラー・コード	説明
2801	コンパイルされたので、オブジェクト '%.*s' の定義が変更されました。
2809	'%.*s' は %S_MSG オブジェクトなので、%S_MSG '%.*s' の要求は失敗しました。
2812	ストアド・プロシージャ '%.*s' が見つかりませんでした。

テーブル 3-25: TSQL エラー・コード - 3000 から 3099

エラー・コード	説明
3009	msdb データベースに、バックアップの挿入または履歴レコード/詳細レコードのリストアができませんでした。msdb データベースに問題がある可能性があります。バックアップ/リストア処理は正常のままです。
3011	すべてのバックアップ・デバイスは、同じ汎用クラス (例 : DISK、TAPE) である必要があります。
3013	%hs が異常終了しました。
3014	%hs は %d ページを %d.%03d 秒で正常に処理しました (%d.%03d MB/秒)。
3015	%hs はまだ実装されていません。

エラー・コード	説明
3016	バックアップまたはリストア処理が中断されたので、データベース '%ls' のファイル '%ls' は削除または圧縮されました。処理は再開できません。
3017	中断したバックアップまたはリストア処理を再開できませんでした。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
3018	再開できる中断されたバックアップまたはリストア処理はありません。RESTART 節を指定しないで文を再発行してください。
3019	チェックポイント・ファイルは別のバックアップまたはリストア処理用です。RESTART 節を指定しないで文を再発行してください。
3020	ログが切り捨てられているので、バックアップ処理は再開できません。RESTART 節を指定しないで文を再発行してください。
3021	トランザクション内部からバックアップまたはリストア処理は実行できません。
3023	データベースでのバックアップおよびファイル処理 (ALTER DATABASE ADD FILE など) は順番に実行してください。現在のバックアップ、またはファイル処理が完了後に文を再発行してください。
3024	master データベースの完全バックアップだけを実行できます。BACKUP DATABASE を使用してマスタ・データベース全体をバックアップしてください。
3025	データベース名がありません。有効なデータベース名を指定して文を再発行してください。
3026	データベース '%ls' の sysfilegroups にファイル・グループ ID %d が見つかりませんでした。
3027	データベース '%.*ls' の sysfilegroups にファイル・グループ '%.*ls' が見つかりませんでした。
3028	処理のチェックポイント・ファイルが無効です。処理を再開できませんでした。RESTART オプションを指定しないで文を再発行してください。
3031	オプション '%ls' とオプション '%ls' が競合しています。競合したオプションを削除後、文を再発行してください。
3032	この文の 1 つ以上のオプション (%ls) がサポートされません。サポートされているオプションをドキュメントで確認してください。
3033	BACKUP DATABASE は、緊急モードで開かれているデータベースでは使用できません。
3034	処理用に選択されたファイルがありません。メンバのないファイルグループを 1 つ以上選択した可能性があります。
3035	現在のデータベース・バックアップが存在しないので、データベース '%ls' の差分バックアップは実行できません。WITH DIFFERENTIAL オプションを削除して BACKUP DATABASE を再発行し、データベースの完全バックアップを実行してください。
3036	データベース '%ls' は warm-standby 状態 (RESTORE WITH STANDBY を実行して設定) です。ロード・シーケンス全体が完了するまでバックアップは実行できません。
3037	最小ログ処理は、この WITH RESTART コマンドの前に発生します。WITH RESTART を指定しないで BACKUP 文を再発行してください。
3038	ファイル名 '%.*ls' はバックアップ・デバイス名としては無効です。有効なファイル名を指定して BACKUP 文を再発行してください。

エラー・コード	説明
3039	現在のファイル・バックアップが存在しないので、ファイル '%ls' の差分バックアップは実行できません。WITH DIFFERENTIAL オプションを削除して BACKUP DATABASE を再実行してください。
3040	バックアップのレプリケーションを通知中にエラーが発生しました。バックアップは続行されますが、レプリケーション環境は調査が必要です。
3041	コマンド '%.*s' を完了するための BACKUP に失敗しました。

テーブル 3-26: TSQL エラー・コード - 3100 から 3199

エラー・コード	説明
3101	データベースは使用中なので、排他アクセスを取得できませんでした。
3108	マスタ・データベースをリストアしようとするときは、シングル・ユーザ・モードで、RESTORE DATABASE を使用してください。
3110	ユーザはデータベース '%.*s' をリストアする権限を持っていません。
3112	サーバがシングル・ユーザ・モードのときは、マスタ以外のデータベースからはリストアできません。
3113	データベース '%.*s' は、sysusers にデータベース所有者 (DBO) のエントリを持っていません。
3114	データベース '%.*s' は、sysdatabases にエントリを持っていません。
3123	バックアップまたはリストア処理に指定されたデータベース名 '%.*s' は 無効です。
3127	一時メッセージ: バックアップ・セットは、ファイル '%ls' のページを保持していません。
3128	ファイル '%.*s' はサポートされていないページ・サイズ (%d) を持っています。
3129	一時メッセージ: ファイル '%.*s' のサイズは %d バイトから %d バイトに変更されました。
3132	データベース '%ls' のメディア・セットは %d のファミリ・メンバを持っていますが、%d だけが指定されています。すべてのメンバを指定する必要があります。
3133	デバイス '%ls' のボリュームは、メディア・ファミリのメンバではありません。
3135	ファイル '%ls' 内のバックアップ・セットは %hs が作成しました。このリストア処理には使用できません。
3136	デバイス '%ls' のバックアップをデータベース '%ls' に適用することはできません。
3138	バックアップ・セット内の 1 つ以上のファイルがデータベース '%ls' の一部ではなくなりました。
3140	ファイル '%ls' に割り当てられた領域を調整できませんでした。
3141	リストアされるデータベースの名前は '%ls' です。'%ls' データベースに上書きするには、WITH REPLACE オプションを指定して文を再発行してください。
3142	ファイル '%ls' を既存の '%ls' 上にはリストアできません。既存のファイルに上書きするには WITH REPLACE オプションを使用して RESTORE 文を再発行してください。
3143	デバイス '%ls' のデータ・セットは、SQL Server のバックアップ・セットではありません。
3144	ファイル '%.*s' はデバイス '%ls' のファイル %d にバックアップされませんでした。このバックアップ・セットからファイルをリストアできません。

エラー・コード	説明
3145	STOPAT オプションは RESTORE DATABASE ではサポートされていません。STOPAT オプションは RESTORE LOG で使用できます。
3146	バックアップされた後に、新しくリストアされたファイルは変更されていません。これ以上のリカバリ・アクションは必要ありません。データベースは使用可能になりました。
3147	tempdb データベースでのバックアップおよびリストア処理はできません。
3148	ALTER DATABASE でのメディア・リカバリはまだサポートされていません。データベースをロール・フォワードできません。
3150	マスタ・データベースが正常にリストアされました。SQL Server をシャットダウンしています。
3151	マスタ・データベースがリストアできませんでした。rebuildm ユーティリティを使用してマスタ・データベースを再構築してください。SQL Server をシャットダウンしています。
3152	ファイル '%ls' は、読み取り専用としてマークされているため、上書きできません。
3153	データベースは既に完全に復元されています。
3154	バックアップ・セットは、既存の '%ls' データベース以外のデータベースのバックアップを保持します。
3155	バックアップ・セットが作成されたため 1 つ以上のファイルがデータベースに追加された、またはデータベースから削除されたので、RESTORE 処理を継続できません。
3156	ファイル '%ls' を '%ls' にはリストアできません。WITH MOVE を使用してファイルの有効な位置を特定してください。
3157	論理ファイル (%d) の名前は '%.*ls' です。RESTORE は '%ls' から論理ファイルを上書きしません。
3158	1 つ以上のファイルを作成できません。有効な位置を特定するために、WITH MOVE オプションの使用を考慮してください。
3159	データベース '%ls' のログの末尾がバックアップされませんでした。ログをバックアップし、FILE 節を指定して RESTORE 文を返します。
3160	sysdatabases 内のプライマリ・ファイル情報を更新できませんでした。
3161	プライマリ・ファイルを使用できません。リストアするか、または使用可能にする必要があります。
3162	データベースにはディスク上の構造バージョン %d があります。サーバはバージョン %d をサポートし、バックアップされた際にアクティブではなかったデータベースなどだけをリストアします。このデータベースはアクティブでした。
3163	トランザクション・ログが破損しました。RESTORE LOG を試行できるようにする前に、すべてのデータ・ファイルをリストアする必要があります。
3164	ディスク上の構造バージョン %d を使用してデータベースをロール・フォワードできませんでした。サーバはバージョン %d をサポートしています。RESTORE 文 WITH RECOVERY を再発行してください。
3165	データベース '%ls' のレプリケーションの状態を調整できませんでした。データベースは正常にリストアされましたが、そのレプリケーション状態は不確定です。"SQL Server オンライン・ブック" の "トラブルシューティング (レプリケーション)" セクションを参照してください。

エラー・コード	説明
3166	RESTORE DATABASE でデータベース '%ls' を削除できませんでした。データベースを削除して、RESTORE DATABASE 文を再発行してください。
3167	RESTORE でデータベース '%ls' を開始できませんでした。
3168	このサーバ(%u)と異なるバージョンのサーバ(%u)で作成されたため、デバイス %ls 上のシステム・データベースのバックアップをリストアできませんでした。
3169	バックアップされたデータベースにはディスク上の構造バージョン %d があります。サーバはバージョン %d をサポートしており、このデータベースをリストアもアップグレードもできません。
3170	STANDBY ファイル名は無効です。
3171	ファイルがオフラインなので、ファイル %ls をリストアできません。
3172	ファイルグループがオフラインなので、ファイルグループ %ls をリストアできません。
3174	ファイル '%ls' をこの RESTORE 処理で移動できません。
3175	すべてのファイルがバックアップ・セットに存在しないため、ファイルグループ '%ls' をリストアできません。ファイル '%ls' が見つかりません。
3176	ファイル '%ls' が '%ls'(%d) と '%ls'(%d) によって提起されます。WITH MOVE 節を使用して 1 つ以上のファイルを再配置します。
3177	dbcreator および sysadmin ロールのメンバだけが、%ls 文を実行できます。
3178	この差分バックアップをファイル %ls に適用させるには、このファイルは誤った状態にあります。
3179	システム・データベースを RESTORE で移動できません。
3180	このバックアップは、データベースのアップグレードが必要なため、WITH STANDBY を使用してリストアできません。WITH STANDBY を使用しないで RESTORE を再発行してください。

テーブル 3-27: TSQL エラー・コード - 3200 から 3299

エラー・コード	説明
3201	バックアップ・デバイス '%ls' を開けません。デバイス・エラーまたはデバイスがオフラインです。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
3202	'%ls' への書き込みに失敗しました。状態 = %ld。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
3203	'%ls' への読み取りに失敗しました。状態 = %ld。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
3204	演算子はバックアップまたはリストアを中止しました。詳細は、コンソールに返されるエラー・メッセージを参照してください。
3205	バックアップまたはリストアに対してあまりにも多くのバックアップ・デバイスが指定されました。%d のみが許可されます。
3206	バックアップ・デバイス '%.*ls' に関するエントリが sysdevices 内に存在しません。sysdevices を更新して、文を返します。
3207	バックアップまたはリストアには、少なくとも 1 つのバックアップ・デバイスが必要です。バックアップ・デバイスを指定する文を返してください。

エラー・コード	説明
3208	バックアップ・セットの開始の読み取り中の、予期しないファイルの最後です。メディアに有効な SQL Server バックアップ・セットが含まれていることを確認します。詳細は、コンソール・エラー・ログを参照してください。
3209	'%.*ls' は、バックアップ・デバイスではありません。sysdevices を確認してください。
3211	%d パーセントの %hs。
3217	%ls パラメータに無効な値が指定されました。
3221	ReadFileEx システム関数は、ファイル '%ls' 上で %d バイトの読み取りのみを実行しました。%d が必要です。
3222	WriteFileEx システム関数は、ファイル '%ls' 上で %d バイトの書き込みのみを実行しました。%d が必要です。
3224	ワーカ・スレッドを作成できません。
3227	デバイス '%ls' のボリュームは、削除セットのメンバ %d の重複です。
3229	デバイス '%ls' のタイム・アウトの要求です。
3230	デバイス '%ls' 上の処理で再試行カウントを実行しました。
3234	論理ファイル '%.*ls' は、データベース '%ls' の一部ではありません。RESTORE FILELISTONLY を使用して論理ファイル名のリストを表示してください。
3235	ファイル '%ls' は、データベース '%ls' の一部ではありません。このデータベースのメンバであるファイルのリストのみを表示できます。
3237	オプションは Named Pipe ベースのバックアップ・セットをサポートしません。
3239	デバイス '%ls' 上のバックアップ・セットでは、SQL Server がサポートしない Microsoft テープ形式の機能を使用します。
3241	デバイス '%ls' のメディア・ファミリが誤って確立されています。SQL Server はこのメディア・ファミリを処理できません。
3242	デバイス '%ls' のファイルは有効な Microsoft テープ形式バックアップ・セットではありません。
3243	デバイス '%ls' のメディア・ファミリは Microsoft テープ形式バージョン %d.%d を使用して作成されました。SQL Server がサポートしているバージョンは %d.%d です。
3244	記述子のブロック・サイズが %d バイトを超えています。短い名前と短い説明文字列を使用して、処理を再試行してください。
3245	文字列を Unicode 変換できませんでした。%ls。
3246	デバイス '%ls' のメディア・ファミリは追記不能になっています。メディアに上書きする場合は、INIT オプションを指定してこの文を再発行してください。
3247	デバイス '%ls' のボリュームのメディア・シーケンス番号 (%d) は無効です。削除してボリューム %d を挿入してください。
3248	>>> ボリューム・スイッチ <<< (出力用ではありません)
3249	デバイス '%ls' のボリュームはバックアップ・セットの途中ボリュームです。削除して、バックアップ・セットの先頭を保持しているボリュームを挿入してください。
3250	値 '%d' はパラメータ %ls の範囲外です。

エラー・コード	説明
3251	デバイス '%ls' のメディア・ファミリが完了しました。デバイスは残りのファミリの 1 つとして再使用できるようになります。
3253	ブロック・サイズ・パラメータは、2 のべき乗の値で指定してください。
3254	デバイス '%ls' のボリュームは空です。
3255	デバイス '%ls' のデータ・セットは、このバージョンの SQL Server とは互換性のない SQL Server バックアップ・セットです。
3256	デバイス '%ls' のバックアップ・セットは作成中に終了されたので、不完全です。RESTORE シーケンスは異常終了します。
3257	ディスク・ボリューム '%ls' にデータベースを作成するための空き容量が不足しています。データベースの作成にはあと %I64u バイトの空き容量が必要です。%I64u バイトだけが使用可能です。
3258	デバイス '%ls' のボリュームは別のメディア・セットに属しています。
3259	デバイス '%ls' のボリュームは、複数のファミリ・メディア・セットの一部ではありません。BACKUP WITH FORMAT を使用して新しいメディア・セットを構成してください。
3260	内部バッファがいっぱいになりました。
3261	SQL Server は仮想デバイス構成を使用できません。
3262	バックアップ・セットは有効です。
3263	デバイス '%ls' のボリュームは途中ボリュームとして使用できません。現在のメディア・セットのファミリ %d のシーケンス番号 %d になっています。新しいボリュームまたは現在のセットのファミリ %d のシーケンス番号 %d に交換してください。
3264	RESTART を許可するために十分な処理ではありません。RESTART 修飾子を指定しないで文を再発行してください。
3265	ログインには十分な権限がありません。BACKUP または RESTORE を指定した VIRTUAL_DEVICE を使用するには sysadmin ロールのメンバでなければなりません。
3266	'%ls' 内のバックアップ・データは正しくフォーマットされていません。バックアップは追加されませんが、既存のバックアップ・セットは使用可能な状態で残ります。
3267	UMS スケジューラを作成するためのリソースが不足しています。
3268	バックアップ・ファイル '%ls' はセクタ・サイズ %d でフォーマットされていて、現在のデバイスのセクタ・サイズは %d なので使用できません。
3269	ファイル '%ls' はセクタ・サイズ %d で書き込まれたのでリストアできません。'%ls' は、現在セクタ・サイズ %d のデバイスに存在します。
3270	内部不整合エラーが発生しました。サポート窓口にご相談ください。
3271	ファイル '%ls' で回復できない I/O エラーが発生しました。
3272	'%ls' デバイスのハードウェア・セクタ・サイズは %d ですが、パラメータで指定されたブロック・サイズは互換性のないオーバーライド値 %d です。互換性のあるブロック・サイズを使用して文を再発行してください。
3273	BUFFERCOUNT パラメータには、バックアップ・デバイスごとに最低 1 つのバッファを許可する値を指定してください。

エラー・コード	説明
3274	デバイス%ls のバックアップ・セットのチェックサムの計算が正しくありません。バックアップ・セットはリストアできません。
3275	I/O 要求 0x%08x は I/O の検証に失敗しました。説明については、エラー・ログを参照してください。
3276	バックアップ・セットが WITH SNAPSHOT を使用して作成されている場合のみ、WITH SNAPSHOT を使用できます。
3277	WITH SNAPSHOT は 1 つの仮想デバイスでのみ使用します。
3278	文字列 %ls の暗号化に失敗しました。
3279	パスワード・エラーでアクセスが拒否されました。
3280	raw デバイス上のバックアップはサポートされません。'%ls' は raw デバイスです。
3281	解放され、'%ls' で巻き戻しが開始されました。

テーブル 3-28: TSQL エラー・コード - 3300 から 3399

エラー・コード	説明
3301	トランザクション・ログ (logop %d) に無効なログ・レコードが見つかりました。
3313	データベース '%ls' でログ記録処理をやり直しているときにエラーが発生しました。エラーが発生したログ・レコード ID は %S_LSN です。
3314	データベース '%ls' でログ記録処理を元に戻しているときにエラーが発生しました。エラーが発生したログ・レコード ID は %S_LSN です。
3315	ロールバック中にプロセス %d が期待するのはモード %d ロック、レベル %d、行 %S_RID、データベース '%ls'、トランザクション %S_XID を保持することです。

テーブル 3-29: TSQL エラー・コード - 3400 から 3499

エラー・コード	説明
3405	データベース '%ls' をリカバリ中です。
3406	%d 個のトランザクションがデータベース '%ls' (%d) でロール・フォワードされました。
3407	%d 個のトランザクションがデータベース '%ls' (%d) でロールバックされました。
3408	リカバリが完了しました。
3413	データベース ID %d。データベースを SUSPECT とマークできませんでした。sysdatabases.dbid での Getnext NC スキャンは失敗しました。
3414	データベース '%ls' (データベース ID %d) を回復できませんでした。サポート窓口までお問い合わせください。
3415	データベース '%ls' は読み取り専用か、読み取り専用のファイルを持っています。このデータベースをアップグレードする前に書き込み可能にしてください。
3417	マスタ・データベースを回復できません。終了しています。
3429	警告: トランザクション %S_XID、名前 '%ls' (データベース '%ls' (データベース ID %d) 内) の結果を確認できませんでした。対応するデータベース (データベース ID %d) を開けませんでした。トランザクションはコミットされたと想定します。

エラー・コード	説明
3430	警告: トランザクション %S_XID、名前 '%.s' (データベース '%.s' (ID %d) 内) の結果を確認できませんでした。対応するデータベース (ID %d) が結果を持っていませんでした。トランザクションはコミットされたと想定します。
3431	トランザクションの結果を解決できないので、データベース '%.s' (データベース ID %d) を回復できませんでした。
3432	警告: syslanguages がありません。
3433	名前は '%.s' に切り捨てられます。名前の最大長は %d です。
3434	並べ替え順またはロケールを変更できません。サーバをシャットダウンしています。並べ替え順を変更しないで続行する場合は SQL Server を再起動してください。
3435	ユーザ・オブジェクトまたはユーザ・データベースが存在するので、並べ替え順またはロケールは変更できません。
3436	'%.s' データベースの '%.s' テーブルでインデックスを再構築できません。
3437	データベース '%.s' をリカバリ中にエラーが発生しました。トランザクション %S_XID の完了状態を調べるために MSDTC に接続できませんでした。
3438	トランザクションの最初の LSN がチェックポイント内の LSN と等しくないので、データベース '%.s' (データベース ID %d) を回復できませんでした。サポート窓口までお問い合わせください。
3439	データベース '%.s' (データベース ID %d)。以前のエラーにより DBCC RECOVERDB 文は失敗しました。
3440	データベース '%.s' (データベース ID %d)。DBCC RECOVERDB 文を実行できるのは、WITH NORECOVERY オプションを使用した RESTORE 文の実行後だけです。
3441	データベース '%.s' (データベース ID %d)。RESTORE 文はファイル '%.s' にアクセスできませんでした。エラーは '%.s' です。
3442	データベース '%.s' (データベース ID %d)。undo ファイルのサイズが不足しています。
3443	データベース '%.s' (データベース ID %d) はスタンバイまたは読み取り専用になっていましたが変更されました。RESTORE LOG 文は実行できません。
3445	ファイル '%.s' は、データベース '%.s'、データベース ID %d の有効な undo ファイルではありません。
3446	プライマリ・ログ・ファイルは、データベース '%.s' で使用できません。ログはバックアップされません。
3447	データベース '%.s' のすべてのログ・ファイルをアクティブにすること、またはスキャンすることができませんでした。
3448	ログ・レコード %S_LSN、トランザクション ID %S_XID、ページ %S_PGID、データベース '%.s' (データベース ID %d) を元に戻せませんでした。ページ情報 : LSN = %S_LSN、型 = %ld。ログ情報 : OpCode = %ld、コンテキスト %ld。
3449	SQL Server のシャットダウンを要求してエラーが発生したため、データベース ID %d でリカバリを実行できます。
3450	データベース '%.s' (%d) のリカバリは %d%% 完了しました (約 %d 秒以上) (フェーズ %d/3)。

エラー・コード	説明
3451	CREATE INDEX の再実行で対象ファイルグループ '%ls' (%d) とソース・ファイルグループ '%ls' (%d) の間に矛盾が見つかったため、リカバリに失敗しました。さらに RESTORE LOG 処理を試行する前に両方のファイルグループをリストアしてください。
3452	データベース '%.*ls' (%d) のリカバリは、テーブル ID %d で潜在的な ID 値の矛盾を検出しました。DBCC CHECKIDENT ('%.*ls') を実行してください。
3453	このバージョンは、SQL Server 7.0 で実行されたインデックスの作成またはログのない処理を元に戻せません。追加のロール・フォワードもできません。
3454	リカバリは、データベース '%.*ls' (%d) のチェックポイントを実行しています。
3455	データベース '%.*ls' (%d) の分析は %d% 完了しました (約 %d 秒以上)。
3456	ログ・レコード %S_LSN、トランザクション ID %S_XID、ページ %S_PGID、データベース '%.*ls' (%d) をやり直せませんでした。ページ : LSN = %S_LSN、タイプ = %ld。ログ : OpCode = %ld、コンテキスト %ld、PrevPageLSN : %S_LSN。

テーブル 3-30: TSQL エラー・コード - 3500 から 3599

エラー・コード	説明
3501	チェックポイント時間にデータベース ID %d に対して sysdatabases 内の行が見つかりませんでした。
3505	データベース '%.*ls' の所有者のみが CHECKPOINT 文を実行できます。
3508	データベース '%.*ls' を排他的にロックできませんでした。他のユーザがこのデータベースを使用していないことを確認し、CHECKPOINT 文を再実行してください。
3509	データベースを排他的にロックできなかったため、データベース '%.*ls' %ls 読み取り専用ユーザ・モードを設定できませんでした。
3510	プライマリ・ファイル/ログ・ファイルに書き込みできないため、データベース '%.*ls' を読み取り専用から変更できませんでした。

テーブル 3-31: TSQL エラー・コード - 3600 から 3699

エラー・コード	説明
3604	重複したキーは無視されます。
3605	重複した行は無視されます。
3606	算術オーバーフローが発生しました。
3607	0 による除算が発生しました。
3608	トークンに GUID を割り当てられません。
3612	%hsSQL Server 実行時間 : %hs CPU 時間 = %lu ms、経過時間 = %lu ms。
3613	SQL Server 構文解析とコンパイル時間: %hs CPU 時間 = %lu ms、経過時間 = %lu ms。
3615	テーブル '%.*ls'。スキャン・カウント %d、論理読み取り数 %d、物理読み取り数 %d、先行読み取り数 %d。
3618	トランザクションは終了されました。

エラー・コード	説明
3619	ログに空き領域がないので、データベース ID %d に CHECKPOINT レコードを書き込めませんでした。
3620	ログに空き領域がないので、データベース '%.*s' での自動チェックポイント処理は無効です。データベース所有者が、データベースのチェックポイント処理を実行後、自動チェックポイント処理を続行します。領域を解放するか、データベースを拡張してから CHECKPOINT 文を実行してください。
3621	文は終了されました。
3622	ドメイン・エラーが発生しました。
3625	'%hs' はまだ実装されていません。
3627	ワーカ・スレッドを作成できませんでした。
3628	ユーザ・プロセスで浮動小数点の例外が発生しました。現在のトランザクションはキャンセルされます。
3629	この SQL Server は %d 同時クエリ用に最適化されました。%d クエリがこの制限を超えたので、パフォーマンスが低下する可能性があります。
3630	同時処理違反 %ls% s 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10-100 >100% s%6u%6u%6u%6u%6u%6u%6u%6u%8u%6u
3631	同時処理違反が SQL Server エラー・ログに書き込まれます。
3632	同時処理違反が SQL Server エラー・ログに書き込まれません。

テーブル 3-32: TSQL エラー・コード - 3700 から 3799

エラー・コード	説明
3701	%S_MSG '%.*s' がシステム・カタログに存在しないので、%S_MSG できません。
3702	%S_MSG '%.*s' は現在使用中なので、削除できません。
3703	%S_MSG '%.*s' は現在使用中なので、アタッチを解除できません。
3704	ユーザは %S_MSG '%.*s' でこの処理を実行する権限を持っていません。
3705	'%.*s' が %S_MSG なので、'%.*s' では DROP %ls を使えません。DROP %ls を使用してください。
3708	%S_MSG '%.*s' はシステム %S_MSG なので、%S_MSG できません。
3716	%S_MSG '%.*s' は、1 つ以上の %S_MSG に結合されているので、削除できません。
3718	テーブルまたはクラスタ化インデックス・エントリが、sysindexes システム・テーブルに見つからなかったため、インデックス '%.*s' を削除できませんでした。
3723	明示的な DROP INDEX は、インデックス '%.*s' では許可されません。%ls 制約の実施で使われています。
3724	レプリケーションで使用されているので、%S_MSG '%.*s' を %S_MSG できません。
3725	制約 '%.*s' はテーブル '%.*s'、外部キー制約 '%.*s' で参照されています。
3726	オブジェクト '%.*s' は、FOREIGN KEY 制約で参照されているので、削除できませんでした。
3727	制約を削除できませんでした。以前のエラーを参照してください。

エラー・コード	説明
3728	'%.*ls' は制約ではありません。
3729	オブジェクト '%ls' が参照しているため、'%.*ls' を %ls できませんでした。
3733	制約 '%.s' は テーブル '%.s' に属していません。
3736	%S_MSG '%.s' はディストリビューションで使用中なので削除できません。
3737	ファイル '%ls' を削除できませんでした。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
3738	データベース・ファイル '%.s' を削除しています。
3739	インデックス '%.s' は統計コレクションではないので、%ls できません。
3740	%S_MSG '%.s' は、少なくとも読み取り専用のファイルグループにあるテーブルの一部であるので、削除できません。
3741	%S_MSG '%.s' は、少なくともオフラインのファイルグループにあるテーブルの一部であるので、削除できません。

テーブル 3-33: TSQL エラー・コード - 3900 から 3999

エラー・コード	説明
3902	COMMIT TRANSACTION 要求に対応する BEGIN TRANSACTION がありません。
3903	ROLLBACK TRANSACTION 要求に対応する BEGIN TRANSACTION がありません。
3904	データベース '%.s' のオブジェクト '%.s' の論理ページ %S_PGID の分割を解除できません。両方のページのデータをあわせると 1 ページに保持できるデータを超過してしまいます。
3906	データベース '%.s' は読み取り専用なので、BEGIN TRANSACTION を実行できませんでした。
3908	データベース '%.s' がバイパス・リカバリ・モードなので、BEGIN TRANSACTION を実行できませんでした。
3909	セッション・バインディング・トークンが無効です。
3910	トランザクション・コンテキストは別のセッションで使用されています。
3912	サーバが XP を呼び出していないので、XP トークンを使用して結合できません。
3914	データ型 '%s' は、トランザクション名またはセーブポイント名では無効です。有効なデータ型は char、varchar、nchar、または nvarchar です。
3915	INSERT-EXEC 文内部では ROLLBACK 文を使用できません。
3916	BEGIN TRANSACTION が最初に使用されていない場合は、INSERT-EXEC 文内部で COMMIT 文は使用できません。
3917	セッションは使用中のトランザクション・コンテキストに制限されます。バッチ内の他の文は無視されます。
3918	文はユーザ・トランザクションのコンテキスト内で実行する必要があります。
3919	トランザクションが既にコミットまたはロールバックされたので、トランザクションに参加できません。

エラー・コード	説明
3920	WITH MARK オプションだけが最初の BEGIN TRAN WITH MARK 文に適用されます。オプションは無視されます。
3921	アクティブなトランザクションがないので、トランザクション・トークンを取得できません。トランザクションを開始後、文を再発行してください。
3922	トランザクションが存在しないので、トランザクションに参加できません。
3923	データベース '%*ls' で、一括ログ記録処理にマークがあるトランザクションは、バックアップされていないので使用できません。マークは無視されます。
3924	新規トランザクションに結合中に、セッションがアクティブなユーザ・トランザクションに参加しました。セッションは以前のユーザ・トランザクションから参加解除されました。
3925	無効なトランザクション・マーク名です。'LSN:' 接頭語は予約されています。
3926	このセッションでアクティブなトランザクションが、別のセッションによりコミットまたは中止されました。
3927	セッションは、分散トランザクション・コーディネータ・トランザクションに参加しようとしているときに、アクティブなトランザクションを持っています。
3928	マークされたトランザクション '%*ls' が失敗しました。マークをログに配置中にデッドロックが発生しました。

テーブル 3-34: TSQL エラー・コード - 4000 から 4099

エラー・コード	説明
4003	ODS エラー。サーバはこの接続を終了しています。
4004	Unicode のみの照合の Unicode データまたは ntext データを、DB-Library (例 ISQL) または ODBC バージョン 3.7 以前を使用しているクライアントに送信できません。
4015	ログイン '%*ls' が要求している言語は、この SQL Server の公式名ではありません。代わりにサーバ全体の既定名 '%*ls' を使用します。
4016	'login '%*ls' が要求している言語は、この SQL Server の公式名ではありません。代わりにユーザ既定の '%*ls' を使用します。
4017	'login '%*ls' が要求している言語とユーザの既定言語 '%*ls' は、この SQL Server の公式言語名ではありません。代わりにサーバ全体の既定名 '%*ls' を使用します。
4018	ユーザの既定言語 '%*ls' が、この SQL Server の公式言語名ではありません。代わりにサーバ全体の既定名 '%*ls' を使用します。
4019	ログイン '%*ls' が要求している言語は、この SQL Server の公式言語名ではありませんログインに失敗します。
4020	言語 '%*ls' の既定の日付順序 '%*ls' が無効です。代わりに mdy を使用します。
4027	データベース '%*ls' の %hs 用のテープをセットしてください。
4028	テープの最後に達しました。テープ '%*ls' を取り外し、データベース '%*ls' の %hs 用の次のテープをセットしてください。
4030	デバイス '%*ls' のメディアの有効期限は %hs です。上書きできません。
4035	ファイル %d で、データベース '%*ls'、ファイル '%*ls' の %d ページが処理されました。

エラー・コード	説明
4037	ユーザ指定のボリューム ID '%ls' は、デバイス '%ls' のボリューム ID '%ls' と一致しません。
4038	デバイス '%ls' にファイル ID %d が見つかりません。
4060	ログイン (%.*ls) が要求したデータベースを開けません。ログインに失敗します。
4061	ログイン (%.*ls) が要求したデータベースまたはユーザの既定データベースを開けません。代わりにマスタ・データベースを使用します。
4062	ユーザの既定のデータベースを開けません。代わりにマスタ・データベースを使用します。
4063	ログイン (%.*ls) が要求したデータベースを開けません。代わりにユーザ既定の '%.*ls' を使用します。
4064	ユーザの既定のデータベースを開けません。ログインに失敗しました。

テーブル 3-35: TSQL エラー・コード - 4200 から 4299

エラー・コード	説明
4208	文 %hs は、リカバリ・モデルが SIMPLE の間は許可されません。BACKUP DATABASE を使用するか、ALTER DATABASE を使用してリカバリ・モデルを変更します。
4212	マスタ・データベースのログをバックアップできません。代わりに BACKUP DATABASE を使用してください。
4214	現在のデータベース・バックアップは存在しません。このログ・バックアップを、以前のデータベース・バックアップをロール・フォワードするためには使用できません。
4215	ログの開始時点でレコードがレプリケーション用に保留されているので、ログは切り捨てられませんでした。ログ・リーダー・エージェントが実行されていることを確認するか、sp_repldone を使用してトランザクションを配布してください。
4216	データベースが使用できないときは、最小ログ処理はバックアップされません。
4217	データベースが読み取り専用なので、BACKUP LOG がデータベースを変更できません。この後のバックアップは、このバックアップの作業と重複しますが、バックアップは続行されます。

テーブル 3-36: TSQL エラー・コード - 4300 から 4399

エラー・コード	説明
4301	データベースは使用中です。システム管理者は、ログをリストアするために、データベースを排他的に使用する必要があります。
4304	RESTORE LOG 中に発生したUSER ATTENTION シグナルは現在のリストアが完了するまで無視されます。
4305	このバックアップ・セットのログは LSN %.*ls に始まります。これはデータベースに適用するには遅すぎます。LSN %.*ls を含む以前のログ・バックアップをリストアできます。
4306	以前のリストア処理で WITH NORECOVERY または WITH STANDBY が指定されていません。最後のステップ以外のすべてのステップで WITH NORECOVERY または WITH STANDBY を指定してリストア・シーケンスを再起動してください。

エラー・コード	説明
4316	SQL Server がシングル・ユーザ・モードの場合は、マスタ・データベースでは RESTORE LOG だけを実行できます。
4318	ファイル '%ls' は LSN %.*ls にロール・フォワードされました。このログは LSN %.*ls で終了しましたが、WITH RECOVERY オプションを適用するには早すぎます。RESTORE LOG 文 WITH NORECOVERY を再発行してください。
4320	ファイル '%ls' はデータベース・リストアまたはファイル・リストアにより、部分的にリストアされました。ログを適用する前に、ファイル全体を正常にリストアする必要があります。
4322	このログ・ファイルは指定した日時以前にログに記録されたレコードを含んでいます。データベースは読み込まれたときの状態のままなので、別のログ・ファイルを適用できます。
4323	データベースはSUSPECTとマークされています。トランザクション・ログはリストアできません。データベースを回復するには RESTORE DATABASE を使用してください。
4324	%ls よりも古いバックアップ履歴は削除されました。
4325	バックアップ・セット ID '%.*ls' のエントリを削除できませんでした。
4326	このバックアップ・セットのログは LSN %.*ls に終了します。これはデータベースに適用するには早すぎます。LSN %.*ls を含む最新のログ・バックアップをリストアできます。
4327	このバックアップ・セットのログには、最小ログ変更があります。時間を指定したリカバリは禁止されます。RESTORE はデータベースを回復しないでログの最後にロール・フォワードします。
4328	ファイル '%ls' が見つかりません。ロール・フォワードはログ・シーケンス番号 %.*ls で停止します。ファイルは LSN %.*ls に作成され、LSN %.*ls に削除されます。トランザクション・ログをファイルが削除された時点よりも前の状態にリストアするか、データをデータベースの残りの部分と矛盾しない状態にリストアしてください。
4329	このログ・ファイルは指定された位置よりも前に記録されたレコードを保持しています。データベースは読み込まれたときの状態のままなので、別のログ・ファイルを適用できます。
4330	このバックアップ・セット内のログは、データベースと矛盾したリカバリ・パスにあるので、適用されません。
4331	ファイルが指定時刻とは矛盾する時刻にリストアされるので、データベースを回復できません。
4332	RESTORE LOG は停止されました。現在の状態でデータベースを使用するには、RESTORE DATABASE %ls WITH RECOVERY を実行します。
4333	ログがリストアされなかったので、データベースを回復できません。
4334	名前付きマークは有効な LSN を特定しません。

テーブル 3-37: TSQL エラー・コード - 4400 から 4499

エラー・コード	説明
4403	ビューまたは関数 '%.*ls' は集約を持っているので更新可能ではありません。
4404	ビューまたは関数 '%.*ls' の定義に DISTINCT 節が含まれているので更新可能ではありません。

エラー・コード	説明
4405	変更が複数のベース・テーブルに影響するので、ビューまたは関数 '%.*ls' は更新可能ではありません。
4406	ビューまたは関数 '%.*ls' の更新または挿入は、派生されているか、定数のフィールドを持っているので失敗しました。
4408	クエリとクエリ内のビューまたは関数が、テーブルの制限 %d を超えました。
4413	ビューまたは関数 '%.*ls' はバインディングのエラーにより使用できませんでした。
4414	ビューまたは関数の解決で補助テーブルを割り当てられませんでした。クエリ内のテーブル最大数 (%d) を超えています。
4415	ビュー '%.*ls' は、WITH CHECK OPTION を使って作成されているか、WITH CHECK OPTION で作成されたビューが拡大されていて、対象テーブルが結果のクエリから複数回参照されているので、更新可能ではありません。
4416	定義に許可されていない構築が含まれているので、UNION ALL ビュー '%.*ls' は更新可能ではありません。
4417	派生テーブル '%.*ls' は定義に UNION 演算子を含んでいるので、更新可能ではありません。
4418	派生テーブル '%.*ls' は集約を持っているので更新可能ではありません。
4419	派生テーブル '%.*ls' は定義に DISTINCT 節を持っているので更新可能ではありません。
4420	変更は、複数のベース・テーブルに影響するので、派生テーブル '%.*ls' は更新可能ではありません。
4421	派生テーブル '%.*ls' の列が派生されているか、定数なので、更新可能ではありません。
4422	ビュー '%.*ls' は INSTEAD OF UPDATE トリガを持っており、UPDATE FROM 文の対象にはできません。
4423	ビュー '%.*ls' は INSTEAD OF DELETE トリガを持っており、DELETE FROM 文の対象にはできません。
4424	結合テーブルは、外部結合演算子を含むクエリ内では指定できません。ビューまたは関数 '%.*ls' は結合テーブルを含んでいます。
4425	外部結合演算子は、結合テーブルを含むクエリでは指定できません。ビューまたは関数 '%.*ls' は外部結合演算子を含んでいます。
4427	ビューまたは関数 '%.*ls' は定義に TOP 節を含んでいるので、更新可能ではありません。
4428	派生テーブル '%.*ls' は定義に TOP 節を含んでいるので、更新可能ではありません。
4429	ビューまたは関数 '%.*ls' は自己参照を含んでいます。ビューまたは関数はそれ自体を直接または間接的に参照することはできません。
4430	警告: ビュー '%.*ls' で指定されたインデックス・ヒントは無視されます。
4431	テーブル '%.*ls' にはタイムスタンプ列があるため、パーティション分割されたビュー '%.*ls' は更新可能ではありません。
4432	テーブル '%.*ls' には DEFAULT 制約があるため、パーティション分割されたビュー '%.*ls' は更新可能ではありません。

エラー・コード	説明
4433	テーブル '%.*s' には IDENTITY 制約があるため、パーティション分割されたビュー '%.*s' に INSERT できません。
4434	テーブル '%.*s' には INSTEAD OF トリガがあるため、パーティション分割されたビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4435	パーティショニング列 '%.*s' に値が指定されていないため、パーティション分割されたビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4436	パーティショニング列が見つからないため、UNION ALL ビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4437	一括処理の対象としては、パーティション分割されたビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4438	列のすべてがメンバ・テーブルからの列ではないため、パーティション分割されたビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4439	ソース・クエリにパーティション・テーブル '%.*s' への参照が含まれるので、パーティション分割されたビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4440	主キーがテーブル '%.*s' に見つからないため、UNION ALL ビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4441	テーブル '%.*s' には計算列にインデックスがあるため、パーティション分割されたビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4442	ベース・テーブル '%.*s' が複数回使用されているため、UNION ALL ビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4443	ベース・テーブル '%.*s' の列 '%.*s' が複数回使用されているため、UNION ALL ビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4444	テーブル '%.*s' の主キーが UNION の結果に含まれていないため、UNION ALL ビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4445	テーブル '%.*s' はその前のテーブルの主キーと結合されていないため、UNION ALL ビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4446	ビュー '%.*s' の列 '%.*s' の定義が別のビュー列で使用されているため、UNION ALL ビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4447	定義に set 演算子を含んでいるので、ビュー '%.*s' は更新可能ではありません。
4448	値がすべての列に指定されていなかったため、パーティション分割されたビュー '%.*s' に INSERT できません。
4449	set 演算子を持つビュー内での既定の使用は許可されません。
4450	テーブル '%.*s' のビュー列 '%.*s' には IDENTITY 制約があるため、パーティション分割されたビュー '%.*s' を更新できません。
4451	複数のサーバのテーブルを参照するビューは、SQL Server のこの SKU では更新可能ではありません。
4452	テーブル '%.*s' のビュー列 '%.*s' には CASCADE DELETE 制約または CASCADE UPDATE 制約があるため、ビュー '%.*s' のパーティション分割された列 '%.*s' を更新できません。

エラー・コード	説明
4453	テーブル '%.*s' には INSERT、UPDATE、または DELETE トリガがあるため、ビュー '%.*s' のパーティション分割された列 '%.*s' を更新できません。

テーブル 3-38: TSQL エラー・コード - 4500 から 4599

エラー・コード	説明
4501	ビューまたは関数 '%.*s' には指定された列名よりも多くの列が定義されています。
4502	ビューまたは関数 '%.*s' には定義された列数よりも多くの列名が指定されています。
4505	ビュー '%.*s' の列 '%.*s' が列の最大数 %d を超えているので、CREATE VIEW に失敗しました。
4506	各ビューまたは関数の列名は一意でなければなりません。ビューまたは関数 '%.*s' の列名 '%.*s' が複数回指定されています。
4508	ビューまたは関数は、一時テーブルでは許可されていません。'#' で始まるテーブル名は一時テーブルを表します。
4509	WITH %s が指定されていて、ビューが set 演算子を含んでいるので、CREATE VIEW を実行できませんでした。
4510	WITH %s が指定されていて、ビューが更新できないので、CREATE VIEW を実行できませんでした。
4511	列 %d で列名が指定されていないので、Create View または Function に失敗しました。
4512	名前 '%.*s' はスキーマ結合で無効なので、%S_MSG '%.*s' をスキーマ結合できませんでした。名前は 2 つの部分の形式からなり、オブジェクトは自己参照できません。
4513	%S_MSG '%.*s' をスキーマ結合できません。'%.*s' はスキーマ結合されていません。
4514	列 %d で列名が指定されていないので、CREATE FUNCTION に失敗しました。
4515	関数 '%.*s' の列 '%.*s' が列の最大数 %d を超えているので、CREATE FUNCTION に失敗しました。
4516	関数 '%.*s' には EXECUTE 文が含まれるので、スキーマ結合できません。

テーブル 3-39: TSQL エラー・コード - 4600 から 4699

エラー・コード	説明
4602	sysadmin ロールのメンバだけが CREATE DATABASE 権限を許可または取り消せます。
4604	ユーザまたはグループ '%.*s' が存在しません。
4606	付与または削除された特権 %ls はオブジェクトと互換性がありません。
4610	現在のデータベースのオブジェクトの権限だけを付与または取り消すことができます。
4611	付与できる特権を削除するには、CASCADE オプションを指定して REVOKE を使用します。
4613	権限の付与者が GRANT 権限を持っていません。
4615	無効な列名 '%.*s' です。
4617	特別なロールに対する権限の付与、拒否、または取り消しはできません。
4618	AS 節で %.*s を使用する権限がありません。
4619	CREATE DATABASE 権限はマスタ・データベースでのみ許可されます。

テーブル 3-40: TSQL エラー・コード - 4700 から 4799

エラー・コード	説明
4701	テーブル '%.*s' は、データベース '%.*s' に存在しないので、切り捨てることはできませんでした。
4706	すべてのインデックスとデータ・ページの割り当て解除を記録するためのログの空き領域が足りないので、テーブル '%.*s' を切り捨てられませんでした。
4707	オブジェクト '%.*s' は、オブジェクト自体またはインデックスの一部が READONLY ファイルグループに存在するので、切り捨てられませんでした。
4708	テーブルではないので、オブジェクト '%.*s' を切り捨てることはできませんでした。
4709	システム・テーブル '%.*s' を切り捨てることは許可されていません。
4711	レプリケーションで公開しているため、テーブル '%.*s' を切り捨てられません。
4712	FOREIGN KEY 制約がテーブル '%.*s' を参照しているので、切り捨てられません。

テーブル 3-41: TSQL エラー・コード - 4800 から 4899

エラー・コード	説明
4803	BCP クライアントから無効な長さ %d の行を受け取りました。行の最大サイズは %d です。
4804	ホストから現在行を読み取り中に、予定よりも早くメッセージの終了を受け取りました。ホスト・プログラムが終了しました。
4805	ユーザが使っているフロントエンド・ツールは、ホストからの一括挿入機能をサポートしていません。このコマンドに対して正しいツールを使ってください。
4807	BCP クライアントから無効な長さ %d の行を受け取りました。行の最大サイズは %d です。

エラー・コード	説明
4808	一括コピー操作は、BULK INSERT 文を起動できません。
4810	text または image データの一括コピーでは、データ・ストリームに TEXT トークンが必要です。
4811	text または image データの一括コピーでは、データ・ストリームに列オフセットが必要です。
4812	text または image データの一括コピーでは、データ・ストリームに行オフセットが必要です。
4813	text、ntext、または image データの一括コピーでは、データ・ストリームにテキスト長が必要です。
4815	BCP クライアントから無効な長さの列を受け取りました。
4817	一括挿入できませんでした。並べ替えられた列 '%.*ls' が無効です。データ・ストリームは並べ替えられていないと想定しています。
4818	一括挿入できませんでした。並べ替えられた列 '%.*ls' が複数回指定されました。データ・ストリームは並べ替えられていないと想定しています。
4819	一括挿入できませんでした。一括データ・ストリームで並べ替えが誤って指定されました。
4820	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' のバージョンが不明です。
4821	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' からの列数の読み取りエラーです。
4822	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' 内の列数が無効です。
4823	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' 内の列番号が無効です。
4824	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' 内の列番号 %d のデータ型が無効です。
4825	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' 内の列番号 %d の接頭語が無効です。
4826	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' 内の列番号 %d の列長が無効です。
4827	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' 内の列番号 %d の列ターミネータが無効です。
4828	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' 内の転送元列 %d の転送先テーブル列番号が無効です。
4829	一括挿入できませんでした。フォーマット・ファイル '%s' 内の転送元列 %d の転送先テーブル列名の読み取りエラーです。
4830	一括挿入: DataFileType が char として指定されていますが正しくありません。データ・ファイルは Unicode シングニチャを使用しているため、DataFileType は wchar を想定しています。
4831	一括挿入: DataFileType が wchar として指定されていますが正しくありません。データ・ファイルは Unicode シングニチャを使用していないため、DataFileType は char を想定しています。
4832	一括挿入: 予期しないデータ・ファイルの終了 (EOF) を検出しました。

エラー・コード	説明
4833	一括挿入: プロバイダのダイナミック・リンク・ライブラリとサーバの実行ファイルのバージョンが一致していません。
4834	BULK INSERT 文を使用する権限がありません。
4835	計算される列を持つテーブルの一括コピーは、ダウンレベル・クライアントではサポートされません。
4837	エラー: 即時更新サブスクリプションが有効になっているテーブル '%s' には一括コピーできません。
4838	一括データ・ソースは SQLNUMERIC または SQLDECIMAL データ型をサポートしません。
4839	一括挿入を実行できません。フォーマット・ファイル '%s' のソース列 %d の照合名が無効です。
4840	一括データ・ソース・プロバイダ文字列の %ls プロパティの値 %ls が無効です。
4841	データ・ソース名が単なるオブジェクト名ではありません。
4842	必要な FormatFile プロパティがサーバのプロバイダ文字列で見つかりません。
4843	一括データ・ソース・プロバイダ文字列の文字位置 %d の近辺に構文エラー ('%lc') があります。
4844	一括データ・ソース・プロバイダ文字列がサポートされないプロパティ名 (%ls) を持っています。
4845	一括データ・ソース・プロバイダ文字列の文字位置 %d の近辺に構文エラーがあります。'%lc' が必要ですが、'%lc' が見つかりました。
4846	一括データ・ソース・プロバイダがメモリの割り当てに失敗しました。
4847	bigint 列を持つテーブルへの一括コピーは SQL Server 2000 より前のバージョンではサポートされません。
4848	sql_variant 列を持つテーブルへの一括コピーは SQL Server 2000 より前のバージョンではサポートされません。
4849	テーブル '%ls' をインポートできませんでした。エラー %d。
4850	データ・インポート: テーブル '%.*ls' は別のユーザが既にロックしています。
4851	データ・インポート: テーブル '%ls' は既にデータを保持しています。スキップして次のテーブルを処理します。
4852	データ・インポート: テーブル '%ls' が存在しないか、ユーザ・テーブルではありません。
4853	%hs
4854	%hs
4860	一括挿入できませんでした。ファイル '%i' は存在しません。
4861	ファイル '%ls' が開けなかったため、一括挿入できませんでした。オペレーティング・システム・エラー・コード %ls。
4862	ファイル '%ls' を読み取れなかったため、一括挿入できませんでした。オペレーティング・システム・エラー・コード %ls。
4863	一括挿入データ変換エラー (切り捨て)、行 %d、列 %d (%ls)。

エラー・コード	説明
4864	一括挿入データ変換エラー (型の不一致)、行 %d、列 %d (%ls)
4865	エラーの最大数 (%d) を超えたので、一括挿入できませんでした。
4866	一括挿入に失敗しました。行 %d、列 %d のデータ・ファイル内の列が長すぎます。指定したフィールド・ターミネータと行ターミネータが正しいか確認してください。
4867	一括挿入データ変換エラー (オーバーフロー)、行 %d、列 %d (%ls)。
4868	一括挿入に失敗しました。コードページ '%d' がインストールされていません。コードページをインストールして、コマンドを再実行してください。
4869	一括挿入に失敗しました。データ・ファイルの行 %d、列 %d に予期しない NULL 値があります。挿入先の列 (%ls) には NOT NULL が定義されています。
4880	一括挿入できませんでした。FIRSTROW と LASTROW パラメータを使用しているときは、FIRSTROW の値を LASTROW よりも大きくすることはできません。
4881	メモ: ビューを使用した一括挿入では、データ・ファイルにある NULL 列でベース・テーブルの既定値が無視されます。
4882	一括挿入できませんでした。接頭語長、フィールド長、またはターミネータが、フォーマット・ファイル '%s' のソース列 %d に必要です。

テーブル 3-42: TSQL エラー・コード - 4900 から 4999

エラー・コード	説明
4901	ALTER TABLE では、NULL を含めることができる列または DEFAULT 定義が指定されている列のみ追加できます。列 '%.s' は、NULL が許可されていないか、DEFAULT 定義が指定されていないので、テーブル '%.s' には追加できません。
4902	テーブル '%.s' がデータベース '%.s' に存在しないので、変更できません。
4909	テーブルではないので、'%.s' を変更できません。
4910	所有者または sysadmin ロールの所有者またはメンバのみがテーブル '%.s' を変更できます。
4916	制約を有効または無効にできません。以前のエラーを参照してください。
4917	制約 '%.s' が存在しません。
4920	テーブル '%.s' にトリガ '%.s' が存在しないので、ALTER TABLE に失敗しました。
4921	テーブル '%.s' にトリガ '%.s' が属していないので、ALTER TABLE に失敗しました。
4922	%.s %.s は失敗しました。1 つ以上のオブジェクトがこの列にアクセスしています。
4923	'%.s' がテーブル '%.s' のただ 1 つのデータ列なので、ALTER TABLE DROP COLUMN に失敗しました。テーブルには最低 1 つの列が必要です。
4924	列 '%.s' がテーブル '%.s' に存在しないので、%.s は失敗しました。
4925	列が ROWGUIDCOL プロパティを持つテーブル '%.s' に既に存在するので ALTER TABLE ALTER COLUMN ADD ROWGUIDCOL に失敗しました。
4926	列が ROWGUIDCOL プロパティを持つテーブル '%.s' に存在しないので ALTER TABLE ALTER COLUMN DROP ROWGUIDCOL に失敗しました。
4927	列 '%.s' をデータ型 %.s に変更できません。

エラー・コード	説明
4928	列 '%.*s' が '%s' なので変更できません。
4929	%S_MSG '%.*s' がレプリケーション用にパブリッシュされているので変更できません。
4930	警告: 複製されたテーブル %S_MSG '%.*s' に追加された列は既存の項目では無視されます。
4931	%S_MSG '%.*s' はマージ・レプリケーションでパブリッシュされているので列を追加できません。
4932	ALTER TABLE DROP COLUMN に失敗しました。'%.*s' は現在レプリケートされています。

テーブル 3-43: TSQL エラー・コード - 5000 から 5099

エラー・コード	説明
5001	マスタ・データベースのユーザでなければなりません。
5002	データベース '%.*s' が存在しません。sysdatabases を確認してください。
5004	ALTER DATABASE を使用するには、データベースがチェックポイントを実行できる書き込み可能な状態でなければなりません。
5005	ディスク '%.*s' で %2f MB 単位でデータベースを拡張しています。
5006	要求された操作を実行するために、%S_MSG '%.*s' を排他的に使用できませんでした。
5008	この ALTER DATABASE 文はサポートされていません。
5009	ALTER DATABASE に失敗しました。文でリストされたディスク名の一部が見つかりません。文を再実行する前に、名前が存在するか、および綴りが正しいかを確認してください。
5010	ログ・ファイル名は raw デバイスからは生成できません。ログ・ファイル名とパスを指定してください。
5011	ユーザはデータベース '%.*s' を変更する権限を持っていません。
5012	プライマリ・ファイルグループの名前は変更できません。
5013	マスタおよびモデル・データベースにファイルを追加することはできません。ALTER DATABASE は中止されました。
5014	%S_MSG '%.*s' はデータベース '%.*s' に存在しません。
5015	ALTER DATABASE に失敗しました。指定する合計サイズは、1 MB またはそれ以上でなければなりません。
5016	システム・データベース master、model、および tempdb の名前は変更できません。
5017	ALTER DATABASE に失敗しました。データベース '%.*s' が 'FOR LOAD' オプションで作成されていません。
5018	ファイル '%.*s' が sysaltfiles で変更されました。SQL Server 再起動後に古いファイルを削除してください。
5019	sysaltfiles でファイル '%.*s' のエントリが見つかりません。
5020	プライマリ・データまたはログ・ファイルをデータベースから削除することはできません。
5021	%S_MSG 名 '%.*s' は既に設定されています。

エラー・コード	説明
5022	このデータベースのログ・ファイル '%ls' は既にアクティブです。
5023	ログを再構築するにはデータベースをバイパス・リカバリ・モードにする必要があります。
5024	sysfiles1 にプライマリ・ログ・ファイルのエントリが見つかりませんでした。ログを再構築できませんでした。
5025	ファイル '%ls' は既に存在します。新しいログ・ファイルを作成する場合は、名前を変更するか、削除する必要があります。
5026	ファイル '%*ls' を使用して新しいログ・ファイルを作成できませんでした。以前のエラーを参照してください。
5027	システム・データベース master、model、および tempdb のログは再構築できません。
5028	システムはログを再構築するためにデータベースをアクティブにできませんでした。
5029	警告: データベース '%*ls' のログが再構築されました。トランザクションの整合性は失われます。DBCC CHECKDB を実行して物理的な整合性を調べる必要があります。データベース・オプションを再設定し、余分なログ・ファイルを削除する必要があります。
5030	操作を実行するために、データベースを排他ロックできませんでした。
5031	ファイル '%*ls' は既定のファイルグループの唯一のファイルなので削除できません。
5032	ログは一括ログ・ページを持っているので、ログがバックアップされるまで、ファイルをページ %ud 以下に圧縮することはできません。
5035	ファイルグループ '%*ls' はこのデータベースに既に存在します。
5036	MODIFY FILE に失敗しました。論理名を指定してください。
5037	MODIFY FILE に失敗しました。物理名を指定しないでください。
5038	ファイル "%*ls" の MODIFY FILE に失敗しました。ファイルごとに少なくとも 1 つのプロパティを指定してください。
5039	MODIFY FILE に失敗しました。指定されたサイズが現在のサイズよりも小さくなっています。
5040	MODIFY FILE に失敗しました。サイズが MAXSIZE よりも大きくなっています。
5041	MODIFY FILE に失敗しました。ファイル '%*ls' は存在しません。
5042	%S_MSG '%*ls' は空ではないので、削除できません。
5043	%S_MSG '%*ls' が %ls に見つかりません。
5044	%S_MSG '%*ls' が削除されました。
5045	%S_MSG は '%ls' プロパティ・セットを持っています。
5046	%S_MSG プロパティ '%ls' が設定されました。
5047	PRIMARY ファイルグループの READONLY プロパティは変更できません。
5048	ファイルグループ '%*ls' のファイルを追加、削除、または変更できません。ファイルグループは読み取り専用です。
5049	ファイル '%ls' は DISK INIT を使用して作成されていないので、この構文ではファイルを拡張できません。ALTER DATABASE MODIFY FILE を使用してください。

エラー・コード	説明
5050	空のファイルグループ '%.s' のプロパティを変更できません。ファイルグループは最低 1 つファイルを保持する必要があります。
5051	ファイルグループは 'DEFAULT' を名前として持つことはできません。
5053	データベースごとの最大ファイルグループ数 %ld を超えました。
5054	ファイル圧縮または削除操作を許可するために、作業テーブルの IAM チェーンのクリーンアップができませんでした。tempdb がアイドルのときに再試行してください。
5055	ファイル '%.s' を追加、削除または変更できません。ファイルが読み取り専用です。
5056	ファイルグループがオフラインなので、ファイルグループ '%.s' のファイルを追加、削除、または変更できません。
5057	ファイルがオフラインなので、ファイル '%.s' を追加、削除、または変更できません。
5058	オプション '%.s' をデータベース '%.s' に設定できません。
5059	データベース '%.s' は移行中です。ALTER DATABASE 文を後で実行してください。
5060	限定されないトランザクションをロールバック中です。推定ロールバック完了率: %d%%。
5061	データベース '%.s' をロックできなかったため、ALTER DATABASE に失敗しました。後で再試行してください。
5062	オプション '%.s' は他のオプションと同時に設定できません。
5063	データベース '%.s' は warm-standby です。Warm-standby データベースは読み取り専用です。
5064	この時点では、データベース '%.s' の状態やオプションを変更できません。データベースはシングル・ユーザ・モードで、現在ユーザが接続中です。
5065	データベース '%.s' を開けません。
5066	データベース・オプション single user と dbo use only を同時に設定することはできません。
5068	現在のデータベースの再起動に失敗しました。現在のデータベースをマスタに切り替えます。
5069	ALTER DATABASE 文に失敗しました。
5070	別のユーザがデータベース '%.s' を使用しているので、データベースの状態は変更できません。
5072	ALTER DATABASE に失敗しました。データベース '%.s' の既定の照合を %.s に設定できません。
5073	データベース '%.s' の照合を変更できません。データベースが READONLY、OFFLINE、SUSPECT になっています。
5074	%S_MSG '%.s' は %S_MSG '%.s' に依存しています。
5075	%S_MSG '%.s' は %S_MSG に依存しています。
5076	警告: レプリケーションで使用しているデータベース '%.s' の既定の照合を変更しています。レプリケーション・データベースではすべて同じ既定照合を持つことをお勧めします。

テーブル 3-44: TSQL エラー・コード - 5100 から 5199

エラー・コード	説明
5101	DISK %hs 文のパラメータを指定してください。使用法: %hs。
5102	文 DISK %.*ls は使用できません。
5103	MAXSIZE をファイル '%ls' の SIZE よりも小さくできません。
5104	ファイル '%.*ls' は既に使用中です。
5105	デバイス・アクティブ化エラー。物理ファイル名 '%.*ls' は正しくありません。
5106	パラメータ '%hs' はデータ型 '%hs' の値を必要とします。
5107	値はパラメータ '%hs' に対して正しいデータ型ではありません (必要なデータ型 '%hs')。
5108	ログ・ファイル '%.*ls' がプライマリ・ファイルと一致しません。別のデータベースのログか、以前に再構築されている可能性があります。
5109	そのようなパラメータ '%.*ls' は存在していません。
5110	ファイル '%.*ls' は、データベース・ファイルをサポートしないネットワーク・デバイス上にあります。
5116	DISK 文を実行する権限がありません。
5117	DISK 文を実行できませんでした。この文は、マスタ・データベースで実行する必要があります。
5122	各ディスク・ファイル・サイズは 1 MB 以上で指定してください。
5123	物理ファイル '%.*ls' を開くとき、または作成するときに CREATE FILE でオペレーティング・システム・エラー %ls が発生しました。
5126	論理デバイス '%.*ls' が sysdevices に存在しません。
5146	%d の %hs は範囲外です。%d と %d の間でなければなりません。
5148	ファイル・サイズを指定したサイズに設定できませんでした。オペレーティング・システムのファイル・サイズの上限に達しました。
5149	物理ファイルを拡張しようとしたときに、MODIFY FILE でオペレーティング・システム・エラー %ls が発生しました。
5150	1 つのログ・ファイルのサイズを 2 TB より大きくすることはできません。
5151	%hs 文は廃止され、サポートされなくなりました。
5157	バックアウト中に writelog システム関数で I/O エラーが発生しました。
5158	警告: デバイス '%.*ls' のメディアが変更された可能性があります。
5159	%ls 実行中のデバイス '%.*ls' でのオペレーティング・システム・エラー %.*ls。
5160	データベースが使用中なので、'%.*ls' をオフラインにできません。
5162	sysdatabases に '%.*ls' が見つかりません。
5163	オフラインにするために '%.*ls' を開けません。
5164	使用法: DBCC DBCONTROL(dbname、ONLINE OFFLINE)
5165	マスタ・データベースを明示的に開くまたは閉じることができません。
5167	データベース '%.*ls' は既にオフラインです。

エラー・コード	説明
5168	ファイル '%*ls' はネットワーク・ドライブ上にあります。ネットワーク・ドライブは使用できません。
5169	FILEGROWTH をファイル '%*ls' の MAXSIZE よりも大きくすることはできません。
5170	ファイル '%ls' は既に存在するので作成できません。
5171	%.*ls はプライマリ・データベース・ファイルではありません。
5172	ファイル '%ls' のヘッダは有効なデータベース・ファイル・ヘッダではありません。%.ls プロパティが無効です。
5173	ファイルを別のデータベースに関連付けることはできません。
5174	各ファイル・サイズは 512 KB 以上で指定してください。
5175	リカバリが失敗しないように、ファイル '%*ls' は拡張されています。詳細は、システム管理者にご相談ください。
5176	リカバリが失敗しないように、ファイル '%*ls' は最大サイズ以上に拡張されています。詳細は、システム管理者にご相談ください。
5177	ファイル '%*ls' のセクタ・サイズの調査中に予期しないエラーが発生しました。詳細は、SQL Server エラー・ログを調べてください。
5178	ファイル '%*ls' は、元はセクタ・サイズ %d でフォーマットされていて、現在のデバイスのセクタ・サイズは %d であるため、使用できません。
5179	ファイル '%*ls' はセクタ・サイズ %d のデバイスに存在するので使用できません。SQL Server がサポートする最大セクタ・サイズは 4096 バイトです。
5180	データベース '%*ls' の無効なファイル ID %d では FCB を開けませんでした。
5181	データベース '%*ls' を再起動できませんでした。古い状態に戻しています。
5182	新しいログ・ファイル '%*ls' が作成されました。
5183	ファイル '%*ls' を作成できません。WITH MOVE を使用して、使用可能な物理ファイル名を指定します。
5184	クラスタ化サーバにファイル '%*ls' を使用できません。サーバのクラスタ・リソースが従属関係を持つフォーマットされたファイルだけが使用できます。

テーブル 3-45: TSQL エラー・コード - 5700 から 5799

エラー・コード	説明
5701	データベース・コンテキストは '%*ls' に変更されました。
5702	SQL Server がこのプロセスを終了中です。
5703	言語設定を %.*ls に変更しました。

テーブル 3-46: TSQL エラー・コード - 5800 から 5899

エラー・コード	説明
5803	sysconfigures の 構成番号 (%d) は不明です。
5804	少なくとも 1 つのデータベースが書き込み可能ではないので、文字セット、並べ替え順、または照合を変更できません。

エラー・コード	説明
5805	指定されたロックが少なすぎます。最小値は %d です。
5807	%d 分を超えるリカバリ間隔は推奨できません。RECONFIGURE WITH OVERRIDE 文を使用してこの構成を強制的に変更してください。
5808	システム・カタログの任意更新は推奨できません。RECONFIGURE WITH OVERRIDE 文を使用してこの構成を強制的に変更してください。
5809	%d ミリ秒以上の平均タイム・スライスは推奨できません。RECONFIGURE WITH OVERRIDE 文を使用してこの構成を強制的に変更してください。
5810	Fillfactorの適切な値は 0 から 100 までです。
5812	RECONFIGURE 文の実行権限を持っていません。
5823	syscharsets に並べ替え順用の行が存在しないので、並べ替え順 ID %d を使うように SQL Server を再構成できません。
5828	ユーザ接続数は %d に制限されています。
5829	指定されたユーザ・オプション値は無効です。
5830	SQL Server の既定の照合を再構成しました。文字列データ型の列のテーブル・インデックスは、SQL Server 再起動時に再構築されます。
5831	サーバの最小メモリ値 (%d) は、最大値 (%d) 以下に設定してください。

テーブル 3-47: TSQL エラー・コード - 5900 から 5999

エラー・コード	説明
5904	ロックが利用できるまで、バックグラウンド・チェックポイント処理が中断されました。

テーブル 3-48: TSQL エラー・コード - 6000 から 6099

エラー・コード	説明
6001	SHUTDOWN が、%d プロセスの完了を待っています。
6002	SHUTDOWN が進行中です。ログオフしてください。
6004	ユーザはこの操作を実行する権限を持っていません。
6005	SHUTDOWN が進行中です。
6006	要求によりサーバをシャットダウンします。
6007	トランザクション内部から、またはストア・プロシージャを使用して SHUTDOWN 文を実行することはできません。

テーブル 3-49: TSQL エラー・コード - 6100 から 6199

エラー・コード	説明
6101	プロセス ID %d は有効なプロセス ID ではありません。1 ～ %d の範囲で選択してください。
6102	ユーザは KILL 文を使用する権限を持っていません。

エラー・コード	説明
6103	強制終了されたプロセスのクリーンアップを行えませんでした。メッセージ %d を受け取りました。
6104	KILL を使って自分自身のプロセスは強制終了できません。
6106	プロセス ID %d はアクティブなプロセス ID ではありません。
6107	ユーザ・プロセスだけを強制終了できます。
6108	KILL SPID WITH COMMIT/ABORT は、Microsoft SQL Server 2000 ではサポートされなくなりました。分散トランザクションを解決するには、Microsoft 分散トランザクション・コーディネータを使用してください。
6109	SPID %d: トランザクションをロールバック中です。推定ロールバック完了率: %d%。推定残り時間: %d 秒。
6110	UOW %s の分散トランザクションが存在しません。
6111	UOW %s に関連付けられた分散トランザクションに対して、別ユーザが異なる結果を決定しました。
6112	UOW %s を持つ分散トランザクションは準備された状態にあります。Microsoft 分散トランザクション・コーディネータだけがこのトランザクションを解決できます。KILL コマンドは失敗しました。
6113	UOW %s に関連付けられた分散トランザクションは PREPARE 状態です。KILL UOW WITH COMMIT/ABORT 構文を使用して、トランザクションを強制終了します。
6114	UOW %s を持つ分散トランザクションは、別のユーザが使用中です。KILL コマンドは失敗しました。
6115	KILL コマンドはユーザ・トランザクション内では使用できません。
6116	KILL コマンドは失敗しました。
6117	UOW %s を持つ分散トランザクションに関連付けられた接続が存在します。最初に、KILL SPID 構文を使用して、接続を強制終了します。
6118	UOW %s に関連付けられた分散トランザクションは PREPARED 状態ではありません。KILL UOW を使用して、トランザクションを強制終了します。
6119	UOW %s を持つ分散トランザクションをロールバック中です。推定ロールバック完了率: %d%。推定残り時間: %d 秒。
6120	状態レポートを取得できません。プロセス ID %d に対するロールバック処理は実行中ではありません。
6121	状態レポートを取得できません。UOW %s に対するロールバック処理は実行中ではありません。

テーブル 3-50: TSQL エラー・コード - 6400 から 6499

エラー・コード	説明
6401	%.*ls をロールバックできません。見つかった名前前のトランザクションまたはセーブポイントがありません。

テーブル 3-51: TSQL エラー・コード - 6600 から 6799

エラー・コード	説明
6600	XML エラー: %*ls
6601	XML パーサは、行番号 %d、ソース '%*ls' からエラー・コード %d を返しました。
6602	エラーの説明は '%*ls' です。
6603	XML 解析エラー: %*ls
6604	XML ストアド・プロシージャはファイバ・モードではサポートされません。
6605	%*ls: XML テキストで IPersistStream インタフェースの取得に失敗しました。
6606	%*ls: XML テキスト・ストリームの保存に失敗しました。サーバ・リソースが不足しています。
6607	%*ls: パラメータ番号 %d に指定された値が無効です。
6608	クラス '%ls' のインスタンス化に失敗しました。SQL Server のインストールに Msxml2.dll が存在するか確認してください。
6609	列 '%ls' は無効なデータ型を持っています。有効なデータ型は char、varchar、nchar、nvarchar、text、および ntext です。
6610	Msxml2.dll のロードに失敗しました。
6612	パラメータ '%ls' が示している列のデータ型が無効です。有効なデータ型は int、bigint、smallint、および tinyint です。
6613	指定した値 '%ls' は、既に存在します。
6614	列 '%ls' に指定された値は列 '%ls' と同じ値です。要素はそれ自身の親にはなれません。
6615	列 '%ls' に無効なデータ型が指定されています。有効なデータ型は int、bigint、smallint、および tinyint です。
6616	追加する要素の親がなく、挿入する必要があるときは、パラメータ '%ls' が必要です。
6617	指定したエッジ・テーブルの形式が無効です。列 '%ls' がないか、無効なデータ型を持っています。
6618	指定したエッジ・テーブルの列 '%ls' が無効かまたは NULL 値です。
6619	型 %d、名前 '%ls' の XML ノードを作成できません。
6620	列 '%ls' に対して、XML 属性または要素を作成できません。
6621	オブジェクト名 '%*ls' で XML エンコーディングまたは解読エラーが発生しました。
6622	列 '%ls' のデータ型が無効です。データ型は text、ntext、image、または binary にはできません。
6623	列 '%ls' は無効なデータ型を持っています。有効なデータ型は char、varchar、nchar、および nvarchar です。
6624	サーバのメモリが不足しているので、XML ドキュメントを作成できませんでした。sp_xml_removedocument を使用して、XML ドキュメントを解放してください。

テーブル 3-52: TSQL エラー・コード - 6800 から 6899

エラー・コード	説明
6800	FOR XML AUTO は XML タグ生成用に少なくとも 1 つテーブルを必要とします。FOR XML RAW を使用するか、テーブル名を指定した FROM 節を追加してください。
6801	FOR XML EXPLICIT には、タグ列、親列、および少なくとも 1 つのデータ列が必要です。
6802	FOR XML EXPLICIT クエリが無効な列名 '%.*s' を持っています。TAGID が正の整数である場合、TAGNAME!TAGID!ATTRIBUTENAME[...] 形式を使用してください。
6803	FOR XML EXPLICIT は、最初の列が XML タグ ID を表す正の整数を保持することを必要とします。
6804	FOR XML EXPLICIT は、2 番目の列が XML 親タグ ID を表す NULL または負でない整数を保持することを必要とします。
6805	FOR XML EXPLICIT スタックのオーバーフローが発生しました。親タグの循環リレーションシップは許可されません。
6806	宣言されていないタグ ID %d が FOR XML EXPLICIT クエリで使用されました。
6807	宣言されていない親タグ ID %d が FOR XML EXPLICIT クエリで使用されました。
6808	XML タグ ID %d を追加できませんでした。サーバのメモリ・リソースが不足している可能性があります。
6809	名前の付けられていない列またはテーブル名を XML 識別子として使用できません。SELECT 文で AS を使用して名前のない列に名前を付けてください。
6810	列名 '%.*s' が繰り返されています。同じ XML タグに同じ属性を複数回生成することはできません。
6811	FOR XML と COMPUTE 式の互換性がありません。COMPUTE 式を削除してください。
6812	XML タグ ID %d は '%.*s' として宣言されていましたが、'%.*s' として再度宣言されます。
6813	FOR XML EXPLICIT は、列名 '%.*s' で ID、IDREF、IDREFS、NMTOKEN、NMTOKENS と複数回組み合わせることはできません。
6814	FOR XML EXPLICIT 節では、ID、IDREF、IDREFS、NMTOKEN、および NMTOKENS は '%.*s' に属性名を必要とします。
6815	FOR XML EXPLICIT 節では、ID、IDREF、IDREFS、NMTOKEN、および NMTOKENS 属性を '%.*s' で非表示にできません。
6816	FOR XML EXPLICIT 節では、ID、IDREF、IDREFS、NMTOKEN、および NMTOKENS 属性を '%.*s' で CDATA、XML、または XMLTEXT としては生成できません。
6817	FOR XML EXPLICIT は、列名 '%.*s' で ELEMENT、XML、XMLTEXT、および CDATA と複数回組み合わせることはできません。
6818	FOR XML EXPLICIT 節では、CDATA 属性は '%.*s' では名前なしにする必要があります。
6819	FOR XML 節は、%s 文では許可されません。
6820	FOR XML EXPLICIT は、'%.*s' の代わりに名前 '%.*s' の列 %d を必要とします。
6821	GROUP BY と集約関数は現在 FOR XML AUTO ではサポートされていません。

エラー・コード	説明
6824	FOR XML EXPLICIT 節では、列名のモード '%*s' は無効です。
6825	ELEMENTS モードは FOR XML AUTO が必要です。
6826	FOR XML EXPLICIT クエリの各 IDREFS 列または NMTOKENS列は、別の SELECT 節に表示する必要があり、インスタンスの順序は所属する要素の直後になる必要があります。
6827	FOR XML EXPLICIT クエリは タグごとに 1 つの XMLTEXT 列のみを許可します。列 '%*s' は許可されない別の XMLTEXT 列を宣言します。
6828	XMLTEXT 列 '%*s' は文字列データ型にする必要があります。
6829	FOR XML EXPLICIT モードと RAW モードは、列 '%*s' での URL としてバイナリ・データをアドレスすることは現在サポートしていません。列を削除するか、BINARY BASE64 モードを使用するか、'dbobject/TABLE[@PK1="V1"]/@COLUMN' 構文を使用して直接 URL を作成してください。
6830	FOR XML AUTO は、その URL アドレスを作成するために、次の列 '%*s' を所有するテーブルを見つけられませんでした。列を削除するか、BINARY BASE64 モードを使用するか、'dbobject/TABLE[@PK1="V1"]/@COLUMN' 構文を使用して直接 URL を作成してください。
6831	FOR XML AUTO は、'%*s' への参照を作成するために主キーが必要です。主キーを選択するか、主キーが存在しない場合は、BINARY BASE64 を使用してエンコードされた形式でバイナリ・データを取得してください。
6832	FOR XML AUTO は、主キーもバイナリの場合、バイナリ・データの URL アドレスを生成できません。
6833	親タグ ID %d が開かれたタグの間にありません。FOR XML EXPLICIT は親タグが最初に開かれることを必要とします。結果セットの順序を調べてください。
6834	XMLTEXT フィールド '%*s' は無効な XML ドキュメントを含んでいます。ルート・タグとその属性を調べてください。
6835	FOR XML EXPLICIT フィールド '%*s' は指示文 HIDE を一度だけ指定できます。
6836	FOR XML EXPLICIT は、要素中心の IDREFS/NMTOKEN フィールドの前に属性中心の IDREFS フィールドまたは NMTOKENS フィールド '%*s' が必要です。
6837	'%*s' で始まる XMLTEXT ドキュメント属性が長すぎます。最大長は %d です。
6838	属性中心の IDREFS または NMTOKENS フィールドは、TEXT/NTEXT または IMAGE 型の要素中心のフィールド '%*s' を持つタグではサポートされません。IDREFS/NMTOKENS フィールドに ELEMENT を指定するか、ELEMENT 指示文を削除してください。
6839	FOR XML EXPLICIT は、IDREFS または NMTOKENS フィールドを持つタグ '%*s' の XMLTEXT フィールドをサポートしません。
6840	XMLDATA は '%*s' などのネームスペース要素または属性をサポートしません。XMLDATA を指定しないで SELECT FOR XML 文を実行するか、ネームスペース接頭語宣言を削除します。

テーブル 3-53: TSQL エラー・コード - 7000 から 7099

エラー・コード	説明
7000	OPENXML ドキュメント・ハンドル・パラメータのデータ型は int にする必要があります。
7001	OPENXML フラグ・パラメータのデータ型は int にする必要があります。
7002	OPENXML XPATH は nvarchar などの文字列データ型にする必要があります。
7003	1 つの OPENXML 列だけを型 %ls にできます。
7004	OPENXML は '%.*ls' でリモート・テーブルからのスキーマの取得はサポートしません。
7005	OPENXML は、sp_xml_preparedocument で別のネームスペースに 'mp' が使用されている場合は、メタプロパティ・ネームスペースが必要です。
7006	OPENXML はメタプロパティ・ネームスペース接頭語を識別しているときにエラーを検出しました。対応する sp_xml_preparedocument 文からネームスペース・パラメータを削除することを検討してください。
7007	OPENXML は未定義のメタプロパティ '%.*ls'を検出しました。
7008	OPENXML EDGETABLE は XMLTEXT OVERFLOW フラグと互換性はありません。
7009	OPENXML は sp_xml_preparedocument ではメタプロパティ・ネームスペース接頭語宣言を 1 つだけ許可します。

テーブル 3-54: TSQL エラー・コード - 7100 から 7199

エラー・コード	説明
7101	オプション 'text in row' がオンに設定されているテーブルに対して、テキスト・ポインタを使用できません。
7102	SQL Server 内部エラー。テキスト・マネージャは現在の文を続行できません。
7103	テーブル %s に対してオプション 'text in row' は設定できません。
7104	オフセットまたはサイズの型が無効です。データ型は int または smallint にしてください。
7105	text、ntext、または image ノードのページ %S_PGID、スロット %d が存在しません。
7106	読み取り専用テキスト・ポインタを持つ BLOB は更新できません。
7107	1 つのトランザクション内では行テキスト・ポインタは 1,024 だけ持つことができます。
7116	オフセット %d は、使用できる text、ntext、または image データの範囲内にありません。
7122	無効な text、ntext、または image ポインタ型です。binary(16) でなければなりません。
7123	無効な text、ntext、または image ポインタ値 %hs です。
7124	READTEXT 文で指定されたオフセットと長さが、実際のデータ長 %ld よりも大きいです。
7125	text、ntext、または image ポインタ値は、指定した列名と競合しています。
7126	text、ntext、または image ポインタ値は、無効な text、ntext、または image ステータスを持つデータ・ページを参照しています。
7127	text、ntext、または image ポインタ値は、無効なタイムスタンプを持つデータ・ページを参照しています。

エラー・コード	説明
7128	text、ntext、または image ポインタ値は、割り当てられていないデータ・ページを参照しています。
7130	%ls WITH NO LOG はこの時点では無効です。sp_dboption を使って、'select into/bulkcopy' オプションをデータベース '%ls' に設定してください。
7133	%hs 関数に NULL テキスト・ポインタ (text、ntext、または image ポインタ) が渡されました。
7135	削除する長さ %ld は、利用できる text、ntext、または image データの範囲内にありません。
7137	列が同時実行スナップショットにより処理されていて、SQL Server 以外のサブスクライバに複製されているか、データ変換サービス (DTS) を許可しているパブリケーションで発行されているので、%s は許可されません。
7138	WRITETEXT 文は許可されません。列はデータ変換サービス (DTS) で複製されていません。
7139	複製された text、ntext、または image データの長さ (%ld) が設定された最大値 %ld を超えています。
7141	ユーザ・トランザクション内部に独立したテキストを作成する必要があります。
7142	トランザクションをコミットする前に、独立したテキストを削除する必要があります。
7143	無効なロケータがデリファレンスされました。

テーブル 3-55: TSQL エラー・コード - 7200 から 7299

エラー・コード	説明
7201	SQL Server はリモート・アクセスできるように構成されていないので、リモート・サーバ '%ls' でプロシージャを実行できませんでした。システム管理者に依頼して、SQL Server がリモート・アクセスできるように再構成してください。
7202	sys.servers にサーバ '%ls' が見つかりませんでした。sp_addlinkedserver を実行して、サーバを sys.servers に追加してください。
7212	リモート・サーバ '%ls' でプロシージャ '%ls' を実行できませんでした。
7213	リモート・サーバ '%ls' のパラメータを設定できませんでした。
7214	リモート・プロシージャのタイムアウト %d 秒を超えました。リモート・プロシージャ '%ls' はキャンセルされます。
7221	リモート・サーバ '%ls' からプロシージャ '%ls' の結果を中継できませんでした。
7300	OLE DB エラー・トレース [%ls]。

テーブル 3-56: TSQL エラー・コード - 7300 から 7399

エラー・コード	説明
7301	OLE DB プロバイダ '%ls' から要求されたインタフェースを取得できませんでした。
7302	OLE DB プロバイダ '%ls' のインスタンスを作成できませんでした。
7303	OLE DB プロバイダ '%ls' のデータ・ソース・オブジェクトを初期化できませんでした。%ls

エラー・コード	説明
7304	OLE DB プロバイダ '%ls' で新しいセッションを作成できませんでした。
7305	OLE DB プロバイダ '%ls' を使用して、statement オブジェクトを作成できませんでした。
7306	OLE DB プロバイダ '%ls' からテーブル '%ls' を開けませんでした。 %ls
7307	OLE DB プロバイダ '%ls' からセッションのデータ・ソースを取得できませんでした。プロバイダがこの操作をサポートしていません。
7310	OLE DB プロバイダ '%ls' のスキーマ・オプションを取得できませんでした。プロバイダはインタフェースをサポートしていますが、インタフェース使用時にエラー・コードを返しました。
7311	OLE DB プロバイダ '%ls' のスキーマ行セットを取得できませんでした。プロバイダはインタフェースをサポートしていますが、インタフェース使用時にエラー・コードを返しました。
7312	OLE DB プロバイダ '%ls' のスキーマまたはカタログの無効な使用です。4 部構成の名前が指定されましたが、プロバイダはカタログまたはスキーマを使用するのに必要なインタフェースを公開していません。
7313	プロバイダ '%ls' で指定したスキーマまたはカタログが無効です。
7314	OLE DB プロバイダ '%ls' はテーブル '%ls' を持っていません。テーブルが存在しないか、現在のユーザがそのテーブルに権限を持っていません。
7315	OLE DB プロバイダ '%ls' は名前 '%ls' に一致するテーブルを複数持っています。
7316	OLE DB プロバイダ '%ls' は必要な機能を実装していないので、修飾されたテーブル名 (スキーマまたはカタログ) を使用できませんでした。
7317	OLE DB プロバイダ '%ls' は無効なスキーマ定義を返しました。
7318	OLE DB プロバイダ '%ls' は無効な列定義を返しました。
7319	OLE DB プロバイダ '%ls' は無効なブックマーク序数 %d を持つ '%ls' インデックス '%ls' を返しました。
7320	OLE DB プロバイダ '%ls' に対してクエリを実行できませんでした。 %ls
7321	OLE DB プロバイダ '%ls' に対して実行するクエリの準備中にエラーが発生しました。 %ls
7322	OLE DB プロバイダ '%ls' にパラメータ情報を提供中にエラーが発生しました。 %ls
7323	OLE DB プロバイダ '%ls' にクエリ・テキストを送信中にエラーが発生しました。 %ls
7330	OLE DB プロバイダ '%ls' から行をフェッチできませんでした。 %ls
7331	OLE DB プロバイダ '%ls' から行を解放できません。 %ls
7332	OLE DB プロバイダ '%ls' から結果セットを再スキャンできませんでした。 %ls
7333	ブックマークを使用して、OLE DB プロバイダ '%ls' から行をフェッチできませんでした。 %ls
7340	OLE DB プロバイダ '%ls' の列アクセスを作成できませんでした。 %ls
7341	OLE DB プロバイダ '%ls' から列 '%ls.%ls' の現在の行値を取得できませんでした。 %ls
7342	OLE DB プロバイダ '%ls' から列 '%ls.%ls' に対して予期しない NULL 値が返されました。この列は NULL を許可しません。
7343	OLE DB プロバイダ '%ls' はテーブル '%ls' を %ls できません。 %ls

エラー・コード	説明
7344	列 '%ls' により、OLE DB プロバイダ '%ls' はテーブル '%ls' を %ls できませんでした。%ls
7345	OLE DB プロバイダ '%ls' はテーブル '%ls' をから削除できませんでした。%ls
7346	OLE DB プロバイダ '%ls' から行のデータを取得できませんでした。%ls
7347	OLE DB プロバイダ '%ls' は固定長列 '%ls.%ls' に予期しない長さのデータを返しました。必要なデータ長は %ls ですが、返されたデータ長は %ls です。
7348	OLE DB プロバイダ '%ls' はテーブル '%ls' の範囲を設定できませんでした。%ls。
7349	列 '%ls' により、OLE DB プロバイダ '%ls' はテーブル '%ls' の範囲を設定できませんでした。%ls。
7350	OLE DB プロバイダ '%ls' から列情報を取得できませんでした。
7351	OLE DB プロバイダ '%ls' はオブジェクト '%ls' の 1 つ以上の列に対して序数をマップできませんでした。
7352	OLE DB プロバイダ '%ls' は矛盾したメタデータを提供しました。オブジェクト '%ls' には必要な列 '%ls' がありませんでした。
7353	OLE DB プロバイダ '%ls' は矛盾したメタデータを提供しました。コンパイル時に見つからなかった余分な列を実行時に提供しました。
7354	OLE DB プロバイダ '%ls' は列 '%ls' に対して無効なメタデータを提供しました。%ls
7355	OLE DB プロバイダ '%ls' は列に対して矛盾したメタデータを提供しました。名前が実行時に変更されました。
7356	OLE DB プロバイダ '%ls' は列に対して矛盾したメタデータを提供しました。実行時にメタデータ情報が変更されました。
7357	オブジェクト '%ls' を処理できませんでした。OLE DB プロバイダ '%ls' はオブジェクトが列を持っていないことを示しています。
7358	クエリを実行できませんでした。OLE DB プロバイダ '%ls' は text、ntext、または image 列 '%ls.%ls' にアクセスするための適切なインタフェースを用意ませんでした。
7359	OLE DB プロバイダ '%ls' は、テーブル '%ls' のスキーマ・バージョンがコンパイルから実行までの間に変更されたことを報告しました。
7360	OLE DB プロバイダ '%ls' から、テーブル '%ls'、列 '%ls' のストレージ・オブジェクト長を取得できませんでした。
7361	OLE DB プロバイダ '%ls' から、テーブル '%ls'、列 '%ls' のストレージ・オブジェクトを読み取れませんでした。
7362	OLE DB プロバイダ '%ls' は、テーブル '%ls' 列 '%ls' で異なるメタ・データを報告しました。
7365	OLE DB プロバイダ '%ls' から列行セットのオプションのメタデータ列を取得できませんでした。
7366	OLE DB プロバイダ '%ls' から列行セットを取得できませんでした。プロバイダはインタフェースをサポートしていますが、インタフェース使用時に失敗コードを返しました。
7367	OLE DB プロバイダ '%ls' は列レベル照合をサポートしていますが、実行時にメタデータ列 '%ls' の指定に失敗しました。

エラー・コード	説明
7368	OLE DB プロバイダ '%ls' は列レベル照合をサポートしていますが、列 '%ls' の照合データの指定に失敗しました。
7369	OLE DB プロバイダ '%ls' は無効な照合を指定しました。 %ls。
7370	OLE DB プロバイダ '%ls' のクエリに 1 つ以上のプロパティを設定できませんでした。 %ls
7371	OLE DB プロバイダ '%ls' のテーブルに 1 つ以上のプロパティを設定できませんでした。
7372	OLE DB プロバイダ '%ls' からプロパティの取得に失敗しました。
7373	OLE DB プロバイダ '%ls' の初期化プロパティを設定できませんでした。
7374	OLE DB プロバイダ '%ls' のセッション・プロパティを設定できませんでした。
7375	OLE DB プロバイダ '%ls' からテーブル '%ls' 上のインデックス '%ls' を開けませんでした。 %ls
7376	このクエリのリモート結合ヒントを実行できませんでした。
7377	リモート・データ・ソースのインデックスまたはロッキング・ヒントを指定できません。
7378	更新/削除処理には、リモート・テーブルに一意キーまたはクラスタ化インデックスが必要です。
7379	OLE DB プロバイダ '%ls' は予期しない '%ls.%ls' を decimal/numeric 列 '%ls.%ls' に対して返しました。必要なデータ長は '%ls' ですが、返されたデータ長は '%ls' です。
7390	OLE DB プロバイダ '%ls' は必要なトランザクション・インタフェースをサポートしていないので、要求した処理は実行されませんでした。
7391	OLE DB プロバイダ '%ls' は分散トランザクションを開始できなかったため、要求した処理は実行されませんでした。
7392	OLE DB プロバイダ '%ls' のトランザクションを開始できませんでした。
7393	OLE DB プロバイダ '%ls' は現在のトランザクションの中止中にエラーを報告しました。
7394	OLE DB プロバイダ '%ls' は現在のトランザクションをコミット中にエラーを報告しました。
7395	OLE DB プロバイダ '%ls' で入れ子にしたトランザクションを開始できません。 XACT_ABORT オプションがオフに設定されたので、入れ子にしたトランザクションが必要です。
7399	OLE DB プロバイダ '%ls' はエラーを報告しました。 %ls

テーブル 3-57: TSQL エラー・コード - 7400 から 7499

エラー・コード	説明
7401	SQL Server と共にインストールされる OLE DB プロバイダ列挙オブジェクトを作成できません。インストールを確認してください。
7403	OLE DB プロバイダ '%ls' のレジストリ・エントリを配置できませんでした。
7404	サーバは起動時に DCOM をロードできませんでした。
7405	異種クエリでは接続時に ANSI_NULLS と ANSI_WARNINGS オプションが設定されている必要があります。これは一貫したクエリの意味を保証します。これらのオプションを有効にし、クエリを再発行してください。

エラー・コード	説明
7410	SETUSER を使用してアクティブにした Windows NT ユーザはリモート・アクセスできません。
7411	サーバ '%s' は、%s 用に構成されていません。
7413	権限の委譲ができないので、Windows NT 認証ログインを実行できませんでした。
7414	パラメータ数が無効です。行セット '%s' はパラメータが %d 個必要です。
7415	OLE DB プロバイダ '%s' への任意アクセスが拒否されました。リンク・サーバを使用してこのプロバイダにアクセスしなければなりません。
7416	ログイン・マッピングが存在しないので、リモート・サーバへのアクセスが拒否されました。
7417	クエリ内に WHERE 節がある場合、リモート・テーブルにアクセスするクエリでは、GROUP BY ALL はサポートされません。
7418	text、image、または ntext 列は、プロバイダが使用しているストレージ・インタフェースにより、リモート・データ・ソースに送信するには大きすぎました。
7419	遅延スキーマ評価エラー。リンク・サーバ・スキーマ・バージョンが変更されました。クエリを再実行してください。

テーブル 3-58: TSQL エラー・コード - 7600 から 7699

エラー・コード	説明
7601	%S_MSG '%s' はフルテキスト・インデックスが作成されていないので、%S_MSG '%s' で CONTAINS または FREETEXT 述語は使用できません。
7602	フルテキスト・サービス (Microsoft Search) は使用できません。システム管理者がこのサービスを起動する必要があります。
7603	検索条件の構文エラー、または空か NULL 検索条件 '%s' の構文エラー。
7604	タイムアウトにより、フルテキスト処理に失敗しました。
7605	フルテキスト・カタログ '%s' が失われました。sp_fulltext_catalog を使用して、このフルテキスト・カタログを再構築し、再生成してください。
7606	データベース ID %d、テーブル ID %d のフルテキスト・インデックスが見つかりませんでした。sp_fulltext_table を使用して、このインデックスを無効にし、その後で有効にしてください。
7607	データベース ID %d、テーブル ID %d のフルテキスト・カタログ '%s' を検索条件 '%s' で検索しましたが失敗しました。不明な結果 (%x) が返されました。
7608	フルテキスト・カタログ '%s' の関数 %hs で不明なフルテキストの失敗 (%x) が発生しました。
7609	フルテキスト検索がインストールされていないか、フルテキスト検索コンポーネントをロードできませんでした。
7610	'%s' へのアクセスが拒否されたか、パスが無効です。フルテキスト検索が正しくインストールされませんでした。
7611	警告: フルテキスト・カタログ '%s' での生成が現在アクティブなので、このフルテキスト・カタログの生成を開始する要求が無視されました。
7612	%d はフルテキスト・システム・リソースの使用では無効な値です。

エラー・コード	説明
7613	インデックス '%.*ls' は、テーブル '%.*ls' のフルテキスト・キーに設定されているので削除できません。
7614	列 '%.*ls' ではフルテキスト検索が有効になっているので、列を変更または削除できません。
7615	CONTAINS 述語または FREETEXT 述語は 1 つのテーブルだけで処理できます。* で指定しているテーブル名を修飾してください。
7616	現在のデータベースではフルテキスト検索は無効です。sp_fulltext_database を使用して、データベースのフルテキスト検索を有効にしてください。
7617	クエリはフルテキスト・インデックス付きのテーブルを参照しません。
7618	%d はフルテキスト接続タイムアウト値としては無効な値です。
7620	フルテキスト検索キー値 0x%ls でデータ型 %ls への変換に失敗しました。
7621	HAVING 節でのフルテキスト述語の使用法が無効です。
7622	この処理を完了するには、フルテキスト・カタログ '%ls' のディスク領域が不足しています。
7623	フルテキスト・カタログ '%ls' がクエリ用にまだ準備できていないので、フルテキスト・クエリに失敗しました。
7624	フルテキスト・カタログ '%ls' は使用できない状態です。このフルテキスト・カタログを削除し、再作成してください。
7625	フルテキスト・テーブルは、フルテキスト・インデックス付の列に複数の LCID を持っています。
7626	top_n_by_rank 引数 ('%d') には 1 以上の値を指定する必要があります。
7627	クラスタ化サーバのディレクトリ '%ls' にフルテキスト・カタログを作成できません。サーバのクラスタ・グループのディスク上のディレクトリだけが使用できます。
7628	アクセスが拒否されたか、パスが無効なので、Schema.txt を '%.*ls' にコピーできません。フルテキスト検索が正しくインストールされませんでした。
7629	レジストリ・キー '%.*ls' を開けないか、クエリできません。
7630	検索条件 '%.*ls' の '%.*ls' の近辺で構文エラーが発生しました。
7631	'%.*ls' 付近で構文エラーが発生しました。検索条件 '%.*ls' では '%.*ls' が必要です。
7632	Weight 引数の値は 0.0 から 1.0 までで指定してください。
7633	構文 <content search condition> OR NOT <content boolean term> は許可されません。
7634	検索条件 '%.*ls' の解析中にスタックがオーバーフローしました。
7635	Microsoft Search サービスは、現在のユーザ・アカウントでは管理できません。
7636	警告: テーブル '%ls' での生成が現在アクティブなので、このテーブルへのフルテキスト・インデックスの生成を開始する要求は無視されます。
7637	値 %d はフルテキスト・データ・タイムアウト値としては無効な値です。
7638	警告: 変更の記録を停止する要求により、テーブル '%ls' で記録していたすべての変更を削除しました。

エラー・コード	説明
7639	%S_MSG '%ls' はローカル・サーバ上には存在しないので、フルテキスト述語は使用できません。
7640	警告: テーブル '%ls' の変更記録の停止を要求しても、このテーブルで現在実行中の生成は停止されません。
7641	フルテキスト・カタログ '%ls' が存在しません。
7642	フルテキスト・カタログ名 '%ls' は、このデータベースに既に存在します。

テーブル 3-59: TSQL エラー・コード - 7900 から 7999

エラー・コード	説明
7905	指定されたオブジェクトはテーブルでも制約でもありません。
7908	テーブル '%ls' は NO_LOG オプションを使って作成されました。
7910	修復: ページ %S_PGID が、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d に割り当てられました。
7911	修復: ページ %S_PGID が、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d から割り当て解除されました。
7912	修復: エクステント %S_PGID が、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d に割り当てられました。
7913	修復: エクステント %S_PGID が、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d から割り当て解除されました。
7914	修復: %S_PGID の %ls ページが再構築されました。
7915	修復: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の IAM チェーンが、ページ %S_PGID の前で切り捨てられています。チェーンは再構築されます。
7916	修復: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d のレコードが、ページ %S_PGID、スロット %d で削除されました。インデックスが再構築されます。
7917	修復: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の転送されたレコードが、ページ %S_PGID、スロット %d でデータ行に変換されました。
7918	修復: ページ %S_PGID 次ポインタと %S_PGID 前ポインタが、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d で互いに一致するように設定されました。
7919	修復文は処理されませんでした。データベースをシングル・ユーザ・モードにする必要があります。
7920	データベース ID %d の sysindexes でエントリが %ld 個処理されました。
7922	*****
7923	テーブル %ls オブジェクト ID %ld。
7924	インデックス ID %ld。FirstIAM %S_PGID。ルート %S_PGID。Dpages %ld。
7925	インデックス ID %d。%ld ページが %ld 専用エクステントで使用されています。
7927	エクステント総数は %ld です。
7932	'%ls' のインデックスは既に修正されています。インデックスが再構築されません。
7933	1 つ以上のインデックスにエラーがあります。インデックスが再構築されます。

エラー・コード	説明
7934	テーブル '%.*s' にはインデックスがありません。
7935	REINDEX が例外を受け取りました。文は終了されました。
7937	テーブル '%.*s' のデータが矛盾する可能性があります。REINDEX が終了しました。DBCC CHECKTABLE を実行し、エラーをシステム管理者に報告してください。
7939	データベース '%.*s' が存在しないので、アタッチを解除できません。
7940	システム・データベース master、model、msdb、および tempdb はアタッチを解除できません。
7941	この接続ではトレース・オプションが無効です。'DBCC TRACEON()' を使用します。
7942	DBCC %ls は '%.*s' テーブル をスキャン中です...
7943	テーブル: '%.*s' (%d)。インデックス ID: %d、データベース ID: %d。
7944	%ls レベル・スキャンが実行されました。
7945	- スキャンされたページ数.....: %lu
7946	- スキャンされたエクステント数.....: %lu
7947	- 切り替えられたエクステント数.....: %lu
7948	- エクステントごとの平均ページ数.....: %3.1f
7949	- スキャン密度 [最善:実際].....: %4.2f%ls [%lu:%lu]
7950	- 論理スキャンの断片化: %4.2f%ls
7951	- 物理スキャンの断片化: %4.2f%ls
7952	- エクステント・スキャンの断片化: %4.2f%ls
7953	- ページごとの平均空きバイト数.....: %3.1f
7954	- 平均ページ密度 (全体).....: %4.2f%ls
7955	無効な SPID %d が指定されました。
7956	DBCC %l を実行する権限が拒否されました。
7957	指定された SPID のバッファは変化中で表示できません。
7958	指定した SPID は入出力データ・ストリームを処理できません。
7959	このリリースでは DBCC 文はサポートされていません。
7961	オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ ID %S_PGID、行 ID %d。列 '%.*s' は NULL 値と 0 以外のデータ長を持つ var 列です。
7962	SQL Server をアップグレードするには、シングル・ユーザ・モードで起動する必要があります。--m フラグを指定して SQL Server を再起動してください。
7963	アップグレード中に致命的なエラーが発生しました。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
7965	テーブル・エラー: アロケーション (IAM) ページが無効なので、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d を確認できませんでした。
7966	警告: %ls の NO_INDEX オプションが使用されています。スキップされたシステム・インデックス以外を調べてください。

エラー・コード	説明
7968	データベース '%.s' のトランザクション情報。
7969	開かれたアクティブなトランザクションがありません。
7970	%hs最も古いアクティブなトランザクション:
7971	SPID (サーバ・プロセス ID): %d
7972	UID (ユーザ ID): %d
7974	名前: %.s
7975	LSN: (%d:%d:%d)
7977	開始時刻: %.s
7979	%hsレプリケートされたトランザクション情報:
7980	配布された最も古い LSN: (%d:%d:%d)
7982	配布されなかった最も古い LSN: (%d:%d:%d)
7983	ユーザ '%.s' は DBCC %s をデータベース '%.s' に対して実行する権限を持っていません。
7984	無効なオブジェクト名 '%.s' です。
7985	オブジェクト名 '%.s' が最大数以上の接頭語を持っています。最大数は %d です。
7986	警告: テーブルを固定するときは、注意深く考慮する必要があります。固定されたテーブルを利用できるデータ・キャッシュよりも大きくする場合は、サーバを再起動し、固定されたテーブルを解除する必要があります。
7991	システム・テーブルが一致しません: テーブル '%.s'、オブジェクトID %d は sysindexes にインデックス ID 1 を持っていますが、sysobjects のステータスにクラスタ化ビットがセットされていません。テーブルはヒープとして確認されます。
7992	'読み取り専用' データベース '%.s' は圧縮できません。
7993	データベース '%.s' のファイル '%d' を %d ページに圧縮することはできません。%d ページしかありません。
7994	オブジェクト ID %d、インデックス ID %d: sysindexes の FirstIAM フィールドが %S_PGID です。統計の FirstIAM とダミー・インデックスのエントリだけが (0:0) でなければなりません。
7995	sysobjects、sysindexes、syscolumns、または systypes で %s 処理を続行できない、データベース '%s' の 整合性エラーが発生しました。
7996	拡張ストアド・プロシージャは、マスタ・データベースにのみ作成できます。
7997	'%.s' が ID 列を持っていません。
7998	ID 情報を調べています: 現在の ID 値 '%.hs'、現在の列値 '%.hs'。
7999	テーブル '%.s' でインデックス名 '%.s' が見つかりませんでした。

テーブル 3-60: TSQL エラー・コード - 8100 から 8199

エラー・コード	説明
8101	列リストが使用されていて、IDENTITY_INSERT がオンのときだけ、テーブル '%.s' の ID 列に明示的な値を指定できます。

エラー・コード	説明
8102	ID 列 '%.s' は更新できません。
8103	テーブル '%.s' が存在しないか、SET 演算で開けません。
8104	現在のユーザはデータベース所有者またはテーブル '%.s' のオブジェクト所有者ではありません。SET 演算は実行できません。
8105	'%.s' はユーザ・テーブルではありません。SET 演算は実行できません。
8106	テーブル '%.s' は ID プロパティを持っていません。SET 演算は実行できません。
8107	IDENTITY_INSERT はテーブル '%.s.%.s.%.s' で既にオンになっています。テーブル '%.s' の SET 演算は実行できません。
8108	SELECT INTO 文でテーブル '%.s' に ID 列を追加できません。テーブルは ID プロパティを継承した列 '%.s' を既に持っています。
8109	SELECT INTO 文でテーブル '%.s' に複数の ID 列を追加しようとしました。
8110	テーブル '%.s' に複数の PRIMARY KEY 制約は追加できません。
8111	テーブル '%.s' の NULL 値が許容される列に PRIMARY KEY 制約は定義できません。
8112	テーブル '%.s' の制約で、複数のクラスタ化インデックスは追加できません。
8114	データ型 %s の %s への変換中にエラーが発生しました。
8115	%s のデータ型 %s への変換中に算術オーバーフロー・エラーが発生しました。
8116	引数のデータ型 %s は、%s 関数の引数 %s では無効です。
8117	オペランド・データ型 %s は %s 演算子では無効です。
8118	列 '%.s.%.s' が集約関数に含まれていない場合および GROUP BY 節がない場合は、列 '%.s.%.s' は SELECT リスト内では無効です。
8119	列 '%.s.%.s' が集約関数に含まれていない場合および GROUP BY 節がない場合は、列 '%.s.%.s' は HAVING 節内では無効です。
8120	列 '%.s.%.s' は、集約関数または GROUP BY 節に含まれていない場合は、SELECT リスト内では無効です。
8121	列 '%.s.%.s' は、集約関数または GROUP BY 節に含まれていない場合は、HAVING 節内では無効です。
8122	UNION 文の最初のクエリだけが、割り当てを伴う SELECT が許されています。
8123	相関式は、GROUP BY 節以外では無効です。
8124	外部参照を持つ集約式で複数の列が指定されました。集約される式が外部参照を持つときは、その外部参照は式内の列参照のみでなければなりません。
8125	外部参照を持つ集約式は、SELECT リストまたはクエリの HAVING 節のサブクエリに含まれていなければいけません。このときクエリは、集約される列を含むテーブルを持つ FROM 節を持っています。
8126	列名 '%.s.%.s' が集約関数に含まれていない場合、および GROUP BY 節がない場合は、列名 '%.s.%.s' は ORDER BY 節内では無効です。
8127	列名 '%.s.%.s' が集約関数または GROUP BY 節に含まれていないので、ORDER BY 節内では無効です。

エラー・コード	説明
8128	'%s' バージョン '%s' を使用して、拡張ストア・プロシージャ '%s' を実行します。
8129	新しいディスク・サイズは %d よりも大きくなければなりません。DBCC SHRINKDB を考慮する必要があります。
8130	デバイスは、データベース・デバイスではありません。データベース・デバイスだけが拡張できます。
8131	拡張ストア・プロシージャDLL '%s' は _GetXpVersion() をエクスポートしません。詳細は、ドキュメント “旧バージョンとの互換性の詳細 (レベル 1) – Open Data Services” を参照してください。
8132	拡張ストア・プロシージャ DLL '%s' のバージョンは %d.%d です。サーバが必要とするバージョンは %d.%d です。
8133	CASE で指定したすべての結果式は NULL になることはできません。
8134	0 による除算でエラーが発生しました。
8135	テーブル '%.*s' で、テーブル・レベル制約が列リストを指定していません。
8136	テーブル '%.*s' で、%ls 制約キー・リストに重複した列が指定されました。
8138	テーブル '%.*s' で、外部キー列リストに 16 を超える列が指定されました。
8139	テーブル '%.*s' で、外部キーで参照する列数が参照される列数と一致しません。
8140	テーブル '%.*s' で、列レベル %ls 制約で複数のキーが指定されました。
8141	テーブル '%.*s' で、列 '%.*s' の列 %ls 制約が別の列を参照しています。
8142	テーブル '%.*s' で、サブクエリは %ls 制約ではサポートされていません。
8143	パラメータ '%.*s' が複数回指定されました。
8144	プロシージャまたは関数 %.*s の引数が多すぎます。
8145	%.*s はプロシージャ %.*s の引数ではありません。
8146	プロシージャ %.*s にはパラメータがなく、引数が指定されました。
8147	テーブル '%.*s' で、NULL 値を許容する列 '%.*s' に IDENTITY 属性を作成できませんでした。
8148	テーブル '%.*s' で、複数の列 %ls 制約が列 '%.*s' で指定されました。
8149	OLE オートメーション・オブジェクトはファイバ・モードではサポートされません。
8150	テーブル '%.*s' で、複数の NULL 制約が列 '%.*s' で指定されました。
8151	PRIMARY KEY 制約と UNIQUE 制約がともに列 '%.*s'、テーブル '%.*s' で定義されました。許されるのは 1 つだけです。
8152	STRING または BINARY データは切り詰められました。
8153	警告: NULL 値は集約またはその他の SET 演算で削除されました。
8154	テーブル '%.*s' はあいまいです。
8155	列 '%.*s' の %dで、列が指定されていません。
8156	列 '%.*s' が '%.*s' に対して複数回指定されました。

エラー・コード	説明
8157	UNION 演算子を含むクエリ式内のクエリでは、SELECT リスト内の式の数はすべて同じである必要があります。
8158	'%.*ls' には列リストで指定されたものより多くの列があります。
8159	'%.*ls' にある列は列リストで指定されたものより少ないです。
8160	グループ化関数は、GROUP BY 節の中で CUBE または ROLLUP が指定されている場合にのみ指定できます。
8161	グループ化関数の引数が、GROUP BY 節のいずれの式とも一致しません。
8162	仮パラメータ '%.*ls' が OUTPUT として定義されていますが、実際のパラメータは OUTPUT として宣言されていません。
8163	text、ntext、または image データ型は DISTINCT として選択できません。
8164	INSERT EXEC 文は入れ子にできません。
8165	サブコマンド値 %d が無効です。正しい範囲は %d から %d までです。
8166	制約名 '%.*ls' は許可されていません。制約名の最初の文字をシャープ記号 (#) にすることはできません。
8168	'%.*ls' という名前の制約を 2 つ作成することはできません。制約名の重複は許可されていません。
8169	文字列から UNIQUEIDENTIFIER への変換で構文エラーが発生しました。
8170	UNIQUEIDENTIFIER 値を char に変換した結果を格納する領域が不足しています。
8171	オブジェクト '%.*ls' のヒント '%ls' が無効です。
8175	テーブル %.*ls が見つかりませんでした。後でこのテーブル名の解決が試行されます。
8176	resync プロシージャには、キー '%.*ls' の値が必要ですが、指定されていませんでした。
8177	%hs 節が集計関数または GROUP BY 節に含まれていない限り、%hs 節内の列は使用できません。
8178	作成済み文 '%.*ls' にはパラメータ %.*ls が必要ですが、指定されていませんでした。
8179	ハンドル %d を持つ作成済み文が見つかりませんでした。
8180	文を作成できませんでした。
8181	'%.*ls' のテキストが syscomments にありません。使用する前にオブジェクトを削除し、再作成する必要があります。
8183	計算列では UNIQUE または PRIMARY KEY 制約のみが許可されます。
8184	'*' 展開中のエラー: すべての列は比較不可能、'*' が 0 個の列に展開されました。
8185	'*' 展開中のエラー: 基本となるテーブルまたはビューに比較できない列が見つかりました。
8186	関数 '%.*ls' は、ユーザ・テーブルおよびシステム・テーブルのみで使用できます。
8190	フィルタするテーブルを定義しないで、レプリケーション・フィルタ・プロシージャをコンパイルすることはできません。

エラー・コード	説明
8191	レプリケーション・フィルタ・プロシージャには、SELECT、GOTO、IF、WHILE、RETURN、および DECLARE 文のみを指定できます。
8192	レプリケーション・フィルタ・プロシージャにはパラメータを指定できません。
8193	FOR REPLICATION が指定されたプロシージャは実行できません。
8194	アプリケーション・ロールがアクティブな場合、USE 文は実行できません。
8196	ROWGUIDCOL として重複した列が指定されています。
8197	Windows NT ユーザ '%.*s' はサーバにアクセスできません。
8198	Windows NT グループ/ユーザ '%s' に関する情報を取得できませんでした。
8199	EXECUTE <procname> で、procname にはリテラルまたは char、varchar、nchar、または nvarchar 型の変数のみを指定できます。

テーブル 3-61: TSQL エラー・コード - 8500 から 8599

エラー・コード	説明
8501	サーバ '%.*s' の MSDTC は使用できません。
8502	不明な MSDTC トークン '0x%x' を受け取りました。
8504	トランザクション・インポート・バッファが無効です。
8506	%hs から %hs に無効なトランザクション状態の変更が要求されました。
8508	'%hs' で QueryInterface に失敗しました: %hs。
8509	MSDTC トランザクションのインポートに失敗しました: %hs。
8510	MSDTC トランザクションの参加に失敗しました: %hs。
8511	MSDTC から不明な分離レベル %d が要求されました。
8512	MSDTC COMMIT 認識に失敗しました: %hs。
8513	MSDTC ABORT 認識に失敗しました: %hs。
8514	MSDTC PREPARE 認識に失敗しました: %hs。
8515	MSDTC グローバル状態が無効です。
8517	MSDTC PREPARE 情報の取得に失敗しました: %hs。
8518	MSDTC BEGIN トランザクションに失敗しました: %hs。
8519	リモート・クライアントが現在の MSDTC トランザクションをコミットする必要があります。
8520	内部 MSDTC トランザクションのコミットに失敗しました: %hs。
8521	無効なアクティブ化状態です。 %hs でスリープ状態、 %hs でアクティブになります。
8522	分散型トランザクションが MSDTC によって中止されました。
8523	PREPARE TRAN 文は MSDTC トランザクションでは使用できません。
8524	現在のトランザクションをリモート・プロバイダにエクスポートできませんでした。これはロールバックされています。
8525	分散型トランザクションが完了しました。このセッションを新規トランザクションまたは NULL トランザクションに参加させます。

テーブル 3-62: TSQL エラー・コード - 8600 から 8699

エラー・コード	説明
8601	内部クエリ・プロセッサ・エラー: クエリ・プロセッサは要求されたインタフェースにアクセスできませんでした。
8602	ヒントで使用するインデックスは、インデックス調整ウィザードにより明示的に追加する必要があります。
8616	テーブル '%.*s' はスター型結合のファクト・テーブルと見なされたため、このテーブルのインデックス・ヒントは無視されました。
8617	無効なクエリ: CUBE および ROLLUP は個別集約を計算できません。
8618	警告: GROUP BY 節または ORDER BY 節内の全列の長さの合計が 8000 バイトを超えているため、クエリ・プロセッサはオプティマイザからクエリ・プランを作成できませんでした。
8619	警告: GROUP BY 節または ORDER BY 節内の全列の長さの合計が 8000 バイトを超えているため、クエリ・プロセッサはオプティマイザからクエリ・プランを作成できませんでした。ROBUST PLAN ヒントを指定しないでクエリを再送信してください。
8620	内部クエリ・プロセッサ・エラー: クエリ・プロセッサで内部制限のオーバーフローが発生しました。
8621	内部クエリ・プロセッサ・エラー: クエリ・プロセッサはクエリ最適化実行中にスタック領域不足になりました。
8622	このクエリに定義されたヒントが原因で、クエリ・プロセッサはクエリ・プランを作成できませんでした。ヒントを指定せず、SET FORCEPLAN を使用しないで、クエリを再送信してください。
8623	内部クエリ・プロセッサ・エラー: クエリ・プロセッサはクエリ・プランを作成できませんでした。詳細は、主要なサポート・プロバイダにお問い合わせください。
8624	内部 SQL Server エラーです。
8625	警告: ローカル結合ヒントが使用されているため、結合順序が指定されています。
8626	作業テーブルではテキスト・ポインタのみを使用できます。text、ntext、または image 列は使用できません。クエリ・プロセッサは、作業テーブルで text、ntext、または image 列が必要なクエリ・プランを作成しました。
8627	作業テーブルを使用する演算子を使ってヒントと text、ntext、または image データの組み合わせを渡しているため、クエリ・プロセッサはクエリ・プランを作成できませんでした。
8628	クエリの最適化の待機中にタイムアウトが発生しました。クエリを再実行してください。
8629	クエリは text、ntext、または image 列とクラスタ化キーの更新を同時に実行できないため、クエリ・プロセッサはオプティマイザからクエリ・プランを作成できませんでした。
8630	内部クエリ・プロセッサ・エラー: クエリ・プロセッサ実行中に予期しないエラーが発生しました。
8640	内部クエリ・プロセッサ・エラー: クエリ・プロセッサ実行中に作業テーブルで予期しないエラーが発生しました。
8642	クエリ・プロセッサは、クエリの並列実行に必要なスレッド・リソースを開始できませんでした。

エラー・コード	説明
8644	内部クエリ・プロセッサ・エラー: 実行するよう選択されたプランでは、呼び出された所定の実行ルーチンをサポートしていません。
8645	メモリ・リソースでのクエリ実行の待機中にタイムアウトが発生しました。クエリを再実行してください。
8646	行 ID %hs のインデックス・エントリが、データベース '%.s' の テーブル %d のインデックス ID %d で見つかりませんでした。
8647	データベース ID %d、オブジェクト ID %d の sysindexes のスキャンで、重複したインデックス ID %d が返されました。sysindexes で DBCC CHECKTABLE を実行します。
8648	ページ・サイズよりも大きな行をハッシュ・テーブルに挿入できませんでした。ROBUST PLAN ヒントを指定して、クエリを再送信してください。
8649	クエリの見積もりコスト (%d) が、構成されているしきい値 %d を超えたため、このクエリはキャンセルされました。システム管理者にお問い合わせください。
8650	クエリ内の並列処理が原因で、サーバ・コマンド (プロセス ID #%d) にデッドロックが発生しました。クエリ・ヒント・オプション (maxdop 1) を使用し、クエリ内並列処理を使用しないでクエリを再実行してください。
8651	最小クエリ・メモリが使用できないため、要求された処理を実行できませんでした。[クエリあたりの最小メモリ] サーバ構成オプションの構成値を少なくしてください。
8653	警告: テーブル '%.s' がオフラインになっているため、クエリ・プロセッサはプランを作成できません。
8654	指定された文に textptr (inrow lob) が含まれるため、この文に対してカーソル・プランを生成できませんでした。
8660	ビュー定義に GROUP BY 節の全列が含まれていないため、ビュー '%.s' にインデックスを作成できません。
8661	インデックス・キーに GROUP BY 節にない列が含まれるため、ビュー '%.s' にクラスタ化インデックスを作成できません。
8662	ビュー定義に不明な値 (NULL を許容する式の合計) が含まれているため、ビュー '%.s' にインデックスを作成できません。
8663	ビュー定義に count_big(*) が含まれていないため、ビュー '%.s' にインデックスを作成できません。
8664	ビュー定義に重複した列名が含まれているため、ビュー '%.s' にインデックスを作成できません。
8665	ビュー定義を満たす行がないため、ビュー '%.s' にインデックスを作成できません。
8666	警告: ビューの SELECT リストに非集約式が含まれるため、オプティマイザでインデックスを使用できません。
8667	警告: ビューの Group-By リストでキーが形成され、このリストが冗長なため、オプティマイザでインデックスを使用できません。
8680	内部クエリ・プロセッサ・エラー: リモート・クエリ・フェーズの処理中に、クエリ・プロセッサで予期しないエラーが発生しました。

テーブル 3-63: TSQL エラー・コード - 8900 から 8999

エラー・コード	説明
8901	DBCC 実行中にデッドロックが検出されました。進行中のトランザクションを完了し、この文を再試行してください。
8902	DBCC 処理中にメモリ割り当てエラーが発生しました。
8903	データベース ID %d のエクステント %S_PGID が GAM %S_PGID と SGAM %S_PGID の両方に割り当てられています。
8904	データベース ID %d のエクステント %S_PGID が複数の割り当てオブジェクトによって割り当てられています。
8905	データベース ID %d のエクステント %S_PGID が GAM に割り当てられていると記されていますが、SGAM も IAM もそれを割り当てていません。
8906	データベース ID %d のページ %S_PGID が SGAM %S_PGID および PFS %S_PGID に割り当てられていますが、IAM には割り当てられていません。PFS フラグ '%hs'。
8908	テーブル・エラー: データベース ID %d、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。チェーン・リンケージが一致しません。 %S_PGID->next = %S_PGID、 %S_PGID->prev = %S_PGID。
8909	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ ID %S_PGID。ページ・ヘッダ内のページ ID = %S_PGID。
8910	データベース ID %d のページ %S_PGID がオブジェクト ID %d、インデックス ID %d と、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の両方に割り当てられています。
8911	エラーは修復されました。
8912	%*ls はデータベース '%ls' で %d 個の割り当てエラーと %d 個の整合性エラーを解決しました。
8913	エクステント %S_PGID は '%ls' と最低 1 つの他のオブジェクトに割り当てられています。
8914	ページ %S_PGID、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d (データベース ID %d 内) の PFS 空き領域情報が正しくありません。必要な値 %hs、実際の値 %hs。
8915	ファイル %d (混合エクステント数 = %ld、混合ページ数 = %ld)。
8916	オブジェクト ID %ld、インデックス ID %ld、データ・エクステント %ld、ページ %ld、混合エクステント・ページ %ld。
8917	オブジェクト ID %ld、インデックス ID %ld、インデックス・エクステント %ld、ページ %ld、混合エクステント・ページ %ld。
8918	このデータベースの (混合エクステント数 = %ld、混合ページ数 = %ld)。
8919	テーブル %ls、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の単一ページ割り当て %S_PGID が、PFS ページ ID %S_PGID 内に割り当てられていません。
8920	ユーザ・トランザクション内では、%ls 処理は実行できません。トランザクションを終了後、文を再発行してください。
8921	CHECKTABLE を終了しました。情報の収集中にエラーが検出されました。tempdb の領域が不足しているか、システム・テーブルの整合性が損なわれている可能性があります。以前のエラーを調べてください。
8922	このエラーを修復できませんでした。
8923	DBCC 文の修復レベルにより、この修復は行われませんでした。

エラー・コード	説明
8924	このエラーを修復する前に、他のエラーを修正する必要があります。
8925	テーブル・エラー: オブジェクトのクロス・リンク: ページ %S_PGID、スロット %d (オブジェクト ID %d、インデックス ID %d) が、ページ %S_PGID、スロット %d (オブジェクト ID %d、インデックス ID %d) を参照しています。
8926	テーブル・エラー: オブジェクトのクロス・リンク: 親ページ %S_PGID、スロット %d (オブジェクト ID %d、インデックス ID %d) およびページ %S_PGID、スロット %d (オブジェクト ID %d、インデックス ID %d) が、次にページ %S_PGID を参照していますが、両者は同じオブジェクトにはありません。
8927	オブジェクト ID %d、インデックス ID %d: ヘッダ内の代替レコード・カウント (%d) が、ページ %S_PGID で見つかった代替レコードの数 (%d) と一致しません。
8928	オブジェクト ID %d、インデックス ID %d: ページ %S_PGID を処理できませんでした。詳細は、他のエラーを参照してください。
8929	オブジェクト ID %d: %*ls で識別されるデータ・レコードが所有するテキスト ID %!64d でエラーが見つかりました。
8930	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d でオブジェクト・チェーンがクロス・リンクしています。ページ %S_PGID が、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の %S_PGID を指しています。
8931	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d B-tree レベルが一致しません。ページ %S_PGID。レベル %d が親 %S_PGID のレベル %d と一致しません。
8932	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、列 '%*ls'。列 ID %d はこのテーブルでは有効ではありません。有効な範囲は 1 から %d までです。
8933	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。ページ %S_PGID (レベル %d) の low キー値が、親 %S_PGID スロット %d のキー値 %ls ではありません。
8934	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。ページ %S_PGID (レベル %d) の high キー値が、親 %S_PGID スロット %d (次のページ %S_PGID) の low キー値より小さくありません。
8935	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。前ページへのリンク %S_PGID (ページ %S_PGID 上) が、前ページ %S_PGID (親 %S_PGID、スロット %d でこのページに想定しているページ) と一致しません。
8936	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。B-tree チェーン・リンケージが一致しません。 %S_PGID->next = %S_PGID、 %S_PGID->Prev = %S_PGID。
8937	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。B-tree ページ %S_PGID が 2 つの親ノード、 %S_PGID、スロット %d と %S_PGID、スロット %d を持っています。
8938	テーブル・エラー: ページ %S_PGID、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。予期しないページ型 %d。
8939	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ %S_PGID。テスト (%hs) は失敗しました。値は %ld と %ld です。
8940	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ %S_PGID。テスト (%hs) は失敗しました。アドレス 0x%x が無効です。
8941	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ %S_PGID。テスト (%hs) は失敗しました。スロット %d、オフセット 0x%x が無効です。

エラー・コード	説明
8942	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ %S_PGID。テスト (%hs) は失敗しました。スロット %d、オフセット 0x%x は前の行とオーバーラップしています。
8943	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ %S_PGID。テスト (%hs) は失敗しました。スロット %d、行は 0x%x で空き領域に拡張されました。
8944	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ %S_PGID、行 %d。テスト (%hs) は失敗しました。値は %ld と %ld です。
8945	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d は再構築されます。
8946	テーブル・エラー: アロケーション・ページ %S_PGID が無効なページ・ヘッダ値 %ls を持っています。型は %d です。ページの型、オブジェクト ID、およびページ ID を調べてください。
8947	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の複数の IAM ページが、同じ間隔でアロケーションを持っています。IAM ページ %S_PGID および %S_PGID。
8948	データベース・エラー: ページ %S_PGID が PFS ページ %S_PGID で誤った型でマークされています。PFS のステータスは 0x%x で、期待されるステータスは 0x%x です。
8949	%*ls は、テーブル '%ls' (オブジェクト ID %d) で %d 個のアロケーション・エラーと %d 個の整合性エラーを解決しました。
8950	%*ls は 1 つのオブジェクトには関連付けられていない %d 個のアロケーション・エラーと %d 個の整合性エラーを解決しました。
8951	テーブル・エラー: テーブル '%ls' (ID %d)。行のインデックス '%ls' (ID %d) でキーがないか、無効です。
8952	テーブル・エラー: データベース '%ls'、インデックス '%ls.%ls' (ID %d) (インデックス ID %d)。余分または無効なキーです。
8953	修復: オブジェクト ID %d (ページ %S_PGID、スロット %d) のテキスト列、テキスト ID %I64d が削除されました。
8954	%*ls は 1 つのオブジェクトには関連付けられていない %d 個のアロケーション・エラーと %d 個の整合性エラーを見つけました。
8955	(%ls) で識別されるデータ行 (%d:%d:%d) はインデックス値 (%ls) を持っています。
8956	値 (%ls) を持つインデックス行 (%d:%d:%d) は、(%ls) で識別されるデータ行を指しています。
8957	%ls が実行した DBCC %ls (%ls%ls%ls) は %d 個のエラーを検出し、%d 個のエラーを修復しました。
8958	%ls は DBCC %ls (%ls %ls) が見つけたエラーの最小修復レベルです。
8959	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の IAM ページ %S_PGID は、ページ %S_PGID によって、オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の IAM チェーンにリンクされています。
8960	テーブル・エラー: ページ %S_PGID、スロット %d、列 %d は有効な複合列ではありません。
8961	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d。ページ %S_PGID、スロット %d、テキスト ID %I64d の text ノード、ntext ノード、または image ノードは、ページ %S_PGID、スロット %d から参照されるノードと一致しません。

エラー・コード	説明
8962	テーブル・エラー: ページ %S_PGID、スロット %d、テキスト ID %I64d の text ノード、ntext ノード、または image ノードは、無効なノード型 %d を持っています。
8963	テーブル・エラー: ページ %S_PGID、スロット %d、テキスト ID %I64d の text ノード、ntext ノード、または image ノードは、型 %d を持っています。型 %d のページに置くことはできません。
8964	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d。ページ %S_PGID、スロット %d、テキスト ID %I64d の text ノード、ntext ノード、または image ノードは参照されていません。
8965	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d。ページ %S_PGID、スロット %d、テキスト ID %I64d の text ノード、ntext ノード、または image ノードは、ページ %S_PGID、スロット %d が参照していますが、スキャンで見つかりませんでした。
8966	ラッチ型 %lsを持つページ %S_PGID を読み取りまたはラッチできませんでした。%ls は失敗しました。
8967	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の %ls で検出された値が無効です。行はスキップされました。
8968	テーブル・エラー: %ls ページ %S_PGID (オブジェクト ID %d、インデックス ID %d) がこのデータベースの範囲外です。
8969	テーブル・エラー: IAM チェーン・リンケージ・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。IAM ページ %S_PGID の次のページは %S_PGID ですが、ページ %S_PGID の前ページへのリンクは %S_PGID です。
8970	行エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d、ページ ID %S_PGID、行 ID %d。列 '%*ls' は NOT NULL で作成されましたが、行内では NULL です。
8971	転送された行の不一致: オブジェクトID %d、ページ %S_PGID、スロット %d は、転送された行のページ %S_PGID、スロット %d を指しています。転送された行はページ %S_PGID、スロット %d を指しています。
8972	複数の行が転送された行を参照しています。オブジェクトID %d、ページ %S_PGID、スロット %d は転送された行のページ %S_PGID、スロット %d を正しく指していません。転送された行はページ %S_PGID、スロット %d を正しく参照しています。
8973	オブジェクト ID %d、インデックス ID %d の CHECKTABLE 処理でページ %S_PGID、スロット %d を 2 回検出しました。内部エラーまたはアロケーション・エラーの可能性があります。
8974	複数のノードがテキスト・ノードを参照しています。オブジェクト ID %d、text、ntext、または image ノード・ページ %S_PGID、スロット %d、テキスト ID %I64d は、ページ %S_PGID、スロット %d、およびページ %S_PGID、スロット %d によって指されています。
8975	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。子ページへのポインタ %S_PGID (PageId %S_PGID、スロット %d) は、このデータベースの有効なページではありません。
8976	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。ページ %S_PGID はスキャンで見つかりませんが、親 %S_PGID と 前の %S_PGID がこのページを参照しています。以前のエラーを調べてください。
8977	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。ページ %S_PGID の親ノードがありませんでした。

エラー・コード	説明
8978	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。ページ %S_PGID には、前のページ %S_PGID からの参照がありません。チェーン・リンケージに問題がある可能性があります。
8979	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。ページ %S_PGID には、親ノード (ページ不明) および前のノード (ページ %S_PGID) からの参照がありません。sysindexes のルート・エントリが正しくない可能性があります。
8980	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。インデックス・ノード・ページ %S_PGID、スロット %d は、子ページ %S_PGID と前の子ページ %S_PGID を参照していますが、見つかりませんでした。
8981	テーブル・エラー: オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。%S_PGID の次のポインタはページ %S_PGID を参照しています。%S_PGID と親が見つかりませんでした。チェーン・リンケージが正しくない可能性があります。
8982	テーブル・エラー: オブジェクトがクロス・リンクしています。オブジェクト ID %d、インデックス ID %d のページ %S_PGID->next がオブジェクト ID %d、インデックス ID %d のページ %S_PGID を参照していますが、同じインデックスではありません。
8983	ファイル %d。エクステント %d、使用ページ %d、予約ページ %d、混合エクステント %d、混合ページ %d。
8984	オブジェクト ID %d、インデックス ID %d。%S_PGID のアロケーション。IAM %S_PGID、エクステント %d、使用ページ %d、混合ページ %d。
8985	sysfiles でファイル '%.*ls' が見つかりませんでした。
8986	オブジェクト ID %d で見つかったエラー (%d) が多すぎます。すべてのエラー・メッセージを表示するには、“WITH ALL_ERRORMSGs” を指定して文を再実行してください。
8987	DBCC 文 '%.*ls' で使用できるヘルプはありません。
8988	データベース '%ls' のスキーマが変更されました。スキーマの変更中は間違ったアロケーションの問題点が見つかる可能性があります。
8989	%.*ls はデータベース '%ls' で %d 個のアロケーション・エラーと %d 個の整合性エラーを見つけました。
8990	%.*ls は、テーブル '%ls' (オブジェクト ID %d) で %d 個のアロケーション・エラーと %d 個の整合性エラーを見つけました。
8991	0x%.8x + 0x%.8x バイトは有効なアドレス範囲ではありません。
8992	データベース ID %d、オブジェクト '%ls' (ID %d)。データ・チェーンの %S_PGID でループを検出しました。
8993	オブジェクト ID %d、転送している行ページ %S_PGID、スロット %d は、ページ %S_PGID、スロット %d を指しています。転送された行が見つかりませんでした。アロケーション・エラーの可能性あります。
8994	オブジェクト ID %d、転送された行ページ %S_PGID、スロット %d は、転送している行ページ %S_PGID、スロット %d によって指されている必要があります。転送している行が見つかりませんでした。アロケーション・エラーの可能性あります。
8995	システム・テーブル '%.*ls' (オブジェクト ID %d、インデックス ID %d) がファイルグループ %d に存在します。すべてのシステム・テーブルはファイルグループ %d に存在する必要があります。

エラー・コード	説明
8996	オブジェクトID %d、インデックス ID %d の IAM ページ %S_PGID はファイルグループ %d のページを制御していますが、ファイルグループは %d である必要があります。
8997	オブジェクトID %d、インデックス ID %d の単一ページ・アロケーション %S_PGID はファイルグループ %d に存在しますが、ファイルグループ %d 内でなければなりません。
8998	GAM、SGAM、または PFS ページでのページ・エラーは、CHECKALLOC を使用して %S_PGID から %S_PGID までのデータベース ID %d ページを確認できません。原因については、他のエラーを参照してください。
8999	データベース tempdb でのアロケーション・エラーにより %ls 処理を続行できません。

テーブル 3-64: TSQL エラー・コード - 9000 から 9099

エラー・コード	説明
9001	データベース '%.*ls' のログは使用できません。
9002	データベース '%.*ls' のログ・ファイルはいっぱいです。ログ領域を解放するには、データベースのトランザクション・ログをバックアップしてください。
9003	データベース '%.*ls' のログ・スキャンに渡された LSN %S_LSN は無効です。
9004	データベース '%.*ls' のログを処理中にエラーが発生しました。
9005	OpenRowset(DBLog, ...) で指定された開始 LSN または終了 LSN のいずれかが無効です。
9006	論理ログ・ファイルの合計数を %d 未満にできないので、ログ・ファイル %d (%s) を圧縮できません。
9007	要求されたサイズ (%dKB) が最後の論理ログ・ファイルの開始位置よりも大きいので、ログ・ファイル %d (%s) を圧縮できません。
9008	すべての論理ログ・ファイルが使用中なので、ログ・ファイル %d (%s) を圧縮できません。
9009	最小のログ領域が必要なので、ログ・ファイル %d (%s) を圧縮できません。
9010	ユーザは仮想テーブル DBLog にクエリする権限を持っていません。sysadmin 固定サーバ・ロールおよび db_owner 固定データベース・ロールのメンバだけがこの権限を持ちます。

テーブル 3-65: TSQL エラー・コード - 10000 から 10999

エラー・コード	説明
10000	不明なプロバイダ・エラー。
10001	プロバイダが予期しない重大なエラーを報告しました。
10002	プロバイダはその機能を実装しませんでした。
10003	プロバイダのメモリが不足しています。
10004	プロバイダが 1 つ以上の引数が無効であることを報告しました。
10005	プロバイダはインタフェースをサポートしませんでした。
10006	プロバイダは無効なポインタが使用されていることを示しました。

エラー・コード	説明
10007	プロバイダは無効なハンドルが使用されていることを示しました。
10008	プロバイダが操作を終了しました。
10009	プロバイダからエラーに関する情報を得られませんでした。
10010	この操作を完了するのに必要なデータが、まだプロバイダで使用できません。
10011	アクセスが拒否されました。
10021	リソースの上限に達したので、プロバイダが実行を終了しました。
10022	プロバイダがコンシューマの IRowsetNotify からメソッドを呼び出しました。メソッドからまだ返ってきません。
10023	プロバイダは必要なメソッドをサポートしていません。
10024	プロバイダはユーザが操作の実行権限を持っていないことを示しました。
10025	プロバイダは外部プロセスで、サーバに障害を生じさせました。
10026	コマンド・テキストが設定されていませんでした。
10027	コマンドが準備されていませんでした。
10028	認証が失敗しました。
10031	1 つ以上のプロパティを設定できなかったので、エラーが発生しました。
10032	複数の結果セットは返せません (プロバイダがサポートしていません)。
10033	指定したインデックスが存在しないか、プロバイダがこのデータ・ソースでのインデックス・スキャンをサポートしません。
10034	指定したテーブルは存在しません。
10035	1 つ以上の必須パラメータに値が指定されていません。
10041	プロパティ値を設定できませんでした。
10042	行セットが開かれているときはプロパティは設定できません。
10051	データを設定中にエラーが発生しました。
10052	通知中にプロバイダが挿入をキャンセルしました。
10053	符号の不一致またはオーバーフロー以外の原因によりデータ値を変換できませんでした。
10054	1 つ以上の列のデータ値が、プロバイダが使用している型でオーバーフローしました。
10055	データが 1 つ以上の列で整合性制約に違反しました。
10056	変更を保留されている行数が DBPROP_MAXPENDINGROWS プロパティで指定された上限を超えました。
10057	行を作成できません。行セットがサポートするアクティブな行の合計数を超える可能性があります。
10058	以前に取得した行ハンドルを解放しないと、コンシューマは新しい行を挿入できません。
10061	1 つ以上の列にデータを設定中にエラーが発生しました。
10062	通知中にプロバイダが変更をキャンセルしました。

エラー・コード	説明
10063	符号の不一致またはオーバーフロー以外の原因によりデータ値を変換できませんでした。
10064	1 つ以上の列のデータ値が、プロバイダが使用している型でオーバーフローしました。
10065	データが 1 つ以上の列で整合性制約に違反しました。
10066	変更を保留されている行数が DBPROP_MAXPENDINGROWS プロパティで指定された上限を超えました。
10067	行セットは楽観的同時実行制御を使用していました。列の値が、その列を含む行が最後にフェッチされるか、再同期された後に変更されています。
10068	コンシューマは行を削除できませんでした。削除が保留されているか、既にデータ・ソースに転送されました。
10069	コンシューマは行を削除できませんでした。挿入は既にデータ・ソースに転送されました。
10075	行を削除中にエラーが発生しました。
10081	行セットが統合インデックスを使用しています。現在のインデックスが存在しません。
10085	テーブルの RestartPosition が通知中にキャンセルされました。
10086	テーブルが実行中のデータ・ストリーム上に構築されましたが、その位置を再開できません。
10087	プロバイダは既存の行の一部を解放しませんでした。
10088	列の順序が、行セットを作成したオブジェクトに指定されていませんでした。プロバイダは、初期位置を次のフェッチ位置に再位置決めし、列の順序を変更するために、コマンドを再実行する必要がありますがありました。

テーブル 3-66: TSQL エラー・コード - 11000 から 11999

エラー・コード	説明
11000	この列では不明なステータス・コードです。
11001	NULL 以外の値が正常に返されました。
11002	遅延アクセサ評価が発生しました。この列では無効なバインディングです。
11003	符号の不一致またはオーバーフロー以外の原因によりデータ値を変換できませんでした。
11004	正常に NULL 値が返されました。
11005	正常に切り捨てられた値が返されました。
11006	符号の不一致によりデータ型を変換できませんでした。
11007	プロバイダが使用するデータ型ではデータ値がオーバーフローするので、変換に失敗しました。
11008	プロバイダがこの列でメモリを割り当てられないか、別のストレージ・オブジェクトを開けません。
11009	プロバイダがこの列の値を判別できません。
11010	ユーザがこの列に書き込む権限を持っていませんでした。

エラー・コード	説明
11011	データ値がこの列の整合性制約に違反しました。
11012	データ値がこの列のスキーマに違反しました。
11013	列のステータスが無効です。
11014	列は既定値を使用しました。
11015	列はデータ設定中にスキップされました。
11031	行は正常に削除されました。
11032	テーブルは即時更新モードになっていたため、データ・ソースで 1 行削除することにより複数の行が削除されました。
11033	行は、変更が保留されていましたが、解放されました。
11034	行の削除が通知中にキャンセルされました。
11036	行セットは楽観的同時実行制御を使用していました。列の値が、その列を含む行が最後にフェッチされるか、再同期された後に変更されています。
11037	行の削除が保留されたか、削除がデータ・ソースに転送されました。
11038	行の挿入が保留されています。
11039	DBPROP_CHANGEINSERTEDROWS は VARIANT_FALSE でした。行の挿入はデータ・ソースに転送されました。
11040	行の削除は列またはテーブルの整合性制約に違反しました。
11041	行ハンドルが無効か、現在のスレッドがアクセス権を持たない行ハンドルです。
11042	この行の削除は、行セット・プロパティ DBPROP_MAXPENDINGROWS で指定されている変更の保留数の制限値を超えます。
11043	行のストレージ・オブジェクトが開いています。
11044	プロバイダのメモリが不足しています。行をフェッチできませんでした。
11045	ユーザには行を削除する権限がありませんでした。
11046	テーブルは即時更新モードでした。クエリ実行タイムアウトなどの、サーバの制限値に到達したので、行は削除されませんでした。
11047	更新はスキーマの要件を満たしていませんでした。
11048	RPC 障害などのリカバリ可能なプロバイダ固有のエラーが発生しました。
11100	プロバイダが、他のプロパティまたは要件との競合が発生したことを示しています。
11101	text、ntext、または image へのアクセスに必要なインタフェースを取得できませんでした。
11102	プロバイダは必要な行検索インタフェースをサポートできませんでした。
11103	UPDATE/DELETE/INSERT 文に必要なインタフェースをプロバイダがサポートできませんでした。
11104	プロバイダがこのテーブルへの挿入をサポートできませんでした。
11105	プロバイダがこのテーブルでの更新をサポートできませんでした。
11106	プロバイダがこのテーブルでの削除をサポートできませんでした。

エラー・コード	説明
11107	プロバイダが行検索位置をサポートできませんでした。
11108	プロバイダが必要なプロパティをサポートできませんでした。
11109	プロバイダはこのデータ・ソースでインデックス・スキャンをサポートしません。

テーブル 3-67: TSQL エラー・コード - 13000 から 13999

エラー・コード	説明
13001	データ・ページ
13002	インデックス・ページ
13003	リーフ・ページ
13004	最終
13005	root
13006	読み取り元
13007	送信先
13008	受信
13009	send
13010	読み取り
13011	待機
13012	USE データベース文
13013	プロシージャまたはトリガ
13014	DISTINCT 節
13015	ビュー
13016	INTO 節
13017	ORDER BY 節
13018	COMPUTE 節
13019	SELECT INTO 文
13020	option
13021	オフセット・オプション
13022	統計オプション
13023	パラメータ・オプション
13024	関数名
13025	varbinary (128) NOT NULL
13026	パラメータ
13027	変換仕様
13028	index

エラー・コード	説明
13029	table
13030	データベース
13031	procedure (プロシージャ)
13032	トリガ
13033	ビュー
13034	default
13035	ルール
13036	システム・テーブル
13037	不明な型
13038	SET 文
13039	column
13040	型
13041	文字列
13042	integer
13043	identifier
13044	number
13045	整数値
13046	浮動少数値
13047	object
13048	列見出し
13076	代入
13077	カーソル宣言
13078	レプリケーション・フィルタ
13079	変数代入
13080	統計
13081	file
13082	ファイルグループ
13083	server
13084	write
13085	関数
13086	データベースの照合
13087	削除
13088	変更

テーブル 3-68: TSQL エラー・コード - 14000 から 14999

エラー・コード	説明
14002	タスク ID %ld 持つ 'Sync' サブシステムが見つかりませんでした。
14003	パブリケーション名を指定する必要があります。
14004	%s は現在のデータベース内に存在しなければなりません。
14005	パブリケーションを削除できませんでした。サブスクリプションが存在します。
14006	パブリケーションを削除できませんでした。
14008	パブリケーションがありません。
14009	パブリケーション '%s' の項目がありません。
14010	リモート・サーバがサブスクリプション・サーバとして定義されていません。
14012	@status パラメータ値には 'active' または 'inactive' のいずれかを指定してください。
14013	このデータベースはパブリケーションでは、許可されていません。
14014	同期方法 (@sync_method) は '[bcp] native'、'[bcp] character'、'concurrent'、または 'concurrent_c' でなければなりません。
14015	レプリケーション周期 (@repl_freq) は、'continuous' または 'snapshot' でなければなりません。
14016	パブリケーション '%s' は既に存在します。
14017	@restricted パラメータ値が無効です。有効なオプションは 'true' または 'false' です。
14018	パブリケーションを作成できませんでした。
14019	@operation パラメータ値には 'add' または 'drop' のいずれかを指定してください。
14020	指定された列の列 ID を取得できませんでした。スキーマ・レプリケーションに失敗しました。
14021	列が項目に正しく追加されませんでした。
14022	パラメータ @property の値は、 <code>description, sync_id, type, is_sync, is_logbased, is_logbased_manualfilter, is_logbased_manualview, is_logbased_manualboth, is_logbased_manualproc, is_logbased_manualfunc, is_logbased_manualschema, is_logbased_manualowner</code> または 'destination_owner' のいずれかに指定する必要があります。
14023	型は '[indexed view] logbased'、'[indexed view] logbased manualfilter'、'[indexed view] logbased manualview'、'[indexed view] logbased manualboth'、または '(view indexed view proc func) schema only' のいずれかに指定する必要があります。
14025	項目は正常に更新されました。
14027	%s は現在のデータベースに存在しません。
14028	ユーザ・テーブル、実体化されたビュー、およびストアド・プロシージャのみを 'logbased' 項目としてパブリッシュできます。
14029	列分割スイッチは 'true' または 'false' でなければなりません。
14030	項目 '%s' はパブリケーション '%s' に存在します。
14031	ユーザ・テーブルおよびビューのみが有効な同期オブジェクトです。
14032	パラメータ %s の値を 'all' にすることはできません。これは、レプリケーション・ストアド・プロシージャによって予約されています。

エラー・コード	説明
14033	パブリケーションにアクティブなサブスクリプションがあるため、レプリケーション周期を変更できませんでした。
14034	パブリケーション名 (@publication) をキーワード 'all' にすることはできません。
14035	データベース '%s' のレプリケーション・オプション '%s' は既に true に設定されています。
14036	データベースでパブリッシュを有効にできませんでした。
14037	データベース '%s' のレプリケーション・オプション '%s' は false に設定されています。
14038	データベースでパブリッシュを無効にできませんでした。
14039	項目ビューの列節を構築できませんでした。列数を減らすか、手動でビューを作成してください。
14040	サーバ '%s' は既にサブスクライバです。
14042	サブスクライバを作成できませんでした。
14043	パラメータ %s を NULL に指定することはできません。
14046	項目を削除できませんでした。サブスクリプションが存在します。
14047	%s を削除できませんでした。
14048	サーバ '%s' はサブスクライバではありません。
14049	レプリケーション用のストアド・プロシージャはフィルタとして使用できる唯一のオブジェクトです。
14050	このパブリケーションまたは項目にサブスクリプションはありません。
14051	このパラメータ値は 'sync_type' または 'dest_db' でなければなりません。
14052	@sync_type パラメータ値は 'automatic' または 'none' でなければなりません。
14053	現時点では、サブスクリプションを更新できませんでした。
14054	サブスクリプションは正常に更新されました。
14055	サブスクリプションは存在しません。
14056	現時点では、サブスクリプションを削除できませんでした。
14057	サブスクリプションを作成できませんでした。
14058	サブスクリプションは既に存在します。
14059	実体化されたビュー項目は、プロパティ allow_sync_tran、allow_queued_tran、または allow_dts を持つパブリケーションに対して作成できません。
14061	@pre_creation_cmd パラメータ値には 'none'、'drop'、'delete'、または 'truncate' を指定してください。
14062	サブスクライバが削除されました。
14063	リモート・サーバが存在しないか、有効なサブスクライバとして指定されていません。
14065	@status パラメータの値には 'initiated'、'active'、'inactive'、または 'subscribed' を指定してください。
14066	以前のステータスには 'active'、'inactive'、または 'subscribed' を指定してください。

エラー・コード	説明
14067	ステータス値が以前のステータス値と同じです。
14068	sysobjects を更新できませんでした。サブスクリプションのステータスを変更できませんでした。
14069	sysarticles を更新できませんでした。サブスクリプションのステータスを変更できませんでした。
14070	ディストリビューション・データベースのサブスクリプション・テーブルを更新できませんでした。サブスクリプションのステータスを変更できませんでした。
14071	ローカル・サーバのディストリビュータまたはディストリビューション・データベースが見つかりませんでした。ディストリビュータがインストールされていないか、ローカル・サーバがディストリビュータでパブリッシャとして構成されていません。
14074	サーバ '%s' は既にパブリッシャとしてリストされています。
14075	現時点では、パブリッシャを作成できませんでした。
14076	レプリケーション・ログイン権限を '%s' に付与できませんでした。
14077	パブリケーションは正常に更新されました。
14078	パラメータには 'description', 'sync_method', 'status', 'replica', 'isolation', 'identity', 'immediate_sync', 'enable_for_internet', 'allow_push', 'allow_pull', 'allow_anonymous', または 'retention' を指定する必要があります。
14080	リモート・サーバが存在しないか、有効なパブリッシャとして指定されていません。
14085	ディストリビュータからサブスクライバ情報を取得できませんでした。
14088	トランザクション・ベースのメソッドを使用してパブリッシュするには、テーブル '%s' に主キーが必要です。
14089	実体化されたビュー '%s' がトランザクション・ベースのメソッドを使用してパブリッシュされている場合は、そのビューのクラスタ化インデックスは NULL 値が許容された列を持つことはできません。
14090	列削除後の項目同期オブジェクトの評価でエラーが発生しました。項目 '%s' のフィルタ節は削除された列を参照してはいけません。
14091	sp_helpreplicationdb に渡す @type パラメータには 'pub' または 'sub' のいずれかを指定してください。
14092	この項目に対するサブスクリプションが存在するので、項目を変更できませんでした。
14093	パブリケーション '%s' は既定のパブリケーション・アクセス・リストを使用しているので、直接アクセス権を付与または削除することはできません。
14094	項目 '%s' をサブスクライブできませんでした。異種サブスクライバ '%s' は @pre_creation_cmd パラメータ値として 'truncate' をサポートしていません。
14095	パブリケーション '%s' をサブスクライブできませんでした。異種サブスクライバ '%s' は @sync_method パラメータ値として 'bcp character' だけをサポートしています。
14096	@pre_creation_cmd パラメータ値が 'drop' の場合、テーブル作成スクリプトのパスと名前を指定する必要があります。
14097	'status' の値には 'no column names', 'include column names', 'string literals', 'parameters', 'DTS horizontal partitions', または 'no DTS horizontal partitions' を指定してください。

エラー・コード	説明
14098	ディストリビューション・パブリッシャ '%s' を削除できません。リモート・パブリッシャはディストリビュータとして '%s' を使用しています。
14099	サーバ '%s' は既にディストリビュータとして定義されています。

テーブル 3-69: TSQL エラー・コード - 14100 から 14199

エラー・コード	説明
14100	同時実行スナップショット処理を使用するパブリケーションをサブスクライブしているときは、すべての項目を指定します。
14101	パブリケーション '%s' にはスナップショット・エージェントが既に定義されています。
14102	同時実行スナップショット処理を使用するパブリケーションからサブスクライブを解除するときは、すべての項目を指定します。
14105	ディストリビューション・データベースのプロパティ '%s' を正常に更新しました。
14106	ディストリビューション保有期間には正の数値を指定してください。
14107	@max_distretention 値は @min_distretention 値よりも大きくなくてはなりません。
14108	%s から履歴レコードを %ld 個削除しました。
14109	@security_mode パラメータ値には 0 (SQL Server 認証) または 1 (Windows 認証) を指定してください。
14110	ストアド・プロシージャ項目では、@property パラメータ値に 'description'、'dest_table'、'dest_object'、'creation_script'、'pre_creation_cmd'、'schema_option'、または 'destination_owner' を指定してください。
14111	@pre_creation_cmd パラメータ値には 'none' または 'drop' を指定してください。
14112	このプロシージャはテーブル・ベースの項目に対してのみ実行できます。
14113	'%s' を実行できませんでした。インストール・ディレクトリにある '%s' を調べてください。
14114	'%s' はディストリビュータとして構成されていません。
14115	プロパティ・パラメータ値には %s を指定してください。
14117	'%s' はディストリビューション・データベースとして構成されていません。
14118	ストアド・プロシージャは、'serializable proc exec' 項目、'proc exec' 項目、または 'proc schema only' 項目としてのみパブリッシュできます。
14119	ディストリビューション・データベース '%s' を追加できませんでした。このディストリビューション・データベースは既に存在します。
14120	ディストリビューション・データベース '%s' を削除できませんでした。このディストリビューション・データベースはパブリッシャに関連付けられています。
14121	ディストリビュータ '%s' を削除できませんでした。このディストリビュータはディストリビューション・データベースに関連付けられています。
14122	immediate_sync パブリケーションでは、@article パラメータ値には 'all' を指定してください。
14123	サブスクリプションの @sync_type パラメータ値 'manual' はサポートされなくなりました。

エラー・コード	説明
14124	パブリケーションに対するサブスクリプションを作成するには、そのパブリケーションには 1 つ以上の項目が必要です。
14126	操作を完了するのに必要な権限がありません。
14128	@subscription_type パラメータ値が無効です。有効なオプションは 'push' または 'pull' です。
14129	サブスクリプションを immediate_sync パブリケーションに追加するとき、'automatic' sync_type の場合は @status パラメータの値を NULL にしてください。
14135	パブリッシャ '%s'、パブリッシャ・データベース '%s'、パブリケーション '%s' にはサブスクリプションがありません。
14136	キーワード 'all' はレプリケーション・ストアド・プロシージャ用に予約されています。
14137	@value パラメータ値には 'true' または 'false' のいずれかを指定してください。
14138	オプション名 '%s' は無効です。
14139	レプリケーション・システム・テーブル '%s' は既に存在します。
14143	ディストリビュータ・パブリッシャ '%s' を削除できません。関連付けられたサブスクライバがディストリビューション・データベース '%s' にあります。
14144	サブスクライバ '%s' を削除できません。そのサブスクライバからのサブスクリプションがパブリケーション・データベース '%s' にあります。
14146	項目のパラメータ '@schema_option' は NULL にはできません。
14147	制限されたパブリケーションはサポートされなくなりました。
14148	'%s' 値は無効です。有効な値は 'true' または 'false' です。
14149	%ld 個のレプリケーション履歴レコードが %s 秒間に削除されました (%ld 行/秒)。
14150	レプリケーション-%s: エージェント %s が成功しました。%s
14151	レプリケーション-%s: エージェント %s は失敗しました。%s
14152	レプリケーション-%s: エージェント %s には再試行のスケジュールが設定されました。%s
14153	レプリケーション-%s: エージェント %s の警告。%s
14154	ディストリビュータ・パラメータには、'@heartbeat_interval' を指定してください。
14155	プロシージャ・スクリプト生成に無効な項目 ID が指定されました。
14156	項目定義にカスタム・ストアド・プロシージャが指定されませんでした。
14157	パブリケーション '%s' に対してサブスクライバ '%s' が作成したサブスクリプションは有効期限が切れたので削除されました。
14158	レプリケーション-%s: エージェント %s: %s。
14159	項目 '%s' のプロパティ '%s' は、その項目へのサブスクリプションが存在しているので、変更できませんでした。
14199	指定したジョブ "%s" はメンテナンス計画用には作成されません。

テーブル 3-70: TSQL エラー・コード - 14200 から 14299

エラー・コード	説明
14200	指定された '%s' は無効です。
14201	0 (すべてのステップ) ..
14202	@active_start_time の前または後
14203	sp_helplogins [Windows NT グループを除く]
14204	0 (アクティブ)、1 (実行中)、2 (スレッド待機中)、3 (再試行待ち)、4 (アイドル)、5 (一時中断)、7 (実行完了アクション)
14205	(不明)
14206	0..n 秒
14207	-1 [最大値なし]、0..n
14208	1..7 [1 = メール、2 = ポケットベル、4 = NetSend]
14209	0..127 [1 = 日曜日 .. 64 = 土曜日]
14210	通知
14211	server
14212	(すべてのジョブ)
14213	主要ジョブの詳細:
14214	ジョブ・ステップ:
14215	ジョブ・スケジュール:
14216	ジョブ対象サーバ:
14217	SQL Server 警告: '%s' は TSX サーバ '%s' を強制的に参加解除しました。参加解除を完了するには MSX で sp_delete_targetserver を実行してください。
14218	hour
14219	minute
14220	second
14221	このジョブには '%s' 以外のオペレータへの通知が 1 つ以上あります。現在の定義では、このジョブはリモート・サーバで対象にはできません。
14222	'%s' オペレータの名前を変更できません。
14223	このサーバが %s の間は、オペレータ '%s' を変更または削除できません。
14224	警告: 指定されたサーバ名は現在の MSX サーバ ('%s') ではありません。
14225	警告: ローカル・マシン名を確認できませんでした。これにより MSX 操作を通知できませんでした。
14226	%ld 個の履歴エントリが削除されました。
14227	サーバを MSX '%s' から参加解除しました。%ld 個のジョブが削除されました。
14228	サーバ MSX への参加が '%s' から '%s' に変更されました。
14229	サーバを MSX '%s' に参加させました。

エラー・コード	説明
14230	SP_POST_MSX_OPERATION: %ld %s ダウンロード命令が通知されました。
14231	SP_POST_MSX_OPERATION 警告: 指定された %s ('%s') はマルチサーバ・ジョブには関係ありません。
14232	job_name、job_id、または originating_server のいずれかを指定してください。
14233	有効な job_id (すべてのジョブの場合は 0x00) を指定してください。
14234	指定された '%s' は無効です (有効な値は、%s が返します)。
14235	指定された '%s' は無効です (有効な値は 0 より大きな数値ですが %ld は除きます)。
14236	警告: 存在しないステップを %s で参照しています。
14237	アクションとして 'REASSIGN' が指定されているときは、新規ログイン・パラメータを指定する必要があります。
14238	%ld 個のジョブが削除されました。
14239	%ld 個のジョブが %s に再割り当てされました。
14240	ジョブは %ld 個の新規サーバに適用されました。
14241	ジョブは %ld 個のサーバから削除されました。
14242	システム管理者のみが、ジョブの所有権を再割り当てできます。
14243	ジョブ '%s' が正常に開始されました。
14244	システム管理者のみが、タスクを再割り当てできます。
14245	タスクを削除するには、@name、@id、または @loginname のいずれかを指定してください。
14246	タスクを更新するには、@currentname または @id のいずれかを指定してください。
14247	システム管理者のみが、他人が所有するタスクを表示できます。
14248	このログインは %ld 個のジョブの所有者ですログインを削除する前に、これらのジョブを削除するか、再割り当てする必要があります。
14249	タスクを再割り当てするときは、@taskname または @oldloginname を指定してください。
14250	指定された %s は長すぎます。%ld 文字以下で指定してください。
14251	通知先のオペレータとして '%s' は指定できません。
14252	所有していないジョブでこのアクションを実行することはできません。
14253	%ld (/ %ld) 個のジョブが正常に停止しました。
14254	ジョブ '%s' が正常に停止しました。
14255	このジョブの所有者 ('%s') はログインが無効か、データベース '%s' の有効なユーザではありません。
14256	ジョブ '%s' (ID %s) にはジョブ・サーバが定義されていないので、開始できません。
14257	ジョブ '%s' (ID %s) にはジョブ・サーバが定義されていないので、停止できません。
14258	SQLServerAgent の開始中は、この操作を実行できません。後で再試行してください。
14259	この定義を持つジョブのスケジュール (ID %ld、'%s') は既に存在します。

エラー・コード	説明
14260	このコマンドを実行するための権限が不足しています。
14261	指定された %s ('%s') は既に存在します。
14262	指定された %s ('%s') は存在しません。
14263	対象サーバ '%s' は既にグループ '%s' のメンバです。
14264	対象サーバ '%s' はグループ '%s' のメンバではありません。
14265	MSSQLServer サービスが予期せず終了しました。
14266	指定された '%s' は無効です (有効な値は %s です)。
14267	ジョブをジョブ・カテゴリ '%s' に追加できません。
14268	このサーバには、サーバ '%s' からのジョブはありません。
14269	ジョブ '%s' はサーバ '%s' で既に対象となっています。
14270	ジョブ '%s' はサーバ '%s' で現在対象になっていません。
14271	対象サーバの名前を '%s' にすることはできません。
14272	オブジェクト型とオブジェクト名はペアで指定してください。
14273	@job_id または @job_name (およびオプションで @schedule_name) を指定するか、@schedule_id を指定してください。
14274	MSX サーバからのジョブ、ジョブ・ステップ、またはジョブ・スケジュールの追加、更新、または削除を実行できません。
14275	送信元サーバは '(local)' または '%s' にする必要があります。
14276	'%s' は永続的な %s カテゴリです。削除できません。
14277	このコマンド・スクリプトは、作成するオブジェクトすべてを破棄するわけではありません。コマンド・スクリプトを修正してください。
14278	このジョブのスケジュールは無効です (理由: %s)。
14279	@job_name または @originating_server を指定してください。
14280	ジョブ名 (およびジョブの概要) または 1 つ以上のジョブ・フィルタ・パラメータを指定してください。
14281	警告: 'DELETE' アクションを指定しているときは @new_owner_login_name パラメータは必要ありません。
14282	作成日付または最終更新日付とデータ比較演算子を指定するか、日付パラメータをまったく指定しないかのいずれかです。
14283	@target_server_groups または @target_servers、あるいは両方を指定してください。
14284	新規ジョブのジョブ ID を指定できません。ID はプロシージャによって割り当てられます。
14285	マルチサーバ・ジョブ・カテゴリには、ローカル・ジョブを追加できません。
14286	ローカル・ジョブ・カテゴリには、マルチサーバ・ジョブを追加できません。
14287	指定された '%s' は無効な %s です。
14288	%sを %s よりも前にはできません。

エラー・コード	説明
14289	%s は '%s' 文字を含むことはできません。
14290	このジョブは現在ローカル・サーバで対象になっているので、リモート・サーバで対象にすることはできません。
14291	このジョブは現在リモート・サーバで対象になっているので、ローカル・サーバで対象にすることはできません。
14292	'%s' という名前のタスクが 2 つ以上存在します。タスクを一意に識別するために、%s の代わりに %s を指定してください。
14293	'%s' という名前のジョブが 2 つ以上存在します。ジョブを一意に識別するために、%s の代わりに %s を指定してください。
14294	ジョブを識別するために、%s または %s を指定してください。
14295	周期の種類 0x2 (OnDemand) はサポートされなくなりました。
14296	このサーバは既に MSX '%s' に参加しています。
14297	ローカル・マシンに参加できません。
14298	このサーバは現在 MSX に参加していません。
14299	サーバ '%s' は MSX です。MSX を 別の MSX に参加させることはできません。

テーブル 3-71: TSQL エラー・コード - 14300 から 14399

エラー・コード	説明
14300	循環した依存関係が存在します。依存関係の評価を続行できません。
14301	現在のユーザ以外のログインは、sysadmin ロールのメンバだけが表示できます。
14302	このサーバに接続するには、クライアントの SQL-DMO と SQL Server Enterprise Manager を バージョン 6.5 にアップグレードする必要があります。アップグレードされたバージョンは、sqlole65.sql が実行されている場合は、SQL Server のバージョン 6.5 と 6.0 の両方を管理できます。
14303	ストアド・プロシージャ '%s' はレジストリ・キーへのアクセスに失敗しました。
14304	ストアド・プロシージャ '%s' は Windows 2000 サーバでのみ実行できます。
14350	CoInitialize に失敗したため、COM ライブラリを初期化できません。
14351	予期せぬエラーが発生したため、この操作を完了できません。
14352	この SQL Server インスタンスのレジストリで Active Directory 情報が見つかりません。sp_ActiveDirectory_SCP を再実行してください。
14353	この SQL Server インスタンスのサービス・アカウントを確認できません。
14354	MSSQLServerADHelper サービスを開始できません。この SQL Server インスタンスのサービス・アカウントに MSSQLServerADHelper サービスを開始するために必要な権限があることを確認してください。
14355	MSSQLServerADHelper サービスは使用中です。この操作を後で再試行してください。
14356	この SQL Server インスタンスを実行しているコンピュータ上に、Windows Active Directory クライアントが適切にインストールされていません。LoadLibraryで ACTIVEDS.DLL のロードに失敗しました。

エラー・コード	説明
14357	名前が長すぎるため、Active Directory で '%s' をリストできません。Active Directory の共通名は 64 文字を超えることはできません。
14358	この SQL Server インスタンスの SQL Server Agent プロキシ・アカウントを確認できないか、このアカウントがドメイン・ユーザ・アカウントではありません。 xp_sqlagent_proxy_account を使用して、プロキシ・アカウントとしてドメイン・ユーザ・アカウントを使用するよう SQL Server Agent を構成してください。

テーブル 3-72: TSQL エラー・コード - 14400 から 14499

エラー・コード	説明
14410	plan_name または plan_id のいずれかを指定する必要があります。
14411	この計画は削除できません。この計画には、参加しているデータベースが含まれています。
14412	配布先データベースは、既にログ配布計画の一部です。
14413	このデータベースでは既にログ配布しています。
14414	ログ配布モニタは既に定義されています。
14415	SQL Server 認証を使用するときは、ユーザ名を NULL にはできません。
14416	このストア・プロシージャは msdb で実行する必要があります。
14417	データベースがログ配布に参加しているときは、モニタ・サーバは削除できません。
14418	指定した @backup_file_name は、データベース '%s' から作成されたものではありません。
14419	指定した @backup_file_name はデータベース・バックアップではありません。
14420	ログ配布元 %s.%s は %s 分間バックアップされていません。
14421	ログ配布先 %s.%s は %s 分間同期されていません。
14422	@plan_id または @plan_name のいずれかを指定してください。
14423	他のデータベースがこの計画に参加しています。計画を削除する前に、これらのデータベースを削除する必要があります。
14424	データベース '%s' は、既にログ配布に含まれています。
14425	データベース '%s' は、ログ配布に含まれていないようです。
14426	ログ配布モニタは既に定義されています。@delete_existing = 1 を指定して、sp_define_log_shipping_monitor を呼び出してください。
14427	SQL Server セキュリティにはユーザ名が必要です。
14428	ログ配布にデータベースが含まれているので、モニタを削除できませんでした。
14429	このプライマリ・サーバにはまだセカンダリ・サーバが接続されています。
14430	相手先パス %s が無効です。
14440	シングル・ユーザ・モードを設定できませんでした。
14441	ロールが正常に変更されました。
14442	ロールの変更に失敗しました。

エラー・コード	説明
14450	指定した @backup_file_name はデータベース '%s' から取得されたものではありません。
14451	指定した @backup_file_name はデータベース・バックアップではありません。

テーブル 3-73: TSQL エラー・コード - 14500 から 14599

エラー・コード	説明
14500	0 以外のメッセージ ID、0 以外の重大度、または NULL 以外のパフォーマンス条件のいずれかを指定してください。
14501	警告 ('%s') はこの条件で既に定義されています。
14502	@enum_type に 'TARGET' を指定しているときは、@target_name パラメータを指定してください。
14503	@enum_type に 'ALL' または 'ACTUAL' を指定しているときは、@target_name パラメータは指定しないでください。
14504	'%s' はフェイルセーフ・オペレータです。別のオペレータをフェイルセーフ・オペレータに指定してから、'%s' を削除してください。
14505	パフォーマンス条件を指定するときは、NULL %s を指定してください。
14506	警告をメッセージ ID %ld に設定できません。
14507	パフォーマンス条件の形式は次のとおりです。'object_name counter_name instance_name comparator(> または < または =) numeric value'。
14539	SQL Server の Standard または Enterprise エディションだけが MSX に参加できます。
14540	Microsoft Windows NT で実行されている SQL Server だけが MSX に参加できます。
14541	MSX のバージョン (%s) は最新ではないので、この TSX をサポートできません。MSX にはバージョン %s 以降が必要です。
14542	マルチサーバ・ジョブの TSQL ステップが NULL 以外の %s 値を持つことはできません。
14543	ログイン '%s' は 1 つ以上のマルチサーバ・ジョブを所有しています。これらのジョブの所有権は %s ロールのメンバだけに割り当てることができます。
14544	このジョブは '%s' が所有しています。%s ロールのメンバが所有するジョブだけをマルチサーバ・ジョブにできます。
14545	%s パラメータは '%s' 型のジョブ・ステップでは無効です。
14546	%s パラメータは Windows 95/98 プラットフォームではサポートされません。
14547	警告: ジョブの %s が %s を使用して通知されるまで、対象サーバはこの変更をダウンロードしません。
14548	対象サーバ '%s' にはジョブが割り当てられていません。
14549	(説明の要求なし)
14550	コマンド行サブシステム
14551	レプリケーション・スナップショット・サブシステム
14552	レプリケーション・トランザクション・ログ・リーダー・サブシステム

エラー・コード	説明
14553	レプリケーション・ディストリビューション・サブシステム
14554	レプリケーション・マージ・サブシステム
14555	アクティブ・スクリプティング・サブシステム
14556	Transact-SQL サブシステム
14557	[内部]
14558	(暗号化コマンド)
14559	(出力ファイルに追加)
14560	(履歴に結果を含む)
14561	(正常)
14562	(正常終了)
14563	(異常終了)
14564	(次のステップに移動)
14565	(ステップに移動)
14566	(アイドル)
14567	(正常値以下)
14568	(正常値以上)
14569	(タイム・クリティカル)
14570	(ジョブの結果)
14571	使用できる説明はありません。
14572	毎日のジョブでは、@freq_interval に最低 1 を指定してください。
14573	毎週のジョブでは、@freq_interval に有効な曜日のビットマスク [日曜日 = 1 .. 土曜日 = 64] を指定してください。
14574	毎月のジョブでは、@freq_interval に 1 から 31 までの値を指定してください。
14575	@freq_relative_interval には、第 1 (0x1)、第 2 (0x2)、第 3 [0x4]、第 4 (0x8) または最終 (0x10) のいずれかを指定してください。
14576	毎月に関連するジョブでは、@freq_interval には 1 から 10 まで (1 = 日曜日 .. 7 = 土曜日、8 = 日、9 = 平日、10 = 週末) の値を指定してください。
14577	@freq_recurrence_factor には最低 1 を指定してください。
14578	CPU の使用率が %ld 秒間に %ld パーセント未満のときに開始します。
14579	SQLServerAgent 開始時に、自動的に開始します。
14580	ジョブ
14581	レプリケーション・トランザクション・キュー・リーダー・サブシステム
14585	DTS パッケージ '%s' の所有者または sysadmin ロールのメンバだけがこのパッケージの所有権の再割り当てを実行できます。

エラー・コード	説明
14586	DTS パッケージ '%s' の所有者または sysadmin ロールのメンバだけが新しいバージョンのパッケージを作成できます。
14587	DTS パッケージ '%s' の所有者または sysadmin ロールのメンバだけがそのパッケージまたは任意のバージョンのパッケージを削除できます。
14588	ID.VersionID =
14589	[指定なし]
14590	DTS パッケージ '%s' は別の ID でこのカテゴリに既に存在します。
14591	DTS カテゴリ '%s' は指定した親カテゴリに既に存在します。
14592	DTS カテゴリ '%s' が複数の親カテゴリ内に見つかりました。削除するカテゴリは一意に指定する必要があります。
14593	DTS カテゴリ '%s' はパッケージまたは他のカテゴリを含んでいます。最初にこれらを削除するか、再帰削除を指定してください。
14594	DTS パッケージ
14595	DTS パッケージ '%s' は複数のカテゴリに存在します。パッケージは一意に指定する必要があります。
14596	DTS パッケージ '%s' は別のカテゴリに既に存在します。
14597	DTS パッケージ ID '%s' は既に別の名前で存在します。
14598	カテゴリ Local、Repository、または LocalDefault DTS は削除できません。
14599	名前

テーブル 3-74: TSQL エラー・コード - 15000 から 15099

エラー・コード	説明
15001	オブジェクト '%ls' は存在しないか、この操作で有効なオブジェクトではありません。
15002	プロシージャ '%s' はトランザクション内では実行できません。
15003	%s ロールのメンバだけがこのストアド・プロシージャを実行できます。
15004	名前は NULL にはできません。
15005	全テーブルの統計が更新されました。
15006	'%s' は無効な文字を含んでいるので、有効な名前ではありません。
15007	ログイン '%s' は存在しません。
15008	ユーザ '%s' は現在のデータベースに存在しません。
15009	オブジェクト '%s' はデータベース '%s' に存在しません。
15010	データベース '%s' は存在しません。sp_helpdb を使用して、使用できるデータベースを表示してください。
15011	データベース・オプション '%s' は存在しません。
15012	デバイス '%s' は存在しません。sp_helpdevice を使用して、使用できるデバイスを表示してください。
15013	テーブル '%s': 統計のない列は見つかりませんでした。

エラー・コード	説明
15014	ロール '%s' は現在のデータベースには存在しません。
15015	サーバ '%s' は存在しません。sp_helpserver を使用して使用できるサーバを表示してください。
15016	既定の '%s' は存在しません。
15017	ルール '%s' は存在しません。
15018	テーブル '%s': 以下の列の統計を作成しています:
15019	拡張ストアド・プロシージャ '%s' は存在しません。
15020	統計は上記のテーブルのリストされた %d 個の列に対して作成されました。
15021	リモート・サーバ '%s' からローカル・ユーザにマップされているリモート・ユーザはありません。
15022	指定したユーザ名は既にエイリアスを持っています。
15023	ユーザまたはロール '%s' は現在のデータベースに既に存在します。
15024	グループ '%s' は現在のデータベースに既に存在します。
15025	ログイン '%s' は既に存在します。
15026	論理デバイス '%s' は既に存在します。
15027	リモート・サーバ '%s' からローカル・ユーザ '%s' にマップされているリモート・ユーザはありません。
15028	サーバ '%s' は既に存在します。
15029	データ型 '%s' は現在のデータベースに既に存在します。
15030	データベースがスタンバイ・モードなので、読み取り専用ビットはオフにできません。
15031	'Virtual_device' デバイスが追加されました。
15032	データベース '%s' は既に存在します。
15033	'%s' は有効な公式言語名ではありません。
15034	アプリケーション・ロールのパスワードを NULL にはできません。
15035	'%s' はデータベース・デバイスではありません。
15036	データ型 '%s' は存在しません。
15037	物理データ型 '%s' は NULL を許可しません。
15038	timestamp データ型に基づいたユーザ定義データ型は許可されていません。
15039	言語 %s は既に syslanguages に存在します。
15040	ユーザ定義エラー・メッセージの ID は 50000 より大きい値で指定してください。
15041	ユーザ定義エラー・メッセージの深刻度レベルは 1 から 25 までで指定してください。
15043	既存のメッセージを上書きする場合は 'REPLACE' を指定してください。
15044	'%s' は不明なデバイス型です。'disk'、'tape'、または 'pipe' を使用してください。
15045	論理名は NULL にはできません。
15046	物理名は NULL にはできません。

エラー・コード	説明
15047	テーブル・デバイスで許可されているオプションは 'skip' および 'noskip' だけです。
15048	データベース互換性レベルの有効な値は %d、%d、%d、または %d です。
15049	'%s' から結合解除できません。ALTER TABLE DROP CONSTRAINT を使用してください。
15050	既定の '%s' を結合できません。CREATE DEFAULT 文を使用して、既定値を作成する必要があります。
15051	このテーブルはレプリケーション用にパブリッシュされているので、名前を変更できません。
15052	データベース '%s'、モード = %d、ステータス = %d (status suspect_bit = %d) の sysdatabases エントリの更新前。
15053	データベース所有者が所有していないオブジェクトが存在します。
15054	現在の互換性レベルは %d です。
15055	エラー sysdatabases の更新で @@error <> 0 が返されました。
15056	モードとステータスが正常にリセットされているので、sysdatabases の行は更新されませんでした。エラーはなく、変更は行われませんでした。
15057	%s のリストの名前にスペースが含まれていますが、スペースは許可されません。
15058	%s のリストに含まれる名前が少なすぎます。
15059	%s のリストに含まれる名前が多すぎます。
15060	%s のリストの名前にアルファベット以外の文字 '%s' が含まれた名前が存在します。
15061	デバイスの追加要求が拒否されました。'%s' という名前の物理デバイスは既に存在します。
15062	ゲスト・ユーザをログイン名にマップすることはできません。
15063	このログインは別のユーザ名で既にアカウントを持っています。
15064	PRIMARY KEY 制約と UNIQUE KEY 制約にスペースを割り当てることはできません。
15065	すべてのユーザ ID が割り当てられています。
15066	リモート・サーバ '%s' からのリモート・ログインの既定名マッピングは既に存在します。
15067	'%s' はローカル・ユーザではありません。リモート・ログインは拒否されました。
15068	リモート・サーバ '%s' のリモート・ユーザ '%s' は既に存在します。
15069	1 人以上のユーザがこのデータベースを使用しています。要求された操作を完了できません。
15070	オブジェクト '%s' は再コンパイルするように正常にマークされました。
15071	使用法: sp_addmessage <msgnum>,<severity>,<msgtext> [<language>] [FALSE TRUE] [,REPLACE]]]
15072	使用法: sp_addremotelogin remoteserver [, loginname [,remotename]]
15073	sysdatabases のデータベース '%s' の行では、ステータス・ビット %d がオフに、モードが 0 に設定されました。

エラー・コード	説明
15074	警告: このデータベースにアクセスする前にこのデータベースを回復する必要があります。
15075	データ型 '%s' は将来使用するために予約されています。
15076	既定、テーブル、およびユーザ・データ型は現在のデータベースに存在する必要があります。
15077	ルール、テーブル、およびユーザ・データ型は現在のデータベースに存在する必要があります。
15078	テーブルまたはビューは現在のデータベースに存在する必要があります。
15079	処理されたクエリ: %d。
15081	パブリック・ロールのメンバシップは変更できません。
15082	NULL はこのプロシージャでは、指定できないパラメータ値です。代わりにパーセント記号を使用してください。
15083	物理データ型 '%s' は照合を受け入れません。
15084	列またはユーザ・データ型は現在のデータベースに存在する必要があります。
15085	使用法: sp_addtype name, 'data type' [, 'NULL' 'NOT NULL']
15086	指定された有効桁数が無効です。有効桁数は 1 から 38 までの値で指定してください。
15087	指定された scale (小数桁数) が無効です。scale (小数桁数) は正の数値で有効桁数未満の値を指定してください。
15088	物理データ型は固定長です。長さは指定できません。
15089	別のユーザがデータベースを使用中は、データベースの '%s' オプションを変更できません。
15090	ローカル・サーバが既に存在します。
15091	この物理データ型の長さを指定する必要があります。
15092	指定された長さが無効です。長さは 1 バイトから 8000 バイトまでで指定してください。
15093	'%s' は有効な日付順序ではありません。
15094	'%s' は有効な先頭日付ではありません。
15095	syslanguages への挿入に失敗しました。言語は追加されませんでした。
15097	拡張プロパティに関連付けられたサイズは 7500 バイトより大きくできません。

テーブル 3-75: TSQL エラー・コード - 15100 から 15199

エラー・コード	説明
15100	使用法: sp_bindefault defaultname, objectname [, 'futureonly']
15101	データ型 timestamp の列に既定値を結合することはできません。
15102	ID 列に既定値を結合することはできません。
15103	既定値で作成された列または既定値を持つよう変更された列に既定値を結合することはできません。
15104	'%s' という名前の列を持つ、'%s' という名前のテーブルを所有していません。

エラー・コード	説明
15105	その名前のデータ型は所有していません。
15106	使用法: sp_bindrule rulename, objectname [, 'futureonly']
15107	データ型 text、ntext、image、または timestamp の列にはルールを結合できません。
15109	マスタ・データベースの所有者は変更できません。
15110	指定された新規データベース所有者は、既にそのデータベースのユーザです。
15111	指定された新規データベース所有者は、既にそのデータベースにエイリアスを持っています。
15112	テーブル・オプション 'text in row' の 3 番目のパラメータが無効です。'on'、'off'、'0'、または 24 から 7000 までの数値を指定してください。
15123	構成オプション '%s' が存在しないか、そのオプションは詳細オプションの可能性があり ます。
15124	構成オプション '%s' は一意ではありません。
15125	トリガ '%s' は '%s' のトリガではありません。
15126	トリガ '%s' が見つかりませんでした。
15127	既定言語を syslanguages で定義されていない言語 ID に設定することはできません。
15129	'%d' は構成オプション '%s' の有効な値ではありません。
15130	テーブル '%s' には、'%s' のトリガ '%s' が既に存在します。
15131	使用法: sp_dbremove <dbname> [,dropdev]
15132	他のユーザに所属している既定のデータベースを変更することはできません。
15133	INSTEAD OF トリガ '%s' を順序に関連付けることはできません。
15134	指定されたユーザのエイリアスは存在しません。
15135	オブジェクトが無効です。拡張プロパティが '%s' で許可されていないか、オブジェクトが 存在しません。
15139	このデバイスは RAM ディスクです。既定デバイスとしては使用できません。
15140	使用法: sp_diskdefault logicalname {defaulton defaultoff}
15142	ロール '%s' は削除できません。
15143	'%s' は @updateusage パラメータの有効なオプションではありません。'true' または 'false' のいずれかを入力してください。
15144	このロールはメンバを持っています。空にしてから削除してください。
15174	ログイン '%s' は 1 つ以上のデータベースを所有しています。ログインを削除する前に 以下のデータベースの所有者を変更してください：
15175	ログイン '%s' は、1 つ以上のデータベースにエイリアスを持っているか、それらのデー タベースのユーザにマップされています。ログインを削除する前に、ユーザまたはエイ リアスを削除してください。
15176	@parameter の有効な値は 'WITH_LOG' だけです。
15177	使用法: sp_dropmessage <msg number> [,<language> 'ALL']

エラー・コード	説明
15178	50000 未満の ID を持つメッセージは削除できません。
15179	メッセージ番号 %u は存在しません。
15180	削除できません。このデータ型は使用されています。
15181	データベース所有者は削除できません。
15182	master または tempdb からゲスト・ユーザを削除することはできません。
15183	このユーザはデータベースにオブジェクトを所有しているので、削除できません。
15184	このユーザはデータベースにデータ型を所有しているので、削除できません。
15185	リモート・サーバ '%s' からローカル・ユーザ '%s' にマップされたリモート・ユーザ '%s' は存在しません。
15190	まだ、サーバ '%s' のリモート・ログインが存在します。
15191	使用法: sp_dropserver server [, droplogins]
15193	このプロシージャはシステム・テーブルだけで使用できます。
15194	このテーブルにインデックスを再作成することはできません。
15197	オブジェクト '%s' のテキストは存在しません。
15198	指定された名前 (%s) はユーザ、ロール、またはエイリアスのログインではありません。

テーブル 3-76: TSQL エラー・コード - 15200 から 15299

エラー・コード	説明
15200	定義されたリモート・サーバはありません。
15201	リモート・サーバ '%s' のリモート・ログインはありません。
15202	定義されたリモート・ログインはありません。
15203	'%s' のリモート・ログインはありません。
15204	リモート・サーバ '%s' には '%s' のリモート・ログインはありません。
15205	定義されたサーバはありません。
15206	無効なリモート・サーバ・オプション: '%s'。
15210	sysadmin ロールのメンバだけが loginame オプションを使用できます。パスワードは変更されませんでした。
15211	ユーザの旧 (現在の) パスワードが間違っています。パスワードは変更されませんでした。
15216	'%s' は @delfile パラメータの有効なオプションではありません。
15217	プロパティを更新または削除できません。プロパティ '%s' が '%s' に存在しません。
15218	オブジェクト '%s' はテーブルではありません。
15220	使用法: sp_remotoption [remoteserver, loginame, remotename, optname, {true false}]
15221	リモート・ログイン・オプションが存在しないか、ユーザがそれを設定できません。パラメータを指定しないで sp_remotoption を実行し、オプションを表示してください。
15222	リモート・ログイン・オプション '%s' は一意ではありません。

エラー・コード	説明
15223	エラー: 入力パラメータ '%s' を NULL に指定することはできません。
15224	エラー: @newname パラメータの値に無効な文字が含まれているか、基本の制限 (%s) に違反しています。
15225	@itemtype が '%s' として入力された場合、'%s' の名前による項目は現在のデータベース '%s' で見つかりませんでした。
15227	データベース '%s' の名前を変更できませんでした。
15228	sysadmin ロールのメンバは、データベース '%s' の名前を変更するには、sp_dboption を使用してデータベースをシングル・ユーザ・モードに設定する必要があります。
15233	プロパティを追加できません。プロパティ '%s' は既に '%s' に存在します。
15234	オブジェクトは sysprocedures に保存されます。オブジェクトに直接割り当てられる領域はありません。
15235	ビューには領域は割り当てられません。
15236	列 '%s' に既定値がありません。
15237	ユーザ・データ型 '%s' に既定値がありません。
15238	列 '%s' にルールがありません。
15239	ユーザ・データ型 '%s' にルールがありません。
15241	使用法: sp_dboption [dbname [,optname [, 'true' 'false']]]
15242	データベース・オプション '%s' は一意ではありません。
15243	マスタ・データベースのオプション '%s' は変更できません。
15244	sysadmin ロールのメンバまたはデータベース所有者だけがデータベース・オプションを設定できます。
15245	DBCC DBCONTROL エラー。データベースはオフラインになりませんでした。
15247	ユーザはこの操作を実行する権限を持っていません。
15248	エラー: パラメータ @oldname があいまいか、要求した @itemtype (%s) が無効です。
15249	エラー: 明示的な @itemtype '%s' は認識されません (%d)。
15250	オブジェクト修飾子の一部になるデータベース名には、現在のデータベースの名前を指定してください。
15251	指定された '%s' が無効です。 %s を指定してください。
15252	主キーまたは外部キー・テーブル名を指定してください。
15253	SQL 識別子 '%s' を解析中に構文エラーが発生しました。
15254	データベース所有者またはゲスト以外のユーザがデータベースに存在します。データベースを削除する前にこれらのユーザを削除してください。
15255	'%s' は @autofix の有効な値ではありません。有効な値は 'auto' だけです。
15256	使用法: sp_certify_removable <dbname> [, 'auto']
15257	証明しようとしているデータベースを同時に使用することはできません。

エラー・コード	説明
15258	データベースを削除するには、データベースの所有者を sysadmin ロールのメンバに設定する必要があります。
15261	使用法: sp_create_removable <dbname>,<syslogical>,<sysphysical>,<sysize>,<loglogical>,<logphysical>,<logsize>,<datalogical1>,<dataphysical1>,<datasize1> [,<datalogical2>,<dataphysical2>,<datasize2>...<datalogical16>,<dataphysical16>,<datasize16>]
15262	入力されたファイル・サイズが無効です。すべてのファイルは最低 1 MB が必要です。
15264	データベースの '%s' 部分を作成できませんでした。
15266	'%s' データベースをリムーバブルにできません。
15269	論理データ・デバイス '%s' は作成されませんでした。
15270	sysname に基づくユーザ・データ型の長さは指定できません。
15271	@with_log パラメータ値が無効です。有効な値は >true> または >false> です。
15275	FOREIGN KEY 制約に領域が割り当てられていません。
15277	@parameter_value の有効な値は 'true' または 'false' だけです。
15278	ログイン '%s' はデータベース '%s' でユーザ '%s' に既にマップされています。
15279	このメッセージの us_english バージョンを追加してから、'%s' バージョンを追加してください。
15280	このメッセージのすべてのローカライズ・バージョンを削除してから、us_english バージョンを削除してください。
15283	名前 '%s' に含まれる文字数が多すぎます。
15284	ユーザはデータベース内の以下のオブジェクトに対して特権が付与または削除されているため、削除できません。
15285	特殊な単語 '%s' は論理デバイス名には使用できません。
15286	このプロシージャを終了しています。@action '%s' は認識されません。>REPORT>、>UPDATE_ONE>、または >AUTO_FIX> を試してください。
15287	このプロシージャを終了しています。'%s' はこのプロシージャのログイン名パラメータでは禁止されている値です。
15289	このプロシージャを終了しています。プロシージャが実行されるときに、開かれたトランザクションが存在してはいけません。
15290	このプロシージャを終了しています。アクション '%s' は他のパラメータ値 ('%s'、'%s') と互換性がありません。
15291	このプロシージャを終了しています。%s 名 '%s' が存在しないか、無効です。
15292	ユーザ '%s' の行は、既に存在するログインへのログイン・リンクを更新することによって修正されます。
15293	競合する場合を除いて、ユーザ '%s' の行は新しいログインへのリンクを更新することによって修正されます。新しいパスワードを NULL から変更することをお勧めします。
15294	不明なユーザの数は、新しいログインを追加し、%d であったユーザを更新することにより修正されます。
15295	不明なユーザの数は、%d だったユーザを更新することにより修正されます。

エラー・コード	説明
15298	新しいログインが作成されました。

テーブル 3-77: TSQL エラー・コード - 15300 から 15399

エラー・コード	説明
15300	汎用権限型 (%s) のパラメータ値には、認識された文字は含まれていません。有効な文字は、このセットにあります: %s。
15301	照合 '%s' は Unicode データ型でのみサポートされます。データベースまたはサーバ・レベルでは設定できません。
15302	このプロシージャへのパラメータでは owner.object を修飾するために Database_Name を使用することはできません。
15303	“ユーザ・オプション” 構成値 (%d) によって互換性のないオプションが設定されるため、この構成値は拒否されました。
15304	このメッセージの '%s' バージョンでの深刻度レベルは、us_english バージョンでの深刻度レベル (%ld) と同じでなければなりません。
15305	@TriggerType パラメータ値には 'insert'、'update'、または 'delete' を指定してください。
15306	複製または分散されたデータベースの互換性レベルは変更できません。
15307	サーバにはレプリケーションが設定されていないので、マージ・パブリッシュ・オプションを変更できませんでした。
15308	システム・テーブルのインデックスを修正する前に、sp_dboption を使用してデータベース '%s' をシングル・ユーザ・モードにする必要があります。
15311	'%s' という名前のファイルは存在しません。
15312	'%s' という名前のファイルはプライマリ・ファイルのため、削除できません。
15318	デバイス '%s' 上のデータベース '%s' のすべてのフラグメントはログのみに使用されるようになりました。
15319	エラー: データベース '%s' (デバイス '%s') の DBCC DBREPAIR REMAP に失敗しました。
15321	sysaltfiles から '%s' を削除しているときに問題が発生しました。
15322	ファイル '%s' は tempdb から削除されましたが、サーバの再起動時に実際に削除されます。
15323	選択したインデックスはテーブル '%s' に存在しません。
15324	オプション %s は '%s' データベースでは変更できません。
15325	現在のデータベースには '%ls' という名前の %s は含まれていません。
15326	拡張ストア・プロシージャは存在しません。
15327	データベースがオフラインになりました。
15328	データベースは既にオフラインです。
15330	報告する一致した行は存在しません。
15331	SID が重複しているので、ユーザ '%s' はアクション auto_fix を実行できません。

エラー・コード	説明
15333	エラー: 修飾された @oldname は現在のデータベース以外のデータベース (%s) を参照しています。
15335	エラー: @newname 値 '%s' は %s 名として既に使用中です。名前の重複は許可されていません。
15336	オブジェクト '%s' の名前を変更できません。オブジェクトは強制された依存関係にあります。
15337	注意: ビューやプロシージャなどの他のオブジェクトがこのオブジェクトを古い名前で参照していることを、sysdepends が示しています。これらのオブジェクトは無効になるので、すぐに削除し、再作成する必要があります。
15338	%s の名前は '%s' に変更されました。
15339	>%s> を作成しています。
15340	エイリアス・ユーザが追加されました。
15341	'%s' にデータベースへのアクセス権が付与されました。
15354	使用法: sp_detach_db <dbname>, [TRUE FALSE]
15358	ユーザ定義ファイルグループは読み取り専用にする必要があります。
15363	ロール '%s' は現在のデータベースに既に存在します。
15379	指定されたサーバ・オプション値 '%s' は認識されません。
15387	修飾されたオブジェクト名がデータベースを指定する場合、そのデータベースは現在のデータベースでなければなりません。
15388	現在のデータベースには、入力名 '%s' に一致するユーザ・テーブルはありません。
15390	入力名 '%s' に一致するユーザ・テーブルまたはインデックス付きビューは現在のデータベースにはありません。
15394	照合 '%s' はこのオペレーティング・システムではサポートされていません。
15395	修飾された古い名前は項目型 '%s' で見つかりませんでした。
15398	起動の設定を変更できるのは、dbo が所有するマスタ・データベースのオブジェクトのみです。
15399	起動オプションを変更できませんでした。このオプションは、パラメータを持たないオブジェクトに限定されています。

テーブル 3-78: TSQL エラー・コード - 15400 から 15499

エラー・コード	説明
15401	Windows NT ユーザまたはグループ '%s' が見つかりませんでした。名前を再度調べてください。
15402	'%s' は固定サーバ・ロールではありません。
15405	予約されたユーザ名またはロール名 '%s' は使用できません。
15407	'%s' は有効な Windows NT 名ではありません。完全な名前を指定してください: <domain¥username>。
15409	'%s' はロールではありません。

エラー・コード	説明
15410	ユーザまたはロール '%s' はこのデータベースに存在しません。
15412	'%s' は既知の固定ロールではありません。
15413	ロールをそのロール自身のメンバにはできません。
15414	データベースにはインデックスが付けられたビューまたは計算列があるため、互換性レベルを設定できません。これらのインデックスには SQL Server 互換データベースが必要です。
15415	ユーザが複数のグループのメンバです。sp_changegroup には下位互換性が設定されているため、多くても 1 つのグループのメンバにする必要があります。
15416	使用法: sp_dbcmptlevel [dbname [, compatibilitylevel]]
15417	'%s' データベースの互換性レベルを変更できません。
15418	sysadmin ロールのメンバまたはデータベース所有者だけがデータベース互換性レベルを設定できます。
15419	パラメータ @sid には binary(16) を指定してください。
15420	グループ '%s' はこのデータベースには存在しません。
15421	ユーザはデータベース内にロールを所有しているので、削除できません。
15422	アプリケーション・ロールは、アドホック・レベルでのみアクティブにできます。
15423	アプリケーション・ロール '%s' のパスワードが変更されました。
15424	新規ロールが追加されました。
15425	新規アプリケーション・ロールが追加されました。
15426	この一連のプロパティにはプロバイダ名を指定してください。
15427	不明な製品 '%ls' のプロバイダ名を指定してください。
15428	製品 '%ls' にプロバイダまたは任意のプロパティを指定できません。
15429	'%.*ls' は無効な製品名です。
15430	サーバ数の制限を超えました。
15431	@rolename パラメータを指定してください。
15432	ストアド・プロシージャ '%s' はアドホック・レベルでのみ実行できます。
15433	指定されたパラメータ @sid は使用中です。
15434	ユーザが現在ログインしているので、ログイン '%s' を削除できませんでした。
15435	データベースが正常にパブリッシュされました。
15436	データベースがサブスクリプションに対して正常に有効になりました。
15437	データベースはマージ・レプリケーションを使用して、正常にパブリッシュされました。
15438	データベースは既にオンラインです。
15439	データベースがオンラインになりました。
15440	データベースはパブリッシュされなくなりました。
15441	データベースはサブスクリプションに対して有効ではなくなりました。

エラー・コード	説明
15442	データベースはマージ・パブリケーションに対して有効ではなくなりました。
15443	変更されたデータベースのチェックポイントを実行しています。
15444	>Disk> デバイスが追加されました。
15445	>Diskette> デバイスが追加されました。
15446	>Tape> デバイスが追加されました。
15447	>Pipe> デバイスが追加されました。
15449	型が追加されました。
15450	新規言語が挿入されました。
15452	使用できる代替言語はありません。
15453	us_english は syslanguages に存在しなくても常時使用できます。
15454	言語が削除されました。
15456	有効な構成オプション :
15457	構成オプション '%s' が %ld から %ld に変更されました。RECONFIGURE 文を実行して、インストールしてください。
15458	データベースが削除されました。
15459	現在のデータベースでは、指定したオブジェクトは以下を参照しています :
15460	現在のデータベースでは、指定したオブジェクトは以下から参照されています :
15461	オブジェクトはいずれのオブジェクトも参照しません。このオブジェクトを参照するオブジェクトもありません。
15462	ファイル '%s' が閉じました。
15463	デバイスが削除されました。
15467	型が削除されています。
15469	このオブジェクトには制約は定義されていません。
15470	このテーブルを参照する外部キーはありません。
15471	オブジェクト・コメントは暗号化されています。
15472	オブジェクトにはインデックスがありません。
15473	設定可能なりモート・ログイン・オプション。
15475	データベースの名前が変更され、シングル・ユーザ・モードになりました。
15476	sysadmin ロールのメンバは、sp_dboption を使用してデータベースをマルチユーザ・モードに再設定する必要があります。
15477	注意: オブジェクト名のいずれかの部分を変更すると、スクリプトおよびストアド・プロシージャが中断される可能性があります。
15478	パスワードが変更されました。
15479	ログインが削除されました。
15480	ログイン・アクセス権を '%s' に付与できませんでした。

エラー・コード	説明
15481	ログイン・アクセス権が '%s' に付与されました。
15482	'%s' に対するログイン・アクセスを拒否できませんでした。
15483	'%s' に対するログイン・アクセスが拒否されました。
15484	'%s' のログイン・アクセス権を削除できませんでした。
15485	'%s' のログイン・アクセス権が削除されました。
15486	既定のデータベースが変更されました。
15487	%s の既定言語が %s に変更されました。
15488	>%s> がロール >%s> に追加されました。
15489	>%s> がロール >%s> から削除されました。
15490	依存するエイリアスも削除されました。
15491	ユーザが現在のデータベースから削除されています。
15492	エイリアス・ユーザが削除されました。
15493	ロールが削除されました。
15494	アプリケーション・ロール '%s' がアクティブになりました。
15495	アプリケーション・ロールが削除されました。
15496	グループが変更されました。
15497	sp_addlogin (user = %s) を使用してログインを追加できませんでした。このプロシージャを終了しています。
15498	txn_1a_ 内部で、更新に失敗しました。ロールバックされます (1a1)。
15499	依存するエイリアスが新規データベース所有者にマップされました。

テーブル 3-79: TSQL エラー・コード - 15500 から 15599

エラー・コード	説明
15500	依存するエイリアスが削除されました。
15501	データベース所有者が変更されました。
15502	データベース所有者をシステム管理者に設定しています。
15503	すべてのオブジェクトの所有権をデータベース所有者に付与しています。
15504	ゲストおよびデータベース所有者以外のユーザを sysusers から削除しています。
15505	オブジェクト '%ls' またはその子オブジェクトの 1 つの所有者を変更できません。新しい所有者 '%ls' は同じ名前のオブジェクトを既に持っています。
15511	既定値が列に結合されました。
15512	既定値がデータ型に結合されました。
15513	新規の既定値が、指定されたユーザ・データ型の列に結合されました。
15514	ルールがテーブル列に結合されました。
15515	ルールがデータ型に結合されました。

エラー・コード	説明
15516	新規ルールが、指定されたユーザ・データ型の列に結合されました。
15519	既定値がテーブル列から結合解除されました。
15520	既定値がデータ型から結合解除されました。
15521	指定されたユーザ・データ型の列から既定値が結合解除されました。
15522	ルールがテーブル列から結合解除されました。
15523	ルールがデータ型から結合解除されました。
15524	指定されたユーザ・データ型の列からルールが結合解除されました。
15525	7 ビット ASCII 以外の文字の検索には sp_checknames を使用します。
15526	検索はいくつかの重要なシステム・テーブルの列に対して行われます。
15527	以下の列が検索されます：
15528	マスタ・データベースで検索する列：
15536	すべてのデータベースで検索する列：
15543	データベース '%s' のシステム・テーブルで 7 ビット ASCII 以外の文字を検索しています。
15544	Table.column >%s>
15545	以下のデータベース名に 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15546	これらの名前を変更する場合は、'%s' を使用してください。
15547	以下のログインの既定のデータベース名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれません。
15548	7 ビット ASCII 以外の文字。これらの名前を変更する場合は、以下を使用してください。
15549	sp_defaultdb。
15550	以下のサーバの '初期化ファイル' 名に 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15551	7 ビット ASCII 以外の文字。これらの名前を変更する場合は、以下を使用してください。
15552	UPDATE。
15553	データベース '%s' には
15554	7 ビット ASCII 以外の文字を持つ名前のオブジェクト、ユーザなどがありません。
15555	このストアド・プロシージャを実行するときは、'%s' に指定されたデータベース名を現在のデータベースにする必要があります。
15564	以下のデバイス名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15565	以下のログイン名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15566	以下のリモート・ログイン名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15567	以下のサーバ名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15568	以下の列名およびパラメータ名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。

エラー・コード	説明
15569	以下のインデックス名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15570	以下のオブジェクト名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15571	以下のセグメント名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15572	以下のデータ型名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15573	以下のユーザ名またはロール名には 7 ビット ASCII 以外の文字が含まれます。
15574	このオブジェクトには統計はありません。
15575	このオブジェクトには統計またはインデックスがありません。
15576	サーバ '%ls' はリンクされた SQL Server ではないので、ネットワーク名を設定できません。
15577	警告: 元のサーバを参照するリンクされたサーバのシナリオはサポートされていません。4 つの部分で構成される名前を使用してローカル・テーブルを参照する場合は、エイリアスではなく実際のサーバ名を使用してください。

テーブル 3-80: TSQL エラー・コード - 15600 から 15699

エラー・コード	説明
15600	プロシージャ '%s' に無効なパラメータまたはオプションが指定されました。
15601	現在のデータベースではフルテキスト検索は無効です。sp_fulltext_database を使用して、フルテキスト検索を有効にしてください。
15604	フルテキスト・カタログ '%ls' にはフルテキスト・インデックスが含まれているので、このカタログを削除することはできません。
15605	テーブル '%ls' のフルテキスト・インデックスは既に作成されました。
15606	まずテーブル '%.*ls' にフルテキスト・インデックスを作成する必要があります。
15607	'%ls' はフルテキスト検索キーを指定するには無効なインデックスです。一意の、NULL 値が許容されない、単一列インデックスを指定する必要があります。
15608	テーブル '%ls' のフルテキスト検索は既にアクティブになっています。
15609	フルテキスト検索が有効になっている列がないので、テーブル '%ls' のフルテキスト検索をアクティブにできません。
15610	フルテキスト・インデックスに対して列を追加、削除するには、テーブル '%ls' のフルテキスト検索を非アクティブにする必要があります。
15611	テーブル '%ls' の列 '%ls' は文字ベースの列ではないので、フルテキスト検索には使用できません。
15612	DBCC DBCONTROL エラー。データベースは読み取り専用モードになりませんでした。
15613	データベースが読み取り専用モードになりました。
15614	データベースは既に読み取り専用モードです。
15615	DBCC DBCONTROL エラー。データベースはシングル・ユーザ・モードになりませんでした。
15616	データベースがシングル・ユーザ・モードになりました。
15617	データベースは既にシングル・ユーザ・モードです。

エラー・コード	説明
15618	データベースが読み取り/書き込みモードになりました。
15619	データベースは既に読み取り/書き込みモードです。
15620	データベースはマルチユーザ・モードになりました。
15621	データベースは既にマルチユーザ・モードです。
15622	データベース '%s' にアクセスする権限がありません。
15623	%ls オプションをデータベース '%ls' に対して有効にしています。
15624	%ls オプションをデータベース '%ls' に対して無効にしています。
15625	オプション '%ls' は '%ls' パラメータでは認識されません。
15626	アクティブなトランザクションを指定しないで、トランザクション・アプリケーション・ロックを取得しようとしてしました。
15627	sp_dboption コマンドに失敗しました。
15630	この操作を実行するには、テーブル '%ls' でフルテキスト検索をアクティブにする必要があります。
15631	フルテキスト変更の追跡は、テーブル '%ls' で現在有効です。
15632	フルテキストの自動反映を開始するには、テーブル '%ls' でフルテキスト変更の追跡を開始する必要があります。
15633	フルテキストの自動反映は、テーブル '%ls' で現在有効です。
15634	変更をフラッシュするには、テーブル '%ls' でフルテキスト変更の追跡を開始する必要があります。
15635	データベースが読み取り専用アクセス・モードになっているので、'%ls' を実行できません。
15636	データベースがシングル・ユーザ・アクセス・モードになっているので、フルテキスト・カタログ '%ls' を生成できません。
15637	データベースがシングル・ユーザ・アクセス・モードになっているので、テーブル '%ls' のフルテキスト・インデックスを生成できません。
15638	警告: データベースがシングル・ユーザ・アクセス・モードになっているので、テーブル '%ls' のフルテキスト・インデックスを生成できません。このテーブルの変更追跡が停止されます。sp_fulltext_table を使用して、変更追跡を開始してください。
15639	警告: テーブル '%s' でオプション 'text in row' が有効になっておらず、image 型、text 型、または ntext 型の列にフルテキスト・インデックスが作成されています。フルテキストの変更追跡は、これらの列で実行される WRITETEXT または UPDATETEXT 操作を追跡できません。
15640	sp_fulltext_table 'start_full' をテーブル '%ls' で実行する必要があります。最後にインデックス全体が生成されてからインデックスに影響する列が追加されたか削除されています。
15642	実行中の生成は、インデックスを最新に保つために必要です。必要に応じて、変更追跡を停止してから、フルテキスト・インデックス生成を非アクティブにします。

エラー・コード	説明
15643	警告: この操作は 1 つ以上のテーブルで成功しませんでした。テーブルが非アクティブか、フルテキスト・インデックスの生成が既にアクティブになっている可能性があります。
15644	このテーブルでフルテキスト・インデックスの生成を開始できませんでした。 sp_fulltext_table '%ls'、'%ls' を実行してインデックスを更新してください。
15645	列 '%ls' は存在しません。
15646	列 '%ls' は計算列ではありません。
15647	このテーブルにスキーマ結合参照を持つビューはありません。

テーブル 3-81: TSQL エラー・コード - 16800 から 16899

エラー・コード	説明
16801	sp_dropwebtask には少なくともパラメータ @outputfile または @procname のどちらか 1 つを定義する必要があります。
16802	sp_dropwebtask は指定したタスクを見つけることができません。
16803	sp_runwebtask には少なくともパラメータ @outputfile または @procname のどちらか 1 つを定義する必要があります。
16804	SQL Web Assistant: SQL Server へのローカル接続を確立できませんでした。
16805	SQL Web Assistant: SQL 文を実行できませんでした。
16806	SQL Web Assistant: SQL 文にパラメータを結合できませんでした。
16807	SQL Web Assistant: バインド・トークンを取得できませんでした。
16808	SQL Web Assistant: 既存のトリガが見つかりませんでした。暗号化が原因の可能性があります。
16809	SQL Web Assistant は SQLGetData の呼び出しに失敗しました。
16810	SQL Web Assistant は SQLFetch の呼び出しに失敗しました。
16811	SQL Web Assistant は結果列を結合できませんでした。
16812	SQL Web Assistant: @query パラメータを指定する必要があります。
16813	SQL Web Assistant: パラメータは名前または位置のいずれかで渡すことができます。
16814	SQL Web Assistant: パラメータが無効です。
16815	SQL Web Assistant: @procname は有効ではありません。
16816	SQL Web Assistant: @outputfile は有効ではありません。
16817	SQL Web Assistant: 指定されたファイルを読み取れませんでした。
16820	msdb..MSwebtasks 内の Web タスクの状態が無効なため、SQL Web Assistant は失敗しました。
16821	SQL Web Assistant: 出力ファイルを開けませんでした。
16822	SQL Web Assistant: テンプレート・ファイルを開けませんでした。
16823	SQL Web Assistant: この要求を満たすのに十分なメモリを割り当てられませんでした。

エラー・コード	説明
16824	SQL Web Assistant: Web タスクで指定されたテンプレート・ファイルのサイズが無効です。
16825	SQL Web Assistant: テンプレート・ファイルを読み取れませんでした。
16826	SQL Web Assistant: テンプレート・ファイルでデータ挿入用に指定されたマークが見つかりませんでした。
16827	SQL Web Assistant: 出力ファイルに書き込めませんでした。
16828	SQL Web Assistant: @tabborder は tinyint にする必要があります。
16829	SQL Web Assistant: @singlerow には 0 または 1 を指定してください。このパラメータと @nrowsperpage を同時に指定することはできません。
16830	SQL Web Assistant: @blobfmt パラメータの指定が無効です。
16831	SQL Web Assistant: 出力ファイル名は @blobfmt パラメータで指定された列ごとに必要です。
16832	SQL Web Assistant: プロシージャ呼び出しにパラメータが多すぎます。
16833	SQL Web Assistant: @nrowsperpage には正の数値を指定してください。このパラメータは @singlerow と同時に指定できません。
16834	SQL Web Assistant: text 列、ntext 列、または image 列の読み取り/書き込み操作に失敗しました。
16838	SQL Web Assistant: HTML ファイル内にテーブルが見つかりませんでした。
16839	SQL Web Assistant: HTML ファイルで対応するテーブル終了タグが見つかりませんでした。
16841	SQL Web Assistant: @datachg パラメータは指定された @whentype 値とは同時に指定できません。
16842	SQL Web Assistant: Web ページの更新に必要なトリガが見つからなかったか、削除できませんでした。
16843	SQL Web Assistant: @datachg パラメータに必要なトリガを追加できませんでした。テーブルの既存のトリガはテキストがないか、テキストが暗号化されている可能性があります。
16844	SQL Web Assistant: @datachg パラメータの構文が無効です。
16845	SQL Web Assistant: 指定した @whentype オプションでは、@datachg を指定する必要があります。
16846	SQL Web Assistant: 指定した @whentype オプションでは、@unittype および @numunits の一方または両方を指定する必要があります。
16847	SQL Web Assistant: @fixedfont には 0 または 1 を指定してください。
16848	SQL Web Assistant: @bold には 0 または 1 を指定してください。
16849	SQL Web Assistant: @italic には 0 または 1 を指定してください。
16850	SQL Web Assistant: @colheaders には 0 または 1 を指定してください。
16851	SQL Web Assistant: @lastupdated には 0 または 1 を指定してください。
16852	SQL Web Assistant: @HTMLheader は 1 から 6 までの範囲で指定してください。

エラー・コード	説明
16853	SQL Web Assistant: @username は有効ではありません。
16854	SQL Web Assistant: @dbname は有効ではありません。
16855	SQL Web Assistant: @whentype は 1 から 9 までの範囲で指定してください。
16856	SQL Web Assistant: @unittype は 1 から 4 までの範囲で指定してください。
16857	SQL Web Assistant: @targetdate は無効です。有効な日付は 1900-01-01 以降です。
16858	SQL Web Assistant: @targettime パラメータは 0 から 240000 までの範囲で指定してください。
16859	SQL Web Assistant: @dayflags には、1、2、4、8、16、32、または 64 を指定してください。
16860	SQL Web Assistant: @numunits には 1 以上を指定してください。
16861	SQL Web Assistant: 指定した @whentype オプションでは、@targetdate を指定する必要があります。
16862	SQL Web Assistant: 指定した @whentype オプションでは、@dayflags を指定する必要があります。
16863	SQL Web Assistant: URL の指定が無効です。
16864	SQL Web Assistant: @blobfmt が無効です。ファイルには output_file の場所へのフル・パスを含める必要があります。
16865	SQL Web Assistant: URL ハイパーリンク・テキスト列を image データ型にはできません。
16866	SQL Web Assistant: @query の列数を取得できませんでした。
16867	SQL Web Assistant: @query に URL ハイパーリンク・テキスト列がありません。
16868	SQL Web Assistant は SQLColAttribute の呼び出しに失敗しました。
16869	SQL Web Assistant: image データ型の列にテンプレートを指定することはできません。
16870	SQL Web Assistant: 内部エラー。@ パラメータを読み取れませんでした。
16871	SQL Web Assistant: @charset が無効です。文字セットのリストを表示するには sp_enumcodepages を実行してください。
16873	SQL Web Assistant: @codepage が無効です。コード・ページのリストを表示するには sp_enumcodepages を実行してください。
16874	SQL Web Assistant: 内部エラー。指定されたコード・ページに変換できません。
16875	SQL Web Assistant: このシステムでは指定されたコード・ページへの変換は利用できません。
16876	SQL Web Assistant: 内部エラー。COM インタフェース ID を取得できませんでした。
16877	SQL Web Assistant: 内部エラー。COM 言語 ID を取得できませんでした。
16878	SQL Web Assistant: 内部エラー。COM ライブラリを初期化できませんでした。
16879	SQL Web Assistant: 内部エラー。指定されたコード・ページに Unicode から変換できませんでした。

エラー・コード	説明
16880	SQL Web Assistant: 内部エラー。変換オブジェクトを作成できませんでした。システム・ディレクトリに MLang.dll ファイルが存在することを確認してください。
16881	SQL Web Assistant: Windows 3.1 の Win32s ではこのバージョンはサポートされていません。
16882	SQL Web Assistant: Web タスクが見つかりませんでした。タスクの名前にエラーがある可能性がないか確認してください。
16883	SQL Web Assistant: Web タスクのパラメータをリストできませんでした。xp_readwebtask には @procname が必要です。
16884	SQL Web Assistant: Web タスクを変換するにはプロシージャ名が必要です。
16885	SQL Web Assistant: Web タスクを 7.0 にアップグレードできませんでした。Web タスクは 6.5 形式のままです。再作成する必要があります。
16886	SQL Web Assistant: Web タスク・システム・テーブルを更新できませんでした。Web タスクは 6.5 形式のままです。
16887	SQL Web Assistant: @procname パラメータがありません。Web タスクを 7.0 にアップグレードするにはこのパラメータが必要です。
16888	SQL Web Assistant: システムでソース・コード・ページがサポートされていません。システムに @charset および @codepage 言語ファイルがインストールされていることを確認してください。
16889	SQL Web Assistant: Web タスク行をクライアントに送信できませんでした。
16890	SQL Web Assistant: ODS エラーが発生しました。Web タスク・パラメータを送信できませんでした。

テーブル 3-82: TSQL エラー・コード - 16900 から 16999

エラー・コード	説明
16901	%hs: この機能はまだ実装されていません。
16902	%hs: パラメータ %hs の値が無効です。
16903	%hs プロシージャ呼び出しのパラメータ数が無効です。
16904	sp_cursor : optype: DELETE または UPDATE と組み合わせて指定できるのは、ABSOLUTE だけです。
16905	カーソルは既に開かれています。
16907	%hs はカーソル文では許可されません。
16909	%hs: 指定されたカーソル ID 値 (%x) は無効です。
16911	%hs: フェッチ型 %hs は前方のみのカーソルでは使用できません。
16914	%hs プロシージャ呼び出しのパラメータが多すぎます。
16915	名前 '%.*ls' を持つカーソルは既に存在します。
16916	名前 '%.*ls' を持つカーソルは存在しません。
16917	カーソルが開かれていません。
16922	Cursor Fetch: データ型 %s から %s への暗黙の変換は許可されていません。

エラー・コード	説明
16924	Cursorfetch: INTO リストで宣言される変数の数は、選択した列の数と一致させる必要があります。
16925	フェッチ型 %hs は動的カーソルでは使用できません。
16926	sp_cursoroption: 列 ID (%d) は text 列、ntext 列、image 列のいずれにも対応しません。
16927	text、ntext、および image 変数にはフェッチできません。
16929	このカーソルは読み取り専用です。
16930	要求された行はフェッチ・バッファには存在しません。
16931	現在のフェッチ・バッファに行はありません。
16932	カーソルは FOR UPDATE リストを持っていますが、更新を要求された列がこのリストに存在しません。
16933	カーソルに変更対象のテーブルがないか、テーブルでカーソルを使用した更新が可能になっていません。
16934	楽観的同時実行制御のチェックに失敗しました。行はこのカーソルの外部で変更されました。
16935	sp_cursor-%hs 文でパラメータ値が指定されませんでした。
16936	sp_cursor: 1 つ以上の値パラメータが無効でした。
16937	複数の SELECT 文を持つリモート・ストアド・プロシージャまたはストアド・プロシージャではサーバ・カーソルは許可されていません。既定の結果セットまたはクライアント・カーソルを使用してください。
16938	sp_cursoropen/sp_cursorprepare: 文パラメータには単一選択または単一ストアド・プロシージャのみを指定できます。
16940	READ ONLY カーソルまたは INSENSITIVE カーソルには UPDLOCK または TABLOCKX を指定できません。
16941	NOLOCK オプションで開かれたテーブルではカーソル更新は許可されていません。
16942	非同期キーセットを生成できませんでした。カーソルが割り当て解除されています。
16943	カーソルが宣言された後にテーブル・スキーマが変更されたので、カーソル操作を完了できませんでした。
16944	読み取り専用テーブルでは、カーソルに UPDLOCK または TABLOCKX を指定できません。
16945	カーソルは宣言されませんでした。
16946	カーソルの 1 つ以上のテーブルがスコープ外になったため、カーソルを開けませんでした。
16947	更新または削除された行はありません。
16948	変数 '%.*ls' はカーソル変数ではありませんが、カーソル変数が必要な場合に使用されます。
16949	変数 '%.*ls' はカーソル変数ではありませんが、カーソル変数が無効な場合に使用されます。

エラー・コード	説明
16950	変数 '%*ls' には現在カーソルは割り当てられていません。
16951	プロシージャを実行する前に CURSOR OUTPUT パラメータにカーソルを割り当ててはいけないため、変数 '%*ls' をパラメータとして使用することはできません。
16952	カーソル変数をリモート・プロシージャ呼び出しのパラメータとして使用することはできません。
16953	リモート・テーブルは更新可能ではありません。リモート・テーブルの更新可能なキーセット駆動型カーソルには、カーソルに展開する分離レベルとして REPEATABLE_READ または SERIALIZABLE が指定されたトランザクションが必要です。
16954	カーソルを使用しないで SQL を直接実行します。
16955	受け入れ可能なカーソルを作成できませんでした。
16956	作成されたカーソルが要求された型ではありませんでした。
16957	FOR UPDATE を READ ONLY カーソルで指定することはできません。
16958	カーソルが宣言された後に設定オプションが変更されているため、カーソル操作を完了できませんでした。
16959	一意テーブル計算に失敗しました。
16960	許可されたカーソルの最大数に達しました。
16961	1 つ以上の FOR UPDATE 列が、クエリ内のテーブルの最初のインスタンスに対して調整されました。
16962	対象のオブジェクト・タイプはカーソルを使用して更新できません。
16963	リモート・テーブルを持つカーソルではスクロール・ロックを指定できません。
16996	%hs は出力パラメータを取得できません。
16998	内部カーソル・エラー: カーソル作業テーブルの操作に失敗しました。
16999	内部カーソル・エラー: カーソルの状態が無効です。

テーブル 3-83: TSQL エラー・コード - 17000 から 17099

エラー・コード	説明
17000	使用法: sp_autostats <table_name> [, {ON OFF} [, <index_name>]]
17050	このエディションの SQL Server では '%ls' オプションは無視されます。
17052	%1
17053	%1: オペレーティング・システム・エラー %2 が発生しました。
17054	LogEvent: 現在のイベントの報告に失敗しました。オペレーティング・システム・エラー = %1。
17055	%1 :%n%2
17059	オペレーティング・システム・エラー %1!d!: %2!hs!。
17065	SQL Server アサーション: ファイル: <%1>、line = %2!d! %nFailed Assertion = '%3' %4。
17066	SQL Server アサーション: ファイル: <%1>、line = %2!d! %nFailed Assertion = '%3'。
17067	SQL Server アサーション: ファイル: <%1>、line = %2!d! %n%3。
17068	PrintStack 要求

テーブル 3-84: TSQL エラー・コード - 17100 から 17199

エラー・コード	説明
17104	サーバ・プロセス ID は %1!d! です。
17112	無効なコマンド・オプション %1!c!。
17113	initconfig: 構成情報で '%1' を開いている際にエラー %2 が発生しました。
17114	initconfig: '%1' からの構成情報の読み取り時にエラー %2 が発生しました。
17117	initconfig: ユーザ接続数が %1!d! に削減されました。
17118	upinit: 警告: %1 スレッドの優先度を上げることができませんでした。
17119	initconfig: サーバ・プロセス数が %1!d! に削減されました。
17120	SQL Server は %1 スレッドを生成できませんでした。
17122	initdata: 警告: ワーキング・セットのサイズを %1!d! KB に設定できませんでした。
17124	SQL Server に %1 モード処理が構成されました。
17125	%1 ロック・アロケーションを使用しています。[%2!d!] ロック・ブロック、[%3!d!] ロック所有者ブロック。
17126	SQL Server でクライアント接続の準備が整いました。
17127	initdata: カーネル・バッファ・ハッシュ・テーブル用のメモリがありません。
17128	initdata: カーネル・バッファ用のメモリがありません。
17130	initdata: カーネル・ロック用のメモリがありません。
17131	initdata: 記述子ハッシュ・テーブル用のメモリが不足しています。
17132	initdata: 記述子用のメモリが不足しています。

エラー・コード	説明
17134	initmaster: PSS (Process Status Structure) を割り当てられませんでした。
17138	'%1' を初期化するのに十分なメモリを割り当てられませんでした。
17140	サービス・コントロール・マネージャで SQL Server を配信できませんでした。オペレーティング・システム・エラー = %1。
17141	サービス・コントロール・ハンドラを登録できませんでした。オペレーティング・システム・エラー = %1。
17142	SQL Server が一時停止しています。新規の接続は許可されません。
17143	サービス・コントロール・ステータスを設定できませんでした。オペレーティング・システム・エラー = %2。
17144	サービス・コントロール・マネージャからの 'pause' 要求により、SQL Server で新規の接続が許可されません。
17145	サービス・コントロール・ハンドラは無効なコントロール・コード = %1!d! を受け取りました。
17146	サービス・コントロール・マネージャからの 'continue' 要求により、SQL Server で新規の接続が許可されます。
17147	システム・シャットダウンのため、SQL Server を終了しています。
17148	サービス・コントロール・マネージャからの 'stop' 要求により、SQL Server を終了しています。
17151	バッチ入出力の最大ページ数は %1!d! に制限されています。
17154	initdata: プロシージャ・キャッシュ/ハッシュ・テーブル用のメモリが不足しています。
17156	initeventlog: キー '%1' で EventLog Service を初期化できませんでした。
17157	%1: 通信レイヤを初期化できませんでした。
17160	SQLEVN70.DLL バージョン '%1' を使用できませんでした。SQLEVN70.DLL バージョン '%2' が必要でした。
17161	マスタ・デバイス・セクタのサイズが %1!d! です。SQL Server は、入出力時に NO_BUFFERING オプションを使用できません。
17162	SQL Server を優先度クラス '%1' で起動しています (%2!d! %3 が検出されました)。
17168	構成されたコードページ %1!d! はサポートされないため、SQL Server はシャットダウンされました。

テーブル 3-85: TSQL エラー・コード - 17200 から 17299

エラー・コード	説明
17204	仮想デバイス番号 (VDN) %3!d! でデバイス %2を開けませんでした。
17207	%1: 物理デバイス %2 の作成/開始時のオペレーティング・システム・エラー %3。
17208	%1: ファイル '%2' が不正なサイズ (%3!d! MB) です。%4!d! MB でなければなりません。
17218	%1: デバイス '%3' (仮想ページ %4) でのオペレーティング・システム・エラー %2。
17249	プロセス ID = %2!d! での負の未処理入出力カウント。
17252	%1: 転送された実際のバイト数 (%2!d!) が、デバイス '%4' (仮想ページ %5) で要求された量 (%3!d!) と一致しません。
17253	デバイス %1 のセクタ・サイズが %2!d! です。SQL Server は、このデバイスでの入出力時に NO_BUFFERING オプションを使用できません。
17254	警告: '%1' で NO_BUFFERING オプションを使用できません。オペレーティング・システム・エラー %2。

テーブル 3-86: TSQL エラー・コード - 17300 から 17399

エラー・コード	説明
17300	PSS (Process Status Structure) 割り当て用のメモリが不足しています。
17302	接続の最大許容数に達しました。
17303	freepss: PSS (Process Status Structure) の無効な値。
17304	警告: Clean_process システム関数が別のスレッドから呼び出されました。未処理の入出力が完了しない可能性があります。
17308	%1: プロセス %2!d! でアクセス違反が発生しました。SQL Server がこのプロセスを終了中です。
17309	プロセスの入力バッファの現在のコンテンツは '%1' です。
17310	%1: プロセス %2!d! で致命的な例外 %3!lx! %4 が発生しました。SQL Server がこのプロセスを終了中です。
17311	SQL Server を中止しています。致命的な例外 %1!lx! が検出されました。

テーブル 3-87: TSQL エラー・コード - 17400 から 17499

エラー・コード	説明
17402	データベース '%1' がシングル・ユーザ・モードに設定されました。
17422	closetable: NULL セッション記述子 (SDES) で呼び出されました。サーバ・プロセス ID (SPID) %1!d!。
17423	closetable: テーブルは、セッション記述子 (SDES) %1!08lx! で既に閉じられています。
17424	警告: OPEN OBJECTS パラメータの値が小さすぎる可能性があります。
17426	sp_configure を実行してパラメータ値を増加してください。
17429	srchindex システム関数が、インデックス ID = %1!d!、sridoff = %2!d! で失敗しました。
17430	データベース '%1' が読み取り専用モードに設定されました。

テーブル 3-88: TSQL エラー・コード - 17500 から 17599

エラー・コード	説明
17550	DBCC TRACEON %d、サーバ・プロセス ID (SPID) %d。
17551	DBCC TRACEOFF %d、サーバ・プロセス ID (SPID) %d。
17557	DBCC DBRECOVER がデータベース ID %d で失敗しました。
17558	*** データベース ID %d のリカバリをバイパスしています。
17560	DBCC DBREPAIR: '%ls' インデックスが '%ls.%ls' でリストアされました。
17561	%ls インデックスが %ls.%ls でリストアされました。
17569	DBCC はライブラリ初期化関数 %ls を見つけられません。
17570	DBCC はライブラリ %ls で関数 %ls を見つけられません。
17571	ライブラリ %ls の DBCC 関数 %ls でアクセス違反が発生しました。SQL Server はプロセス %d を終了しています。
17572	DBCC は DLL %ls を解放できません。SQL Server は、この DLL が正常に機能することを前提としています。

テーブル 3-89: TSQL エラー・コード - 17600 から 17699

エラー・コード	説明
17654	警告: 開かれたセッション記述子 (SDES) を持つ PSS (Process Status Structure) が見つかりました。PSPID %1!d!、PSUID %2!d!、PCURDB %3!d!、範囲エントリ %4!d!、SDESP 0x%5!lx!、オブジェクト ID %6!d!。
17657	既定の照合を %1 に変更しようとしています。
17658	SQL Server がシングル・ユーザ・モードで起動されました。システム・カタログに対する更新が許可されました。
17660	リカバリしないで起動しています。
17661	すべてのデータベースを回復していますが、tempdb は消去していません。
17669	テーブルが開かれたままです。データベース ID %1!d!、テーブル ID %2!d!。
17674	ログイン: %1 %2、サーバ・プロセス ID (SPID): %3!d!、カーネル・プロセス ID (KPID): %4!d!。
17676	Ctrl-C または Ctrl-Break シグナルにより、SQL Server がシャットダウンしました。

テーブル 3-90: TSQL エラー・コード - 17700 から 17799

エラー・コード	説明
17750	DLL %ls、またはそれが参照する DLL の 1 つをロードできません。理由: %ls。
17751	ライブラリ %ls で関数 %ls が見つかりません。理由: %ls。
17752	'%ls' で、拡張プロシージャのメモリ割り当てに失敗しました。
17753	%.*ls は、マスタ・データベースでのみ実行できます。

テーブル 3-91: TSQL エラー・コード - 17800 から 17899

エラー・コード	説明
17801	不明な内部エラー値。
17803	使用できるメモリが不足しています。
17804	'nbytes' 値は無効です。
17805	クライアントから無効なバッファを受け取りました。
17807	イベント '%1!d!' が無効です。
17808	無効な開始位置が指定されました。
17809	接続できませんでした。'%1!d!' に構成されている最大ユーザ接続数が既に接続されています。システム管理者は、sp_configure を使用して最大値を増加できます。
17814	関数パラメータが無効です。
17815	Net-Library '%1!hs!' を使用してクライアント接続を待機しなくなりました。
17820	データ型パラメータが無効です。
17822	Net-Library '%1!hs!' をロードできませんでした。
17824	Net-Library '%1!hs!' に書き込めませんでした。ログイン名 '%2!s!'、ホスト名 '%3!s!'。接続は閉じられました。

エラー・コード	説明
17825	Net-Library '%!hs!' を閉じることができませんでした。
17826	Net-Library '%!hs!' を設定できませんでした。
17831	Net-Library '%!hs!' バージョン '%2!hs!' をロードできませんでした。Net-Library バージョン '%3!hs!' 以降が必要です。
17832	接続は開けられましたが、無効なログイン・パケットが送信されました。接続は閉じられました。
17833	Net-Library '%!hs!' は既に使用中です。
17834	'%!hs!' バージョン '%2!hs!' を使用しています。
17837	char データ型 %0
17838	可変長 char データ型 %0
17839	binary データ型 %0
17840	可変長 binary データ型 %0
17841	1 バイト integer データ型 %0
17842	2 バイト integer データ型 %0
17843	4 バイト integer データ型 %0
17844	bit データ型 %0
17845	datetime データ型 %0
17846	datetime データ型、NULL 値許可 %0
17847	money データ型 %0
17848	money データ型、NULL 値許可 %0
17849	4 バイト float データ型、NULL 値許可 %0
17850	8 バイト float データ型 %0
17851	8 バイト float データ型、NULL 値許可 %0
17852	4 バイト datetime データ型、NULL 値許可 %0
17853	4 バイト money データ型 %0
17854	イベント・タイプ %0
17855	完了パケット・ステータス・フィールド %0
17856	エラー深刻度タイプ %0
17857	4 バイト integer データ型、NULL 値許可 %0
17858	image データ型 %0
17859	text データ型 %0
17868	numeric データ型 %0
17869	numeric データ型、NULL 値許可 %0
17870	decimal データ型 %0

エラー・コード	説明
17871	decimal データ型、NULL 値許可 %0
17872	bit データ型、NULL 値許可 %0
17873	8000バイト可変長 binary データ型 %0
17874	8000バイト可変長 character データ型 %0
17875	8000 バイト binary データ型 %0
17876	8000 バイト character データ型 %0
17877	8000 バイト Unicode character データ型 %0
17878	8000バイト Unicode 可変長 character データ型 %0
17879	Unicode text データ型 %0
17880	uniqueidentifier データ型 %0
17881	'%!ls!' はサポートされていないオープン・データ・サービス API です。
17882	Net-Library '%!hs!' 経由での接続要求受け取り中のエラー。実行を続けます。

テーブル 3-92: TSQL エラー・コード - 18000 から 18099

エラー・コード	説明
18002	ライブラリ '%!ls!' のストアド関数 '%!ls!' でアクセス違反が発生しました。SQL Server はプロセス %d を終了しています。
18052	エラー: %1!d!、深刻度: %2!d!、状態: %3!d!。
18053	エラー: %1!d!、深刻度: %2!d!、状態: %3!d!%n%4%5。

テーブル 3-93: TSQL エラー・コード - 18100 から 18199

エラー・コード	説明
18100	プロセス ID %d はホスト名 %!ls、ホスト・プロセス ID %d により強制終了されました。
18113	SQL Server は、システム・インデックスを確認後、シャットダウンしました。
18124	既定の照合が正常に変更されました。

テーブル 3-94: TSQL エラー・コード - 18200 から 18299

エラー・コード	説明
18200	%1: バックアップ・デバイス ID %2!d! が範囲外です。
18201	ksconsole: ConsBufMutex を作成できません: %1。
18203	ksconsole: %1 を作成できません: %2。
18204	%1: バックアップ・デバイス '%2' は %3 にできませんでした。オペレーティング・システム・エラー = %4。
18205	コンソール操作を初期化できませんでした。
18207	NULL 要求パケット。

エラー・コード	説明
18208	%1: バックアップ・デバイス ID %2!d! がアクティブではありません。
18209	ksconsole: コンソール・クライアントに要求を送信できませんでした。
18210	バックアップ・デバイス '%3' での %2 エラー。オペレーティング・システム・エラー %4。
18211	ksconsole: コンソール・クライアントから要求を受信できませんでした。
18213	ksconsole: 型 0x%1!x!、ID 0x%2!x! のコンソール入力要求が失敗しました。
18214	サーバ・コンソール・スレッドが実行されていません。
18215	応答タイプ 0x%2!x!、ID 0x%3!x! が要求で見つかりません。
18216	コンソール・ミューテックスにアクセスできませんでした。オペレーティング・システム・エラー %2。
18217	無効なパラメータ数 :
18218	%1: 無効なパラメータ数: %2!d!。
18219	ksconsole: コンソール接続を閉じることができませんでした。
18221	ksconsole: コンソールを再初期化しています。
18223	コンソール・クライアントが接続されていません。CONSOLE.EXE を起動してください。
18225	テープ '%1' (ファミリ ID: %2、シーケンス %3) がテープ・ドライブ '%4' にマウントされました。
18227	名前のないテープ (ファミリ ID: %1、シーケンス %2) がテープ・ドライブ '%3' にマウントされました。
18257	%1: デバイスまたはメディアは %2 をサポートしません。
18264	データベースがバックアップされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、ダンプされたページ: %4!d!、最初の LSN: %5、最後の LSN: %6、ダンプ・デバイス数: %9!d!、デバイス情報: (%10)。
18265	ログがバックアップされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、最初の LSN: %4、最後の LSN: %5、ダンプ・デバイス数: %7!d!、デバイス情報: (%8)。
18266	データベース・ファイルがバックアップされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、ファイル・リスト: (%4)、ダンプされたページ: %5!d!、ダンプ・デバイス数: %8!d!、デバイス情報: (%9)。
18267	データベースがリストアされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、最初の LSN: %4、最後の LSN: %5、ダンプ・デバイス数: %7!d!、デバイス情報: (%8)。
18268	ログがリストアされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、最初の LSN: %4、最後の LSN: %5、ダンプ・デバイス数: %7!d!、デバイス情報: (%8)。
18269	データベース・ファイルがリストアされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、ファイル・リスト: (%4)、ダンプ・デバイス数: %6!d!、デバイス情報: (%7)。
18270	データベースの差分変更がバックアップされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、ダンプされたページ: %4!d!、最初の LSN: %5、最後の LSN: %6、全バックアップ LSN: %7、ダンプ・デバイス数: %10!d!、デバイス情報: (%11)。
18271	データベースの変更がリストアされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、最初の LSN: %4、最後の LSN: %5、ダンプ・デバイス数: %7!d!、デバイス情報: (%8)。

エラー・コード	説明
18272	再起動チェックポイント・ファイル '%1' のバックアップまたはリストアで入出力エラーが発生しました。オペレーティング・システム・エラー %2。文は続行されますが、再起動はできません。
18273	エラー %3!d! により、データベース '%2' の '%1' ビットマップを消去できませんでした。後続のバックアップ操作は、通常より低速か大きくなる可能性があります。
18274	テープ '%1' (ファミリ ID: %2、シーケンス %3) がテープ・ドライブ '%4' からディスマウントされました。
18275	名前のないテープ (ファミリ ID: %1、シーケンス %2) がテープ・ドライブ '%3' からディスマウントされました。
18276	データベース・ファイルの差分変更がバックアップされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、ファイル・リスト: (%4)、ダンプされたページ: %5!d!、ダンプ・デバイス数: %8!d!、デバイス情報: (%9)。
18277	データベース・ファイルの変更がリストアされました: データベース: %1、作成日 (時刻): %2(%3)、ファイル・リスト: (%4)、ダンプ・デバイス数: %6!d!、デバイス情報: (%7)。
18278	データベース・ログが切り捨てられました: データベース: %1。

テーブル 3-95: TSQL エラー・コード - 18400 から 18499

エラー・コード	説明
18400	致命的な例外により、チェックポイント・プロセスを終了しています。
18450	ユーザ '%ls' のログインに失敗しました。理由: SQL Server の信頼された接続の有効なユーザとして定義されていません。
18451	ユーザ '%ls' のログインに失敗しました。現時点では管理者だけが接続できます。
18452	ユーザ '%ls' のログインに失敗しました。理由: SQL Server の信頼された接続に関連付けられていません。
18453	ユーザ '%ls' のログインに成功しました。接続: 信頼関係。
18454	ユーザ '%ls' のログインに成功しました。接続: 非信頼関係。
18455	ユーザ '%ls' のログインに成功しました。
18456	ユーザ '%ls' のログインに失敗しました。
18457	ユーザ '%ls' のログインに失敗しました。理由: ユーザ名にマッピング文字が含まれているか、30 文字より長くなっています。
18458	ログインに失敗しました。このサーバの最大同時ユーザ数の %d ライセンスを超えました。追加のライセンスを取得するか、Windows NT のコントロール・パネルのライセンス・アプリケーションで登録してください。
18459	ログインに失敗しました。SQL Server アクセスのワークステーション・ライセンスの最大数を超えました。
18460	ログインに失敗しました。この '%ls' サーバの最大同時ユーザ数の %d ライセンスを超えました。追加のライセンスを取得してインストールするか、完全なバージョンにアップグレードする必要があります。
18461	ユーザ '%ls' のログインに失敗しました。理由: サーバがシングル・ユーザ・モードです。現時点では 1 人の管理者だけが接続できます。

エラー・コード	説明
18482	'%ls' はリモート・サーバとして定義されていないので、サーバ '%ls' に接続できませんでした。
18483	'%ls' は、サーバ '%ls' でリモート・ログインとして定義されていないので、このサーバに接続できませんでした。
18485	サーバ '%ls' にはリモート・アクセスが構成されていないので、このサーバには接続できませんでした。
18490	サポートされるプロセッサ最大数は '%1!ld!' です。
18491	無効なシリアル番号により起動できませんでした。
18492	この '%1' バージョンの SQL Server はライセンス契約に違反しています。起動できません。

テーブル 3-96: TSQL エラー・コード - 18500 から 18599

エラー・コード	説明
18500	起動ハンドラ DLL '%1' をロードできませんでした。
18501	起動ハンドラ関数 '%1' をロードできませんでした。
18502	起動ハンドラ '%1' を追加できませんでした。

テーブル 3-97: TSQL エラー・コード - 18600 から 18699

エラー・コード	説明
18666	rel_desclosed() システム関数で記述子を解放できませんでした。

テーブル 3-98: TSQL エラー・コード - 18700 から 18799

エラー・コード	説明
18750	%ls: パラメータ '%ls' は無効です。
18751	%ls プロシージャ呼び出しのパラメータ数が無効です。
18752	別のログ・リーダがデータベースを複製しています。
18754	テーブル %d を開けませんでした。
18755	レプリケーション用にメモリを割り当てられませんでした。
18756	テーブル %d のレプリケーション情報を取得できませんでした。
18757	データベースはパブリッシュされていません。
18759	レプリケーションに失敗しました。ファイル '%ls'、行 %d。
18760	項目 %d の無効な %d 文。
18761	(%ls) でコミットされたレコードは既に配布されました。DBTABLE を調べてください。
18762	コミット・レコード (%ls) の開始 LSN (%ls) が無効です。DBTABLE を調べてください。
18763	コミット・レコード (%ls) は最も古いアクティブな LSN を (0:0:0) と報告しています。

エラー・コード	説明
18764	フィルタ・ストアド・プロシージャ %d の実行に失敗しました。詳細は、SQL Server エラー・ログを参照してください。
18765	レプリケーション・ログ・スキャンに指定された開始 LSN が無効です。
18766	DBTABLE の replbeginlsn フィールドが無効です。
18767	レプリケーション・ログ・スキャンに指定された開始 LSN (%ls) は replbeginlsn (%ls) の前に発生します。
18768	repldone ログ・スキャンに指定された LSN (%ls) は、現在のログ内のレプリケーションの開始 (%ls) よりも前に発生します。
18769	repldone ログ・スキャンに指定された LSN (%!) は複製されたコミット・レコードではありません。
18770	repldone ログ・スキャンに指定された LSN (%ls) がトランザクション・ログに存在しません。
18771	%d 型のバリエーションの書き込みを指定されたストレージ・タイプ %d が無効です。
18772	repl 型検索で指定されたサーバ・データ型 (%d) が無効です。
18773	コマンドを構築中に列 %d のテキスト情報レコードを特定できませんでした。
18774	ストアド・プロシージャ sp_replsetoriginator はトランザクション内で実行する必要があります。
18775	DML 操作の処理中に、ログ・リーダー・エージェントは予期しない型 %u のログ・レコードを検出しました。
18776	項目キャッシュ・アクセス・イベントで待機中にエラーが発生しました。
18777	%ls: MSMQ コンポーネントの初期化エラー
18778	%ls: Microsoft メッセージ・キュー %s のオープン・エラー

テーブル 3-99: TSQL エラー・コード - 18800 から 18899

エラー・コード	説明
18800	警告: このリリースでは式の評価が変更されているので、データベース '%3' の '%2' のインデックス '%1' が壊れている可能性があります。インデックスを削除して、再作成してください。
18831	;// データベース ID %d。オブジェクト ID %ld のオブジェクト記述子が見つかりませんでした。
18833	データベース ID %d。システム・テーブル ID %ld でクラスタ化インデックスが見つかりませんでした。このインデックスはすべてのデータベースに必ず存在するようにしてください。データベースの sysindexes で DBCC CHECKTABLE を実行してください。
18836	データベース ID %d。sysobjects でオブジェクト ID %ld が見つかりませんでした。このシステム・カタログは、すべてのデータベースに存在するようにしてください。DBCC CHECKTABLE をこのデータベースの sysobjects で実行してください。
18841	データベース '%.*s' の sysdatabases のエントリに位置付けられませんでした。その名前のエントリがありません。
18843	sysdatabases でデータベース ID %d が見つかりませんでした。

エラー・コード	説明
18872	Rec_finish: sysdatabases.dbid=%d での getnext SCAN_NOINDEX に失敗しました。
18874	Rec_complete: 複数データベース・トランザクションのデータベース管理の管理データベース (ID %d) を開けませんでした。
18875	データベース '%.s' をリカバリ中です。
18876	%d 個のトランザクションがデータベース '%.s' (%d) でロール・フォワードされました。
18877	%d 個のトランザクションがデータベース '%.s' (%d) でロールバックされました。
18883	;// データベース ID %d: データベースに SUSPECT とマークしようとしています。sysobjects.dbid での Getnext NC スキャンは失敗しました。
18884	;//データベース '%.s' (ID %d)。リカバリは失敗しました。DBCC を実行してください。
18885	データベース ID #%d、テーブル D #%ld のページ #%lx がキャッシュで見つかりません。
18886	データベース ID #%X 内の sysindexes のページ #%lx が、キャッシュへの読み取りの後にキャッシュに存在しません。
18887	マスタ・データベースを回復できません。終了しています。
18892	エクステント ID %ld は syslogs に属する必要がありますが、オブジェクト ID %ld に属しています。
18894	トランザクション・テーブルに空き領域がありません。
18895	トランザクション (%d, %d) がトランザクション・テーブルで見つかりません。
18901	データベース '%.s' でアロケーション・マップを作成できませんでした。データベースには DBINFO 構造がありません。

テーブル 3-100: TSQL エラー・コード - 19000 から 19099

エラー・コード	説明
19000	ODBC エラーが発生しました、状態 = %1、ネイティブ・エラー = %2、エラー・メッセージ = %3。
19001	Windows NT エラーが発生しました、%1。
19002	MS SQL SNMP 拡張エージェントを開始しています、%1、バージョン %2。
19003	MS SQL SNMP 拡張エージェントに再接続しています。
19004	MS SQL SNMP 拡張エージェントを停止しています。
19010	RPC Net-Library は %1 で待ち受け状態にあります。
19011	SuperSocket 情報 : %1。
19012	SuperSocket 情報: TCP ポート %1 で結合が失敗しました。
19013	SQL Server は %1 で待ち受け状態にあります。
19014	無効なプロトコルが %1 インスタンスに指定されました : %2。
19015	暗号化が要求されましたが、有効な証明書が見つかりませんでした。SQL Server を終了しています。

テーブル 3-101: TSQL エラー・コード - 20000 から 20099

エラー・コード	説明
20001	パブリケーション '%s' の項目 '%s' にはニックネームがありません。
20002	フィルタ '%s' は、パブリケーション '%s' の項目 '%s' 用に既に存在します。
20003	'%s' にニックネームを生成できませんでした。
20007	マージ・レプリケーションのシステム・テーブルを正しく削除できませんでした。
20008	マージ・レプリケーションのシステム・テーブルを正しく作成できませんでした。
20009	項目 '%s' をパブリケーション '%s' に追加できませんでした。
20010	パブリケーション '%s' に対応するスナップショット・エージェントを削除できませんでした。
20011	互換性のないパブリケーション・プロパティは設定できません。パブリケーションの 'allow_anonymous' プロパティは 'immediate_sync' プロパティに依存します。
20012	サブスクリプション・タイプ '%s' はパブリケーション '%s' では許可されていません。
20013	サブスクリプションが存在するときは、パブリケーション・プロパティ '%s' を変更できません。
20014	@schema_option 値が無効です。
20015	ディレクトリ '%s' を削除できませんでした。xp_cmdshell のセキュリティ・コンテキストを調べ、このディレクトリにアクセスしている可能性のあるプロセスを終了してください。
20016	@subscription_type 値が無効です。有効な値は 'pull' または 'anonymous' です。
20017	このサブスクライバのサブスクリプションは存在しません。
20018	@optional_command_line は長すぎます。エージェント定義ファイルを使用してください。
20019	レプリケーション・データベース・オプション '%s' は、データベースがパブリッシング・データベース、またはディストリビューション・データベースでない限り設定できません。
20020	指定した項目リゾルバは無効か、存在しません。
20021	サブスクリプションが見つかりませんでした。
20023	@subscriber_type 値は無効です。有効なオプションは 'local'、'global'、'anonymous'、または 'repub' です。
20025	パブリケーション名は一意にしてください。指定されたパブリケーション名 '%s' は既に使用されています。
20026	パブリケーション '%s' は存在しません。
20027	項目 '%s' は存在しません。
20028	ディストリビュータが正しくインストールされていません。データベースでパブリッシュを有効にできませんでした。
20029	ディストリビュータが正しくインストールされていません。データベースでパブリッシュを無効にできませんでした。
20030	項目 '%s' は、別の列追跡オプションを使用した他のパブリケーションに既に存在します。
20031	行が存在しないので、その行を削除できませんでした。

エラー・コード	説明
20032	'%s' は '%s' のサブスクリバとして定義されていません。
20033	無効なパブリケーション・タイプです。
20034	パブリケーション '%s' は '%s' サブスクリプションをサポートしません。
20036	ディストリビュータが正しくインストールされていません。
20037	項目 '%s' は、別の項目リゾルバを使用した他のパブリケーションに既に存在します。
20038	項目フィルタをパブリケーション '%s' の項目 '%s' に追加できませんでした。
20039	パブリケーション '%s' の項目 '%s' から項目フィルタを削除できませんでした。
20040	パブリケーション '%s' から項目を削除できませんでした。
20041	トランザクションはロールバックされました。トリガを実行できませんでした。トランザクションを再試行してください。
20043	パブリケーションが既にアクティブなので、項目 '%s' を変更できませんでした。
20044	ローカル・サブスクリバでは優先度プロパティは無効です。
20045	項目名を指定する必要があります。
20046	この項目は存在しません。
20047	この操作を実行する権限がありません。
20049	優先度値を 100.0 より大きくしてはいけません。
20050	保有期間は %d 以上に指定してください。
20051	サブスクリバが登録されていません。
20054	現在のデータベースはパブリッシュに対して有効になっていません。
20055	テーブル '%s' にはタイムスタンプ列があるため、このテーブルをマージ・レプリケーション用にパブリッシュすることはできません。
20056	テーブル '%s' は再パブリッシュできません。
20057	プロファイル名 '%s' は指定されたエージェント・タイプに既に存在します。
20058	@agent_type には 1 (スナップショット)、2 (ログ・リーダー)、3 (ディストリビューション)、または 4 (マージ) を指定してください。
20059	@profile_type には 0 (システム) または 1 (カスタム) を指定してください。
20060	互換性レベルを 60 よりも小さくすることはできません。
20061	マージ・パブリッシングに対して有効にするために、このデータベースの互換性レベルを 70 以上に設定してください。
20062	rowguidcol プロパティを使用した列の更新は許可されていません。
20064	プロファイルを削除できません。定義されていないか、既定のプロファイルとして定義されています。
20065	プロファイルは使用中なので、削除できません。
20066	プロファイルは定義されていません。
20067	パラメータ名 '%s' は指定されたプロファイルに既に存在します。

エラー・コード	説明
20068	テーブル '%s' には %d 個を超える列が含まれているので項目を作成できません。
20069	ループした結合フィルタを使用するマージ項目は検証できません。
20070	サブスクリプション行を更新できません。
20072	サブスクライバ情報行を更新できません。
20073	項目はパブリッシャだけで追加または変更できます。
20074	"table" 項目としてマージ・レプリケーション用にパブリッシュできるのは、テーブル・オブジェクトのみです。
20075	'status' パラメータ値には 'ctive' または 'unsynced' を指定する必要があります。
20076	@sync_mode パラメータ値には 'native' または 'character' を指定する必要があります。
20077	レプリカ・ニックネームの生成中に問題が発生しました。
20078	@property パラメータ値には、'sync_type'、'priority'、または 'description' を指定してください。
20079	@subscription_type パラメータ値が無効です。有効なオプションは、'push'、'pull'、または 'both' です。
20081	パブリケーション・プロパティ '%s' を NULL にはできません。
20084	パブリケーション '%s' はサブスクライバによってデータベース '%s' にサブスクライブできません。
20086	パブリケーション '%s' は rowguidcol 列を持たないテーブルを含んでいるので、nosync 型をサポートしません。
20087	匿名サブスクリプションをプッシュすることはできません。
20088	0 以上、100 未満の優先度だけを割り当ててください。
20089	ライセンス情報を正しく取得できませんでした。
20090	バージョン情報を正しく取得できませんでした。
20091	sp_mergesubscription_cleanup はプッシュ・サブスクリプションの削除に使用します。プル・サブスクリプションまたは匿名サブスクリプションの削除には sp_dropmergepullsubscription を使用してください。
20100	サブスクライバ '%s' を削除できません。サブスクリプションが存在します。

テーブル 3-102: TSQL エラー・コード - 20500 から 20599

エラー・コード	説明
20500	更新可能なサブスクライバ・ストア・プロシージャ '%s' が sysobjects に存在しません。
20501	sp_articlecolumn を使用して sysarticleupdates に挿入できませんでした。
20502	'%s' 値は無効です。有効な値は 'read only'、'sync tran'、'queued tran'、または 'ailover' です。
20503	'%s' 内の値 '%s' が無効です。更新可能なサブスクリプション '%s' に対してパブリケーションが有効になっていません。
20505	'%s' 内の同期更新ストア・プロシージャ '%s' を削除できませんでした。

エラー・コード	説明
20506	'%s' でソース・テーブル '%s' が見つかりません。
20507	'%s' でテーブル '%s' が見つかりません。
20508	更新可能なサブスクリプション: サブスクライバで挿入された text/ntext/image 値は NULL になります。
20509	更新可能なサブスクリプション: text/ntext/image 値はサブスクライバで更新できません。
20510	更新可能なサブスクリプション: ID 列を更新できません。
20511	更新可能なサブスクリプション: タイムスタンプ列を更新できません。
20512	更新可能なサブスクリプション: トランザクションをロールバックしています。
20515	更新可能なサブスクリプション: パブリッシャとサブスクライバで行が一致していません。ディストリビューション・エージェントを実行してサブスクライバで行を更新してください。
20516	更新可能なサブスクリプション: 複製されたデータは更新できません。
20517	更新可能なサブスクリプション: パブリッシュされたテーブルにタイムスタンプ列がない限り、レプリカの主キーの更新は許可されません。
20518	更新可能なサブスクリプション: パブリッシュされたテーブルにタイムスタンプ列がない限り、INSERT および DELETE 操作はサポートされません。
20519	更新可能なサブスクリプション: サブスクライバで主キーが定義されていない限り、ID 列またはタイムスタンプ列を持つテーブルでの INSERT 操作は許可されません。
20520	更新可能なサブスクリプション: サブスクライバで主キーが定義されていない限り、ID 列またはタイムスタンプ列を持つテーブルでの UPDATE 操作は許可されません。
20521	sp_MSmark_proc_norepl: db_owner ロールまたは sysadmin ロールのメンバでなければなりません。
20522	sp_MSmark_proc_norepl: オブジェクト名 '%s' は無効です。
20523	項目 '%s' を検証できませんでした。この項目はアクティブにはなりません。
20524	テーブル '%s' は同期が取られていない可能性があります。行数 (実際: %s、予想値: %s)。使用された Rowcount メソッドは %d (0 = Full、1 = Fast) です。
20525	テーブル '%s' は同期が取られていない可能性があります。行数 (実際: %s、予想値: %s)。チェックサム値 (実際: %s、予想値: %s)。
20526	テーブル '%s' は行数 (%s) の検証に合格しました。使用された Rowcount メソッドは %d (0 = Full、1 = Fast) です。
20527	テーブル '%s' は行数 (%s) とチェックサムの検証に合格しました。チェックサムは text および image 列では比較されません。
20528	ログ・リーダー・エージェント起動メッセージ。
20529	エージェントを開始しています。
20530	エージェントを実行します。
20531	ログに記録されないエージェントのシャットダウンを検出します。
20532	レプリケーション・エージェントのスケジュール。

エラー・コード	説明
20533	レプリケーション・エージェントの検査。
20534	アクティブに履歴をログに記録していないレプリケーション・エージェントを検出します。
20535	ディストリビューション・データベースからレプリケーション・エージェントの履歴を削除します。
20536	レプリケーション: エージェントが失敗しました
20537	レプリケーション: エージェントを再試行します
20538	レプリケーション: 有効期限の切れたサブスクリプションを削除しました
20540	レプリケーション: エージェントが正常に実行されました
20541	ディストリビューション・データベースから複製されたトランザクションを削除します。
20542	パブリッシュされたデータベースから有効期限の切れたサブスクリプションを検出し、削除します。
20543	@rowcount_only パラメータには値 0、1 または 2 を指定してください。0=7.0 と互換性のあるチェックサム。1=行数だけをチェック。2=バージョン 8.0 で導入された新しいチェックサム機能。
20545	既定のエージェント・プロファイル。
20546	詳細な履歴エージェント・プロファイル。
20547	詳細な履歴ログ用のエージェント・プロファイル。
20548	低速リンク・エージェント・プロファイル。
20549	低帯域幅接続用のエージェント・プロファイル。
20550	Windows 同期マネージャのプロファイル。
20551	Windows 同期マネージャが使用するプロファイル。
20552	ディストリビューション・トランザクション・テーブルをクリーン・アップできませんでした。
20553	ディストリビューション履歴テーブルをクリーン・アップできませんでした。
20554	エージェントに問題がある可能性があります。過去 %d 分間応答がありません。
20555	6.x パブリケーション。
20556	実行中のすべてのレプリケーション・エージェントについて稼動状況が検出されました。
20557	エージェントがシャットダウンされました。詳細は、ジョブ '%s' の SQL Server エージェント・ジョブ履歴を参照してください。
20558	テーブル '%s' は高速チェックに失敗した後に全行数検証に合格しました。DBCC UPDATEUSAGE が自動的に起動されます。
20559	予想される行数を指定しないで条件付き Fast Rowcount メソッドが要求されました。Fast メソッドが使用されます。
20560	チェックサムの予想値が渡されましたが、行数のみのチェックが要求されたため、チェックサムは比較されません。
20561	%s の行数の予想値 %s が生成されました。
20562	ユーザ削除。

エラー・コード	説明
20563	この部分には所属しなくなりました。
20564	システム削除。
20565	レプリケーション: サブスクライバはデータ検証に合格しませんでした
20566	レプリケーション: サブスクライバはデータ検証に合格しました
20567	エージェント履歴の削除: %s
20568	ディストリビューションの削除: %s
20569	有効期限の切れたサブスクリプションの削除
20570	データ検証に合格しなかったサブスクリプションを再初期化します
20571	データ検証に合格しなかったすべてのサブスクリプションを再初期化します。
20572	パブリケーション '%s' の項目 '%s' に対するサブスクライバ '%s' のサブスクリプションは、検証で不合格になった後、再初期化されました。
20573	レプリケーション: サブスクリプションは、検証で不合格になった後、再初期化されました。
20574	パブリケーション '%s' の項目 '%s' に対するサブスクライバ '%s' のサブスクリプションは、データ検証に合格しませんでした。
20575	パブリケーション '%s' の項目 '%s' に対するサブスクライバ '%s' のサブスクリプションは、データ検証に合格しました。
20576	パブリケーション '%s' の項目 '%s' に対するサブスクライバ '%s' のサブスクリプションは、同期化に失敗した後、再初期化されました。
20577	msdb..sysreplicationalerts にエントリが見つかりませんでした。
20578	レプリケーション: エージェント・カスタム・シャットダウン
20579	%s の行数の予想値 %s およびチェックサムの予想値 %s が生成されました。
20580	一部のレプリケーション・エージェントの稼動状況が検出されませんでした。これらのエージェントのステータスは '失敗' に変更されました。
20581	サーバ '%s' はレプリケーションでディストリビュータとして使用されているので、削除できません。
20582	サーバ '%s' はレプリケーションでパブリッシャとして使用されているので、削除できません。
20583	サーバ '%s' はレプリケーションでサブスクライバとして使用されているので、削除できません。
20584	サーバ '%s' はレプリケーションでリモート・パブリッシャ '%s' に対するサブスクライバとして使用されているので、削除できません。
20585	検証に失敗しました。オブジェクト '%s' は存在しません。
20586	(既定の宛先)
20587	'%s' 値はストアド・プロシージャ '%s' では無効です。
20588	サブスクリプションが初期化されていません。まずディストリビューション・エージェントを実行してください。

エラー・コード	説明
20589	キューに登録された複製済みトランザクション・リーダーのエージェント・プロファイル。
20590	このパブリケーションではデータ変換は許可されないため、項目プロパティ 'status' にビット 64 'DTS horizontal partitions' を含めることはできません。
20591	このパブリケーションではデータ変換が許可されるため、'DTS horizontal partitions' と 'no DTS horizontal partitions' のみが 'status' 値として有効です。
20592	このパブリケーションではデータ変換は許可されないため、'dts horizontal partitions' と 'no dts horizontal partitions' は 'status' 値として無効です。
20593	パブリケーション '%s' を変更できません。このパブリケーションには、ODBC または OLE DB サブスクライバからのサブスクリプションがあるため、sync_method を 'native'、'concurrent'、または 'concurrent_c' に変更することはできません。
20594	パブリケーションへのプッシュ・サブスクリプションが存在します。sp_subscription_cleanup を使用して、機能していないプッシュ・サブスクリプションを削除してください。
20595	エラー・シグナルをスキップしています。
20596	'%s' または db_owner のメンバだけが匿名エージェントを削除できます。
20597	%d 個の匿名サブスクリプションが削除されました。
20598	複製されたコマンドを適用しているときに、サブスクライバで行が見つかりませんでした。
20599	データ整合性エラーのまま続行します。

テーブル 3-103: TSQL エラー・コード - 20600 から 20699

エラー・コード	説明
20600	データ整合性エラーのスキップ用のエージェント・プロファイル。このエージェント・プロファイルは、SQL Server サブスクライバだけが使用できます。
20601	エージェント・パラメータ 'SkipErrors' に指定された値が無効です。
20602	エージェント・パラメータ 'SkipErrors' に指定された値が長すぎます。
20603	このエージェント・プロファイルを異種サブスクライバで使用することはできません。
20604	プッシュ・サブスクリプションに対してエージェントを実行する権限がありません。エージェント・パラメータ 'SubscriptionType' を指定してください。
20605	パブリケーションの既存のスナップショットが無効になりました。新しいスナップショットを生成するには、スナップショット・エージェントを再度実行してください。
20606	サブスクリプションが再初期化されました。
20607	スナップショットが既に生成されているので変更できません。@force_invalidate_snapshot を 1 に設定して、強制的に変更し、既存のスナップショットを無効にしてください。
20608	アクティブなサブスクリプションがあるため変更できません。@force_reinit_subscription を 1 に設定して、強制的に変更し、アクティブなサブスクリプションを再初期化してください。
20609	サブスクリプション・ファイル '%s' をアタッチできません。有効なサブスクリプション・コピー・ファイルであることを確認してください。
20610	ログ・リーダー・エージェントがデータベースを複製しているときは '%s' を実行できません。

エラー・コード	説明
20611	テーブルまたはテーブル項目に対するインデックス付きビューだけが、DTS を許可しているパブリケーション内で有効です。
20612	パブリケーションが DTS を許可しているので、チェックサム検証はサポートされません。行数のみの検証を使用してください。
20613	DTS 行分割が設定されている項目では、検証はサポートされません。
20614	異種サブスクライバでは検証はサポートされません。
20616	高ボリュームの Server-to-Server プロファイル。
20617	マージ・エージェント・プロファイルは、高ボリュームの server-to-server 同期化シナリオに対して最適化されました。
20618	サブスクリプション・データベースをアタッチするには、CREATE DATABASE 権限が必要です。
20619	サーバ・ユーザ '%s' は、データベース '%s' では有効なユーザではありません。まずデータベースにこのユーザのアカウントまたは 'guest' ユーザ・アカウントを追加してください。
20620	指定されたセキュリティ・モードでは、syssservers にサーバ '%s' が必要です。sp_addlinkedserver を使用してこのサーバを追加してください。
20621	サブスクリプション・データベースを既存のデータベースにコピーできません。
20622	データベースが Simple Recovery モードになっているため、レプリケーション・データベース・オプション 'sync with backup' をパブリッシング・データベースに設定できません。
20623	テーブル '%s' に対する 'SELECT ALL' 権限がない限り、項目 '%s' を検証することはできません。

テーブル 3-104: TSQL エラー・コード - 21000 から 21099

エラー・コード	説明
21000	アクティブでないパブリケーションにサブスクライブすることはできません。
21001	プッシュ・サブスクリプションでは、サブスクライバでディストリビューション・エージェントを追加できません。
21002	このサブスクリプションのディストリビューション・エージェントは既に存在します (%s)。
21003	パブリケーション名の変更はサポートされなくなりました。
21004	データベース・オブジェクト '%s' は暗号化されているので、パブリッシュできません。
21005	下位互換性により、sp_addpublisher を使用してこのディストリビュータのパブリッシャを追加できます。ただし、sp_adddistpublisher の方が柔軟性があります。
21006	sp_addpublisher を使用してパブリッシャを追加できません。sp_adddistpublisher を使用してください。
21007	このリモート・ディストリビュータを追加できません。ローカル・サーバが、このディストリビュータでパブリッシャとして構成されていることを確認してください。
21008	サブスクライバが定義されているので、ディストリビュータをアンインストールできません。

エラー・コード	説明
21009	指定されたフィルタ・プロシージャは既にテーブルに関連付けられています。
21010	%ld 個の文で構成されている複製されたトランザクションが %ld 秒間に %ld 個削除されました (%ld 行/秒)。
21011	サブスクリプションを非アクティブにしました。
21012	パブリケーションの 'allow_push' プロパティを "false" に変更することはできません。パブリケーションにプッシュ・サブスクリプションが存在します。
21013	パブリケーションの 'allow_pull' プロパティを "false" に変更することはできません。パブリケーションにプル・サブスクリプションが存在します。
21014	@optname パラメータ値には 'transactional' または 'merge' を指定してください。
21015	レプリケーション・オプション '%s' は既に TRUE に設定されています。
21016	レプリケーション・オプション '%s' は既に FALSE に設定されています。
21017	列分割または行分割されたマージ項目では SQL Server 7.0 と互換性のあるチェックサム演算は実行できません。このページでは、行数検証および SQL Server 2000 と互換性のあるバイナリ・チェックサム演算を実行できます。
21018	ディストリビューション・データベースにある連続したスナップショット・トランザクションが多すぎます。ログ・リーダー・エージェントを再実行するか、ディストリビューション・データベースをクリーン・アップしてください。
21021	ディストリビュータを削除してから、レプリケーションをアンインストールしてください。
21022	互換性のないパブリケーション・プロパティは設定できません。パブリケーションの 'immediate_sync' プロパティはパブリケーションの 'independent agent' プロパティに依存します。
21023	'%s' はサポートされなくなりました。
21024	ストアド・プロシージャ '%s' は互換性のないタイプとして既にパブリッシュされています。
21025	暗号化する文字列に NULL 文字を含めることはできません。
21026	独立したエージェントを持たないパブリケーションに匿名サブスクリプションを指定することはできません。
21027	'%s' レプリケーション・ストアド・プロシージャはインストールされていません。sp_replicationoption を使用してインストールしてください。
21028	このサーバにはレプリケーション・コンポーネントがインストールされていません。SQL Server セットアップを再度実行し、レプリケーションをインストールするオプションを選択してください。
21029	@drop_push が 'true' でない限り、サブスクライバでプッシュ・サブスクリプションのエントリを削除することはできません。
21030	SQL Server レプリケーション・エージェントの名前は変更できません。
21031	ストアド・プロシージャ項目では 'post_script' はサポートされません。
21032	SQL Server 以外のサブスクライバ '%s' は 'sync tran' 更新モードをサポートしないので、サブスクライブできませんでした。
21033	サーバ '%s' にレプリケーションに対して有効になっているデータベースがあるため、ディストリビューション・パブリッシャとしてこのサーバを削除できません。

エラー・コード	説明
21034	サブスクライバで挿入または更新された行は、項目パーティションの外部にはできません。
21035	パブリッシャ・プロパティ '%s' が正常に更新されました。
21036	サブスクリプションの別の %s エージェントが実行されています。
21037	作業ディレクトリ '%s' が無効です。
21038	Windows 認証はこのサーバではサポートされません。
21039	異種のサブスクライバを指定できるパブリケーションでは、宛先の所有者名はサポートされません。この機能ではネイティブ・モードの BCP を使用してください。
21040	パブリケーション '%s' は存在しません。
21041	このサーバ・バージョンでは、リモート・ディストリビューション・パブリッシャは許可されません。
21042	ディストリビューション・パブリッシャ・プロパティ 'distributor_password' は、用途がなく、Windows NT 4.0 で実行されているディストリビュータではサポートされません。
21043	ディストリビュータはインストールされていません。
21044	データベースがパブリッシングまたはマージ・パブリッシングに対して有効になっている場合、リモート・ディストリビュータを無視することはできません。つまり、@ignore_remote_distributor を 1 に指定することはできません。
21045	パブリッシングまたはマージ・パブリッシングに対して有効になっているデータベースがあるため、ディストリビュータをアンインストールできません。
21046	リモート・パブリッシャが現在のディストリビューション・データベースを使用しているので、ディストリビューション・パブリッシャ・プロパティ 'distribution_db' を変更することはできません。
21047	サブスクライバが定義されているので、ローカル・ディストリビューション・パブリッシャを削除できません。
21048	ログイン '%s' はディストリビューション・サーバ '%s' へのアクセス権を持っていないので、パブリケーション・アクセス・リストには追加できません。
21049	ログイン '%s' は、パブリケーション・アクセス・リストに含まれていないため、パブリケーション '%s' へのアクセス権がありません。
21050	sysadmin ロールまたは db_owner ロールのメンバだけがこの操作を実行できます。
21051	SQL Server 以外のサブスクライバ '%s' はカスタム・ストアド・プロシージャをサポートしないので、サブスクライブできませんでした。
21052	キューに登録されたサブスクリプション更新: メッセージ・キューへの書き込みに失敗しました。
21053	パラメータには 'description', 'status', 'retention', 'syncmode', 'allowpush', 'allowpull', 'allowanonymous', 'enabledforinternet', 'centralizedconflicts', 'conflictresolution', または 'snapshot_ready' のいずれかを指定してください。
21054	更新可能なサブスクライバ: パブリッシャへの RPC に失敗しました。
21055	%s に指定されたパラメータ %s は無効です。

エラー・コード	説明
21056	パブリケーション '%s' に対するサブスクリプションは有効期限が切れていて、存在しません。
21057	匿名のサブスクライバは、更新可能なサブスクリプションを持つことはできません。
21058	サブスクライバ '%s' でのパブリケーション '%s' に対する更新可能なサブスクリプションは既に存在します。
21059	immediate_sync 以外のパブリケーションのサブスクリプションを再初期化できません。
21060	SQL Server 以外のサブスクライバ '%s' はパラメータ化された文をサポートしないので、サブスクライブできませんでした。
21061	項目 '%s' の追加時に指定された項目ステータス %d は無効です。
21062	テーブル '%s' の行サイズがレプリケーションの上限 6,000 バイトを超えました。
21063	テーブル '%s' はマージ・レプリケーション用にパブリッシュされるため、更新可能なサブスクリプションに参加できません。
21064	このサブスクリプションは再初期化が指定されているため、初期化されていないか、即時更新に使用できません。キュー・フェールオーバー・オプションを使用している場合は、サブスクリプションの初期化にキュー・リーダー・エージェントを実行します。再初期化が完了してから再試行してください。
21070	このサブスクリプションは、'no sync' オプションを指定してサブスクライブする自動再初期化をサポートしません。このサブスクリプションを再初期化するには、サブスクリプションを削除し、再作成する必要があります。
21071	'no sync' オプションを使用してサブスクライブしたパブリケーション '%s' へのサブスクリプション '%s:%s' 内の項目 '%s' は再初期化できません。
21072	サブスクリプションは最大保有期間内で同期が取られなかったか、パブリッシャで削除されました。データを受け取るには、サブスクリプションを再初期化する必要があります。
21073	指定されたパブリケーションは存在しません。
21074	サブスクリプションは非アクティブになっており、パブリッシャで再初期化する必要があります。データベース管理者にお問い合わせください。
21075	パブリケーション '%s' の初期スナップショットはまだ使用できません。
21076	項目 '%s' の初期スナップショットはまだ使用できません。
21077	匿名パブリケーションの初期スナップショットを非アクティブにしました。新規サブスクリプションは次の予約スナップショットを待機する必要があります。
21078	ユーザ '%s' は現在のデータベースに存在しません。
21079	パブリッシャの RPC セキュリティ情報がないか、無効です。セキュリティ情報を指定するには sp_link_publication を使用してください。
21080	'msrepl_tran_version' 列は、更新可能サブスクリプションに対して有効な項目の列分割に存在する必要があります。削除することはできません。
21081	サーバの設定 [他のトリガを起動するトリガの起動を許可 (入れ子になったトリガ)] は、更新可能なサブスクライバに存在する必要があります。

エラー・コード	説明
21082	更新可能なサブスクリプションを許可するサブスクライバでは、サブスクリプション・データベースの 'IsRecursiveTriggersEnabled' データベース・プロパティには false を指定してください。
21083	即時更新サブスクライバでは、データベースの互換性レベルを 70 未満にはできません。
21084	パブリケーション '%s' は匿名サブスクリプションを許可しません。
21085	保有期間は、ディストリビューション・データベースの保有期間よりも短くしてください。
21086	ディストリビューション・データベースの保有期間は、マージ・パブリケーション以外の既存パブリケーションの保有期間よりも長くしてください。
21087	匿名のサブスクライバまたはこのサーバでのサブスクライバは、マージ・パブリケーションの作成が許可されていません。
21088	このパブリケーションに対する初期スナップショットはまだ使用できません。

テーブル 3-105: TSQL エラー・コード - 21100 から 21199

エラー・コード	説明
21107	'%ls' はテーブルまたはビューではありません。
21108	このエディションの SQL Server では、トランザクション・パブリケーションはサポートされません。
21109	@command_id が指定されている場合は、パラメータ @xact_seqno_start と @xact_seqno_end は等しくなければなりません。
21110	@command_id が指定されている場合は、@xact_seqno_start と @publisher_database_id が指定されている必要があります。
21111	'%s' はスナップショット・エージェントの有効なパラメータではありません。
21112	'%s' はログ・リーダ・エージェントの有効なパラメータではありません。
21113	'%s' はディストリビューション・エージェントの有効なパラメータではありません。
21114	'%s' はマージ・エージェントの有効なパラメータではありません。
21115	'%s' は '%s' パラメータの有効な値ではありません。値は正の整数値で指定してください。
21116	'%s' は '%s' パラメータの有効な値ではありません。値には 1、2、または 3 を指定してください。
21117	'%s' は '%s' パラメータの有効な値ではありません。値には 0、1、または 2 を指定してください。
21118	'%s' は '%s' パラメータの有効な値ではありません。値は 0 以上、10,000 以下で指定してください。
21119	'%s' は '%s' パラメータの有効な値ではありません。値は負ではない整数値で指定してください。
21120	sysadmin 固定サーバ・ロールおよび db_owner 固定データベース・ロールのメンバだけがパブリケーション '%s' に対するサブスクリプション '%s' を削除できます。

エラー・コード	説明
21121	sysadmin 固定サーバ・ロールおよび '%s' のメンバだけがパブリケーション '%s' へのプル・サブスクリプションを削除できます。
21122	ディストリビューション・データベース '%s' は現在使用中なので削除できません。
21123	エージェント・プロファイル '%s' がディストリビュータで見つかりませんでした。
21124	代替テーブル ID (ニックネーム) '%d' に対応するテーブル名またはテーブル所有者が sysmergearticles で見つかりません。
21125	マージ・レプリケーションで使用されるテーブルには計算列以外の列が最低 1 つ必要です。
21126	プル・サブスクリプションをパブリケーションと同じデータベースに作成することはできません。
21127	データベース '%s' に追加できるのは、グローバル・マージ・サブスクリプションだけです。
21128	即時更新またはキュー更新の INSERT トリガを終了しています。このトリガは最初に起動されるトリガではないためです。sp_settriggerorder プロシージャを使用して、トリガの起動順の最初がトリガ '%s' になるように設定してください。
21129	即時更新またはキュー更新の UPDATE トリガを終了しています。このトリガは最初に起動されるトリガではないためです。sp_settriggerorder プロシージャを使用して、トリガの起動順の最初がトリガ '%s' になるように設定してください。
21130	即時更新またはキュー更新の DELETE トリガを終了しています。このトリガは最初に起動されるトリガではないためです。sp_settriggerorder プロシージャを使用して、トリガの起動順の最初がトリガ '%s' になるように設定してください。
21131	異種パブリケーション '%s' に対するサブスクリプションが存在します。新規項目を追加するには、まずパブリケーションに対する既存のサブスクリプションを削除します。
21132	マージ・パブリケーション '%s' に対してトランザクション・サブスクリプションを作成できません。この操作でのパブリケーションのタイプはトランザクション (0) またはスナップショット (1) のいずれかでなければなりません。
21133	パブリケーション '%s' では個別のエージェントの使用が有効になっていません。
21134	指定されたジョブ ID はディストリビューション・エージェント・ジョブまたはマージ・エージェント・ジョブを識別する必要があります。
21135	レプリケーション・エージェント・テーブルで不整合が検出されました。指定されたジョブ ID は '%ls' のエントリに対応していません。
21136	レプリケーション・エージェント・テーブルで不整合が検出されました。指定されたジョブ ID は '%ls' の複数のエントリに対応しています。
21137	このプロシージャは、プッシュ・サブスクリプション・エージェントのリモート実行だけをサポートしています。
21138	'offload_server' プロパティをディストリビュータ名と同じにすることはできません。
21139	分散エージェント実行で、サブスクライバ名を確認できませんでした。
21140	ディストリビュータと同じサーバに存在するサブスクライバにエージェントの実行を分散することはできません。

エラー・コード	説明
21141	@change_active フラグは、手動のフィルタまたはビューを持つ項目には指定できません。
21142	SQL Server '%s' は、ログイン '%s' の Windows グループ・メンバシップ情報を取得できませんでした。Windows アカウントがこのログインのドメインへのアクセス権を持っていることを確認してください。
21143	スナップショット・パブリケーション項目に対するカスタム・ストア・プロシージャのスキーマ・オプションが無効です。
21144	このサブスクライバには他のパブリケーションへのサブスクリプションが指定されているため、sync_type 'dump database' のパブリケーションをサブスクライブできません。
21145	このサブスクライバには sync_type 'dump database' のパブリケーションへのサブスクリプションが指定されているため、パブリケーション %s をサブスクライブできません。
21146	@alt_snapshot_folder が NULL でも空でもないときは、@use_ftp を 'true' にできません。
21147	'%s' データベースは、マージ・レプリケーションではパブリッシュされません。
21148	@subscriber と @subscriberdb に共に NULL 以外の値を指定するか、共に指定しないままにする必要があります。
21149	'%s' データベースはトランザクション・レプリケーションまたはスナップショット・レプリケーションではパブリッシュされません。
21150	指定されたサブスクライバはディストリビュータに対して未定義なため、指定されたサブスクリプションのスナップショット・フォルダを確認できません。
21151	同期方法として文字モードの BCP を使用して SQL Server 以外のサブスクライバをサポートしてるパブリケーションでは、スナップショット前後のコマンドはサポートされません。
21152	'concurrent' または 'concurrent_c' 同期方法を使用しているパブリケーションに対して sync_type 'none' のサブスクリプションは作成できません。
21153	項目 '%s' を作成できません。同時同期パブリケーションに含まれるすべての項目は、ストア・プロシージャを使用してサブスクライバに変更を適用する必要があります。
21154	項目 '%s' を変更できません。同時同期パブリケーションに含まれるすべての項目は、ストア・プロシージャを使用してサブスクライバに変更を適用する必要があります。
21156	@status パラメータの値には 'initiated' または 'active' を指定してください。
21157	スナップショット圧縮オプションは、代替スナップショット生成フォルダが定義されているパブリケーションだけで有効にできます。
21158	インターネットに対して有効にするパブリケーションでは、'ftp_address' プロパティを NULL にはできません。
21159	パブリケーションがインターネットに対して有効になっている場合は、'alt_snapshot_folder' プロパティを空にはできません。
21160	@ftp_port パラメータは NULL にはできません。
21161	サブスクリプションが削除されたので、パブリッシャを変更できませんでした。sp_subscription_cleanup を使用して、トリガを削除する必要があります。
21162	パーティションからテーブルの rowguid 列を除外することはできません。

エラー・コード	説明
21163	パブリケーション '%s' のスナップショットが実行されているため、列 '%s' を項目 '%s' に追加することはできません。
21164	列 '%s' は、NULL 値が許容されておらず、既定値も定義されていないため、列分割に含めることはできません。
21165	列 '%s' は、NULL 値が許容されておらず、既定値も定義されていないため、列分割から除外することはできません。
21166	列 '%ls' は存在しません。
21167	指定されたジョブ ID は、このデータベースのいずれのプッシュ・サブスクリプションでも %s エージェント・ジョブを表していません。
21168	sysadmin 固定サーバ・ロールのメンバ、db_owner 固定データベース・ロールのメンバ、および指定されたレプリケーション・エージェント・ジョブが管理するサブスクリプションの所有者だけが、エージェントのオフロード設定を変更できます。
21169	パブリッシャ '%s' をディストリビュータ '%s' で識別できませんでした。'%s' がディストリビュータの sys.servers テーブルに登録されていることを確認してください。
21170	SQL Server 2000 または OLE DB サブスクライバだけが DTS を使用できます。
21171	パッケージ '%s' がサーバ '%s' の msdb に見つかりませんでした。
21172	DTS を許可するには、パブリケーションが 'character' または 'concurrent_c' BCP モードになっている必要があります。
21173	DTS を許可するにはパブリケーションが 'independent_agent type' になっている必要があります。
21174	パブリケーションが DTS を許可しているので、@ins_cmd、@upd_cmd、および @del_cmd には既定値を使用し、@status には 16 または 80 だけを指定する必要があります。
21175	パブリケーションが DTS またはキュー更新オプションを許可しているので、'ins_cmd'、'upd_cmd'、または 'del_cmd' 項目 プロパティを変更できません。
21176	sysadmin 固定サーバ・ロールのメンバ、db_owner 固定データベース・ロールのメンバ、またはサブスクリプションの作成者だけがサブスクリプションのプロパティを変更できます。
21177	列リストが長すぎて作成できませんでした。リストは手動で作成してください。
21178	パブリケーションがデータ変換を許可していないので、DTS のプロパティを設定できません。
21179	@dts_package_location パラメータ値が無効です。有効なオプションは 'Distributor' または 'Subscriber' です。
21180	DTS を許可するパブリケーションは、更新可能サブスクリプションでは有効にできません。
21181	@dts_package_name はプッシュ・サブスクリプションだけに設定できます。
21182	@agent_type パラメータには 'distribution'、'merge'、または NULL のいずれか 1 つを指定してください。
21183	プロパティ名 '%s' が無効です。
21184	%s パラメータが無効です: '%s'、'%s'、または '%s' を指定してください。

エラー・コード	説明
21185	サブスクリプションは初期化されていないか、フェールオーバー・モード処理用に作成されていません。
21186	パブリッシャ '%s' に対するサブスクリプションが有効な queue_id を持っていません。
21187	現在のモードは要求されたモードと同じです。
21188	更新モードが [%s] から [%s] に変更されました。
21189	queue_id = '%s' を持つこのサブスクリプションのキューは空ではありません。モードを [queued] から [immediate] に設定する前に、キュー・リーダー・エージェントを実行して、キューが空になることを確認してください。
21190	キュー・チェックの設定モードを [%s] から [%s] にオーバーライドしています。
21191	パブリケーションはキューに登録されるトランザクションを許可しているので、@ins_cmd、@upd_cmd と @del_cmd の値はそれぞれ [%s]、[%s]、および [%s] だけに設定できます。
21192	MSrepl_tran_version 列はレプリケーションで使用される事前定義の列で、データ型は uniqueidentifier だけに設定できます。
21193	@auto_identity_support が TRUE のときは、@identity_range、@pub_identity_range、または @threshold は NULL にはできません。
21194	このテーブルには ID 列がないため、identity_range_control をサポートできません。
21195	使用できる有効な ID 範囲がありません。ID 列のデータ型を調べてください。
21196	ID オートメーションに失敗しました。
21197	新しい ID 範囲を割り当てられませんでした。
21198	スキーマ・レプリケーションに失敗しました。
21199	この変更はスナップショットが再実行されるまで有効にはなりません。

テーブル 3-106: TSQL エラー・コード - 21200 から 21299

エラー・コード	説明
21200	パブリケーション '%s' は存在しません。
21201	マージ・フィルタ節が使用している列の削除は許可されません。
21202	パブリケーション '%s' のスナップショットが既に実行されているため、項目 '%s' の列 '%s' を削除することはできません。
21203	重複した行が %s に見つかりました。一意インデックスは作成されません。
21204	パブリケーション '%s' は、サブスクリプションのコピーが許可されていないか、サブスクリプションが同期されていません。
21205	パブリケーションは変更を同期するためのサブスクリプションのコピーを許可していないので、サブスクリプションをアタッチできません。
21206	オブジェクトはユーザ・テーブルではないので、オブジェクト %d のロード・ヒントは解決できません。
21207	項目 %d のソース・オブジェクト ID 情報が見つかりません。
21208	列 '%s' は列分割に存在するので、このステップは失敗しました。
21209	列 '%s' は列分割に存在しないので、このステップは失敗しました。

エラー・コード	説明
21210	サブスクリプションのコピーを許可するには、パブリケーションを <code>immediate_sync</code> タイプにする必要があります。
21211	<code>sp_attach_subscription</code> を使用しないで、サブスクリプション・コピー・ファイルからデータベースがアタッチされています。データベースを削除し、 <code>sp_attach_subscription</code> を使用して再度アタッチしてください。
21212	サブスクリプションをコピーできません。この処理では、単一ファイル・サブスクリプション・データベースだけがサポートされます。
21213	SQL Server 以外のサブスクライバは、DTS パッケージを使用しないで、DTS を許可するパブリケーションにサブスクライブすることはできません。
21214	ファイル '%s' は既に存在するので作成できません。
21215	代替同期パートナーはパブリッシャのみで構成できます。
21216	パブリッシャ '%s'、パブリッシャ・データベース '%s'、パブリケーション '%s' は有効な同期パートナーではありません。
21217	パブリッシャ '%s' からの '%s' データのパブリケーション。
21218	項目のスキーマ・オプションに <code>0x0000000000000000</code> が指定されている場合、 <code>creation_script</code> プロパティは <code>NULL</code> にはできません。
21219	' <code>proc schema only</code> ' タイプの項目としてパブリッシュされる場合、指定されたソース・オブジェクトはストアド・プロシージャ・オブジェクトでなければなりません。
21220	スナップショットはパブリケーション '%s' 用に生成されているため、項目 '%s' を追加できません。
21221	' <code>view schema only</code> ' タイプの項目とする場合、指定されたソース・オブジェクトはビュー・オブジェクトでなければなりません。
21222	プロシージャまたは関数スキーマ項目の <code>@schema_option</code> パラメータは、オプション <code>0x0000000000000001</code> または <code>0x00000000000002000</code> だけを含むことができます。
21223	スキーマだけの項目の <code>@pre_creation_command</code> パラメータには ' <code>none</code> ' または ' <code>drop</code> ' のいずれかを指定してください。
21224	スキーマだけの項目では、'%s' は有効なプロパティではありません。
21225	プル・サブスクリプション・エージェントをリモート・アクティベーションに対して有効にする場合は、' <code>offload_server</code> ' プロパティを <code>NULL</code> または空にはできません。
21226	データベース '%s' には、指定されたパブリケーションに対するプル・サブスクリプションがありません。
21227	' <code>offload_server</code> ' プロパティをサブスクライバ・サーバ名と同じにすることはできません。
21228	' <code>func schema only</code> ' タイプの項目としてパブリッシュされる場合、指定されたソース・オブジェクトはユーザ定義関数オブジェクトでなければなりません。
21229	ビュー・スキーマ項目で利用できるスキーマ・オプションは、 <code>0x0000000000000001</code> 、 <code>0x0000000000000010</code> 、 <code>0x0000000000000040</code> 、 <code>0x0000000000000100</code> 、および <code>0x00000000000002000</code> だけです。
21230	現在のデータベースはレプリケーションに対して有効になっていないので、スキーマ変更ではこのストアド・プロシージャを呼び出さないでください。

エラー・コード	説明
21231	自動 ID 範囲サポートは、キュー更新を許可しているパブリケーションでのみ効果があります。
21232	ID 範囲値には 1 より大きい正の数値を指定してください。
21233	しきい値は 1 から 100 までで指定してください。
21234	テーブルに ID 列があるため、INSERT コマンドは使用できません。挿入カスタム・ストアド・プロシージャは、サブスクライバで 'identity_insert' を設定するために使用する必要があります。
21235	項目が自動 ID 範囲管理を使用しているときだけ、項目プロパティ '%s' を設定できます。
21236	パブリッシャ '%s' に対するサブスクリプションは、サブスクリプションのコピーが許可されていないか、サブスクリプションが同期されていません。
21237	パブリッシャ '%s' へのプッシュ・サブスクリプションが存在します。プル・サブスクリプションおよび匿名サブスクリプションだけをコピーできます。
21238	パブリケーション '%s' へのプッシュ・サブスクリプションが存在します。プル・サブスクリプションおよび匿名サブスクリプションだけをコピーできます。
21239	データベースに同期されたサブスクリプションが見つからなかったため、サブスクリプションをコピーできません。
21240	テーブル '%s' は、異なる自動 ID サポート・オプションが指定された別の項目として既にパブリッシュされています。
21241	しきい値は 0 から 99 までで指定してください。
21242	項目 '%s' の競合テーブルを正常に作成できませんでした。
21243	パブリッシャ '%s'、パブリケーション・データベース '%s'、パブリケーション '%s' を、同期パートナーのリストに追加できませんでした。
21244	ベース・テーブルが列レベルの追跡をサポートしていないときは、文字モードのパブリケーションでは、列フィルタ処理はサポートされません。
21245	テーブル '%s' はパブリケーション '%s' の一部ではありません。
21246	テーブル '%s' はどのパブリケーションの一部でもないので、このステップは失敗しました。
21247	'%s' でファイルを作成できません。ファイルのパスが有効であることを確認してください。
21248	サブスクリプション・ファイル '%s' をアタッチできません。ファイルのパスが有効で、ファイルが更新可能であることを確認してください。
21249	パブリケーション '%s' の項目 '%s' にはタイムスタンプ列があり、このパブリケーションに 'allow_queued_tran' (キュー更新サブスクリプションの許可) が設定されているので、OLE DB または ODBC サブスクライバはこの項目をサブスクライブできません。
21250	主キー列 '%s' を列分割から除外できません。
21251	パブリッシャ '%s'、パブリッシャ・データベース '%s'、パブリケーション '%s' を同期パートナーのリストから削除できませんでした。
21252	既定のパブリッシャ '%s'、パブリッシャ・データベース '%s'、パブリケーション '%s' を同期パートナーのリストから削除することはできません。

エラー・コード	説明
21253	SQL Server を実行しているコンピュータに Active Directory クライアント・パッケージが正しくインストールされていないので、パラメータ '@add_to_active_directory' を TRUE に設定することができません。
21254	SQL Server を実行しているコンピュータに Active Directory クライアント・パッケージが正しくインストールされていないので、パブリケーション '%s' で Active Directory 処理を完了できませんでした。
21255	列 '%s' はテーブル '%s' に既に存在します。
21256	フィルタ節 '%s' で使用されている列は、テーブル '%s' に存在しないか、現在のパーティションから除外できないかのいずれかです。
21257	項目 '%s' のプロパティ '%s' は無効です。
21258	匿名サブスクリプションまたはローカル・サブスクリプションをデータベース '%s' に追加するには、まず既存のマージ・パブリケーションをすべて削除する必要があります。
21259	プロパティ値 '%s' が無効です。
21260	サーバ '%s' のデータベース '%s' はテーブル '%s' の本来のパブリッシャではないので、スキーマ・レプリケーションは失敗しました。
21261	このサブスクリプションのエージェントをリモート実行からオフロードするには、オフロード・サーバを指定する必要があります。
21262	列 '%s' は計算列がアクセスしているので、パーティションから削除できませんでした。
21263	パラメータ '%s' は NULL または空文字列にはできません。
21264	列 '%s' は主キー列なので、テーブル '%s' から削除できません。
21265	列 '%s' は、これにアクセスしている一意インデックスが存在するので、テーブル '%s' から削除できません。
21266	マージ・パブリケーションおよびキュー更新オプションが指定されたパブリケーションでは、テーブル '%s' をパブリッシュできません。
21267	キューの型に無効な値が指定されました。有効な値 = (%s)。
21268	パブリケーションへのサブスクリプションが存在するときは、キューの型を変更できません。
21269	文字モードのパブリケーションでは、列分割に計算列またはタイムスタンプ列を追加できません。
21270	キューに登録されるスナップショット・パブリケーションのプロパティ '%s' に値 '%s' を指定することはできません。
21272	パブリケーション '%s' のメタ・データを削除できません。他のパブリケーションが、このパブリケーションの 1 つ以上の項目を使用しています。
21273	更新可能なサブスクリプションを SQL Server 2000 パブリッシャに作成するには、サブスクリバを SQL Server 2000 にアップグレードする必要があります。
21274	パブリケーション名 '%s' が無効です。
21275	スキーマバインド・ビュー '%s' は、'indexed view schema only' またはログ・ベースのインデックス付きビュー (トランザクションのみ) 項目としてのみパブリッシュできます。

エラー・コード	説明
21276	タイプは 'table' または '(view indexed view proc func) schema only' でなければなりません。
21277	'indexed view schema only' またはログ・ベースのインデックス付きビュー項目としてパブリッシュするには、ソース・オブジェクト '%s' はスキーマバインド・ビューでなければなりません。
21278	ログ・ベースのインデックス付きビュー項目としてパブリッシュするには、ソース・オブジェクト '%s' は、少なくとも 1 つのクラスタ化インデックスを持つスキーマバインド・ビューでなければなりません。
21279	パブリケーションに対してスナップショットが生成された後は、マージ項目の 'schema_option' プロパティは変更できませんこのページの schema_option プロパティを変更するには、対応するマージ・パブリケーションを削除してから再作成する必要があります。
21280	パブリケーション '%s' には、同じサブスクライバ・データベースがトランザクション・レベルでサブスクライブしている 1 つ以上の項目があるため、サブスクライバ・データベース '%s' がこのパブリケーションをサブスクライブすることはできません。
21281	パブリケーション '%s' には、同じサブスクライバ・データベースがマージ・レベルでサブスクライブしている 1 つ以上の項目があるため、サブスクライバ・データベース '%s' がこのパブリケーションをサブスクライブすることはできません。
21282	@auto_identity_support が FALSE に設定されているときは、@identity_range、@pub_identity_range、および @threshold には NULL を指定してください。
21283	テーブル '%s' の列 '%s' は、これに依存している計算列が存在するので、列分割から除外できません。
21284	列 '%s' をテーブル '%s' から削除できませんでした。
21285	列 '%s' をテーブル '%s' に追加できませんでした。
21286	競合テーブル '%s' は存在しません。
21287	指定された @destination_folder は既存のフォルダの有効なパスではありません。
21288	指定された @destination_folder にスナップショット・ディレクトリ構造を作成できませんでした。
21289	スナップショット・ファイルが生成されなかったか、削除されています。
21290	ID 列のデータ型に対して ID 範囲の値が大きすぎます。
21291	指定された自動 ID サポート・パラメータは、別の項目の設定と競合しています。
21292	オブジェクト '%s' を同じパブリケーションで 2 回パブリッシュすることはできません。
21293	警告: 項目 '%s' のソース・テーブルは '%s' に既にサブスクライブされているため、その項目に更新可能サブスクリプションを追加するとデータの整合性が損なわれる場合があります。
21294	@publisher (と @publisher_db) または @subscriber (と @subscriber_db) のいずれかを指定する必要がありますが、両方指定することはできません。
21295	パブリケーション '%s' には、自動 ID 範囲管理を使用する項目は含まれていません。
21296	パラメータ @resync_type を 0、1、2 のいずれかにしてください。
21297	再同期のタイプが無効です。このサブスクリプションでは検証は実行されていません。

エラー・コード	説明
21298	このサブスクリプションの再同期に失敗しました。
21299	サブスクリバ・パーティション検証式 '%s' が無効です。

テーブル 3-107: TSQL エラー・コード - 21300 から 21399

エラー・コード	説明
21300	項目 '%s' で使用するリゾルバを指定しないでリゾルバ情報が指定されました。既定のリゾルバが使用されます。
21301	'%s' リゾルバを使用しているときは、リゾルバ情報を指定する必要があります。
21302	'%s' リゾルバを使用しているときは、データ型 datetime または smalldatetime の列にリゾルバ情報を指定する必要があります。
21303	項目 '%s' は、'%s' リゾルバを使用するために列の追跡を有効にする必要があります。このページでの競合を解決するために、既定のリゾルバが使用されます。
21304	マージ・トリガをテーブル '%s' に作成できませんでした。
21305	スキーマ変更情報をサブスクリプション・データベースで更新できませんでした。
21306	パブリケーション '%s' に対するサブスクリプションの有効期限が切れたので、サブスクリプションをコピーできませんでした。
21307	パブリケーション '%s' に対するサブスクリプションの有効期限が切れたので、サブスクリプションをアタッチできませんでした。
21308	行数検証のプロファイル。
21309	行数検証を実行するためにマージ・エージェントが使用するプロファイル。
21310	行数およびチェックサム検証のプロファイル。
21311	行数およびチェックサム検証を実行するためにマージ・エージェントが使用するプロファイル。
21312	このパブリケーションに対するアクティブなサブスクリプションが存在するので、このパブリケーションのプロパティを変更できません。
21313	サブスクリバ・パーティション検証式は、静的パブリケーションでは NULL である必要があります。
21314	1 つの '%s' と NULL 以外の '%s' が存在する必要があります。
21315	テーブル '%s' のパブリッシャ ID 範囲を調整できませんでした。
21316	パブリケーション '%s' のパブリッシャ ID 範囲を調整できませんでした。
21317	パブリケーション '%s' に対するプッシュ・サブスクリプションが既に存在します。sp_mergesubscription_cleanup を使用して、機能していないプッシュ・サブスクリプションを削除してください。
21318	テーブル '%s' には、列分割に含まれる列が少なくとも 1 つ必要です。
21319	指定されたパブリケーションのスナップショット・エージェントのコマンド行が見つかりませんでした。
21320	このバージョンのパブリッシャは SQL Server 7.0 ディストリビュータを使用できません。
21321	パラメータ @dynamic_snapshot_location を空の文字列にすることはできません。

エラー・コード	説明
21323	動的スナップショット・ジョブは、動的フィルタ処理が有効になっているパブリケーションにのみ予約できます。
21324	動的スナップショット・ジョブを予約するには、指定したパブリケーションに対してスナップショット・エージェントを追加する必要があります。
21325	指定されたパブリケーションのスナップショット・エージェント ID が見つかりませんでした。
21326	指定されたパブリケーションの '%ls'/'%ls' を持つ動的スナップショット・ジョブが見つかりませんでした。
21327	'%ls' は有効な動的スナップショット・ジョブ名ではありません。
21328	指定された動的スナップショット・ジョブ名 '%ls' は既に使用されています。別のジョブ名を指定して操作を再試行してください。
21329	パラメータ @dynamic_snapshot_jobid と @dynamic_snapshot_jobname のどちらか 1 つだけを既定値以外の値で指定できます。
21330	レプリケーション作業ディレクトリにサブディレクトリを作成できませんでした。(%ls)
21331	ユーザ・スクリプト・ファイルをディストリビュータにコピーできませんでした。(%ls)
21332	パブリケーションに関する情報を取得できませんでした: %ls. 名前を再度調べてください。
21333	プロトコル・エラー。メッセージは生成が消失したことを示しています。
21334	プラットフォームがメッセージ・キュー %s 準拠でないときは、メッセージ・キュー・ベースのサブスクリプションを初期化できません。
21335	警告: 列 '%s' は列分割に既に存在します。
21336	警告: 列 '%s' が列分割に存在しません。
21337	@subscriber_type 値は無効です。有効なオプションは 'local' および 'global' です。
21338	項目 '%s' をパブリケーション '%s' から削除できません。スナップショットが実行されていて、このパブリケーションがアクティブなサブスクリプションを持つことができませんでした。
21339	警告: パブリケーションは、'%s' 以降を実行しているサブスクライバのみがサポートする機能を使用しています。
21340	要求時ユーザ・スクリプトはスナップショット・パブリケーションには適用できません。
21341	@alt_snapshot_folder が空でも NULL でもない場合は、@dynamic_snapshot_location を空の文字列にしてください。
21342	@use_ftp が 'true' の場合は @dynamic_snapshot_location を空の文字列にしてください。
21343	ストアド・プロシージャ '%s' が見つかりませんでした。
21344	%ls パラメータに無効な値が指定されました。
21345	パーティション内の最後の列を除外することはできません。
21346	'%s' の所有者の '%s' への変更に失敗しました。

エラー・コード	説明
21347	列 '%s' にアクセスしている一意インデックスが存在するので、この列を列分割から除外することはできません。
21348	プロパティ名 '%s' が無効です。
21349	警告: 競合のログ記録の分散化が指定されているので、SQL Server 7.0 Service Pack 2 以降を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21350	警告: 圧縮スナップショットが使用されているので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21351	警告: 列フィルタが使用されているので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21352	警告: スキーマ・レプリケーションが実行されているので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21353	警告: パブリケーション全体の再初期化が実行されているので、SQL Server 7.0 Service Pack 2 以降を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21354	警告: パブリケーション全体の再初期化が実行されているので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21355	警告: マージ・メタデータ・クリーンアップ・タスクが実行されているので、SQL Server 7.0 Service Pack 2 以降を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21356	警告: パブリケーション全体の検証タスクが実行されているので、SQL Server 7.0 Service Pack 2 以降を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21357	警告: パブリケーションの項目の 1 つに SQL Server 2000 の新しいデータ型が存在するので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21358	警告: パブリケーションの項目の 1 つに少なくとも 1 つのタイムスタンプ列が存在するので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21359	警告: 自動 ID 範囲が使用されているので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21360	警告: スナップショットが生成された後に、パブリケーションに新しい項目が追加されたので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21361	指定された @agent_jobid は、'%s' エージェント・ジョブの有効なジョブ ID ではありません。
21362	マージ・フィルタ '%s' は存在しません。
21363	パブリケーション '%s' を Active Directory に追加できませんでした。 %s
21364	スナップショットは既に生成されているので、項目 '%s' を追加できませんでした。 @force_invalidate_snapshot を 1 に設定して、強制的に追加し、既存のスナップショットを無効にします。

エラー・コード	説明
21365	アクティブなサブスクリプションが存在するので、項目 '%s' を追加できませんでした。 @force_reinit_subscription を 1 に設定して、強制的に追加し、アクティブなサブスクリプションを再初期化します。
21366	スナップショットが既に生成されているので、フィルタ '%s' を追加できませんでした。 @force_invalidate_snapshot を 1 に設定して、強制的に追加し、既存のスナップショットを無効にします。
21367	アクティブなサブスクリプションが存在するので、フィルタ '%s' を追加できませんでした。 @force_reinit_subscription を 1 に設定して、強制的に追加し、アクティブなサブスクリプションを再初期化します。
21368	指定されたオフロード・サーバ名に無効な文字 '%s' が含まれています。
21369	Active Directory からパブリケーション '%s' を削除できませんでした。
21370	指定された再同期日付 '%s' は有効な日付ではありません。
21371	パブリケーション '%s' での変更を Active Directory に展開できませんでした。
21372	スナップショットが実行されていて、このパブリケーションにアクティブなサブスクリプションが含まれる可能性があるため、フィルタ '%s' をパブリケーション '%s' から削除できません。
21373	データベース %s を開けませんでした。レプリケーション設定とシステム・オブジェクトをアップグレードできませんでした。データベースをレプリケーションで使用するには、データベースが使用可能なときに、[master] データベースで sp_vupgrade_replication を実行してください。
21374	データベース %s でディストリビューション設定とシステム・オブジェクトをアップグレードしています。
21375	データベース %s でパブリケーション設定とシステム・オブジェクトをアップグレードしています。
21376	データベース %s を開けませんでした。レプリケーション設定とシステム・オブジェクトをアップグレードできませんでした。データベースをレプリケーションで使用するには、データベースが使用可能なときに、[master] データベースで sp_vupgrade_replication を実行してください。
21377	データベース %s でサブスクリプション設定とシステム・オブジェクトをアップグレードしています。
21378	ディストリビューション・データベース %s はオフラインまたは回復中なので開けませんでした。レプリケーション設定とシステム・オブジェクトをアップグレードできませんでした。このデータベースが使用できることを確認して、sp_vupgrade_replication を再実行してください。
21379	スナップショットが既に生成されているため、項目 '%s' をパブリケーション '%s' から削除できません。@force_invalidate_snapshot を 1 に設定して、強制的に追加し、既存のスナップショットを無効にします。
21380	強制的に再初期化しないで ID 列を追加することはできません。 @force_reinit_subscription を 1 に設定して、強制的に再初期化してください。
21381	テーブル '%s' はアクティブな更新可能サブスクリプションを持つパブリケーションに属しているため、このテーブルに対して列を追加（削除）することはできません。 @force_reinit_subscription を 1 に設定して、強制的に再初期化してください。

エラー・コード	説明
21382	スナップショットが既に生成されているので、フィルタ '%s' を削除できません。 @force_invalidate_snapshot を 1 に設定して、強制的に追加し、既存のスナップショットを無効にします。
21383	ディストリビュータの作業ディレクトリが UNC パスを使用していないため、このサーバでマージ・パブリケーションを有効にできません。
21384	指定されたサブスクリプションが存在しないか、まだ同期がとられていません。
21385	スナップショットがパブリケーション '%s' を処理できませんでした。アクティブなスキーマ変更が行われたことが原因の可能性があります。
21386	パブリケーション '%s' でスキーマ変更できませんでした。アクティブなスナップショットまたはスキーマ変更が行われたことが原因の可能性があります。
21387	項目の 1 つの展開された動的スナップショット・ビュー定義の長さがシステムの制限値 3499 文字を超えました。指定されたサブスクリプションの初期化には、動的スナップショットの代わりに既定のメカニズムを使用することをお勧めします。
21388	パブリケーション '%s' に対する同時実行スナップショットがログ・リーダー・エージェントによりアクティブにされていません。
21389	警告: 列レベルの照合が項目スキーマ作成スクリプトと共にスクリプト出力されているので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21390	警告: 拡張プロパティが項目スキーマ作成スクリプトと共にスクリプト出力されているので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21391	警告: スキーマのみの項目を含んでいるので、SQL Server 2000 を実行しているサブスクライバのみがパブリケーション '%s' と同期化できます。
21392	列フィルタ (%s) は、列パーティション (%s)、項目 '%s'、パブリケーション '%s' では無効です。
21393	'%s' 内の項目 '%s' の行フィルタ (%s) を削除しています。行フィルタを作成するには、sp_articlefilter と sp_articleview を再発行してください。
21394	キュー更新パブリケーションに指定されたスキーマ・オプションが無効です。DRI 制約を含めるようにスキーマ・オプションを設定する必要があります。
21395	列 ID が 255 より大きいため、この列をトランザクション・パブリケーションに含めることはできません。
21396	このサブスクリプションは非アクティブとマークされています。削除または再作成する必要があります。

テーブル 3-108: TSQL エラー・コード - 21400 から 21499

エラー・コード	説明
21400	項目のプロパティは、項目 '%s' の元のパブリッシャで変更する必要があります。
21401	項目名を 'all' にはできません。
21402	パラメータ '%s' の値が無効です。
21403	'max_concurrent_dynamic_snapshots' パブリケーション・プロパティには 0 以上を指定してください。

エラー・コード	説明
21404	'%s' は '%s' パラメータの有効な値ではありません。値には 300 よりも大きな正の整数値か 0 を指定してください。
21405	'%s' は '%s' パラメータの有効な値ではありません。値には %d 以上の整数を指定してください。
21406	'%s' は '%s' パラメータの有効な値ではありません。値には 0 または 1 を指定してください。
21413	キューの先頭を示すアプリケーション・ロックを取得できませんでした。
21414	アプリケーション・ロックの取得で予期しないエラーが発生しました。
21415	アプリケーション・ロックの解除で予期しないエラーが発生しました。
21416	項目 '%s' のプロパティ '%s' を変更することはできません。
21417	12 時間を超えるキュー・タイムアウト値を指定することはできません。
21418	メタ・データのオーバーフローにより、列 '%s' をテーブル '%s' に追加できませんでした。
21419	項目 '%s' のフィルタ '%s' を変更することはできません。
21420	サブスクリプション・プロパティ '%s' は変更できません。
21421	項目 '%s' は、その項目を結合項目として使用する他の項目が存在するので削除できません。

テーブル 3-109: TSQL エラー・コード - 21500 から 21599

エラー・コード	説明
21500	指定されたサブスクリプションのタイプが無効です。パブリケーション '%s' に対するサブスクリプションは、別のサブスクリプション・タイプが指定されたデータベースに既に存在します。
21501	指定されたリゾルバ情報は、'%s' が競合の解決に使用する有効な列名を指定していません。
21502	パブリケーション '%s' は、サブスクリプションが代替同期パートナーと同期をとることを許可していません。
21503	マージ・プロセスの実行時には、マージ・メタ・データの削除を実行できません。マージ・プロセスの完了後、この操作を再試行してください。
21504	マージ・プロセスがリパブリッシュ '%s'.'%s' に変更を反映中なので、このリパブリッシュでマージ・メタ・データの削除を実行できませんでした。このリパブリッシュに対するすべてのサブスクリプションを再初期化する必要があります。
21505	パブリケーション '%s' は非アクティブに設定されているため、このパブリケーションへの変更をマージできません。
21506	sp_mergepreparecleanup の実行前に sp_mergecompletecleanup を実行することはできません。sp_mergepreparecleanup を使用して、マージ・メタ・データの削除の最初のフェーズを開始してください。
21507	マージ・メタ・データの削除の前提条件がすべて完了しました。sp_mergecompletecleanup を実行して、マージ・メタ・データの削除の最後のフェーズを開始してください。
21508	マージ・プロセスの実行時には、マージ・メタ・データの削除を実行できません。マージ・プロセスの完了後、削除が続行されます。

エラー・コード	説明
21509	一部のリパブリッシュャで変更が静止されていないため、マージ・メタ・データの削除を実行できません。すべてのリパブリッシュャが変更を静止した後、削除が続行されます。
21510	マージ・メタ・データの削除の続行中は、データ変更は許可されません。
21511	MSmerge_contents と MSmerge_tombstone のいずれにも、この行のメタ・データは含まれません。

4

システム・エラー・メッセージ

4.1 一般的なシステム・エラー・メッセージ

以下の表は、InterSystems IRIS® システム・エラー・メッセージの一覧です。システム・プロセスがエラーにより終了すると、オペレータ・コンソール機能からエラー・メッセージを発行します。

テーブル 4-1: システム・エラー・メッセージ

エラー・コード	説明
<ALARM>	ユーザ・イベント用の内部タイマがタイムアウトになりました。
<ARRAY DIMENSION>	変数または引数の予測されるディメンジョンが正しくありません。
<BAD IMPLICIT>	無効な暗黙のデータ変換が要求されています。
<BLOCKNUMBER>	データベース・ファイルの範囲外のブロックを参照しました
<_CALLBACK SYNTAX>	(エラー・コード名のアンダースコアに注意してください。)アンダースコア文字で始まり文字が続く名前が指定されています。
<CANNOT GET THIS PROPERTY>	クラスのプロパティを取得しようとしたが、このプロパティの取得は正しくありません
<CANNOT SET THIS PROPERTY>	クラスのプロパティを設定しようとしたが、このプロパティの設定は正しくありません
<CLASS COMPILING>	ローカルシステムで現在リコンパイルされているクラスのインスタンスを生成、またはクラスのクラスメソッドを呼び出そうとした
<CLASS DESCRIPTOR>	クラス記述子であるルーチンを実行しようとした
<CLASS DOES NOT EXIST>	存在しないクラスを参照しました詳細は、“\$ZERROR” を参照してください。
<CLASS EDITED>	オブジェクトの生成後、クラスがリモートシステムから再コンパイルされるローカルシステム上のオブジェクトを使用しようとした
<CLASS PROPERTY>	InterSystems IRIS では、クラス・プロパティはサポートされません。クラス・プロパティ構文ではコンパイル・エラーが生成されます。propertyGet() インスタンス・メソッドをクラス・メソッドとして呼び出すことによってクラス・プロパティ参照を発行しようとする、このエラーで失敗します。計算プロパティの代わりに、適切なクラス・メソッドとして書き換えます。

エラー・コード	説明
<CLASS RECOMPILED>	オブジェクトの生成後、クラスがローカルで再コンパイルされるローカルシステム上のオブジェクトを使用しようとしてしました
<CLASS TOO BIG TO LOAD>	クラス記述子が大きすぎてルーチン・バッファに収まらないため、クラスを使用できません
<CLASS TOO BIG TO SAVE>	クラス記述子が大きすぎてルーチン・バッファに収まらないため、クラスを生成できません
<CLIENT-SERVER MISMATCH>	ネットワーク要求は、クライアントとサーバ間で互換性がないため処理できません
<CLUSTERFAIL>	グローバル・バッファ・ロック処理中に、クラスタ・メンバが失敗しました
<COLLATECHANGE>	添え字付きローカル変数が定義されているときに、照合アルゴリズムを変更しようとしてしました。
<COLLATEMISMATCH>	不正な照合タイプ構成のため、サブスクリプト・レベル・マッピングに失敗しました
<COLLATION NOT SUPPORTED>	現在のシステムでサポートされていない照合タイプのグローバルを参照しました
<COMMAND>	ルーチンに引数のない GoTo など、コンテキストに不適切なコマンドを使用しました 詳細は、“\$ZERROR” を参照してください。
<COMMITFAIL>	TCommit 処理中に InterSystems IRIS が受け取ったエラーを、COMMIT 中に受け取ります。このエラーは、いくつかのリモート・マシンが実際にコミットを処理したのか InterSystems IRIS が認識できていないことを意味します。
<COMPLEX PATTERN>	パターンと入力文字列の組み合わせによる、可能性のある一致が多すぎて管理できません。
<CONFLICTING BLOCK NUMBERS>	既に予約済みのブロックを予約しようとしてしました
<CORRUPT OBJECT>	内部オブジェクトのシステム・エラーが発生しました。このエラーが発生した場合、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。
<CORRUPT VOLUME SET>	ボリューム・セットが壊れています。通常、これはボリューム・セットのラベルが不正であることを意味します。修正するには LABEL ユーティリティを使用してください。
<CP NOT STARTED>	システムの適切な処理に必要な主要プロセスの 1 つを開始できませんでした。これは、非常に深刻なシステム・エラーになる可能性があるため、システム管理者に知らせてください。
<DATABASE MAP LABEL>	データベース・マップ・ブロックに無効なラベルがあります
<DATABASE>	InterSystems IRIS がデータベースの劣化を検出しました（これは、非常に深刻なシステム・エラーになる可能性があるため、システム管理者に知らせてください）
<DIRECTORY>	ターゲット・システムや InterSystems IRIS データベースにそのようなディレクトリはありません。InterSystems IRIS データベースがマウントされていないか、データベースが別の構成でロックされています。詳細は、“\$ZERROR” を参照してください。
<DISCONNECT>	長期の要求処理中に TCP の切断が検出されました

エラー・コード	説明
<DISKHARD>	InterSystems IRIS で、修正不可能なディスク・ハードウェア・エラーが生じました (この場合、データベース障害の可能性があるため、システム管理者に知らせてください)
<DIVIDE>	0 で除算しようとしてしました
<DOMAINSPACERETRY>	ドメイン・スペース・マスタに繰り返し接続しようとしてしましたが、失敗しました
<DSCON>	接続されていないターミナルから読み取ろうとしてしました
<DSKFUL>	ファイルが最大サイズに達したため、ディスク・ファイルへのデータ書き込みに失敗しました。データの一部は書き込まれましたが、すべてのデータは書き込まれていません。
<DUPLICATEARG>	既に定義された \$SORTBEGIN グローバルの祖先または子孫と共に \$SORTBEGIN を使用しようとしてしました
<DYNAMIC LIBRARY LOAD>	コールアウト経由のダイナミック・ライブラリをロード試行中にエラーが発生しました。追加情報は "messages.log" を参照してください。
<ECODETRAP>	\$ECODE システム変数に非 NULL の文字列値を設定したことにより、ユーザ生成のソフトウェア・トラップが生成されました
<EDITED>	ルーチンの不適切な変更によって不一致が発生しました。例えば、名前が同じでタイムスタンプが異なるルーチンの 2 つのコピーがある、クラス・ルーチンがクラス記述子と一致しない、などです。例えば、ルーチンをコンパイルしてから、そのルーチンで ZLOAD および ZSAVE を使用すると、タイムスタンプの不一致になります。また、データ・サーバとの接続にネットワーク障害 (アプリケーション・サーバかデータ・サーバのシャットダウン) が発生した場合も、データ・サーバからダウンロードされたルーチンは編集済みであるかのようにマークされます。
<ENDOFFILE>	シーケンス・ファイルの EOF マーカを超えて読み取ろうとしてしました
<ERRTRAP>	残りのシステム・リソースが不足しているため、エラー・トラップ・プロシージャを実行できません。
<EXTERNAL INTERRUPT>	別のプロセスがこのプロセスに割り込もうとしてしました。
<FILEFULL>	InterSystems IRIS がグローバル・データやルーチン・ストレージ以上のディスク・ブロックを割り当てようとしてしました。しかし、InterSystems IRIS データベースはいっぱいで拡張できないため、その割り当ては失敗しました。
<FRAMESTACK>	Do、For、Xecute、New、ユーザ定義関数など、ルーチンに入れ子になった呼び出しが多すぎます詳細は、" \$ZERROR " を参照してください。
<FUNCTION>	指定された関数が存在しないか、使用が不適切です
<GARBAGE COLLECTOR FAILED>	データベース領域を再要求するプロセスの 1 つが失敗しました。これは、非常に深刻なシステム・エラーになる可能性があるため、システム管理者に知らせてください。
<HALTED>	内部的なエラー・メッセージです
<ILLEGAL VALUE>	\$X や \$Y など、許可されていない場所で負数を使用しようとしてしました
<INSUFFICIENT CLASS MEMORY>	InterSystems IRIS の共有メモリを使い果たしたので、クラスを使用できません
<INTERNAL OBJECT ERROR>	内部オブジェクトのシステム・エラーです。このエラーが発生した場合、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。

エラー・コード	説明
<INTERRUPT>	ユーザがルーチンを中断しました。(多くの場合、ユーザが CTRL-C キーを押しています。)
<INVALID ARGUMENT>	コールアウト関数の zfentry 指定に無効な引数プロトタイプがあります
<INVALID BIT STRING>	ビット文字列処理で使用するビット文字列が正しくありません
<INVALID CLASS>	壊れたクラスを使用しようとしてしました。クラスをリコンパイルし、再度実行してください。
<INVALID FILE VARIABLE>	ファイル変数が必要でしたが、指定されませんでした。
<INVALID GLOBAL REFERENCE>	グローバル参照が長さ検証に合格しませんでした。
<INVALID OREF>	現在メモリには、指定された OREF を持つオブジェクトが存在しません
<INVALID SELECT LIST>	SELECT リストが必要でしたが、指定されませんでした。
<INVALID TYPE>	OREF が許可されていないところで使用されています
<Java Exception>	Java 実行時環境で呼び出し中、例外が発生しました
<Java VM not loaded>	使用可能な Java 仮想マシンがありません
<LABELREDEF>	ルーチンに重複ラベルがあります。ラベルはルーチン内で一意の必要があります。
<LANGUAGE MISMATCH>	既存ルーチンにコードをコンパイル、挿入する際、現在の言語モードはそのルーチンの言語と異なります
<LICENSE ALLOCATION EXCEEDED>	\$SYSTEM.License.SetUserLimit(InstanceUserLimit) API を使用してこのインスタンスに適用された操作上のユーザ制限を超えようとしてしました
<LICENSE LIMIT EXCEEDED>	現在の IRIS インスタンス上で、またはライセンスを共有している一連のインスタンスにまたがる合計で、アクティブな InterSystems IRIS ライセンスによって許可されたユーザ数を超えようとしてしました。
<LICENSE SERVER UNAVAILABLE>	現在ライセンス・サーバに到達できません。ネットワークを確認してください。
<LIST>	不適切な形式のリストが使用されています
<LOCKLOST>	このジョブで一度ロックされたもののうち、いくつかがリセットされました
<LOGIN INHIBITED>	システムを初期化中です。ユーザは作業できません。
<MAGTAPE>	磁気テープ処理でエラーに遭遇しました。\$ZA を確認してください。
<MAXARRAY>	このレベルに添え字が多すぎます
<MAXINCREMENT>	変数を \$INCREMENT しようとしてしましたが、値は変更されませんでした
<MAX LOCKS>	最大ロック・カウント (32766) を超えました。
<MAXNUMBER>	演算処理により、実装が許可する範囲以上の数が生成されました
<MAX ROUTINES>	新しいルーチンの呼び出しに割り当てられるスロットがありません
<MAXSCOPE>	31 レベル以上の New コマンドを発行しようとしてしました

エラー・コード	説明
<MAXSTRING>	実装で許可された長さより長い文字列を指定または作成しようとしました。最大文字列サイズは 3,641,144 文字です。文字列を連結しようと試みた結果、その文字列がこの最大文字列サイズを超えた場合、<MAXSTRING> エラーになります。
<METHOD DOES NOT EXIST>	メソッドが指定されたクラスまたは指定されたオブジェクトに存在しません詳細は、“\$ZERROR” を参照してください。
<METHOD NOT SUPPORTED>	メソッドは存在しますが、このコンテキストではサポートされません。例えば、参照されるオブジェクトがダイナミック・オブジェクトまたは動的配列ではない %ToJSON() への入れ子にした呼び出しです。
<MNEMONICSPACE>	関連するニーモニック・スペースを持たないデバイスに対し、コントロール・ニーモニックを使用しようとしました
<NAKED>	ネイキッド状態が未定義のときに、ネイキッド・グローバル・リファレンスを使用しようとしました
<NAME>	名前に無効な構文があります
<NAMEADD>	Open コマンドが原因でデバイスの名前テーブルがオーバーフローしました
<NAMESPACE>	指定されたネームスペースが未定義またはアクティブではありません
<NESTED TOO DEEP>	このエラーは、入れ子レベルが深すぎる %DynamicArray および %DynamicObject のブロックを処理するときに送信されます。
<NETFORMAT>	ネットワーク・メッセージにエラーがあります。リモート・システムが要求の形式に誤りを発見しました。この深刻なエラーを解決するには、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。
<NETGLOREF>	ネットワーク・メッセージにエラーがあります。リモート・システムが要求の形式に誤りを発見しました。この深刻なエラーを解決するには、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。
<NETJOBMAX>	他の高速ネットワーク・プロセスを追加できません。これは通常、グローバル・バッファ数の不足が原因です。
<NETLOCK>	31 より大きいリモート・システム・インデックスを持つリモート・コンピュータに、ObjectScript Lock コマンドを実行しようとしました。これを修正するには、32 より少ないリモート・コンピュータを含むようにネットワーク構成を再定義してください。
<NETRETRY>	処理は、即座に再試行できるようにネットワーク・レベルで失敗しました
<NETSRVFAIL>	トランザクション COMMIT あるいは Set、Kill、ZKill コマンド実行中、関連するサーバの 1 つが、トランザクションがオープンしている間に再起動したことをクライアント・システムが検出しました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - BLOCKNUMBER>	リモート・システムでデータベース範囲外のブロックを参照しようとしたため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。システム管理者に知らせてください。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - CLIENT-SERVER MISMATCH>	クライアントとサーバ間の非互換性によりネットワーク要求が処理されなかったため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - CLUSTERFAILED>	クラスター・メンバがグローバル・バッファ・ロックの処理中に失敗したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。

エラー・コード	説明
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - DATABASE>	サーバ上の InterSystems IRIS がデータベース劣化を検出したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。これは、非常に深刻なシステム・エラーになる可能性があるため、システム管理者に知らせてください。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - DIRECTORY>	参照ディレクトリがリモート・システム上に存在しないため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - DISKHARD>	サーバ上の InterSystems IRIS が修正不可能なディスク・ハードウェア・エラーを検出したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。これは、データベース障害の結果生じた可能性があるため、システム管理者に知らせてください。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - FILEFULL>	サーバ上の InterSystems IRIS が <FILEFULL> エラーを検出したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - MAXSTRING>	サーバ上の InterSystems IRIS 実装で許可された長さより長い文字列 (32,767 文字) を指定または作成しようとしたため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - NETFORMAT>	リモート・システムから要求された書式に障害を見つけたため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。この深刻なエラーを解決するには、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - NETGLOREF>	リモート・システムから要求された書式に障害を見つけたため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。この深刻なエラーを解決するには、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - NETVERSION>	クライアントとサーバのシステムで動作する ECP バージョンが異なり、お互いのメッセージ形式を受け取ることができないため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - PROTECT>	<PROTECT> エラーが発生したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - STRINGSTACK>	<STRINGSTACK> エラーが発生したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - STRMISMATCH>	ネットワーク経由で大量の文字列を処理する際に内部エラーが発生したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - SUBSCRIPT>	<SUBSCRIPT> エラーが発生したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - SYSTEM>	サーバで <SYSTEM> エラーが発生したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。オペレーティング・システムまたは ECP で許可されていない動作を実行しようとした。あるいは、InterSystems IRIS に何らかのエラーが発生しています。この場合、できる限り多くの情報を最寄りのサポート窓口で報告してください。
<NETWORK DATA UPDATE FAILED - WIDECHAR>	<WIDECHAR> エラーが発生したため、非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。

エラー・コード	説明
<NETWORK DATA UPDATE FAILED>	非同期ネットワーク・エラーが発生し、ネットワーク経由で送信された更新情報が失われました。原因が分かりません。この深刻なエラーを解決するには、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。
<NETWORK UNLICENSED>	アプリケーションでリモート・ディレクトリにアクセスしようとしたが、InterSystems IRIS ネットワーキングのライセンスがありません。
<NETWORK>	通常、次のいずれかが発生しています: ネットワークがタイムアウトになった、ローカル・ポートが切断された、アクセス・ノードがダウンした、リモート・サーバ接続が無効になった
<NLS TABLE>	変換テーブルに不適切なデータを使用して、NLS 変換を実行しようとした
<NO CURRENT OBJECT>	現在オブジェクトがありません
<NO MAILBOX>	内部プロセス通信に必要なリソースが使用できません
<NO SOURCE>	ソース行が、ルーチン・ソース・グローバルのルーチンに見つかりません
<NODEV>	ジョブ間通信で、書き込み専用デバイスに読み取りを、あるいは読み取り専用デバイスに書き込みを実行しようとした
<NOJOB>	View コマンドで不正なプロセス番号を指定しようとした。あるいは、Job コマンドでエラーが発生しました。
<NOLINE>	存在しないルーチン行を参照しようとした
<NORESTART>	アプリケーションまたは関数を開始できません。
<NOROUTINE>	存在しないルーチンを参照しようとした詳細は、“\$ZERROR” を参照してください。
<NOSYS>	拡張参照または暗黙の参照を、現在のネットワーク構成では接続できないリモート・システムに実行しようとした。リモート・システムがテーブルにありません。
<NOT PRIMARY VOLUME>	ボリューム・シーケンスが 1 ではありません。ボリューム・ラベルがボリュームの関数と一致しません。
<NOTOPEN>	デバイスをオープンできないか、オープンしていないデバイスを使用しようとした
<NULL VALUE>	NULL を使用できない場所に NULL 文字列があります
<OBJECT DISPATCH>	多次元オブジェクト・プロパティのみを取ることができる関数に非多次元オブジェクト・プロパティが指定されました。詳細は、“\$DATA” および “\$GET” を参照してください。
<OUT OF \$ZF HEAP SPACE>	\$ZF ヒープに、入出力パラメータをサポートするのに必要な領域が不足しています。このパラメータは、InterSystems IRIS と \$ZF 関数から実行される外部プログラム間で渡されます。
<PARAMETER>	ユーザ記述関数参照または Do コマンドによってラベル行に渡されるパラメータ数が、ラベル行で宣言された仮パラメータ数を超えています
<PRIVATE METHOD>	プライベート・メソッドを呼び出そうとしたが、使用できないメソッドです
<PRIVATE PROPERTY>	プライベート・プロパティにアクセスしようとしたが、使用できないプロパティです
<PROPERTY DOES NOT EXIST>	プロパティは、指定されたオブジェクトのクラスではありません詳細は、“\$ZERROR” を参照してください。

エラー・コード	説明
<PROTECT>	承認のないままグローバル (Read、Write、Kill) を使用しようとした。または、\$View など、メモリを変更したり SYS.Database プロパティを変更する View コマンドを使用しようとした。または、拡張グローバル構文を使用して、存在しないディレクトリを使用しようとした、その他の保護違反が起こりました。詳細は、“\$ZERROR” を参照してください。
<RANGE>	ビット位置またはリスト位置が許可範囲を超えています
<READ>	レコードの読み取りができません
<RECOMPILE>	ルーチンが、異なる InterSystems IRIS バージョンまたはインターシステムズの従来の製品でコンパイルされました。オブジェクト・コードを転送する %RIMF を使用して、このシステムにロードできません。ソース・コードとして転送し (%RO と %RI を使用)、リコンパイルします。
<REGULAR EXPRESSION>	正規表現の構文にエラー (無効または不明確な正規表現文字列や、未実装の機能を指定した正規表現) があります
<REMOTE CLASS EDITED>	オブジェクトの生成後、クラスがリモート・システムからリコンパイルされリモート・システム上のオブジェクトを使用しようとした
<REMOTE CLASS RECOMPILED>	オブジェクトの生成後、クラスがローカル・システムからリコンパイルされリモート・システム上のオブジェクトを使用しようとした
<REMOTE EXECUTE INVALID READ>	\$System.IS.Execute() から呼び出されたメソッドまたはルーチンが、現在のデバイスからの読み取りを試行しました。このタイプの I/O はクライアントとの通信チャンネルが中断する原因となることから、使用が禁止されています。
<REMOTE EXECUTE INVALID WRITE >	\$System.IS.Execute() から呼び出されたメソッドまたはルーチンが、現在のデバイスへの書き込みを試行しました。このタイプの I/O はクライアントとの通信チャンネルが中断する原因となることから、使用が禁止されています。
<RESJOB>	プロセスが意図的に終了されました。
<ROLLFAIL>	InterSystems IRIS は TRollBack の処理中にエラーを受け取りました。このエラーは、いくつかのリモート・マシンが実際にロールバックを処理したのか InterSystems IRIS が認識できていないことを意味します。
<ROUTINELOAD>	ルーチンのロード中にエラーが発生しました。これは、ルーチンの OBJ コード (オブジェクト・コード) が破損しており、データベースが劣化するおそれがあることを示している可能性があります。システム管理者にお問い合わせください。このエラーは、利用可能なルーチン・バッファがなく (他のプロセスによって保持されている)、タイムアウト期間 (約 100 秒) が経過したことを示している可能性もあります。
<SELECT>	\$Select 関数に True の条件がありません
<SHARED MEM HEAP>	共有メモリの要求は満たされません。このエラーを回避するには、システムでより大きなヒープ領域を割り当てます。
<SLMSPAN>	添え字レベルのマッピング境界を越えて、グローバルを削除しようとした
<STACK>	引数スタックに空きがないか、不正なタイプを含んでいます
<STORE>	プロセスのメモリが不足しています。プロセスが大量のメモリを使用すると予想される場合は、 プロセスに使用可能なメモリ を 2 倍または 4 倍にしてみます。エラーが解決する場合、そのプロセスにはより多くのメモリが必要です。エラーが解決しない場合、これほど多くのメモリを使用している理由を把握する必要があります。詳細は、 \$STORAGE 特殊変数を参照してください。

エラー・コード	説明
<STRINGSTACK>	式が長すぎます。1 つのコマンドの引数に式が多すぎるか、式に多くの長い文字列が含まれます。式を簡単にしてください。
<STRMISMATCH>	ネットワークを超えて長い文字列を処理している内部的なエラーがあります
<SUBSCRIPT>	添え字が不正な値を持つか、グローバル参照が長すぎます。詳細は、“\$ZERROR”を参照してください。グローバル参照の最大の長さの詳細は、“グローバルの使用法”の“グローバル構造”の章にある“添え字の最大長の決定”セクションを参照してください。
<SWIZZLE FAIL>	oref を開いて、参照できない別の関連オブジェクトをスウィズルしようとした。関連オブジェクトをディスクから削除したか、関連オブジェクトのロックを別のプロセスが保持していることが原因の可能性があります。
<SYNTAX>	構文エラーです（スペルミスやキーワードのミスなど言語構造の形式エラーです）
<SYSTEM>	オペレーティング・システムで許可されていない動作を実行しようとしたか、InterSystems IRIS に何らかのエラーが発生しています。この場合、できる限り多くの情報をサポート窓口に報告してください。
<TCPWRITE>	TCP 書き込み処理でタイムアウトが発生しました。
<TERMINATOR>	ターミナルやデバイス上でターミネータなしでイメージ・モードを読み取ろうとした。読み取れる固定長ではありません。
<THROW>	THROW が発行されましたが、コール・スタックで CATCH 式が見つかりませんでした。詳細は、“\$ZERROR”を参照してください。
<TOO MANY CLASSES>	あまりに多くのアクティブ・クラスにアクセスしようとした
<TOO MANY LONG STRINGS>	文字列スタックに長い中間文字列が多すぎます。
<TOO MANY OREFS>	あまりに多くのオブジェクトを同時にオープンして生成しようとした
<TOO MANY USERS OF CLASS>	あまりに多くのプロセスが、特定のクラスを同時に使用しようとしています（65561 以上）
<TOO MANY USERS>	あまりに多くのユーザが、システムを同時に使用しようとしています
<TOOMANYFILES>	基本となるオペレーティング・システムがファイル記述子の範囲外で実行されたため、InterSystems IRIS はファイルをオープンできません
<TRANSACTION LEVEL>	アプリケーションでの、未実行トランザクションの入れ子が多すぎます。
<TRANSLATE>	InterSystems IRIS は、変換値のない入力値を読み取りました。したがって、InterSystems IRIS NLS ユーティリティの [変換] タブで定義したデフォルトの動作を実行します。
<TRANSLOST>	このジョブで開始された分散型トランザクションが、サーバによって非同期的にロール・バックされました
<UNDEFINED>	未定義変数への参照があります詳細は、“\$ZERROR”を参照してください。
<UNIMPLEMENTED>	未実装の関数あるいは適合コマンドや関数に未実装の引数を使用しようとした
<UNIMPLEMENTED DOUBLE>	このコンテキストでは、浮動小数の使用がサポートされていません。
<UNKNOWN ERROR>	予期しないエラーが発生しました。この深刻なエラーを解決するには、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。

エラー・コード	説明
<UNLICENSED>	使用可能なライセンス・キーでは、入力ライセンスでの暗号化データベースの作成など、要求された操作を許可しません。
<VALUE OUT OF RANGE>	値が最大範囲あるいは最小範囲外にあります
<VOLUME IS NOT FORMATTED>	ボリュームが必要な形式ではありません
<VOLUME SET ALREADY CREATED>	既にフォーマットされている InterSystems IRIS データベースをフォーマットしようとしてしました
<WIDE CHAR>	InterSystems IRIS は、1 バイト文字が必要な場所でマルチバイト文字を読み取りました
<WRITE DEMON FAILED>	ライト・デーモンを継続できません。この深刻なエラーを解決するには、インターシステムズのサポート窓口までお問い合わせください。
<WRITE>	レコードの書き込みができません
<WRONG NAMESPACE>	暗黙のプライベート・ネームスペースからクラスをロードしようとしています。
<ZDDIF>	無効な日付を指定して DATEDIFF 演算をしようとしてしました。
<ZTRAP>	引数のない ZTrap コマンドを発行しようとしてしました

4.2 ISO 11756-1999 標準エラー

ObjectScript は ISO 11756-1999 標準エラーをサポートしています。これらのエラーは、[\\$ECODE](#) 特殊変数に返されます。

テーブル 4-2: ISO 11756-1999 標準エラー・メッセージ

メッセージ・テキスト	意味
M1	ネイキッド・インジケータが未定義です
M2	無効な \$FNUMBER コード文字列の組み合わせです。
M3	1 未満の \$RANDOM 引数です。
M4	\$SELECT に True の条件がありません。
M5	0 以下の行参照です
M6	未定義のローカル変数です
M7	未定義のグローバル変数です
M8	未定義の特殊変数です
M9	0 による除算です
M10	無効なパターン・マッチの範囲です
M11	パラメータが渡されていません
M12	無効な行参照です (負のオフセット)

メッセージ・テキスト	意味
M13	無効な行参照です (行が見つかりません)
M14	行レベルが 1 ではありません (DO コマンド)
M15	未定義のインデックス変数です (FOR コマンド)
M16	許可されていない引数で QUIT しました。
M17	引数付きの QUIT が必要です。
M18	固定長 READ が 0 以上ではありません。
M19	ツリーやサブツリーをそれ自身にマージできません
M20	行は仮パラメータ・リストを持つ必要があります。
M21	仮パラメータ・リスト名が重複しています。
M22	データがグローバルに存在するときに、`\$GLOBAL 構造化システム変数名 (SSVN) を SET あるいは KILL しています。
M23	存在しないジョブ番号に、`\$JOB 構造化システム変数名 (SSVN) を SET あるいは KILL しています。
M24	添え字付きローカル変数の定義中、照合アルゴリズムに変更しました
M26	存在しない環境 (存在しないネームスペース) です
M27	再開できないトランザクションをロールバックしようとしてしました
M28	範囲外のパラメータを持つ数学関数です
M29	実装で許可されていない構造化システム変数名 (SSVN) を SET あるいは KILL しています。
M30	同一の照合アルゴリズムで異なる照合順序を持つグローバル変数を参照しています
M31	デバイス・コントロール・ニーモニック式が、選択されたニーモニック・スペースのないデバイスに使用されました
M32	デバイス・コントロール・ニーモニックが、関連する行を持たないユーザ定義のニーモニック・スペースで使用されました
M33	指定されたルーチンが存在する場合に、`\$ROUTINE を SET あるいは KILL しています。
M35	デバイスはニーモニック・スペースをサポートしません (OPEN または USE コマンド)
M36	互換性のないニーモニック・スペースです (OPEN または USE コマンド)
M37	NULL 文字列で認識されるデバイスからの READ です。
M38	無効な構造化システム変数名 (SSVN) の添え字です
M39	無効な \$NAME 引数です。
M40	JOB コマンドの実パラメータ・リストでの参照呼び出しです。
M41	トランザクション内の無効な LOCK 引数です。
M42	トランザクション内の無効な QUIT です。
M43	無効な範囲の値 (\$X または \$Y) です。(SET コマンド)
M44	トランザクション外の無効なコマンドです

メッセージ・テキスト	意味
M45	無効な GOTO 参照です。
M57	ラベルがルーチンに複数回定義されています
M58	仮パラメータが少なすぎます

5

プロダクション関連のメッセージ

以下のテーブルは、InterSystems IRIS® Data Platform のプロダクションに関連するエラー・コードの一覧です。

5.1 プロダクション・エラー

エラー・コード	説明
ErrAdapterAlreadyConnected	アダプタは既に接続されています
ErrBPCancelled	ビジネス・プロセスがキャンセルされました
ErrBPCanNotOpen	ビジネス・プロセス '%1' を開けません
ErrBPLASyncTimeoutMustBeOnSync	非同期呼び出しのタイムアウトは、<sync> タグで指定する必要があります。無視されました
ErrBPLBadExpressionValue	間接参照表現を評価することができません
ErrBPLEnumeration	アクティビティ '%3' では、'%1' は列挙 '%2' に含まれている必要があります
ErrBPLInvalidContextSuperclass	コンテキスト・スーパークラス '%1' が不正です。このクラスは Ens.BP.Context の主サブクラスではありません
ErrBPLInvalidLoopContext	'%1' は、それを含むループ構造の外では使用できません
ErrBPLabelNameNotUnique	'%1' という名前のラベルが一意ではありません。分岐があいまいになります
ErrBPLabelNotInScope	ラベルがスコープ内にないので、ラベル '%1' に分岐できません
ErrBPLNodeMissing	アクティビティ '%2' の '%1' が見つかりません
ErrBPLNodeValidation	アクティビティ '%2' では、'%1' を空の文字列にすることができません
ErrBPLThrownFault	%1
ErrBPTerminated	BP %1 #%2 を終了しています。原因のエラー: %3
ErrBusinessDispatchNameNotRegistered	'%1' という名前のビジネス・ディスパッチの実行は登録されていません

エラー・コード	説明
ErrCanNotAcquireJobLock	ジョブ '%1' でグローバルなジョブ登録のためのロックを取得できません
ErrCanNotAcquireJobRootLock	グローバルなジョブ登録のためのロックを取得できません
ErrCanNotAcquireLaunchLock	Ens.Job:Launch() を実行するためのロック取得ができませんでした
ErrClassNotConcrete	'%1' は具象クラスではありません
ErrClassNotDefined	'%1' は定義されたクラスではありません
ErrClassNotDerived	'%1' はクラス '%2' から派生していません
ErrConfigDisabled	構成項目 '%1' は無効です
ErrCredentialsAlreadyExists	'%1' という名前の認証情報は既に存在しています
ErrDocImport	%1
ErrDTLCannotBeCompiled	DTL にエラーが含まれているためコンパイルを行うことができません。
ErrDTLEnumeration	アクション '%3' では、'%1' は列挙 '%2' に含まれている必要があります
ErrDTLNodeValidation	アクション '%2' では、'%1' を空の文字列にすることができません
ErrDTSMultiSignature	%1 にシグニチャ・エラーがあります。入力 %2 は '%3' に一致しません
ErrDTSSignature	%1 にシグニチャ・エラーがあります。入力 '%2' は '%3' に一致しません
ErrException	%1 が '%2' 番号 %3 としてログに記録されています
ErrFailureTimeout	%3 中にFailureTimeout %1 秒が経過しました; 最終試行ステータス: %2
ErrFTPConnectFailed	FTP: サーバ '%1' への接続に失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrFTPDeleteFailed	FTP: ファイル '%1' の削除に失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrFTPDiretoryChangeFailed	FTP: ディレクトリ '%1' への変更に失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrFTPGetDirectoryFailed	FTP: GetDirectory に失敗しました (メッセージ='%1'、コード=%2)
ErrFTPGetFailed	FTP: ファイル '%1' の取得に失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrFTPListFailed	FTP: %1 のリストに失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrFTPLogoutFailed	FTP: サーバ '%1' からのログアウトに失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)

エラー・コード	説明
ErrFTPModeChangeFailed	FTP: '%1' モードへの接続の設定に失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrFTPNameListFailed	FTP: '%1' の NameList に失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrFTPputFailed	FTP: ファイル '%1' の配置に失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrFTPRenameFailed	FTP: ファイル '%1' の名前変更に失敗しました (メッセージ='%2'、コード=%3)
ErrGeneral	%1
ErrInConnectionLost	%2 の %1 接続が失われました - %3 経路が検出されました
ErrInvalidAssign	'%2' に対して '%1' を指定できません
ErrInvalidBPL	BPLが不正です
ErrInvalidBPLDiagram	不正な BPL ダイアグラム: '%1'
ErrInvalidDateTimeFormat	Date/Time形式が不正です
ErrInvalidDTL	DTLが不正です
ErrInvalidDurationFormat	Durationの形式が不正です
ErrInvalidProduction	不正なプロダクションです
ErrIWay	iWay XTE エラー: %1 (%2)
ErrIWayNoStatus	iWay XTE 応答ストリーム '%2' で '%1' オブジェクトが見つかりませんでした
ErrJobFailed	JOBコマンドが失敗しました。
ErrJobNotStopped	ジョブ '%1' が %2 秒以内に停止しませんでした
ErrJobsNotStopped	次のジョブが %2 秒以内に停止しませんでした: %1
ErrKeyWithAppend	'type' 属性が 'append' の場合は 'key' 属性は指定できません
ErrKeyWithClear	'type' 属性が 'clear' の場合は 'key' 属性は指定できません
ErrKeyWithInsert	'type' 属性が 'insert' の場合は 'key' 属性が指定される必要があります
ErrKeyWithRemove	'type' 属性が 'remove' の場合は 'key' 属性が指定される必要があります
ErrMissingBPL	BPL XDATAブロックが見つかりません。実行コードは生成されません
ErrNoCallerCredentials	%1 に認証情報プロパティがありません
ErrNoClassname	-クラス名が指定されていません-
ErrNoCredentials	'%1' という ID 名に対する認証情報が見つかりませんでした

エラー・コード	説明
ErrNoCredentialsSystemName	'%1' という ID 名に対する認証情報が見つかりませんでした: %2
ErrNoElementContent	エレメント・コンテンツを見つけられません
ErrNoFileFound	ファイルが見つかりません
ErrNoMsgBody	MessageHeader #%1 のMessageBodyが存在しません
ErrNoObjFromStream	ストリーム '%3' で要素 %1 / クラス %2 が見つかりませんでした
ErrNoObjFromString	文字列 '%3' で要素 %1 / クラス %2 が見つかりませんでした
ErrNoRawInputObj	'%1' に対する生の入力オブジェクトがありません
ErrNoResponseClass	リクエスト・クラス %1 に対してレスポンス・クラス名が割り当てられていません
ErrNoSQLColumns	クエリ '%1' に列がありません
ErrNoSQLCursor	クエリ '%1' にオープン・カーソルがありません
ErrNoSQLStatement	クエリ '%1' に対して実行されるステートメントがありません
ErrNotImplemented	メソッド %1.%2() は実装されていません
ErrNotRetryable	再試行不可能な %3 エラー (%2) を %1 秒経過後に受け取りました
ErrNoWebProtocol	プロトコル '%1' はサポートされていません
ErrObjectAlreadyExists	クラス '%2' のオブジェクト ID '%1' は既に存在します
ErrOutConnectException	%3 への %2 接続作成中に例外が発生しました: %1
ErrOutConnectExpired	%3 への %2 接続がタイムアウト期間(%1)を経過しました
ErrOutConnectFailed	%3 への %2 接続がエラー %1 で失敗しました
ErrOutConnectionLost	%2 への %1 接続が失われました - %3 経路が検出されました
ErrOutNotConnected	%2に対する %1 接続は %3 内では開いていません
ErrParameterInvocationInvalid	クラス '%1' で INVOCATION のパラメータ値が不正です
ErrProductionAlreadyRunning	プロダクション '%1' は既に実行されています
ErrProductionMismatchInDeferredResponse	延期レスポンス送信中にプロダクション名が一致していません
ErrProductionNetworkedMismatch	プロダクション '%1' はネットワーク上の別マシンで実行中です。異なる名前のプロダクションを開始することはできません
ErrProductionNotQuiescent	InterSystems IRIS は休止状態にできません
ErrProductionNotRegistered	プロダクション定義 '%1' を開けませんでした: %2
ErrProductionNotRunning	実行中のプロダクションがありません。

エラー・コード	説明
ErrProductionNotShutdownCleanly	プロダクション '%1' は正しくシャットダウンされませんでした
ErrProductionQuiescent	InterSystems IRIS は休止状態です
ErrProductionSettingInvalid	項目 '%1' に対するプロダクション設定 '%2' が不正です
ErrProductionSuspendedMismatch	プロダクション '%1' が一時停止状態です。別の名前のプロダクションを開始することはできません
ErrRequestNotHandled	要求メッセージ '%1' が処理されませんでした
ErrRetryable	再試行可能な %3 エラー (%2) を %1 秒後に受け取りました
ErrRulesetLoadFailed	RuleSet %1 のロードに失敗しました: %2
ErrRulesetNotFound	RuleSet %1 が見つかりません
ErrSOAPConfigClass	SOAPサービス %1 を実行することができません。関連付けられたクラスが一致する必要があります。見つかったクラスは %2 です
ErrSOAPConfigName	SOAPクラス %1 を実行することができません。この名前で構成されたEnsembleサービスが存在しません。
ErrSOAPConfigType	SOAPサービス %1 を実行できません。サービスではありません。
ErrSQLParmCount	Executeが実行されましたが入力パラメータの数(%1)が、SQLDescribeParameters()が要求したもの(%2)と異なります
ErrSuspending	メッセージ %1 をステータス: %2 のメッセージヘッダのリクエストに従い一時停止しています
ErrTCPListen	タイムアウト %2 内にTCP/IPポート %1 を開くことができません - 詳細: %3
ErrTCPReadBlockSize	タイムアウト期間 (%1) を持つ TCP Read (%2) が次の理由で失敗しました: %3
ErrTCPReadBlockSizeTimeoutExpired	TCPブロック・サイズ読み込み (%2) のタイムアウト期間 (%1)が経過しました
ErrTCPReadTimeoutExpired	TCP Read (%2) のタイムアウト期間 (%1) が経過しました (文字セット='%3')
ErrTCPTerminatedReadTimeoutExpired	TCP読み込みがターミネータ %2 待ちでタイムアウト(%1)しました。受信したデータ='%3'
ErrTelnetConnectFailed	Telnet: Telnetサーバへの接続が %1 で失敗しました。エラーコード %2
ErrTelnetFindFailed	Telnet: %1 の文字列 '%2' が見つかりませんでした。ステータス %3
ErrTelnetLoginFailed	Telnet: %1 へのログイン試行の結果、失敗通知 '%2' が生成されました

エラー・コード	説明
ErrTerminate	InterSystems IRIS システムの終了要求が検出されました
ErrUnsupportedRequestType	要求タイプ %1 は %2 シグニチャ '%3' にはありません
ErrValueWithClear	'type' 属性が 'clear' の場合は 'value' 属性は指定できません
ErrValueWithRemove	'type' 属性が 'remove' の場合は 'value' 属性は指定できません
ErrXDataBlockNotDefined	クラス '%1' で XDATA ブロック '%2' が定義されていません
ErrXMLValidation	XML妥当性エラー: %1 %2

5.2 ワークフロー・エラー

エラー・コード	説明
ErrGeneral	%1
ErrNoRoleSet	ロール・セットを作成できません
ErrNoUserSet	ユーザ・セットを作成できません
ErrNoUsersFound	タスクに割り当てるユーザが見つかりません
ErrRoleUndefined	ワークフロー・ロール '%1' が定義されていません
ErrTaskAlreadyAssigned	タスク '%1' は既に割り当てられています
ErrTaskAssignedToOther	タスク '%1' は別のユーザ '%2' に割り当てられています
ErrTaskCreateFailure	TaskHandler '%1' を作成できません
ErrTaskWrongType	TaskHandler クラス '%1' の型が間違っています
ErrUserUndefined	ワークフロー・ユーザ '%1' が定義されていません

5.3 XPATH 変換エラー

エラー・コード	説明
XPathDOMResult	XPath dom 結果は単一値リクエストの場合に返されます
XPathMultipleResults	XPath式評価が複数の結果を返しました
XPathNOResult	XPath 式の評価が結果を返しませんでした

5.4 Electronic Data Interchange (EDI) エラー

エラー・コード	説明
ErrMapBuild1	%1 BuildMap エラー: %2
ErrMapBuilds	%1 BuildMap エラー; first: %2
ErrMapDocType	DocType '%2' に対して %1 スキーマ構造が定義されていません
ErrMapRequired	セグメント %2 に必須 %1 エLEMENTが見つかりません
ErrMapRequiredUnion	セグメント %2 に必須 %1 ユニオン・ELEMENTが見つかりません
ErrMapSeg	セグメント '%1' がスキーマによってマッピングされていません
ErrMapSegCount	セグメント %3 の %2 セグメントに対する必須カウント (%1) が見つかりません
ErrMapSegUnrecog	セグメント %2 の後方に認識不能なセグメント %1 が見つかりました
ErrMapWildSegUnrecog	セグメント %2 の後方に認識不能な '%3' セグメント %1 が見つかりました
ErrMapWildSegUnrecogAfterWild	'%3' セグメント %2 の後方に認識不能な '%3' セグメント %1 が見つかりました
InvalidCategoryName	カテゴリ名 %1 が不正です
InvalidDocType	ドキュメント・タイプ '%1' が不正です
InvalidDocumentTypeName	ドキュメント・タイプ名 '%1' が不正です
InvalidSegmentTypeName	セグメント名 '%1' が不正です
UnknownCategoryName	カテゴリ名 %1 が未知です
UnknownDocumentTypeName	ドキュメント・カテゴリ '%1' にドキュメント・タイプ名 '%2' が見つかりません
UnknownSegmentTypeName	セグメント名 '%1' が未知です

5.5 HL7 バージョン 2 メッセージ・ルーティング・エラー

エラー・コード	説明
ErrAckSeqNum	MSHシーケンス・ナンバー・クエリへのACK
ErrEndBlock	入力 "%3" で予期しない EndBlock '%1' を受信しました。期待された EndBlock は '%2' です
ErrGeneral	%1

エラー・コード	説明
ErrStartBlock	入力 '%3' 中で予期しない StartBlock %1 を受け取りました。期待したものは %2 です

5.6 X12 Standard Exchange Format (SEF) ファイル・エラー

エラー・コード	説明
FileNotExists	EDI スキーマ定義ファイル '%1' がありません
NodeEnumeration	%1 の値 '%2' が列挙 %3 にありません
NodeIdentification	for ノード %1
NodeValidation	ノード %3 で、%1 の値 '%2' の検証に失敗しました

5.7 X12 メッセージ・ルーティング・エラー

エラー・コード	説明
BadBINLength	バイナリ '%1' セグメントに無効な長さの値 %2 が含まれています。テキスト: '%3'
BinaryLeftover	バイナリ・セグメントに追加テキスト '%1' が含まれています。
CannotDetermineSchema	スキーマを決定することができません。トランザクションを検証できません
CannotRespond	妥当なレスポンスを生成するために必要なデータがありません
ConstraintViolation	制約違反: %1 for: %2
ControlSegment	参照された SetSegment %1 はコントロールセグメントです
ControlSegmentNameMandatory	コントロール・セグメント名は空にはできません
ControlVersionUnsupported	このコントロール・バージョン: %1 はサポートされていません。セグメント %2 位置 %3 を確認してください
DuplicateControlNumber	送信者 %2 に対するインターチェンジ・コントロール・ナンバーが重複しています
DuplicateSegmentRef	セグメント参照: %1 は既に存在します
DuplicateTSControlNumber	トランザクション・セット・コントロール・ナンバー %1 が重複です
ElementNameMandatory	エレメント名は空にはできません
EmptyElement	セグメント %2 内のエレメント %1 が空の値を持っています

エラー・コード	説明
ExistsElement	セグメント %2 内のエレメント %1 が空ではない値を持っています
ExpectedDelimiter	デリミタとしてASCII %1 を期待しましたが; セグメント %2 中
ExpectedSegment	%1 セグメントを予期しましたが、セグメント '%2' を取得しました。場所: %3
FatalInterchangeError	X12インターチェンジの深刻なエラー
GroupControlNumberMismatch	グループ・コントロール番号が一致しません。%1 を期待しましたが %2 を受け取りました: %3
ImplementationKeyReserved	InterSystems社が予約して使用する実装キー
IncorrectFunctionalGroupCount	インクルード・ファンクション・グループの数が一致しません。期待: %1 一致: %2 位置: %3
IncorrectSegmentCount	インクルード・セグメント・カウントの数が不正です。期待: %1 一致: %2 位置: %3
IncorrectTransactionCount	インクルード・トランザクション・カウントの数が不正です。期待: %1 一致: %2 位置: %3
IndexImmutable	インデックスによる変更を行えません。現在のアクセスモードはパスによるものです
InterchangeControlNumberMismatch	インターチェンジ・コントロール番号が一致しません。%1 を期待しましたが %2 を受け取りました 場所: %3
InvalidCode	エレメント %1, コード値 %2 セグメント: %3 が不正です
InvalidComponentReference	パス %1 中のコンポーネントが不正です
InvalidComponentSeparator	セグメント '%2' 中で ComponentElement セパレータ 'Ascii %1' が不正です: 位置 %3
InvalidCompositeElement	コンポジット・エレメント: %1 は妥当なセグメントではありません: %2
InvalidDataSeparator	セグメント中で DataElement セパレータ 'ASCII %1' が不正です: セグメント '%2' 位置 %3
InvalidExponent	指数部が不正です。符号付/符号なし整数でなければなりません
InvalidHSC	Hierarchical Structure コード %1 が不正です
InvalidIndex	プロパティ・パス %1 で不正なシンタックスです。繰り返しインデックスは1以上でなければなりません
InvalidItemName	アイテム名 %1 が不正です
InvalidItemReference	パス %1 中でアイテムが不正です
InvalidNumericValue	不正な数値です: %1
InvalidPropertyPath	プロパティ・パス %1 が不正です
InvalidRepetitionSeparator	セグメント中で RepetitionTerminator 'ASCII %1' が不正です: セグメント '%2' 位置 %3

エラー・コード	説明
InvalidSegmentItem	アイテム: %1 はセグメントに対して妥当ではありません: %2
InvalidSegmentName	セグメント '%2' のセグメント名 '%1' の形式が正しくありません。場所: %3
InvalidSegmentRef	セグメント参照: %1 が不正です
InvalidSegmentTerminator	セグメント '%2' に、無効なセグメント終端文字 'ASCII %1' があります。場所: %3
InvalidSegmentType	セグメント %2 の後では、%3 でのセグメント・タイプ %1 は許可されません
InvalidType	トランザクション・セット・タイプ参照 %1 にはカテゴリと TNameの両方が存在する必要があります
ISATruncated	インターチェンジ・ヘッダ (ISA) セグメントが短すぎます (106 文字必要です) セグメントを確認してください: 検出 %1: %2' 位置 %3
ItemNotBinary	参照されたアイテム: %1 はバイナリではありません
ItemNotComposite	参照されたアイテム: %1 はコンポジット値ではありません
MaxIndex	繰り返しインデックスが最大値を超えました: %1
NotUsedHasValue	アイテム %1 は使用しないとマークされていますが、空ではない値を持っています。
PathImmutable	パスによる変更を行えません。現在のアクセスモードはインデックスによるものです
SchemaUnresolved	スキーマが未解決なためパスを使用できません (DocTypeが設定されていないか不正?)
SegmentDoesNotExist	セグメントID: % はセグメント・ストレージ中に存在しません
SegmentImmutable	セグメントは immutable です。変更できません。
SegmentRuleViolated	%1 ルールがセグメントに対して %2 違反です: %3
TA1OrGroupNotSeen	インターチェンジ内で少なくとも一つの TA1通知 または機能グループが含まれる必要があります
TA1ValidationFailed	エレメントの妥当性エラー: TA1 acknowledgment の %1: セグメント位置 %2
TransactionImmutable	TransactonSet は immutable です。変更できません。
TransactionSetControlNumberMismatch	TransactionSet コントロール番号の不一致。%1 を期待しましたが %2 を受け取りました 位置: %3
UnexpectedElement	セグメント %1 に含まれるエレメントの数が多すぎます
UnexpectedEOD	'%1' の後に、予期しないデータの終端が見つかりました。場所: %2 : %3
UnexpectedEODBinary	'%1' の後方で、バイナリ・セグメント読み込み中、予期しないデータ終末に到達しました

エラー・コード	説明
UnhandledTA1	TA1 を処理できません セグメントを確認してください: %2
UnknownBinarySegment	認識不能なバイナリセグメント %1
UnknownComponentReference	パス %1 中に認識不能なコンポーネント
UnknownElementName	認識不能なエレメント名: %1
UnknownHSC	認識不能な階層構造コード %1
UnknownItemName	アイテム名 %1 が未知です
UnknownItemReference	パス %1 中に認識不能なアイテム
UnknownSender	未知の送信者
ValidateComposite	コンポジットの検証ができません

5.8 DICOM メッセージ・ルーティング・エラー

エラー・コード	説明
AbstractSyntaxNotSupported	抽象的な構文 '%1' はサポートされません
BadCalledAET	呼び出されたAETが不正な値を持っています
BadCallingAET	呼び出しているAETが不正な値を持っています
BadCharacter	プロパティ参照 '%3' 位置 '%4' で '%1' を期待しましたが、'%2' を検出しました
BadTagValue	プロパティ参照 '%2' 位置 '%3' のタグ値 '%1' は4桁の16進値になる必要があります
ContextMismatch	次に続くメッセージ内のコンテキスト ID が一致しません
ConvertToXML	DICOM ファイル '%1' を XML に変換できません
DataElementIsNotASequence	プロパティ参照 '%2' 位置 '%3' のデータエレメント '%1' は 'シーケンス' タイプではありません
DataSetTagNotFound	XML メタ・データに 'data-set' 要素が見つかりませんでした
DataValueFailsVMConstraint	タグ '%1' のデータ値が値多様性制約 '%2' に違反しています
DataValueFailsVRConstraint	タグ '%1' のデータ値が値表現制約 '%2' に違反しています
FileNameForStoreOperationNotFound	C-STORE操作のためのファイル名を決定することができませんでした
InvalidFileFormat	Dicomテーブルに不正なデータが含まれます
InvalidMessageHandler	メッセージハンドラは EnsLib.DICOM.MessageHandler タイプでなければなりません
InvalidPropertyReference	プロパティ参照 '%1' は無効です

エラー・コード	説明
MaxAbstractSyntaxCountExceeded	アブストラクトシンタックスアイテムの最大数を超過しました
MaxApplicationContextCountExceeded	アプリケーションコンテキストアイテムの最大数を超過しました
MaxReceivedPDULen	受信した PDU の長さ '%1' が、取り決められた最大値 '%2' を超過しています
MaxTransferSyntaxCountExceeded	転送シンタックスアイテムの最大数を超過しました
MaxUserInfoItemsExceeded	ユーザ情報アイテムの最大数を超過しました
MaxUserMaxLenCountExceeded	ユーザMaxLenアイテムの最大数を超過しました
MessageIncomplete	メッセージ '%1' - 未完了
NoActiveAssociation	呼び出し先の AET '%1' と呼び出し元の AET '%2' の間にアクティブな関連付けがありません
NoAssociationDefinedForPeers	Calling-AET '%1' および Called-AET '%2' に対して AssociationContext が定義されていません
PDUBadLength	PDU '%1' - 予期された長さ '%3' の項目 '%2' が '%4' を受信しました
PDUBadValue	PDU '%1' - 予期された値 '%3' の項目 '%2' が '%4' を受信しました
PeerAssociationNoLongerExists	対等な関係が存在していないので処理を続行できません
PeerClosedConnection	通信相手が接続を閉じました
PeerRejectedAssociation	通信相手が関連付けを拒否しました。ソース: '%1' 原因: '%2'
PeerRequestedAbort	通信相手が関連付けの中断を要求しました
SyntaxError	位置 '%2' のプロパティ参照 '%1' で構文エラーが発生しました
TimedOutWaitingForResponseFromPeer	接続先からの応答待ちでタイムアウトしました
TransferSyntaxNotSupported	構文の転送 '%1' はサポートされません
UnableToConnectToPeer	通信相手 '%1' に接続できません: '%2'
UnableToCreateDirectory	ディレクトリ '%1' を作成できません
UnexpectedAdapterState	プロトコル・エラー。アダプタのステートとして '%2' を予期していましたが '%1' になっています
UnexpectedItem	予期しないタイプ '%1' の項目を受信しました
UnexpectedMessage	予期しないタイプ '%1' のメッセージを受信しました
UnexpectedPDU	予期しないタイプ '%1' の PDU を受信しました
UnrecognizedAbstractSyntax	抽象的な構文 '%1' は認識されません
UnrecognizedCommandReceived	認識できない (サポートされていない) コマンド '%1' を受信しました

エラー・コード	説明
UnrecognizedDataElement	データ要素 '%1' は認識されません
UnrecognizedTag	データ要素タグ '%1' は認識されません
UnrecognizedTransferSyntax	転送構文 '%1' は認識されません
VDOCPPropertyDoesNotExist	プロパティパス %1 で指定されたプロパティは存在しません

